

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

文学部、法学部、健康科学部、心理学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(教養教育科目・教育基幹科目)の4科目8単位を取得すること。

必要最低単位数 8 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報科学Ⅰ	2	○	○						
情報科学Ⅱ	2	○		○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報科学Ⅰ	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報科学Ⅱ	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報科学Ⅳ	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報科学Ⅲ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、AI「情報科学Ⅰ(岩田 莊平)」(8, 10回目) ・AI「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(8-10回目) ・AI「情報科学Ⅳ(岩田 莊平)」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、データ量の増加、AI、Society5.0、複数技術を組み合わせたAIサービス、データを起点としたものの見方「情報科学Ⅰ(虎澤 慶太)」(1-7, 13, 15回目) ・AI「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(10-11, 14-15回目) ・ビッグデータ、AI「情報科学Ⅰ(佐部利 真吾)」(2, 5回目) ・AI「情報科学Ⅱ(佐部利 真吾)」(1回目) ・AI「情報科学Ⅱ(山下 秀康)」(1-2回目) ・ビッグデータ、AI「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(1, 11回目) ・AI「情報科学Ⅱ(山住 富也)」(2, 9-10回目) ・第4次産業革命、AI「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(1, 15回目) ・AI「情報科学Ⅱ(上原 宏行)」(1, 15回目) ・AI「情報科学Ⅳ(南 裕明)」(1-3回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(10回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(15回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報科学Ⅱ(佐部利 真吾)」(1回目) ・AI最新技術の活用例「情報科学Ⅱ(山下 秀康)」(2回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報科学Ⅱ(山住 富也)」(10回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報科学Ⅱ(上原 宏行)」(15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化データ「情報科学Ⅰ(岩田 莊平)」(9回目) ・非構造化データ「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(9回目) ・調査データ、人の行動ログデータ、1次データ、データのメタ化、構造化データ、アノテーション、データのオープン化「情報科学Ⅰ(虎澤 慶太)」(8-14回目) ・非構造化データ「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(8回目) ・構造化データ、人の行動ログデータ「情報科学Ⅰ(佐部利 真吾)」(1-2回目) ・調査データ「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(7回目) ・調査データ「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(15回目) ・非構造化データ、オープンデータ「情報科学Ⅱ(上原 宏行)」(1, 7-8回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証「情報科学Ⅰ(岩田 莊平)」(10回目) ・仮説検証「情報科学Ⅰ(虎澤 慶太)」(15回目) ・活動代替「情報科学Ⅰ(佐部利 真吾)」(5回目) ・仮説検証「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(11回目) ・仮説検証「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(15回目)

(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ解析、非構造化データ処理「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(8-9回目) ・ シミュレーション、データ解析「情報科学Ⅲ(岩田 莊平)」(7, 9, 15回目) ・ データ解析、グルーピング、最適化、データ同化、複合グラフ、多次元の可視化、地図上の可視化、非構造化データ処理、画像/動画処理、特化型AIと汎用AI、AIとビッグデータ「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(1-11, 13回目) ・ 最適化、データ可視化「情報科学Ⅱ(佐部利 真吾)」(7-8, 12-13回目) ・ データ解析「情報科学Ⅱ(山下 秀康)」(1回目) ・ 複合グラフ「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(9回目) ・ データ解析「情報科学Ⅱ(山住 富也)」(2, 9回目) ・ 複合グラフ「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(13回目) ・ データ解析「情報科学Ⅱ(上原 宏行)」(1回目) ・ データ解析「情報科学Ⅲ(南 裕明)」(9回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・ データサイエンスのサイクル「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(10回目) ・ データサイエンスのサイクル、データの取得・管理・加工、課題解決に向けた提案「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(12-14回目) ・ 課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工「情報科学Ⅱ(佐部利 真吾)」(7-8, 11回目) ・ データ解析と推論「情報科学Ⅱ(山下 秀康)」(1回目) ・ データサイエンスのサイクル「情報科学Ⅱ(山住 富也)」(9回目) ・ データサイエンスのサイクル「情報科学Ⅱ(上原 宏行)」(15回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ EU一般データ保護規則(GDPR)「情報科学Ⅳ(岩田 莊平)」(1回目) ・ 個人情報保護「情報科学Ⅳ(南 裕明)」(1回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報セキュリティ「情報科学Ⅳ(岩田 莊平)」(2回目) ・ 暗号化「情報科学Ⅱ(虎澤 慶太)」(8, 10, 12, 14回目) ・ 情報セキュリティ「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(1回目)
(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均値、相関と因果、母集団と標本抽出「情報科学Ⅲ(岩田 莊平)」(2, 4, 13回目) ・ 平均値、相関係数「情報科学Ⅳ(岩田 莊平)」(5, 7, 10, 12-15回目) ・ 平均値、データの種類「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(14-15回目) ・ 平均値、相関係数「情報科学Ⅲ(南 裕明)」(6-7回目) ・ 中央値、相関係数「情報科学Ⅳ(南 裕明)」(6, 10回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棒グラフ「情報科学Ⅱ(岩田 莊平)」(6回目) ・ データ表現「情報科学Ⅲ(岩田 莊平)」(8回目) ・ 棒グラフ「情報科学Ⅱ(佐部利 真吾)」(12回目) ・ 棒グラフ「情報科学Ⅰ(山住 富也)」(9回目) ・ 棒グラフ「情報科学Ⅰ(上原 宏行)」(13回目) ・ 散布図「情報科学Ⅲ(南 裕明)」(7回目) ・ 散布図「情報科学Ⅳ(南 裕明)」(9回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・ データの集計「情報科学Ⅲ(岩田 莊平)」(15回目) ・ データ解析ツール「情報科学Ⅲ(南 裕明)」(9回目)

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

商学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報リテラシーA」「情報リテラシーB」「情報社会論」「データ分析Ⅰ」「情報セキュリティ」(専門教育科目)の5科目10単位を取得すること。
プログラム構成科目である「ビジネス統計学」「AIとビジネス」の2科目4単位を取得すること。

必要最低単位数 10 4 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報社会論	2	○	○	○					
AIとビジネス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報社会論	2	○	○	○					
ビジネス統計学	2	○	○						
AIとビジネス	2	○		○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データ分析Ⅰ	2	○	○						
情報社会論	2	○		○					
ビジネス統計学	2	○	○						
AIとビジネス	2	○		○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシーA	2	○	○	○					
情報セキュリティ	2	○	○	○					
AIとビジネス	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データ分析Ⅰ	2	○	○	○	○						
情報リテラシーB	2	○		○	○						
ビジネス統計学	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、AI「情報社会論」(5回目) ・IoT「情報社会論」(12回目) ・AI「AIとビジネス」(1回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例「情報社会論」(5回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報社会論」(12回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「AIとビジネス」(5回目) ・AI最新技術の活用例「AIとビジネス」(6回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ「情報社会論」(5回目) ・人の行動ログデータ「情報社会論」(9回目) ・調査データ、実験データ、構造化データ、オープンデータ「ビジネス統計学」(2回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報社会論」(5、9回目) ・データ・AI活用領域の広がり「AIとビジネス」(3回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:地図上の可視化「データ分析Ⅰ」(13回目) ・データ解析:パターン発見「データ分析Ⅰ」(14回目) ・データ解析:予測「データ分析Ⅰ」(10-14回目) ・データ解析:予測「データ分析Ⅰ」(7回目) ・データ可視化、複合グラフ、2軸グラフ、地図上の可視化「ビジネス統計学」(6-10回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報社会論」(5、12回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「AIとビジネス」(4-6回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護「情報リテラシーA」(2回目) ・データ倫理「情報セキュリティ」(2回目) ・個人情報保護「AIとビジネス」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報リテラシーA」(2回目) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報セキュリティ」(2、11、12、13回目) ・暗号化「情報セキュリティ」(5、9回目) ・パスワード「情報セキュリティ」(14、15回目) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「AIとビジネス」(13回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データ分析I」(2、3回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「データ分析I」(4回目) ・相関と因果(相関係数)「データ分析I」(7、8回目) ・クロス集計表「データ分析I」(3回目) ・相関と因果(相関係数)「データ分析I」(4回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データ分析I」(2、3回目) ・相関と因果(相関係数)「データ分析I」(5、6回目) ・データの種類「ビジネス統計学」(2回目) ・データの分布と代表値「ビジネス統計学」(3回目) ・相関と因果「ビジネス統計学」(5回目) ・母集団と標本抽出「ビジネス統計学」(11回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「データ分析I」(2、6、7、9回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データ分析I」(5-9回目) ・データ表現(散布図)「データ分析I」(6回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「情報リテラシーB」(11-13回目) ・データ表現、不適切なグラフ表現「ビジネス統計学」(6-10回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング「データ分析I」(9、12回目) ・データの集計(和、平均)「データ分析I」(2、3回目) ・データの集計「データ分析I」(4回目) ・データの集計「情報リテラシーB」(7回目) ・データの集計「ビジネス統計学」(4回目) ・表形式のデータ、データ解析ツール「ビジネス統計学」(1-2回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

経営学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「ビジネス情報リテラシーⅠ」「ビジネス情報リテラシーⅡ」「経営情報論」「ICTビジネス」「経営統計Ⅰ」「経営統計Ⅱ」(専門教育科目)の6科目10単位を取得すること。

必要最低単位数 10 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ICTビジネス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
経営情報論	2	○	○	○					
ICTビジネス	2	○		○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
経営情報論	2	○	○	○					
ICTビジネス	2	○	○						
経営統計Ⅰ	2	○	○	○					
経営統計Ⅱ	2	○		○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
経営情報論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
経営統計Ⅰ	2	○	○	○	○						
経営統計Ⅱ	2	○	○		○						
ビジネス情報リテラシーⅠ	1	○		○	○						
ビジネス情報リテラシーⅡ	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・データ駆動型社会「ICTビジネス」(12回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル「ICTビジネス」(6、8、10、11、13回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・非構造化データ「経営情報論」(4回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「経営情報論」(12回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「経営情報論」(7、8回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「ICTビジネス」(4-13回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・認識技術、自動化技術「経営情報論」(12回目) ・認識技術、自動化技術「ICTビジネス」(4回目) ・データ可視化「経営統計Ⅰ」(3、6、11、12回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工)「経営統計Ⅰ」(2回目) ・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工)「経営統計Ⅱ」(12-15回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「経営情報論」(7、8、12回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護「経営情報論」(14回目)
	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「経営情報論」(14回目)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類「経営統計Ⅰ」(2回目) ・クロス集計表「経営統計Ⅰ」(4、5回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「経営統計Ⅰ」(3、6、8回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「経営統計Ⅰ」(9回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関)「経営統計Ⅰ」(11-13回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関)「経営統計Ⅱ」(10、11回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、円グラフ、複合グラフ)「ビジネス情報リテラシーⅠ」(14、15回目) ・データ表現(棒グラフ)「ビジネス情報リテラシーⅡ」(1回目) ・データ表現(棒グラフ、円グラフ、帯グラフ)「経営統計Ⅰ」(3回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ解析ツール「ビジネス情報リテラシーⅠ」(14、15回目) ・データの並び替え、ランキング「ビジネス情報リテラシーⅡ」(3回目) ・データの集計「経営統計Ⅰ」(2、4-6回目) ・データの集計「経営統計Ⅱ」(10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

経済学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報リテラシーA」「情報リテラシーB」「経済情報論A」(専門教育科目)の3科目6単位を取得すること。

必要最低単位数 6 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
経済情報論A	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報リテラシーB	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報リテラシーB	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシーA	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報リテラシーB	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI「経済情報論A」(2-4、9、11、13回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例「経済情報論A」(9、10、12回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、人の行動ログデータ「情報リテラシーB」(1回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報リテラシーB」(1回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ可視化: 複合グラフ「情報リテラシーB」(12回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工)「情報リテラシーB」(13、14回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ倫理:盗用、プライバシー保護、忘れられる権利、オプトアウト、データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報リテラシーA」(4-7、9、10、12回目)
	3-2	・暗号化、パスワード、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシーA」(3、13回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・母集団と標本抽出、クロス集計表「情報リテラシーB」(13、14回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、円グラフ)「情報リテラシーB」(11回目)
	2-3	・データの集計(和)、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール「情報リテラシーB」(7、8、13、14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

総合政策学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報リテラシーⅡ」及び「データ分析Ⅰ」(専門教育科目)の21科目4-2単位を取得すること。

必要最低単位数 4-2 単位

履修必須の有無 令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報リテラシーⅡ	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報リテラシーⅡ	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報リテラシーⅡ	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシーⅡ	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データ分析Ⅰ 情報リテラシーⅡ	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシーⅡ」(2、8、9回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「情報リテラシーⅡ」(3回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報リテラシーⅡ」(3回目) ・第4次産業革命、Society 5.0「情報リテラシーⅡ」(3回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「情報リテラシーⅡ」(12、13回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、転移学習)「情報リテラシーⅡ」(7、9、10回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ「情報リテラシーⅡ」(8回目) ・1次データ、2次データ「情報リテラシーⅡ」(11回目) ・データ作成(アノテーション)「情報リテラシーⅡ」(4回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)、研究開発「情報リテラシーⅡ」(4回目) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報リテラシーⅡ」(3回目) ・判断支援、活動代替、新規生成「情報リテラシーⅡ」(3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・今のAIで出来ることと出来ないこと、自動化技術「情報リテラシーⅡ」(3回目) ・特化型AIと汎用AI「情報リテラシーⅡ」(4回目) ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見「情報リテラシーⅡ」(5回目) ・非構造化データ処理: 画像処理「情報リテラシーⅡ」(9、10回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報リテラシーⅡ」(3回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題解決に向けた提案)、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシーⅡ」(1211回目) ・インフラ、ヘルスケアにおけるデータ・AI利活用事例紹介「情報リテラシーⅡ」(3回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー保護、個人情報保護、AI社会原則、AIサービスの責任論「情報リテラシーII」(9、13回目) ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「情報リテラシーII」(9回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報リテラシーII」(3回目) ・AIサービスの責任論「情報リテラシーII」(12回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシーII」(11回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「情報リテラシーII」(911回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシーII」(11回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類「データ分析I」(6-8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「データ分析I」(11、12回目) ・クロス集計表「データ分析I」(13回目) ・データの種類「情報リテラシーII」(1回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値「情報リテラシーII」(1回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「情報リテラシーII」(2回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現、データの図表表現「データ分析I」(2-5、7-8回目) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「情報リテラシーII」(1回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク)「情報リテラシーII」(1回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計、データの並び替え、ランキング「データ分析I」(2、3回目) ・データの集計、データの並び替え、ランキング「情報リテラシーII」(2回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

歯学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報の科学」「歯科基礎科学」「社会と歯学Ⅰ」「社会と歯学Ⅱ」「社会と歯学Ⅲ」「**社会と歯学Ⅳ**」「実習：社会と歯学」（専門教育科目）の**67**科目8単位を取得すること。

必要最低単位数 8 単位 履修必須の有無 令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

- ④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報の科学	1	○	○	○					
歯科基礎科学	1	○		○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報の科学	1	○	○	○					
社会と歯学Ⅰ	1	○	○						
社会と歯学Ⅱ	2-1	○	○						
社会と歯学Ⅲ	1	○	○						
社会と歯学Ⅳ	1	○	○						
歯科基礎科学	1	○	○						

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報の科学	1	○	○	○					
歯科基礎科学	1	○		○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報の科学	1	○	○	○					
社会と歯学Ⅱ	1	○	○						
社会と歯学Ⅲ	1	○	○						
社会と歯学Ⅳ	1	○	○	○					
歯科基礎科学	1	○	○						

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報の科学	1	○	○	○	○						
実習:社会と歯学	2	○	○		○						
社会と歯学Ⅰ	1	○	○								
社会と歯学Ⅱ	1	○	○	○							
歯科基礎科学	1	○	○	○							

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報の科学」(1回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例「情報の科学」(1回目)、「歯科基礎科学」(11、14、15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ「社会と歯学Ⅰ」(4、 10-9 回目)、「社会と歯学Ⅱ(春)」(14回目)、「社会と歯学Ⅲ-Ⅳ」(15回目) ・構造化データ、非構造化データ「情報の科学」(1、5、15回目)、「歯科基礎科学」(11-15回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報の科学」(1、15回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・非構造化データ処理:言語処理、画像/動画処理「情報の科学」(3-11、14、15回目)
	1-5	・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報の科学」(3-5、15回目)、「歯科基礎科学」(11-15回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護、データ倫理、AI社会原則、AIサービスの責任論「社会と歯学Ⅱ」(9回目)、「社会と歯学Ⅲ」(68回目)、「社会と歯学Ⅳ」(6回目)、「情報の科学」(1、5、15回目)、「歯科基礎科学」(11-15回目)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性、暗号化「社会と歯学Ⅳ」(6回目)、「情報の科学」(1、5、15回目)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類、データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつき、母集団と標本抽出「社会と歯学Ⅰ」(2回目)、「社会と歯学Ⅱ」(11回目)、「実習:社会と歯学」(3回目) ・クロス集計表「情報の科学」(3、4回目)、「歯科基礎科学」(11-15回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「社会と歯学Ⅱ」(12回目)、「情報の科学」(3、4回目)、「歯科基礎科学」(11-15回目)
	2-3	・データの集計、データの並び替え、データ解析ツール「実習:社会と歯学」(3回目) ・データの集計、表形式のデータ「情報の科学」(3、4、6-14回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

大学等名	愛知学院大学
プログラム名	愛知学院大学データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

薬学部

③ 修了要件

プログラム構成科目である「情報処理演習」「製剤工学」「医薬品情報学」「基礎薬学演習Ⅰ」(専門教育科目)の4科目4単位を取得すること。

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和4年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理演習	1	○	○						
製剤工学	1	○		○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理演習	1	○	○	○					
製剤工学	1	○		○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理演習	1	○		○					
製剤工学	1	○	○	○					
医薬品情報学	1	○	○						

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
基礎薬学演習Ⅰ	1	○	○	○					
製剤工学	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
医薬品情報学	1	○	○	○	○						
基礎薬学演習Ⅰ	1	○		○	○						
情報処理演習	1	○		○	○						
製剤工学	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、AI「情報処理演習」(1回目) ・ビッグデータ、AI、Society 5.0、データ駆動型社会、データ爆発、AIの非連続的進化、人間の知的活動とAIの関係性「情報処理演習」(7回目)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「製剤工学」(13回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・1次データ、2次データ、データのオープン化(オープンデータ)、構造化データ、非構造化データ「情報処理演習」(8回目) ・データのメタ化、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化(オープンデータ)「情報処理演習」(10回目)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援「情報処理演習」(9回目) ・研究開発「製剤工学」(1回目) ・知識発見、原因究明「製剤工学」(13回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ「医薬品情報学」(4回目) ・データ解析、AIとビッグデータ「医薬品情報学」(11回目) ・データ可視化:挙動、軌跡の可視化、非構造化データ処理、認識技術、自動化技術「製剤工学」(13回目)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報処理演習」(11、12回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「製剤工学」(13回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における負の事例紹介「基礎薬学演習Ⅰ」(1回目) ・AI 社会原則、AI サービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「製剤工学」(13回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「基礎薬学演習Ⅰ」(3回目)「製剤工学」(13回目)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・母集団と標本抽出、統計情報の正しい理解「医薬品情報学」(5回目) ・データの種類、データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつき「医薬品情報学」(6回目) ・相関と因果(交絡)、観測データに含まれる誤差の扱い、打ち切りや脱落を含むデータ、クロス集計表「医薬品情報学」(7回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現「基礎薬学演習Ⅰ」(3回目) ・データ表現、データの図表表現、データの比較、不適切なグラフ表現「情報処理演習」(3-6回目) ・データ表現「医薬品情報学」(8回目) ・データ表現、データの図表表現「製剤工学」(12回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計「基礎薬学演習Ⅰ」(3回目) ・データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ「情報処理演習」(2回目) ・データの集計「医薬品情報学」(9回目) ・データの集計「製剤工学」(12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけることができます。また、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

開講年度	2024年度	講義コード	100191
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜3限
チームコード	z1534rf	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Word, PowerPointによる文章・資料作成，表現
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ初学者を対象に，Word による文章作成・PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の技術を学びます。 ・また，データサイエンスの導入部分を取り挙げ，実社会においてデータや IoT・ロボット・人工知能といった技術がどのように活用されているかを学びます。 ・この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目の一つです。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前半では Word を用いて，文章作成の基本的な技術を習得します。 ・後半では PowerPoint を用いて，プレゼンテーション資料作成の基本的な技術を習得します。 ・データサイエンス(社会におけるデータやAI(人工知能)の利活用)に関連した実習課題に取り組み，特定のテーマについて自らが調べた知識や意見を，文章で適切に表現できるようになることを目指します。 ・授業で提示したテーマに基づいて，プレゼンテーション資料を作成する実習課題に取り組み，効果的に情報が伝わるようなプレゼンテーション資料を作れるようになることを目指します。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ，授業内で実習課題の解説を行います。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) Word(1) ・ Windowsの基本操作(テキスト1-1, 2-1節) ・ 文字を入力する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第2回	Word(2) ・ 文章の書式を設定する(テキスト2-2節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第3回	Word(3) ・ 文章内に表を挿入する(テキスト2-4節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第4回	Word(4) ・ 箇条書き，段組みを設定する(テキスト2-5節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第5回	Word(5) ・ 文章内に画像を挿入する(テキスト2-6節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第6回	Word(6) ・ 長文作成に関する各種機能(テキスト2-7節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する 	120分	120分

第7回	Word(7) ・ Excelデータ(表・グラフ)を文章内に挿入する(テキスト3-8節)	・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について、自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する	120分	120分
第8回	データサイエンス導入(参考書1-1節: 社会で起きている変化) ・ ビッグデータ, IoT, ロボット技術, AI(人工知能)	・ 事前に参考書を読んで予習する, キーワードについて調査する ・ 授業で取りあげた様々な事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第9回	データサイエンス導入(参考書1-2節: 社会で活用されているデータ) ・ データの分類 ・ 構造化データと非構造化データ ・ メタデータ処理の具体例(画像認識、機械翻訳技術など)	・ 事前に参考書を読んで予習する, キーワードについて調査する ・ 授業で取りあげた様々な事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第10回	データサイエンス導入(参考書1-3節: データとAIの活用領域) ・ 社会活動のプロセスごとにみるデータサイエンス関連技術の広がり ・ 目的別にみるデータサイエンス関連技術の広がり(仮説検証, 知識発見など) Word を用いたレポート作成に関する留意点(引用・脚注など)	・ 事前に参考書を読んで予習する, キーワードについて調査する ・ 授業で取りあげた様々な事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第11回	Word 実習課題の作成	・ 事前に課題内容に関連する下調べを行い, 必要な資料を揃える, 演習課題の構想を練る ・ 授業時間内で完成できなかった箇所を補完したり, 完成した課題を推敲したりして, 問題点がないか確認する	180分	60分
第12回	PowerPoint(1) ・ PowerPoint の基本操作(テキスト4-1節) ・ プレゼンテーション資料を作成する(テキスト4-2節)	・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する	120分	120分
第13回	PowerPoint(2) ・ 図・表・グラフを挿入する(テキスト4-3, 4-4節)	・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する	120分	120分
第14回	PowerPoint(3) ・ 切り替え効果, アニメーション効果を設定する(テキスト4-5節) ・ 効果的なプレゼンテーション資料作成の要点	・ 事前にテキストを読み予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内に理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室内PCなどを活用して復習する	120分	120分
第15回	PowerPoint演習課題の作成 まとめ	・ 事前に課題内容について下調べを行い, 演習課題の構想を練る ・ 授業時間内で完成できなかった箇所を補完したり, 完成した課題を推敲したりして, 問題点がないか確認する	180分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
授業内実習課題		40%		各講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。
Word実習課題		30%		講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。文章の表現・引用は適切か。
PowerPoint実習課題		30%		講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。資料の表現は適切か。
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office 2019	杉本くみ子, 大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0	[価格]定価1430円+税

参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎, 竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	数理・データサイエンス・AIプログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税
参照URL				
表示名		URL	説明	
質疑応答	・授業では基本的に毎回実習時間を取り，教員が巡視して質問を随時受け付けます。 ・課題の提出，授業の内容などについて質問がある場合は，授業の前後あるいは実習時間中，Teams，オフィスアワーなどを活用してください。			
備考	・初回のガイダンスではPC教室の利用方法や課題の提出方法などについての重要な説明をしますので，必ず出席してください。 ・Word・PowerPoint の講義では，指定のテキストに沿って授業を進めますので，受講者は必ず購入してください。 ・授業計画は授業の進捗度や受講生の到達度などに応じて，変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(例：講義に無関係な私語やソフトウェアの使用，教室内での飲食，携帯電話の無断使用など)には口頭注意，減点措置をすることがあります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	100185
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	佐部利 真吾		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	月曜1限
チームコード	dzzm5n9	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	HTML と CSS を駆使してWebサイトを作る			
授業の概要	本講義では、Webサイトの作成に必要な HTML と CSS について解説する。良いWebサイトを作成するには、自分の伝えたい情報について論理立てて考え構造化しなければならない。本講義では、単に HTML と CSS が使えるだけでなく、こういった論理的思考力を養うことを念頭に置く。			
授業の到達目標	HTML と CSS を駆使してWebサイトを作成できる。 自分の伝えたい内容をWebサイト上にわかりやすく表現できる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表日以降に講義連絡にて授業講評を送信する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	・ ガイダンス ・ Webサイトの基礎 ・ 構造化データ (データサイエンス1-2:)	【予習】 シラバスを読み、参照URLのWebサイトを概観して授業内容を把握する。 【復習】 Webサイトを再度読んで授業の全体について確認する。	120分	120分
第2回	・ Webサイトの基礎の続き ・ アクセス解析によるビッグデータの活用 ビッグデータ (データサイエンス1-1:) 人の行動ログデータ (データサイエンス1-2:) ・ HTML 編 スペース、改行、見出し、段落	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第3回	・ HTML 編 箇条書き	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第4回	・ HTML 編 表の作成	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第5回	・ HTML 編 リンクの貼り付け、図の挿入 ・ データ・AI活用領域の広がり (データサイエンス1-3:) 活動代替 (データサイエンス1-3:) 計算機の処理性能の向上 (データサイエンス1-1:)	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第6回	・ CSS 編 導入、CSSを書く場所	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分

第7回	・CSS 編 色の指定	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第8回	・CSS 編 ブロックとインライン	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第9回	・CSS 編 ボックス（高さ、幅、境界線など）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第10回	・CSS 編 セレクタその 1（CSS の指定の方法・基礎編）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第11回	・CSS 編 セレクタその 2（CSS の指定の方法・応用編）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第12回	・CSS 編 レイアウト	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第13回	・Webサイト作成のための資料収集 Webサイト作成のための資料を収集する	【予習】自分のWebサイトのテーマを考え、資料収集を行う。 【復習】資料収集の続きを行う。	120分	120分
第14回	・Webサイトの作成 サンプルをベースにWebサイトを作成する	【予習】Webサイトの構想を固め、わからない点を整理する。	240分	0分
第15回	・Webサイトの作成の続き	【予習】自宅または大学のパソコンで、Webサイトの作成を進める。	240分	0分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業中に指示する課題		30%	各授業内で実施した内容を理解し、それを適切に実行できる。	
自作のWebサイト		70%	内容の充実度、わかりやすさ、見やすさ、独自の工夫等	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参照URLのWebサイトを使用する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
情報科学演習用サイト	http://www.agu.ac.jp/~saburi/comp-scie/		ユーザー名：computer パスワード：science	

質疑応答	授業時間外の質問は、授業時間の前後に教室で直接すること。
備考	<p>自分が何回欠席したかという質問は受け付けない。</p> <p>授業内容は、学生の理解の状況等に応じて柔軟に変更されることがある。</p> <p>授業の資料は、Teamsのこの授業のチームの「ファイル」→「クラスの資料」にアップする。特に第1回授業の資料には授業方針や注意事項が記載されているので、必ず読むこと。</p> <p>卒業がかかっているなどと単位を求めてきても特別な対応はしない。</p>
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	100193
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	虎澤 慶太		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	木曜3限
チームコード	acw33eg	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	C言語を使ったプログラミング入門			
授業の概要	この授業はC言語の基礎的なプログラミングを学びます。 C言語のコンパイラを利用してコンピュータ言語を学んでいきます。 C言語は40年以上前に開発された言語ですが、この言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用です。 C言語では文字の取り扱い方に厳格な取り決めがあり、文字の表示や入力の仕方、文字列（複数の文字の並び）を処理する方法を学びます。 また、データサイエンスについて入門編として学びます。			
授業の到達目標	授業ごとに提示する関数やルーチンを組み合わせ、課題となるプログラムを完成させる。 学期末には課題として、指定した条件を満たすプログラムを完成させ提出する。 また、データサイエンスについて授業で取り上げた項目について説明できる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	WebCampusの「講義連絡」を用いて課題とされた提出物について講評します。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」授業の進め方を確認する キーボードから文字、数字の入力 ビッグデータとは	【予習】今回紹介する「hello world」をネットなどで検索し、その背景について調べておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第2回	キーボードから文字の入力（%d、%c、%sの違い） IoT、AIについて	【予習】今回紹介する「出力形式」をネットなどで検索し、その種類、使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第3回	繰り返し（while文） データ量の増加、計算機の処理性能の向上について	【予習】今回紹介する「while文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた関数（while）の使用方を再確認する。	120分	120分
第4回	繰り返し（for文） AIの非連続的進化、第4次産業革命について	【予習】今回紹介する「for文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた関数（for）の使用方を再確認する。	120分	120分
第5回	条件分岐（if else文） Society 5.0、データ駆動型社会について	【予習】今回紹介する「if else 文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた関数（if else）の使用方を再確認する。	120分	120分
第6回	条件分岐（switch case文） 複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性について	【予習】今回紹介する「switch case文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた関数（switch case）の使用方を再確認する。	120分	120分
第7回	ファイルの取り扱い方（fopen文とfclose） データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方について	【予習】今回紹介する「fopen文」と「fclose」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。	120分	120分

		【復習】授業で出てきた関数（fopen fclose）を再確認する。		
第8回	if文とwhile文の復習と「論理演算子」調査データ、実験データについて	【予習】「if文」「while文」の使い方を復習しておく。また、論理演算子についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた論理演算子を再確認する。	120分	120分
第9回	「整数型」変数と「文字型」変数の比較 人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどについて	【予習】「return 1」の使い方についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（return 1）を再確認する。	120分	120分
第10回	変数の型を変更する「キャスト」 1次データ、2次データについて	【予習】C言語での「キャスト」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきたキャストについて再確認する。	120分	120分
第11回	数学用関数の使用法とコンピュータ言語特有の算術演算子（include文と算術演算子としての「%」） データのメタ化、データ作成について	【予習】「include文」とC言語での算術演算子「%」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた%を含む算術演算子を再確認する。	120分	120分
第12回	2変数間の数値の入れ替え 構造化データ、非構造化データについて	【予習】「ユークリッドの互除法」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた数値の入れ替え方を再確認する。	120分	120分
第13回	円周率の計算 ビッグデータ、アノテーションについて	【予習】「モンテカルロ法」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（srand など）を再確認する。	120分	120分
第14回	フィボナッチ数を「再帰的計算」により求める データのオープン化、オープンデータについて	【予習】「フィボナッチ数」と「再帰的計算」についてネットなどで調べる。 【復習】「再帰的計算」を再確認する。	120分	120分
第15回	「ハノイの塔」の解を求めるプログラム（再帰的計算2） データ・AI活用領域の広がり、仮説検証、知識発見、原因究明について	【予習】今回紹介する「ハノイの塔」をネットなどで検索し、その遊び方について調べる。 【復習】「再帰的プログラミング」の記法を再確認する。	120分	120分
試験実施方法		レポート試験		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業ごとの提出課題		100%	※1	
評価詳細				
※1 一回ごとの課題提出を5点として採点する。 虎澤が設定する複数の課題とその結果を25点として採点する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業時間以外には、オフィスアワー、e-mail で質問に応じます。 e-mailアドレスは torakay♪dpc.agu.ac.jpです。ただし「件名」を学籍番号で始めてください。 （「♪」は「@」に変えてください）			

備考	<p>授業内容は習熟度により変更されることがあります。</p> <p>予習、復習は主に第1クライアント室のような自由利用教室で行うことができます。各自都合の良い時間に予習、復習をしてください。</p> <p>この授業は受講者数調整科目です。そのため受講登録した場合には責任ある態度で受講してもらいます。</p> <p>担当者は過去の病気のためタバコの臭いにより体調が悪くなってしまうます。従って、喫煙者は受講を差し控えて頂くようお願いいたします。</p>
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	100187
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	上原 宏行		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	月曜2限
チームコード	4l6ue30	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	いちからのOffice,データサイエンスの基礎を学ぶ
授業の概要	<p>コンピュータに不慣れな学生向けの授業です。Word, Excel, PowerPointなどの基礎的な操作方法を学習し、自ら文書・資料等を作成しながら理解を深めていきます。なお、毎回、理解度を確認しながら授業を行うので、授業内容を調整することがあります。</p> <p>また、この授業は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)対応科目であり、モデルカリキュラム導入の前半を担当します。</p>
授業の到達目標	<p>この授業の到達目標は以下の通りです。</p> <p>①Word, Excel, PowerPointの基礎的な操作方法を理解し、作成したい文章、表やグラフ、プレゼンテーション資料が作れる。</p> <p>②操作方法が分からない人に、その方法を説明できる。</p> <p>③データ・AIの活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	提出課題については、講義中およびTeamsから出題意図・評価基準等を説明する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	データサイエンス導入1 (1-1: 社会で起きている変化) ビットとバイト ビックデータの特徴 第4次産業革命 データ駆動型社会とセンサー 因果関係と相関関係	<p>【予習】シラバスを熟読して、授業内容・評価方法などを理解する</p> <p>【復習】授業で学んだ内容で不明な点は調べて理解度を深める</p>	60分	180分
第2回	ガイダンス Word-1回目 Windowsの基礎知識(p10-17) アプリケーションの起動・終了・画面の切り替え ファイルを整理する IMEと日本語入力 Wordの基礎知識(p18-p21) Wordの起動と画面構成 ファイルを操作する Wordを終了する	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】教科書をもとに授業中に理解出来なかった項目を各自で行う</p>	120分	120分
第3回	Word-2回目 文書の作成(p22-p35) 文章を作成する 範囲の選択 文章を編集する 文字の配置を整える 文字を修飾する 段落を整える	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】キーボードに触れる</p> <p>【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う</p>	120分	120分
第4回	Word-3回目 表の作成(p39-p49)	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】キーボードに触れる</p>	120分	120分

	表を作成する 表のレイアウトを変更する セルの結合・セルの分割 表に書式を設定する	【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う		
第5回	Word-4回目 表現力をアップする(p60-p71) オンライン画像の挿入 ワードアートの挿入 図の挿入 図形の挿入 ページ罫線	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】教科書で学習しなかった項目の学習をする 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う 【課題】与えられたテーマで課題を仕上げる	120分	120分
第6回	Excel-1回目 Excelの基礎知識(p88-p92) Excelの画面構成 ブックを操作する Excelを終了する データの入力・編集(p93-p101) データを入力する 範囲の選択 データを編集する ブックを保存する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第7回	Excel-2回目 表の作成(p102-p118) 関数を入力する 罫線や塗りつぶしを設定する 表示形式を設定する 配置を設定する フォント書式を設定する 条件付き書式を設定する シートの操作	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第8回	Excel-3回目 いろいろな数式(p131-p135) 相対参照と絶対参照 いろいろな関数を利用する 関数の入力方法 基本の関数 順位を求める/条件で判断する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第9回	Excel-4回目 グラフと図形(p148-p153) 棒グラフを作成する 円グラフを作成する 複合グラフを作成する 図形を作成する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第10回	Excel-5回目 データの広がりやと偏差値 平均値と分散(標準偏差) 偏差値 理解度確認テスト	【予習】配布資料を読み、内容を理解する 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	60分	180分
第11回	PowerPoint-1回目 PowerPointの基礎知識(p188-p191) PowerPointの画面構成 プレゼンテーションを操作する PowerPointを終了する プレゼンテーションの作成(p192-p201) 新しいプレゼンテーションを作成する 新しいスライドを挿入する プレゼンテーションの流れを考える プレゼンテーションを保存する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第12回	PowerPoint-2回目 図やオブジェクトの挿入と編集(p202-p208) イラストや画像を挿入する 効果的な文字を挿入する 図形を挿入する テキストボックスを挿入する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分

第13回	PowerPoint-3回目 図表・グラフ・表の挿入と編集(p209-p216) 図表を挿入する グラフを挿入する 表を挿入する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作をしてみる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第14回	PowerPoint-4回目 特殊効果の設定(p217-p220) 画面切り替え効果 アニメーション効果を設定する 印刷関連の機能(p221) ノート スライドショーをサポートする機能(p224) 発表者ツール	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作をしてみる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う 【課題】与えられたテーマで課題を仕上げる	120分	120分
第15回	データサイエンス導入2 (1-2: 社会で活用されているデータ) データの種類(調査データ、人の行動ログデータ、 機械の稼働ログデータなど) 構造化データと非構造化データ (1-3: データ・AIの活用領域 AI活用領域の広がり(生産・消費・文化活動など) 仮説検証PDCAサイクル	【予習】配布資料を読む 【復習】授業で学んだ内容で不明な点は調べて理解度を深める	60分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
Word課題、Excelテスト、PowerPoint課題		50%	学習した機能の理解度と適切な利用度、課題内容の達成度	
実施状況の提出		50%	提出された毎回の実施状況	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみこ・大澤栄子	実教出版株式会社	978-4-407-34833-0	成文堂で購入すること
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエ ンス	北川/竹村編	講談社	978-4-06-523809-7	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを履修する場 合は購入を薦める [価 格]1800円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業中またはオフィスアワーで対応します。 連絡方法はWebCampusのオフィスアワーを見てください。			
備考	テキスト(教科書)は成文堂で必ず購入してください。教科書がないと理解できません。 私語、居眠り、携帯の操作及び机上に置くことなどは厳禁とします。 端末操作が基本になるので出席を重視します。そのため、10回以上の出席が単位取得の最低条件です。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	100197
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	山住 富也		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜3限
チームコード	ohks4ly	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Officeツールの基本を学ぶ			
授業の概要	情報処理の基礎科目として初心者向けの実習を行い、情報活用能力の土台となる知識と技術を習得するとともに、情報化社会におけるルールやモラル、およびセキュリティを理解することを目的とする。実習はOfficeツールによる文書作成、表計算、スライド作成の他、ノートパソコンによる電子メールの送受信など、毎回課題を与え、レポートとして提出する。データサイエンスおよびAIについて、活用事例や留意事項を学ぶ。			
授業の到達目標	ワープロ（Word）を使ったビジネス文書作成、表計算ソフト（Excel）によるデータ処理やデータサイエンスの基本、プレゼンテーションソフト（PowerPoint）でスライドの作成技術を身につける。また、AIの活用についての基礎を学ぶ。ネットワーク社会で現実に行っている犯罪を例にとりながら情報倫理とセキュリティについて学習し、インターネットに関わりの深い法律やモラル。ELSIおよびセキュリティ技術を習得する。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	授業の内容に沿った課題を毎回出題し、講評する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	授業全体の進め方と実習室の利用について説明する。演習の準備として課題の提出方法を学ぶ。インターネットを利用する上で必要となる情報モラルや、情報倫理、情報セキュリティについて学習する。データサイエンス導入（1-1：社会で起きている変化） ・ビッグデータ ・IoT	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第2回	文字入力の基本について学習する。また、Wordによる文書の作成と整形の基本を習得する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第3回	Wordのグラフィック機能（基本図形やワードアート等）の活用について学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第4回	Wordの文書に表を挿入し編集する方法について学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第5回	文書中にヘッダー、フッター、ページ番号や透かしなどさまざまな要素を挿入する方法や、ページのデザインやハイパーリンクの挿入について学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第6回	Wordの総合的な演習として、基本図形を組み合わせ、文書に地図を描画する方法を学習する。楕円や長方形、テキストボックスなどを活用する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第7回	表計算ソフトExcelのワークシートにデータを入力する方法を学ぶ。縦横集計とセルの書式設定、数式の入力について学習する。四則演算、表示桁数、オート	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120

	フィルについて学習する。 データサイエンス導入(1-2: 社会で活用されているデータ) ・調査データ ・実験データ			
第8回	Excelの統計関数（SUM関数、AVERAGE関数等）の活用について学習する。表の整形についても学ぶ。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第9回	棒グラフ、折線グラフ、帯グラフ、円グラフ、複合グラフなど、Excelのグラフ描画について学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第10回	Excelの論理関数（IF関数、AND関数、OR関数）の活用について学ぶ。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第11回	Excelのデータベース機能（ソート、抽出等）を学ぶ。また、条件付き書式について学習する。 データサイエンス導入(1-3: データとAIの活用領域) ・データ・AI活用領域の広がり ・仮説検証	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第12回	スライド作成ソフトPowerPointの基本操作を学ぶ。 テキストと図表の挿入方法を学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第13回	PowerPointにおけるスライドショーの実行とプレゼンテーションの方法および、アニメーションの設定について学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第14回	Word、Excel、PowerPointのアプリ間で、データを共有して貼り付ける方法を学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第15回	総合問題として、Wordによる文書作成、Excelによる表計算、PowerPointによるスライド作成を行う。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
演習課題		100%	授業で学習した内容をふまえた課題を作成できているか。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるWord2019＆Excel;2019＆PowerPoint2019	-	FOM出版	978-4-86510-399-1	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンスリテラシー	高橋弘毅他	実教出版	978-4-407-35257-3	-
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業内容について質問がある場合は、授業内の演習時間を活用してください。			
備考	・授業計画などは授業の進行度や受講生の到達度などに応じて、変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(私語や携帯電話の無断使用など)には減点措置をすることがあります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	700147
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	虎澤 慶太		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	月曜2限
チームコード	t722yup	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	C言語を使ったプログラミング入門
授業の概要	<p>この授業はC言語の基礎的なプログラミングを学びます。</p> <p>C言語のコンパイラを利用してコンピュータ言語を学んでいきます。</p> <p>C言語は40年以上前に開発された言語ですが、この言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用です。</p> <p>C言語では文字の取り扱い方に厳格な取り決めがあり、文字の表示や入力の仕方、文字列（複数の文字の並び）を処理する方法を学びます。</p> <p>また、データサイエンスについて入門編として学びます。</p>
授業の到達目標	<p>授業ごとに提示する関数やルーチンを組み合わせ、課題となるプログラムを完成させる。</p> <p>学期末には課題として、指定した条件を満たすプログラムを完成させ提出する。</p> <p>また、データサイエンスについて授業で取り上げた項目について説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	WebCampusの「講義連絡」を用いて課題とされた提出物について講評します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」授業の進め方を確認する キーボードから文字、数字の入力 ビッグデータとは	<p>【予習】今回紹介する「hello world」をネットなどで検索し、その背景について調べておく。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第2回	キーボードから文字の入力（%d、%c、%sの違い） IoT、AIについて	<p>【予習】今回紹介する「出力形式」をネットなどで検索し、その種類、使い方について調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第3回	繰り返し（while文） データ量の増加、計算機の処理性能の向上について	<p>【予習】今回紹介する「while文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（while）の使用方を再確認する。</p>	120分	120分
第4回	繰り返し（for文） AIの非連続的進化、第4次産業革命について	<p>【予習】今回紹介する「for文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（for）の使用方を再確認する。</p>	120分	120分
第5回	条件分岐（if else文） Society 5.0、データ駆動型社会について	<p>【予習】今回紹介する「if else 文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（if else）の使用方を再確認する。</p>	120分	120分
第6回	条件分岐（switch case文） 複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性について	<p>【予習】今回紹介する「switch case文」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（switch case）の使用方を再確認する。</p>	120分	120分
第7回	ファイルの取り扱い方（fopen文とfclose） データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方について	<p>【予習】今回紹介する「fopen文」と「fclose」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。</p>	120分	120分

		【復習】授業で出てきた関数（fopen fclose）を再確認する。		
第8回	if文とwhile文の復習と「論理演算子」 調査データ、実験データについて	【予習】「if文」「while文」の使い方を復習しておく。 また、論理演算子についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた論理演算子を再確認する。	120分	120分
第9回	「整数型」変数と「文字型」変数の比較 人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなどについて	【予習】「return 1」の使い方についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（return 1）を再確認する。	120分	120分
第10回	変数の型を変更する「キャスト」 1次データ、2次データについて	【予習】C言語での「キャスト」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきたキャストについて再確認する。	120分	120分
第11回	数学用関数の使用法とコンピュータ言語特有の算術演算子（include文と算術演算子としての「%」） データのメタ化、データ作成について	【予習】「include文」とC言語での算術演算子「%」をネットなどで検索し、その使い方について調べる。 【復習】授業で出てきた%を含む算術演算子を再確認する。	120分	120分
第12回	2変数間の数値の入れ替え 構造化データ、非構造化データについて	【予習】「ユークリッドの互除法」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた数値の入れ替え方を再確認する。	120分	120分
第13回	円周率の計算 ビッグデータ、アノテーションについて	【予習】「モンテカルロ法」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（srand など）を再確認する。	120分	120分
第14回	フィボナッチ数を「再帰的計算」により求める データのオープン化、オープンデータについて	【予習】「フィボナッチ数」と「再帰的計算」についてネットなどで調べる。 【復習】「再帰的計算」を再確認する。	120分	120分
第15回	「ハノイの塔」の解を求めるプログラム（再帰的計算2） データ・AI活用領域の広がり、仮説検証、知識発見、原因究明について	【予習】今回紹介する「ハノイの塔」をネットなどで検索し、その遊び方について調べる。 【復習】「再帰的プログラミング」の記法を再確認する。	120分	120分
試験実施方法		レポート試験		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業ごとの提出課題		100%	※1	
評価詳細				
※1 一回ごとの課題提出を5点として採点する。 虎澤が設定する複数の課題とその結果を25点として採点する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業時間以外には、オフィスアワー、e-mail で質問に応じます。 e-mailアドレスは torakay♪dpc.agu.ac.jpです。ただし「件名」を学籍番号で始めてください。 （「♪」は「@」に変えてください）			

備考	<p>授業内容は習熟度により変更されることがあります。</p> <p>予習、復習は主に第1クライアント室のような自由利用教室で行うことができます。各自都合の良い時間に予習、復習をしてください。</p> <p>この授業は受講者数調整科目です。そのため受講登録した場合には責任ある態度で受講してもらいます。</p> <p>担当者は過去の病気のためタバコの臭いにより体調が悪くなってしまうます。従って、喫煙者は受講を差し控えて頂くようお願いいたします。</p>
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	700148
科目名	情報科学Ⅰ		
担当教員	上原 宏行		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	木曜4限
チームコード	79vchoh	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	いちからのOffice,データサイエンスの基礎を学ぶ
授業の概要	<p>コンピュータに不慣れな学生向けの授業です。Word, Excel, PowerPointなどの基礎的な操作方法を学習し、自ら文書・資料等を作成しながら理解を深めていきます。なお、毎回、理解度を確認しながら授業を行うので、授業内容を調整することがあります。</p> <p>また、この授業は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)対応科目であり、モデルカリキュラム導入の前半を担当します。</p>
授業の到達目標	<p>この授業の到達目標は以下の通りです。</p> <p>①Word, Excel, PowerPointの基礎的な操作方法を理解し、作成したい文章、表やグラフ、プレゼンテーション資料が作れる。</p> <p>②操作方法が分からない人に、その方法を説明できる。</p> <p>③データ・AIの活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	提出課題については、講義中およびTeamsから出題意図・評価基準等を説明する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	データサイエンス導入1 (1-1: 社会で起きている変化) ビットとバイト ビックデータの特徴 第4次産業革命 データ駆動型社会とセンサー 因果関係と相関関係	<p>【予習】シラバスを熟読して、授業内容・評価方法などを理解する</p> <p>【復習】授業で学んだ内容で不明な点は調べて理解度を深める</p>	60分	180分
第2回	ガイダンス Word-1回目 Windowsの基礎知識(p10-17) アプリケーションの起動・終了・画面の切り替え ファイルを整理する IMEと日本語入力 Wordの基礎知識(p18-p21) Wordの起動と画面構成 ファイルを操作する Wordを終了する	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】教科書をもとに授業中に理解出来なかった項目を各自で行う</p>	120分	120分
第3回	Word-2回目 文書の作成(p22-p35) 文章を作成する 範囲の選択 文章を編集する 文字の配置を整える 文字を修飾する 段落を整える	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】キーボードに触れる</p> <p>【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う</p>	120分	120分
第4回	Word-3回目 表の作成(p39-p49)	<p>【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる</p> <p>【復習】キーボードに触れる</p>	120分	120分

	表を作成する 表のレイアウトを変更する セルの結合・セルの分割 表に書式を設定する	【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う		
第5回	Word-4回目 表現力をアップする(p60-p71) オンライン画像の挿入 ワードアートの挿入 図の挿入 図形の挿入 ページ罫線	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】教科書で学習しなかった項目の学習をする 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う 【課題】与えられたテーマで課題を仕上げる	120分	120分
第6回	Excel-1回目 Excelの基礎知識(p88-p92) Excelの画面構成 ブックを操作する Excelを終了する データの入力・編集(p93-p101) データを入力する 範囲の選択 データを編集する ブックを保存する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第7回	Excel-2回目 表の作成(p102-p118) 関数を入力する 罫線や塗りつぶしを設定する 表示形式を設定する 配置を設定する フォント書式を設定する 条件付き書式を設定する シートの操作	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第8回	Excel-3回目 いろいろな数式(p131-p135) 相対参照と絶対参照 いろいろな関数を利用する 関数の入力方法 基本の関数 順位を求める/条件で判断する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第9回	Excel-4回目 グラフと図形(p148-p153) 棒グラフを作成する 円グラフを作成する 複合グラフを作成する 図形を作成する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第10回	Excel-5回目 データの広がりやと偏差値 平均値と分散(標準偏差) 偏差値 理解度確認テスト	【予習】配布資料を読み、内容を理解する 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	60分	180分
第11回	PowerPoint-1回目 PowerPointの基礎知識(p188-p191) PowerPointの画面構成 プレゼンテーションを操作する PowerPointを終了する プレゼンテーションの作成(p192-p201) 新しいプレゼンテーションを作成する 新しいスライドを挿入する プレゼンテーションの流れを考える プレゼンテーションを保存する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第12回	PowerPoint-2回目 図やオブジェクトの挿入と編集(p202-p208) イラストや画像を挿入する 効果的な文字を挿入する 図形を挿入する テキストボックスを挿入する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作を試みる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分

第13回	PowerPoint-3回目 図表・グラフ・表の挿入と編集(p209-p216) 図表を挿入する グラフを挿入する 表を挿入する	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作をしてみる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う	120分	120分
第14回	PowerPoint-4回目 特殊効果の設定(p217-p220) 画面切り替え効果 アニメーション効果を設定する 印刷関連の機能(p221) ノート スライドショーをサポートする機能(p224) 発表者ツール	【予習】教科書の該当箇所を読み、操作をしてみる 【復習】授業中に理解出来なかった項目を各自で行う 【課題】与えられたテーマで課題を仕上げる	120分	120分
第15回	データサイエンス導入2 (1-2: 社会で活用されているデータ) データの種類(調査データ、人の行動ログデータ、 機械の稼働ログデータなど) 構造化データと非構造化データ (1-3: データ・AIの活用領域 AI活用領域の広がり(生産・消費・文化活動など) 仮説検証PDCAサイクル	【予習】配布資料を読む 【復習】授業で学んだ内容で不明な点は調べて理解度を深める	60分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
Word課題、Excelテスト、PowerPoint課題		50%	学習した機能の理解度と適切な利用度、課題内容の達成度	
実施状況の提出		50%	提出された毎回の実施状況	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみこ・大澤栄子	実教出版株式会社	978-4-407-34833-0	成文堂で購入すること
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエ ンス	北川/竹村編	講談社	978-4-06-523809-7	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを履修する場 合は購入を薦める [価 格]1800円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業中またはオフィスアワーで対応します。 連絡方法はWebCampusのオフィスアワーを見てください。			
備考	テキスト(教科書)は成文堂で必ず購入してください。教科書がないと理解できません。 私語、居眠り、携帯の操作及び机上に置くことなどは厳禁とします。 端末操作が基本になるので出席を重視します。そのため、10回以上の出席が単位取得の最低条件です。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	200162
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	上原 宏行		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	月曜2限
チームコード	wgly4fk	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excelを使いこむ、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
授業の概要	<p>情報科学Ⅰで扱ったExcelをさらに使いこなすため、様々な関数やピボットテーブルの操作を通して理解を深めていきます。また、Excel上で動くVisual Basic for Application (VBA)を用いて、簡単なプログラムを作成するための手順を理解し、最終的にはExcel自動化に向けたプログラムを作成します。</p> <p>なお、毎回、理解度を確認しながら授業を行うので、授業内容を調整することがあります。</p> <p>また、この授業は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)対応科目であり、モデルカリキュラム導入の後半を担当します。</p>
授業の到達目標	<p>この授業の到達目標は以下の通りです。</p> <p>①今のAIにできること、できないことが説明できる。</p> <p>②様々なExcel関数が使いこなせる。</p> <p>③ピボットテーブル・ピボットグラフが使える。</p> <p>④VBAを用いてプログラムを作り、Excelを自動化できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	提出課題については、講義中およびTeamsから出題意図・評価基準等を説明する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス データサイエンス導入 (1-4: データ・AI利活用のための技術) データ解析(予測・分類・パターン発見など) 非構造化データ処理 データの可視化 パターン認識 今のAIに出来ることとできないこと	<p>【予習】シラバスを読み、講義内容・評価方法などを理解する</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	60分	180分
第2回	情報科学Ⅰの復習-1回目 相対参照、絶対参照、複号参照 表示形式、桁数の制御 簡単な関数(MAX、MIN、AVERAGEなど)	<p>【予習】授業計画の内容について、各自で操作してみる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	120分	120分
第3回	情報科学Ⅰの復習-2回目 表の作り方、罫線の引き方 様々なグラフの表し方	<p>【予習】授業計画の内容について、各自で操作してみる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	120分	120分
第4回	様々な関数 日付関数、VLOOKUP、IFERRORなど	<p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	0分	240分
第5回	データの入力規則、条件付き書式	<p>【予習】データの入力規則とはどのようなことか、ネットで調べる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p> <p>【課題】1か月分の予定表を作成する(課題1)</p>	60分	180分
第6回	テーブルの作成と活用、ピボットテーブル	<p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	0分	240分

第7回	ピボットテーブルのデータベースとしての活用 オープンデータを使ってみる	【予習】自治体等が公開しているオープンデータにアクセスし、データ内容・形式を確認する 【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる	120分	120分
第8回	ピボットグラフ オープンデータをもとに分かりやすいグラフ、興味深い関係をグラフ化する	【予習】前回の授業で使用したオープンデータを自分なりに操作してみる 【復習・課題】特徴的な現象について、その原因等を予想する。各自の視点でデータを解析してグラフ化する(課題2)	120分	120分
第9回	VBAとは VBAプログラムの実行 マクロの記録	【復習】自分のパソコンにVBAが動く環境を整える	0分	240分
第10回	簡単なプログラムの理解1 Msgbox、Range、Valueなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第11回	簡単なプログラムの理解2 Dim、InputBox、For Nextなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第12回	簡単なプログラムの理解3 If Then Else、Do Loopなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第13回	プログラムの作成1	【予習】配布資料をもとに作成したいプログラムを考える 【復習】うまく動作しなかった箇所やプログラム作成を進める	60分	180分
第14回	プログラムの作成2	【予習・課題】作成中のプログラムを完成させる(課題3)	240分	0分
第15回	データサイエンス導入 (1-5: データ・AI利活用の現場) データサイエンスのサイクル (1-6: データ・AI利活用の最新動向) AI等を活用した新しいビジネスモデル AI最新技術の活用例	【予習】AIを用いている活用例を調べる 【復習】学習した内容の内、理解度の低い項目を復習する。必要ならネットなどからの情報も用いる	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題		50%	3つの課題ごとにその達成度で評価する	
実施状況		50%	毎回提出する実施状況をもとに評価する	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
自作プリントを配布する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川/竹村編	講談社	978-4-06-523809-7	数理・データサイエンス・AI教育プログラムを履修する学生には購入を薦める [価格]1800円+税
Excelでまなぶプログラミング	-	実教出版	978-4-407-35022-7	プログラミング未経験の学生向け [価格]500円+税
30時間アカデミックOffice2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0	情報科学Ⅰのテキスト [価格]1300円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	

質疑応答	<p>授業中またはオフィスアワーで対応します。 連絡方法はWebCampusのオフィスアワーを見てください。</p>	
備考	<p>情報科学Ⅱの履修には、情報科学Ⅰの履修、またはExcel操作経験があることが望ましい。</p> <p>私語、居眠り、携帯操作及び机上に置くことなどは厳禁とします。 PC端末を操作することが基本になるので、10回以上の出席が最低条件です。</p>	
添付ファイル		

開講年度	2024年度	講義コード	200167
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜3限
チームコード	l0xcuq9	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excel によるデータ処理の基礎
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ初学者を対象に，Excelによる表計算やグラフの作成法について学びます。 ・また，データやAIを活用するための技術や，データ・AI 利活用の最新の動向などについて学びます。 ・この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目です。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前半では，Excel の基本的な操作法を習得し，思い通りに図表を作成できるようになることが目標です。 ・後半では，Excel 上の Visual Basic for Application (VBA) 機能を取り挙げ，自動化マクロによるデータ処理技術の基礎を習得するのが目標です。 ・授業の中盤では，データサイエンス(社会におけるデータ・AI利活用)についての演習課題に取り組み，データから読み取れる情報を，図表で適切に可視化できるようになることを目指します。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ，授業内で演習課題の解説を行います。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) Excel(1) ・ Excelの基本操作(テキスト3-1節) ・ データの入力，四則演算(テキスト3-2節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第2回	Excel(2) ・ オートSUM機能 ・ SUM関数，AVERAGE関数 ・ 表の書式設定 (テキスト3-3節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第3回	Excel(3) ・ 相対参照と絶対参照 ・ 様々な関数①(COUNT，RANK.EQ，IFなど) (テキスト4-5節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第4回	Excel(4) ・ 様々な関数②(COUNTIF，VLOOKUP，ROUNDなど) (テキスト4-5節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第5回	Excel(5) ・ 様々な関数③(IFERROR，LEFT，RIGHT，TODAYなど) (テキスト4-5節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分
第6回	Excel(6) ・ グラフを描く(棒グラフ，円グラフ，折れ線グラフ，レーダーチャートなど) ・ 図形を挿入する (テキスト4-6節)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にテキストを読んで予習する ・ 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について，自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する 	120分	120分

第7回	Excel(7) ・データベースを利用する(並び替え, フィルター機能など) (テキスト4-7節)	・事前にテキストを読んで予習する ・授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する	120分	120分
第8回	データサイエンス導入(参考書1-4節: データ・AI活用のための技術①) ・さまざまなデータ解析(予測, グループینگ, パターン発見) ・データ解析の関連話題	・事前に参考書を読んで予習する, 関連するキーワードを調査する ・授業で取りあげた事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第9回	データサイエンス導入(参考書1-4節: データ・AI活用のための技術②) ・非構造化データ処理(言語処理, 画像/動画処理, 音声/音楽処理など) ・データ可視化 ・パターン認識技術 ・人工知能(特化型AIと汎用AI)	・事前に参考書を読んで予習する, 関連するキーワードを調査する ・授業で取りあげた事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第10回	データサイエンス導入(参考書1-5節: データ・AI活用の現場, 1-6節: データ・AI活用の最新動向) ・データサイエンスのサイクル ・データ・AI活用事例紹介 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル	・事前に参考書を読んで予習する, 関連するキーワードを調査する ・授業で取りあげた事例について, 疑問点や興味を持った項目について調査する	120分	120分
第11回	Excel演習課題①の作成	・事前に課題内容に関連する下調べを行い, 演習課題の構想を練る ・授業時間内で完成できなかった箇所を補完したり, 完成した課題を推敲したりして, 問題点がないか確認する	180分	60分
第12回	Excel マクロ入門(1) ・マクロの記録機能を用いた Excel 作業の自動化(テキスト3-9節の他, 授業で配布した資料に基づく)	・事前にテキストを読んで予習する ・授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する	120分	120分
第13回	Excel マクロ入門(2) ・VBAを利用する①(IF...ELSEによる条件別マクロの実行) (授業で配布した資料に基づく)	・事前にテキストを読んで予習する ・授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する	120分	120分
第14回	Excel マクロ入門(3) ・VBAを利用する②(DO WHILE...による繰り返しマクロの実行) (授業で配布した資料に基づく)	・事前にテキストを読んで予習する ・授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について, 自宅PCや自主利用教室PCなどを活用して復習する	120分	120分
第15回	まとめ Excel演習課題②の作成	・授業で学んだ機能の再確認 ・授業時間内で完成できなかった箇所を補完し, 問題点がないか確認する	180分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内実習課題		40%	講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。	
Excel実習課題①		30%	講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。図表の表現は適切か。	
Excel実習課題②		30%	講義で学んだ機能や説明を踏まえた課題が作成できているか。図表の表現やマクロの動作は適切か。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office 2019	杉本くみ子, 大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0	[価格]定価1430円+税
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

教養としてのデータサイエンス	北川源四郎，竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	データサイエンス教育プログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税
参照URL				
表示名		URL	説明	
質疑応答	授業内容について質問がある場合は、授業内の演習時間や、オフィスアワーを活用してください。			
備考	・ 初回のガイダンスではPC教室の利用方法や課題の提出方法などについての重要な説明をしますので、必ず出席してください。 ・ Excel を使用する授業日は、指定のテキストに沿って授業を進めますので、受講者は必ずテキストを購入してください。 ・ 授業計画は授業の進行度や受講生の到達度などに応じて、変更されることがあります。 ・ 受講生としての最低限の常識を守れない学生(例：講義に無関係な私語やソフトウェアの使用，実習室内での飲食，携帯電話の無断使用など)には口頭注意，減点措置をすることがあります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	200164
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	山下 秀康		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	月曜4限
チームコード	1lacja4	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	コンピュータ入門
授業の概要	<p>この授業は、コンピュータをまだ1回も触ったことのない人を想定してコンピュータの基本操作を学ぶものである。</p> <p>基礎学力の育成：現代において情報収集力や言語表現力を発揮するために不可欠となっているコンピュータ利用法の初歩を学ぶ。</p> <p>リベラルアーツの習得：コンピュータ利用法のなかでも主としてプログラミングの基礎となる知識を学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>授業終了時に学生が以下の状況になることを目標とする。</p> <p>(1) 文字列データの操作(文字列入力、検索、置換等)の操作ができる。</p> <p>(2) 表計算ソフトを使って数値データの簡単な操作ができる。</p> <p>(3) ごく簡単な初歩のプログラミングができるようになる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	授業中に提出した各課題の点数は提出直後に分かるようにしてあります。また、すべての提出課題と小テストの合計点数は授業中にリアルタイムで分かるようにしてあります。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	■序説(1): データサイエンス1-4 ・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見 ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ ■序説(2): データサイエンス1-5 ・データ解析と推論・データ・AI活用事例紹介	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第2回	■序説(3): データサイエンス1-6 ・AI最新技術の活用例（強化学習など） ■プログラミング言語とは	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第3回	■序説(3): 文字コードについて学ぶ ■ Microsoft Windowsの基本操作	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第4回	コンピュータへの入力練習(1)	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第5回	コンピュータへの入力練習(2)	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第6回	検索・置換 (1) 単純な検索と置換	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第7回	検索・置換 (2) 正規表現入門	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第8回	検索・置換 (1) 単純な検索と置換	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分

第9回	検索・置換 (2) 正規表現入門	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第10回	検索・置換 (3) より高度な正規表現	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第11回	検索・置換 (4) さらに高度な正規表現	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第12回	数表の操作 (Excel等) (1)	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第13回	数表の操作 (Excel等) (2)	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第14回	数表の操作 (Excel等) (3)	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
第15回	プログラミング入門	予習：私が準備した教材の該当箇所を読み，動作確認と操作をしてみる。 復習：授業中に終わらなかった課題を各自で行う。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
提出課題・小テストの合計点数		80%	理解度と作業の正確さ	
授業態度		20%	授業への取り組み方・取り組む姿勢を評価	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない	-	-	-	-
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	山下秀康研究室は日進学舎2526です。 emailでの問い合わせは yamasita@dpc.aichi-gakuin.ac.jp お願いします。 私にメールを出すときは、Subject(件名) のどこかに「愛知学院大学」を入れてください。 そうでないと、迷惑メールと誤認識されてメールが読まれない可能性があります。			
備考	この授業の予習・復習（授業時間外）は、大学貸し出しコンピュータまたはコンピュータ自由利用教室を利用してできる。自分のパソコン上で予習・復習することもできるが、そのために必要な設定が厄介になると思うので、希望者は申し出てほしい。 授業中の携帯電話、授業途中の無断退出その他いくつかは減点要因になるので注意。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	200161
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	佐部利 真吾		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	月曜1限
チームコード	fprb9zt	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excel の基本操作と活用			
授業の概要	本講義では、表計算ソフト Excel の基本操作とその活用法について解説する。Excel を活用して自分のやりたいことを実行するには、そのやりたいことを論理立てて考える必要がある。本講義では、単に Excel の操作ができるだけでなく、そういった論理的思考力を養うことを念頭に置く。			
授業の到達目標	Excel の基本的な操作ができる。 自分のやりたいことを Excel を使って論理立てて実行できる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表日以降に講義連絡にて授業講評を送信する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	・ ガイダンス ・ AI等を活用した新しいビジネスモデル (データサイエンス1-6:) シェアリングエコノミー (データサイエンス1-6:) 商品のレコメンデーションなど (データサイエンス1-6:) ・ Excel の基礎	【予習】 シラバスを読み、参照URLのWebサイトを概観して授業内容を把握する。 【復習】 Webサイトを再度読んで授業の全体について確認する。	120分	120分
第2回	・ 表の作成 ・ オートフィル	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第3回	・ \$の使い方	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第4回	・ 関数の利用	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第5回	・ 総合問題その 1	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第6回	・ 総合問題その 2	【予習】 参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】 Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内	120分	120分

		容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。		
第7回	・ソルバーを使った問題解決その1 課題抽出と定式化（データサイエンス1-5） 最適化（データサイエンス1-4:）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第8回	・ソルバーを使った問題解決その2 課題抽出と定式化（データサイエンス1-5） 最適化（データサイエンス1-4:）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第9回	・マクロ 導入編	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第10回	・マクロ セルの指定	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第11回	・ピボット・テーブルを使った集計表の作成 データの取得・管理・加工（データサイエンス1-5:）	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第12回	・データ可視化（データサイエンス1-4:） 棒グラフ、円グラフ	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第13回	・データ可視化（データサイエンス1-4:） 帯グラフ	【予習】参照URLのWebサイト内の該当箇所を読んで、わからない点を整理する。 【復習】Webサイト内の該当箇所を再度読んで授業内容を確認し、自宅または大学のパソコンで、授業で行った内容を再度行う。	120分	120分
第14回	・レポート作成 各自でレポートのためのグラフを作成する	【予習】自宅または大学のパソコンで、レポートの内容を進め、わからない点を整理する。	240分	0分
第15回	・レポート作成の続き グラフから読み取れること・考えられることを記述する	【予習】自宅または大学のパソコンで、レポート作成の続きを行う。	240分	0分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
授業中に指示する課題		30%		各授業内で実施した内容を理解し、それを適切に実行できる。
レポート		70%		授業で扱った内容をもとにサンプルデータを処理し、それに基づいて論述できる。
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参照URLのWebサイトを使用する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	

情報科学演習用サイト	http://www.agu.ac.jp/~saburi/comp-scie/	ユーザー名：computer パスワード：science
質疑応答	授業時間外の質問は、授業時間の前後に教室で直接すること。	
備考	<p>自分が何回欠席したかという質問は受け付けない。</p> <p>授業内容は、学生の理解の状況等に応じて柔軟に変更されることがある。</p> <p>授業の資料は、Teamsのこの授業のチームの「ファイル」→「クラスの資料」にアップする。特に第1回授業の資料には授業方針や注意事項が記載されているので、必ず読むこと。</p> <p>卒業がかかっているなどと単位を求めてきても特別な対応はしない。</p>	
添付ファイル		

開講年度	2024年度	講義コード	200166
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	虎澤 慶太		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	hdj99c1	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	C言語を使ったプログラミング入門
授業の概要	<p>この授業は春学期に引き続きC言語の基礎的なプログラミングを学びます。</p> <p>C言語のコンパイラを利用してコンピュータ言語を学んでいきます。</p> <p>C言語は40年以上前に開発された言語ですが、C言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用です。</p> <p>C言語ではビットの操作や、構造体という考え方が有りこれらによりデータを処理する方法などを学びます。</p> <p>春学期に引き続きデータサイエンスの入門として基礎的な項目について解説します。</p>
授業の到達目標	<p>授業ごとに提示するルーチンを組み合わせ、課題となるプログラムを完成させる。</p> <p>学期末には課題として、指定した条件を満たすプログラムを完成させ提出する。</p> <p>また、データサイエンスについて授業で取り上げた項目について説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	webCampusの「講義連絡」で課題とされた提出物について講評します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	アスキーコードの表を作る（出力形式の復習） データ解析、予測について	<p>【予習】今回紹介する「アスキーコード」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第2回	入力された10進数を2進数に変換する（ビットシフト） グルーピング、パターン発見について	<p>【予習】今回紹介する「ビットシフト」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第3回	入力された2進数を10進数に変換する（三項演算子） 最適化、シミュレーションについて	<p>【予習】今回紹介する「三項演算子」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第4回	2進数で計算をするコンピュータにとって、循環小数としての「0.1」の扱い データ同化、データ可視化について	<p>【予習】今回紹介する「多倍精度、倍精度、単精度」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第5回	行番号付きファイル表示プログラム（fgets） 複合グラフ、2軸グラフについて	<p>【予習】今回紹介する「fgets」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第6回	プログラム中の括弧等の確認プログラム（論理演算子or） 多次元の可視化、関係性の可視化について	<p>【予習】今回紹介する「論理演算子or」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第7回	入力された文字列の前後を入れ替える（fputc） 地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化について	<p>【予習】今回紹介する「fputc」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第8回	シーザー式暗号での暗号化（キャスト） 非構造化データ処理、言語処理について	<p>【予習】今回紹介する「シーザー式暗号」と「キャスト」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分

第9回	シーザー式暗号での復号化（fgetc） 画像/動画処理、音声/音楽処理について	【予習】今回紹介する「fgetc」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第10回	逆向きシーザー式暗号での暗号化（fputcとキャストの復習） 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないことについて	【予習】7、8回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第11回	逆向きシーザー式暗号での復号化（fgetcとwhile文の復習） AIとビッグデータ、認識技術、ルールベース、自動化技術について	【予習】今回紹介する「fgetc」「while文」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第12回	既存のファイルを文字コードのビットにより大文字と小文字の違いにして暗号化する（torazawa式暗号） （ビットシフトの復習） データサイエンスのサイクル、課題抽出と定式化について	【予習】2回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第13回	既存のtorazawa式暗号ファイルを大文字と小文字の違いから文字のビットに変換して復号化する（論理演算子orと三項演算子の復習） データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達について	【予習】3、6回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第14回	既存のファイルを文字のビットにより大文字と小文字の違いにして、既存の文字列ではなく乱数で発生させた文字で暗号化（UL式暗号）する（srand） 課題解決に向けた提案、データ・AI活用事例紹介について	【予習】今回紹介する「srand」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第15回	UL式暗号文を復号化する（総復習） AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例について	【【予習】14回目までの課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
課題提出		100%		※1
評価詳細				
※1 一回ごとの課題提出を5点として採点する。 虎澤が設定する複数の課題とその結果を25点として採点する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名		URL		説明
質疑応答		授業時間以外には、オフィスアワー、e-mailで質問に応じます。 e-mail：torakay♪dpc.agu.ac.jpです。ただし「件名」を学籍番号で始めてください。 （「♪」は「@」に変えてください）		
備考		私のおこなう情報科学Ⅰの内容を拡張するもののため、私の情報科学Ⅰを履修していない人は受講を遠慮してください。 授業内容、授業形式や成績の評価方法は習熟度により変更されることがあります。 この授業は受講者数調整科目です。そのため受講登録した場合には責任ある態度で受講してもらいます。 担当者は過去の病気のため、タバコの臭いにより体調が悪くなってしまうます。従って、喫煙者は受講を差し控えて頂くようお願いします。		
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	200171
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	山住 富也		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜2限
チームコード	4vfr30w	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	3次元CGプログラミングの基礎を学習する。			
授業の概要	3次元C G のプログラミングを行う。システムはフリーウェアのPOV-Rayを活用する。3次元空間の座標系を理解し、物体、カメラ、光源の配置をコーディングでを行う。データサイエンスおよびAIについて、活用技術や最新の動向を学ぶ。			
授業の到達目標	さまざまなオブジェクトの特性を理解し、3次元のシーンファイルの作成方法が身につく。物体のカラー、テクスチャの指定や、物体同士の演算方法を理解する。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	授業で出題する課題のについて講評する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	POV-Rayの準備と3次元CGプログラミングの基礎を学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第2回	3次元の球体（sphere）を描画するプログラミングについて学習する。 データサイエンス導入(1-4: データ・AI利活用のための技術) ・データ解析 ・データ可視化	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第3回	直方体（box）を描画するプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第4回	円柱（cylinder）を描画するプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第5回	円錐（cone）を描画するプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第6回	トーラス（torus）と無限平面（plane）を描画するプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第7回	図形の移動と回転を行うプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第8回	図形の拡大縮小を行うプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第9回	カラー（色コード、RGB等）および透明度の指定を行うプログラミングについて学習する。 データサイエンス導入(1-5: データ・AI利活用の現場)	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120

	・データサイエンスのサイクル ・データ解析と推論			
第10回	物体表面のパターンを指定するプログラミングについて学習する。 データサイエンス導入(1-6: データ・AI活用の最新動向) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル ・AI最新技術の活用例	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第11回	物体のテクスチャマッピングを行うプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第12回	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	物体のマテリアルと表面の凹凸を指定するプログラミングについて学習する。	120	120
第13回	光源（点光源、面光源等）の指定を行うプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第14回	シーンの背景を指定するプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
第15回	物体同士の演算（和・差・積等）を行うプログラミングについて学習する。	事前にテキストや参考書などを読む。 授業で学んだ内容や時間内で理解できなかった項目について復習する。	120	120
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業時に出題した課題によって評価する。		100%	授業の内容を踏まえた課題を作成できているか。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての3DCGプログラミング 例題で学ぶPOV-Ray	山住 富也	近代科学社Digital	978-4-7649-6006-0	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンスリテラシー	高橋弘毅他	実教出版	978-4-407-35257-3	-
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業内容について質問がある場合は、授業内の演習時間を活用してください。			
備考	・授業計画などは授業の進行度や受講生の到達度などに応じて、変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(私語、携帯電話の無断使用など)には減点措置をすることがあります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	800143
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	上原 宏行		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	木曜4限
チームコード	93hdbyn	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excelを使いこむ、数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)
授業の概要	<p>情報科学Ⅰで扱ったExcelをさらに使いこなすため、様々な関数やピボットテーブルの操作を通して理解を深めていきます。また、Excel上で動くVisual Basic for Application (VBA)を用いて、簡単なプログラムを作成するための手順を理解し、最終的にはExcel自動化に向けたプログラムを作成します。</p> <p>なお、毎回、理解度を確認しながら授業を行うので、授業内容を調整することがあります。</p> <p>また、この授業は数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)対応科目であり、モデルカリキュラム導入の後半を担当します。</p>
授業の到達目標	<p>この授業の到達目標は以下の通りです。</p> <p>①今のAIにできること、できないことが説明できる。</p> <p>②様々なExcel関数が使いこなせる。</p> <p>③ピボットテーブル・ピボットグラフが使える。</p> <p>④VBAを用いてプログラムを作り、Excelを自動化できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	提出課題については、講義中およびTeamsから出題意図・評価基準等を説明する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス データサイエンス導入 (1-4: データ・AI利活用のための技術) データ解析(予測・分類・パターン発見など) 非構造化データ処理 データの可視化 パターン認識 今のAIに出来ることとできないこと	<p>【予習】シラバスを読み、講義内容・評価方法などを理解する</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	60分	180分
第2回	情報科学Ⅰの復習-1回目 相対参照、絶対参照、複号参照 表示形式、桁数の制御 簡単な関数(MAX、MIN、AVERAGEなど)	<p>【予習】授業計画の内容について、各自で操作してみる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	120分	120分
第3回	情報科学Ⅰの復習-2回目 表の作り方、罫線の引き方 様々なグラフの表し方	<p>【予習】授業計画の内容について、各自で操作してみる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	120分	120分
第4回	様々な関数 日付関数、VLOOKUP、IFERRORなど	<p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	0分	240分
第5回	データの入力規則、条件付き書式	<p>【予習】データの入力規則とはどのようなことか、ネットで調べる</p> <p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p> <p>【課題】1か月分の予定表を作成する(課題1)</p>	60分	180分
第6回	テーブルの作成と活用、ピボットテーブル	<p>【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる</p>	0分	240分

第7回	ピボットテーブルのデータベースとしての活用 オープンデータを使ってみる	【予習】自治体等が公開しているオープンデータにアクセスし、データ内容・形式を確認する 【復習】講義内容を復習し、理解できなかった項目を調べる	120分	120分
第8回	ピボットグラフ オープンデータをもとに分かりやすいグラフ、興味深い関係をグラフ化する	【予習】前回の授業で使用したオープンデータを自分なりに操作してみる 【復習・課題】特徴的な現象について、その原因等を予想する。各自の視点でデータを解析してグラフ化する(課題2)	120分	120分
第9回	VBAとは VBAプログラムの実行 マクロの記録	【復習】自分のパソコンにVBAが動く環境を整える	0分	240分
第10回	簡単なプログラムの理解1 Msgbox、Range、Valueなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第11回	簡単なプログラムの理解2 Dim、InputBox、For Nextなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第12回	簡単なプログラムの理解3 If Then Else、Do Loopなど	【予習】配布資料をもとにプログラムを実行してみる 【復習】授業内容を少し変えたプログラムを作成し、実行してみる	120分	120分
第13回	プログラムの作成1	【予習】配布資料をもとに作成したいプログラムを考える 【復習】うまく動作しなかった箇所やプログラム作成を進める	60分	180分
第14回	プログラムの作成2	【予習・課題】作成中のプログラムを完成させる(課題3)	240分	0分
第15回	データサイエンス導入 (1-5: データ・AI利活用の現場) データサイエンスのサイクル (1-6: データ・AI利活用の最新動向) AI等を活用した新しいビジネスモデル AI最新技術の活用例	【予習】AIを用いている活用例を調べる 【復習】学習した内容の内、理解度の低い項目を復習する。必要ならネットなどからの情報も用いる	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題		50%	3つの課題ごとにその達成度で評価する	
実施状況		50%	毎回提出する実施状況をもとに評価する	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
自作プリントを配布する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川/竹村編	講談社	978-4-06-523809-7	数理・データサイエンス・AI教育プログラムを履修する学生には購入を薦める [価格]1800円+税
Excelでまなぶプログラミング	-	実教出版	978-4-407-35022-7	プログラミング未経験の学生向け [価格]500円+税
30時間アカデミックOffice2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	978-4-407-34833-0	情報科学Ⅰのテキスト [価格]1300円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	

質疑応答	<p>授業中またはオフィスアワーで対応します。 連絡方法はWebCampusのオフィスアワーを見てください。</p>	
備考	<p>情報科学Ⅱの履修には、情報科学Ⅰの履修、またはExcel操作経験があることが望ましい。</p> <p>私語、居眠り、携帯操作及び机上に置くことなどは厳禁とします。 PC端末を操作することが基本になるので、10回以上の出席が最低条件です。</p>	
添付ファイル		

開講年度	2024年度	講義コード	800142
科目名	情報科学Ⅱ		
担当教員	虎澤 慶太		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	月曜2限
チームコード	3kkja8i	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	C言語を使ったプログラミング入門
授業の概要	<p>この授業は春学期に引き続きC言語の基礎的なプログラミングを学びます。</p> <p>C言語のコンパイラを利用してコンピュータ言語を学んでいきます。</p> <p>C言語は40年以上前に開発された言語ですが、C言語を基に様々な言語が派生しており、C言語でプログラミングの基礎を学ぶ事は非常に有用です。</p> <p>C言語ではビットの操作や、構造体という考え方が有りこれらによりデータを処理する方法などを学びます。</p> <p>春学期に引き続きデータサイエンスの入門として基礎的な項目について解説します。</p>
授業の到達目標	<p>授業ごとに提示するルーチンを組み合わせ、課題となるプログラムを完成させる。</p> <p>学期末には課題として、指定した条件を満たすプログラムを完成させ提出する。</p> <p>また、データサイエンスについて授業で取り上げた項目について説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	webCampusの「講義連絡」で課題とされた提出物について講評します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	アスキーコードの表を作る（出力形式の復習） データ解析、予測について	<p>【予習】今回紹介する「アスキーコード」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第2回	入力された10進数を2進数に変換する（ビットシフト） グルーピング、パターン発見について	<p>【予習】今回紹介する「ビットシフト」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第3回	入力された2進数を10進数に変換する（三項演算子） 最適化、シミュレーションについて	<p>【予習】今回紹介する「三項演算子」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第4回	2進数で計算をするコンピュータにとって、循環小数としての「0.1」の扱い データ同化、データ可視化について	<p>【予習】今回紹介する「多倍精度、倍精度、単精度」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第5回	行番号付きファイル表示プログラム（fgets） 複合グラフ、2軸グラフについて	<p>【予習】今回紹介する「fgets」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第6回	プログラム中の括弧等の確認プログラム（論理演算子or） 多次元の可視化、関係性の可視化について	<p>【予習】今回紹介する「論理演算子or」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第7回	入力された文字列の前後を入れ替える（fputc） 地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化について	<p>【予習】今回紹介する「fputc」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分
第8回	シーザー式暗号での暗号化（キャスト） 非構造化データ処理、言語処理について	<p>【予習】今回紹介する「シーザー式暗号」と「キャスト」についてネットなどで調べる。</p> <p>【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。</p>	120分	120分

第9回	シーザー式暗号での復号化（fgetc） 画像/動画処理、音声/音楽処理について	【予習】今回紹介する「fgetc」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第10回	逆向きシーザー式暗号での暗号化（fputcとキャストの復習） 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないことについて	【予習】7、8回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第11回	逆向きシーザー式暗号での復号化（fgetcとwhile文の復習） AIとビッグデータ、認識技術、ルールベース、自動化技術について	【予習】今回紹介する「fgetc」「while文」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第12回	既存のファイルを文字コードのビットにより大文字と小文字の違いにして暗号化する（torazawa式暗号） （ビットシフトの復習） データサイエンスのサイクル、課題抽出と定式化について	【予習】2回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第13回	既存のtorazawa式暗号ファイルを大文字と小文字の違いから文字のビットに変換して復号化する（論理演算子orと三項演算子の復習） データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達について	【予習】3、6回目の課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第14回	既存のファイルを文字のビットにより大文字と小文字の違いにして、既存の文字列ではなく乱数で発生させた文字で暗号化（UL式暗号）する（srand） 課題解決に向けた提案、データ・AI活用事例紹介について	【予習】今回紹介する「srand」についてネットなどで調べる。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
第15回	UL式暗号文を復号化する（総復習） AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例について	【【予習】14回目までの課題を復習しておく。 【復習】授業で出てきた関数（命令）を再確認する。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
課題提出		100%		※1
評価詳細				
※1 一回ごとの課題提出を5点として採点する。 虎澤が設定する複数の課題とその結果を25点として採点する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名		URL		説明
質疑応答		授業時間以外には、オフィスアワー、e-mailで質問に応じます。 e-mail：torakay♪dpc.agu.ac.jpです。ただし「件名」を学籍番号で始めてください。 （「♪」は「@」に変えてください）		
備考		私のおこなう情報科学Ⅰの内容を拡張するもののため、私の情報科学Ⅰを履修していない人は受講を遠慮してください。 授業内容、授業形式や成績の評価方法は習熟度によりにより変更されることがあります。 この授業は受講者数調整科目です。そのため受講登録した場合には責任ある態度で受講してもらいます。 担当者は過去の病気のため、タバコの臭いにより体調が悪くなってしまうます。従って、喫煙者は受講を差し控えて頂くようお願いします。		
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	100201
科目名	情報科学Ⅲ		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜4限
チームコード	g2g4pnc	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excelによるデータサイエンス入門			
授業の概要	・ Excel を活用して，データ解析や統計解析の理論，データリテラシー(データの読み方や扱い方の基本事項)を学びます。 ・ この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目です。			
授業の到達目標	・ データ分析や統計学における基本的な事項を習得し，データを適切な方法で分析したり，データに基づく統計的推定や統計的検定を実践できるようになることを目指します。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ，授業内で実習課題の解説を行います。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) Excelの操作の基本(テキスト2-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第2回	代表値の計算(テキスト2-2節，参考書2-1節: データを読む) ・ 代表値(平均値、中央値、最頻値) ・ データのばらつき(分散、標準偏差)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第3回	度数分布表とヒストグラム(テキスト2-3節，参考書2-1節: データを読む)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第4回	相関と回帰(テキスト2-4節，参考書2-1節: データを読む) ・ 相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第5回	Excel VBAの活用(テキスト3-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第6回	マクロによるExcel処理の自動化(テキスト3-2節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第7回	Excelを用いたシミュレーション(テキスト4-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第8回	データの適切な表現(参考書2-2節: データを説明する) ・ データ表現，データの図表表現，データの比較 ・ 不適切なグラフ表現	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第9回	時系列データ解析(テキスト5-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第10回	確率分布(テキスト5-2節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第11回	ロジスティック回帰(テキスト5-3節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分

第12回	連続型確率分布(テキスト5-4節)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第13回	統計的推定(テキスト5-5節, 参考書2-1: データを読む) ・母集団と標本抽出		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第14回	統計的検定(テキスト5-6節)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第15回	まとめ データを扱う(参考書2-3節) ・データの集計, データの並び替え ・データ解析ツール(スプレッドシート), 表形式のデータ(csv)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
試験実施方法		その他			
評価方法					
評価方法		評価割合		評価基準など	
授業内実習課題		70%		講義で学んだことを踏まえ, Excelを適切に操作できているか。	
総合課題		30%		Excelを適切に操作できているか。適切なデータ分析ができているか。	
評価詳細					
テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
Excelで学べるデータサイエンス入門講義	笛田薫, 松井秀俊	日経BP	978-4-296-20014-6	[価格]本体2000円+税	
参考書・参考資料					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎, 竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	データサイエンス教育プログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税	
参照URL					
表示名		URL		説明	
質疑応答		課題の提出, 授業内容について質問がある場合は, 授業内の実習時間, Teams, オフィスアワーなどを活用してください。			
備考		・この講義を履修する場合, 以前に数学や統計学の講義を履修済みであるか, 履修予定であることが望ましいです。 ・Excelの基本的な操作に慣れていない学生は, Excelを扱う初学者向けの講義(情報科学Ⅰ・Ⅱ等)を先に履修することを推奨します。 ・授業計画などは授業の進行度や受講生の到達度などに応じて, 変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(例: 講義に無関係な私語やソフトウェアの使用, 携帯電話の無断使用など)には減点措置をすることがあります。			
添付ファイル					

開講年度	2024年度	講義コード	100200
科目名	情報科学Ⅲ		
担当教員	南 裕明		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜1限
チームコード	hkg0n7v	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データサイエンス入門			
授業の概要	大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説して、より進んだ学習への橋渡しを行う。まず基本的な用語や概念を学び、Excelの操作を学ぶ。			
授業の到達目標	データサイエンスに関連する基本的な用語や概念を身につけ、データサイエンスの社会的役割や手法を学ぶ。さらにExcelの操作を学ぶ。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義の中で解説を行う。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス、データサイエンスの役割	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第2回	データサイエンスと情報倫理、	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第3回	データ分析のためのデータの取得と管理、	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第4回	ヒストグラム	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第5回	箱ひげ図	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第6回	平均値と分散	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第7回	散布図と相関係数	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第8回	回帰直線	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第9回	データ解析ツールの利用。データの集計・データ分析で注意する点、csvファイルの利用	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分

第10回	クロス集計	【予習】教科書を読み，関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
第11回	回帰分析	【予習】教科書を読み，関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
第12回	ベイズ推論，アソシエーション分析	【予習】教科書を読む 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
第13回	クラスタリング	【予習】教科書を読み，関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
第14回	ニューラルネットワーク	【予習】教科書を読み，関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
第15回	機械学習	【予習】教科書を読み，関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して，関連する話題を調べて理解を深める．	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト，課題		70%	テストの正誤，提出された課題の正誤や質．	
受講状況		30%	講義への貢献，質問や質疑応答の質．	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンス入門 第2版 (データサイエンス大系)	竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編	学術図書出版社	978-4780607307	[価格]2200円
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	なるべく講義の中で質問を行ってください，講義前後に時間があればそこで質問を受け付けます．			
備考	大学で数学（ただし線形代数や微分積分学）・統計学の講義を履修済みであるか，履修予定であることが望ましい， この講義だけではデータサイエンスを身につけることはできません．さらに数学・統計学・情報（特にプログラミング）を身につけて，より進んだデータサイエンスの知識と技術を身につけましょう．また自身の専門科目との関係や応用を考えましょう．講義に必要なない私語や携帯電話の操作は禁止する．			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	700150
科目名	情報科学Ⅲ		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	木曜3限
チームコード	917nkuz	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Excelによるデータサイエンス入門			
授業の概要	・ Excel を活用して，データ解析や統計解析の理論，データリテラシー(データの読み方や扱い方の基本事項)を学びます。 ・ この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目です。			
授業の到達目標	・ データ分析や統計学における基本的な事項を習得し，データを適切な方法で分析したり，データに基づく統計的推定や統計的検定を実践できるようになることを目指します。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ，授業内で実習課題の解説を行います。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) Excelの操作の基本(テキスト2-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第2回	代表値の計算(テキスト2-2節，参考書2-1節: データを読む) ・ 代表値(平均値、中央値、最頻値) ・ データのばらつき(分散、標準偏差)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第3回	度数分布表とヒストグラム(テキスト2-3節，参考書2-1節: データを読む)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第4回	相関と回帰(テキスト2-4節，参考書2-1節: データを読む) ・ 相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第5回	Excel VBAの活用(テキスト3-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第6回	マクロによるExcel処理の自動化(テキスト3-2節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第7回	Excelを用いたシミュレーション(テキスト4-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第8回	データの適切な表現(参考書2-2節: データを説明する) ・ データ表現，データの図表表現，データの比較 ・ 不適切なグラフ表現	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第9回	時系列データ解析(テキスト5-1節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第10回	確率分布(テキスト5-2節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第11回	ロジスティック回帰(テキスト5-3節)	・ 事前にテキストや参考書などを読む ・ 授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分

第12回	連続型確率分布(テキスト5-4節)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第13回	統計的推定(テキスト5-5節, 参考書2-1: データを読む) ・母集団と標本抽出		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第14回	統計的検定(テキスト5-6節)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
第15回	まとめ データを扱う(参考書2-3節) ・データの集計, データの並び替え ・データ解析ツール(スプレッドシート), 表形式のデータ(csv)		・事前にテキストや参考書などを読む ・授業で学んだ内容や実習課題の復習	120分	120分
試験実施方法		その他			
評価方法					
評価方法		評価割合		評価基準など	
授業内実習課題		70%		講義で学んだことを踏まえ, Excelを適切に操作できているか。	
総合課題		30%		Excelを適切に操作できているか。適切なデータ分析ができているか。	
評価詳細					
テキスト					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
Excelで学べるデータサイエンス入門講義	笛田薫, 松井秀俊	日経BP	978-4-296-20014-6	[価格]本体2000円+税	
参考書・参考資料					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎, 竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	データサイエンス教育プログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税	
参照URL					
表示名		URL		説明	
質疑応答		課題の提出, 授業内容について質問がある場合は, 授業内の実習時間, Teams, オフィスアワーなどを活用してください。			
備考		・この講義を履修する場合, 以前に数学や統計学の講義を履修済みであるか, 履修予定であることが望ましいです。 ・Excelの基本的な操作に慣れていない学生は, Excelを扱う初学者向けの講義(情報科学Ⅰ・Ⅱ等)を先に履修することを推奨します。 ・授業計画などは授業の進行度や受講生の到達度などに応じて, 変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(例: 講義に無関係な私語やソフトウェアの使用, 携帯電話の無断使用など)には減点措置をすることがあります。			
添付ファイル					

開講年度	2024年度	講義コード	700149
科目名	情報科学Ⅲ		
担当教員	南 裕明		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜3限
チームコード	6h3senl	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データサイエンス入門
授業の概要	大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説して、より進んだ学習への橋渡しを行う。まず基本的な用語や概念を学び、Excelの操作を学ぶ。
授業の到達目標	データサイエンスに関連する基本的な用語や概念を身につけ、データサイエンスの社会的役割や手法を学ぶ。さらにExcelの操作を学ぶ。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義の中で解説を行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス、データサイエンスの役割	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第2回	データサイエンスと情報倫理、	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第3回	データ分析のためのデータの取得と管理、	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第4回	ヒストグラム	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第5回	箱ひげ図	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第6回	平均値と分散	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第7回	散布図と相関係数	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第8回	回帰直線	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、Excelの操作の練習をする。さらに入手できるデータを分析する。	120分	120分
第9回	データ解析ツールの利用。データの集計・データ分析で注意する点、csvファイルの利用	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分

第10回	クロス集計	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第11回	回帰分析	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第12回	ベイズ推論, アソシエーション分析	【予習】教科書を読む 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第13回	クラスタリング	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第14回	ニューラルネットワーク	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
第15回	機械学習	【予習】教科書を読み、関連する話題を調べる 【復習】講義で学んだ内容を復習して、関連する話題を調べて理解を深める。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト, 課題		70%	テストの正誤, 提出された課題の正誤や質。	
受講状況		30%	講義への貢献, 質問や質疑応答の質。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンス入門 第2版 (データサイエンス大系)	竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編	学術図書出版社	978-4780607307	[価格]2200円
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名		URL	説明	
質疑応答		なるべく講義の中で質問を行ってください。講義前後に時間があればそこで質問を受け付けます。		
備考		大学で数学（ただし線形代数や微分積分学）・統計学の講義を履修済みであるか、履修予定であることが望ましい。 この講義だけではデータサイエンスを身につけることはできません。さらに数学・統計学・情報（特にプログラミング）を身につけて、より進んだデータサイエンスの知識と技術を身につけましょう。また自身の専門科目との関係や応用を考えましょう。講義に必要なない私語や携帯電話の操作は禁止する。		
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	200177
科目名	情報科学IV		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜4限
チームコード	fk00sdc	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Rによる統計解析の入門			
授業の概要	・データ・AI活用のための留意事項について学んだあと、統計分析用のプログラミング言語「R」を扱っていきます。 ・Rを用いたデータの統計分析手法を実習を通して学び、後半ではRによる統計的仮説検定の手法を紹介します。 ・この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目です。			
授業の到達目標	・データ・AIをめぐる様々な問題点を認識し、これらを適切に活用するための心構えを身につける。 ・統計学の基礎を習得し、Rを活用してデータの統計分析が実践できるようになる。 ・データの集まりを対象に、目的に応じて適切に統計的仮説検定を実行できるようになる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ、授業内で実習課題の解説を行います。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) データサイエンス心得(参考書3-1節: データ・AIを扱う上での留意事項) ・ELSI, EU一般データ保護規則(GDPR) ・AI社会原則（公平性, 説明責任, 透明性, 人間中心の判断) ・データ・AI活用における負の事例紹介	・授業の復習, 興味や疑問に思った箇所の調査	120分	120分
第2回	データサイエンス心得(参考書3-2節: データを守る上での留意事項) ・情報セキュリティ ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	・授業の復習, 興味や疑問に思った箇所の調査	120分	120分
第3回	データサイエンス心得 ・データを扱う上での留意事項 Rの導入 ・R Studioやスクリプトファイルの基本操作, Rのインストール方法 (テキスト1章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・データサイエンス関連レポート課題の作成 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作, 可能であれば自分のPCにRをインストール	120分	120分
第4回	Rの初歩 ・Rの基本的なコマンド(四則演算, データの記録など) ・関数の定義 (テキスト1章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第5回	Rによる統計分析(1) ・データを変数として記録する ・データの代表値(平均値・中央値・最頻値など) (テキスト2章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第6回	Rによる統計分析(2) ・データの散布度(分散・標準偏差など)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分

	・データの標準化 (テキスト2章)			
第7回	Rによる統計分析(3) ・相関と連関(共分散, 相関係数, ファイ係数など) (テキスト3章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第8回	Rによる統計分析(4) ・母集団と標本① (テキスト4章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第9回	Rによる統計分析(5) ・母集団と標本② (テキスト4章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第10回	Rによる統計分析(6) ・統計的仮説検定 ・平均値の検定 (テキスト第5章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第11回	Rによる統計分析(7) ・相関, 連関の検定 (テキスト第5章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第12回	Rによる統計分析(8) ・2群のデータに対する平均値の検定(対応なしの2群 のケース) (テキスト第6章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第13回	Rによる統計分析(9) ・2群のデータに対する平均値の検定(対応ありの2群 のケース) (テキスト第6章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第14回	Rによる統計分析(10) ・3群以上のデータに対する平均値の検定(分散分析, 対応なしのケース) (テキスト第7章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第15回	Rによる統計分析(11) ・3群以上のデータに対する平均値の検定(分散分析, 対応ありのケース) (テキスト第7章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内実習課題		70%	Rを適切に操作できているか。データから適切に情報を読み取れているか。	
レポート課題(データサイエンス関連)		30%	考えが適切に述べられているか。資料の引用などは適切か。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Rによるやさしい統計学	山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎	オーム社	978-4-274-06710-5	[価格]定価2970円+税
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎、竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	データサイエンス教育プログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	

質疑応答	・実習課題の提出や講義の内容について質問がある場合は、授業中の実習時間、授業の前後、Teams、オフィスアワーなどを活用して質問してください。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を履修する場合、以前に大学教養レベルの数学・統計学の講義を履修済みであるか、履修予定であることが望ましいです。 ・初回のガイダンスではPC教室の利用方法や課題の提出方法などについての重要な説明をしますので、必ず出席してください。 ・授業計画は授業の進行度や受講生の到達度などに応じて、変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(例：講義に無関係な私語やソフトウェアの使用、実習室内での飲食、携帯電話の無断使用など)には口頭注意、減点措置をすることがあります。 	
添付ファイル		

開講年度	2024年度	講義コード	200176
科目名	情報科学IV		
担当教員	南 裕明		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜1限
チームコード	zie0jsk	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データサイエンス入門
授業の概要	大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説して、より進んだ学習への橋渡しを行う。この講義ではRと統計の初歩を学ぶ。
授業の到達目標	統計の基本的な知識を身につけ、その知識に基づいてRを操作できるようになること。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義のなかで解説を行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス、データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項1 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、プライバシー保護、データのねつ造・改ざん・盗用を事例とともに学ぶ。	【予習】データ・AIを扱う際の問題点について調査し、気を付けるべきことや対策を考える。 【復習】講義の内容を復習し、関連する事項を調べる。	120分	120分
第2回	データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項2 情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性）とその対策（匿名加工情報、暗号化、パスワード）や情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介を行う。	【予習】データ・AIを扱う際の問題点について調査し、気を付けるべきことや対策を考える。 【復習】講義の内容を復習し、関連する事項を調べる。	120分	120分
第3回	小テスト（データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項） Rの操作その1（基本の操作、データ）	【予習】可能であれば自分のPCにRのインストールを行う。教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第4回	Rの操作その2（関数の利用）	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第5回	ヒストグラム	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第6回	平均と中央値	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第7回	分散・標準偏差	【予習】教科書を読んで分散・標準偏差とはなにか調べ、Rを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第8回	箱ひげ図	【予習】箱ひげ図とは何かしらべ、教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第9回	散布図	【予習】教科書を読んでRを操作する。（120） 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。（120）	120分	120分
第10回	共分散・相関係数	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分

第11回	回帰分析	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第12回	確率変数と乱数	【予習】教科書を読んでRの操作を行う。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第13回	大数の法則と中心極限定理	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第14回	区間推定	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第15回	統計的仮説検定	【予習】教科書を読む。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題・小テスト		70%	概念を理解して、正しくRの操作ができているか。	
受講状況		30%	質疑応答や講義への貢献。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Rによるやさしい統計学	山田剛史, 村澤武俊, 村井純一郎	オーム社	978-4274067105	[価格]2700 円 + 税
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンス入門 第2版 (データサイエンス大系)	竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編	学術図書出版社	978-4780607307	[価格]2200円
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	なるべく講義の中で質問を行ってください。講義前後に時間があればそこで質問を受け付けます。			
備考	大学で数学（ただし微分積分・線形代数）・統計学の講義を履修済みであるか、履修予定であることが望ましい。 この講義だけではデータサイエンスを身につけることはできません。さらに数学・統計学・情報（特にプログラミング）を身につけて、より進んだデータサイエンスの知識と技術を身につけましょう。また自身の専門科目との関係や応用を考えましょう。講義に必要なない私語や携帯電話の操作は禁止する。 予習・復習でRを使う場合は自由利用教室を使うか自分のPCにRをインストールしてください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	800145
科目名	情報科学IV		
担当教員	岩田 莊平		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	木曜3限
チームコード	ibm32k7	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-04
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Rによる統計解析の入門			
授業の概要	・データ・AI活用のための留意事項について学んだあと、統計分析用のプログラミング言語「R」を扱っていきます。 ・Rを用いたデータの統計分析手法を実習を通して学び、後半ではRによる統計的仮説検定の手法を紹介します。 ・この授業は「データサイエンス教育プログラム」対応科目です。			
授業の到達目標	・データ・AIをめぐる様々な問題点を認識し、これらを適切に活用するための心構えを身につける。 ・統計学の基礎を習得し、Rを活用してデータの統計分析が実践できるようになる。 ・データの集まりを対象に、目的に応じて適切に統計的仮説検定を実行できるようになる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	必要に応じ、授業内で実習課題の解説を行います。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス(授業の受け方に関する重要事項を説明します) データサイエンス心得(参考書3-1節: データ・AIを扱う上での留意事項) ・ELSI, EU一般データ保護規則(GDPR) ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断） ・データ・AI活用における負の事例紹介	・授業の復習、興味や疑問に思った箇所の調査	120分	120分
第2回	データサイエンス心得(参考書3-2節: データを守る上での留意事項) ・情報セキュリティ ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介	・授業の復習、興味や疑問に思った箇所の調査	120分	120分
第3回	データサイエンス心得 ・データを扱う上での留意事項 Rの導入 ・R Studioやスクリプトファイルの基本操作、Rのインストール方法 (テキスト1章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・データサイエンス関連レポート課題の作成 ・授業の復習、自由利用教室等でRを操作、可能であれば自分のPCにRをインストール	120分	120分
第4回	Rの初歩 ・Rの基本的なコマンド(四則演算、データの記録など) ・関数の定義 (テキスト1章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習、自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第5回	Rによる統計分析(1) ・データを変数として記録する ・データの代表値(平均値・中央値・最頻値など) (テキスト2章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習、自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第6回	Rによる統計分析(2) ・データの散布度(分散・標準偏差など)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習、自由利用教室等でRを操作	120分	120分

	・データの標準化 (テキスト2章)			
第7回	Rによる統計分析(3) ・相関と連関(共分散, 相関係数, ファイ係数など) (テキスト3章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第8回	Rによる統計分析(4) ・母集団と標本① (テキスト4章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第9回	Rによる統計分析(5) ・母集団と標本② (テキスト4章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第10回	Rによる統計分析(6) ・統計的仮説検定 ・平均値の検定 (テキスト第5章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第11回	Rによる統計分析(7) ・相関, 連関の検定 (テキスト第5章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第12回	Rによる統計分析(8) ・2群のデータに対する平均値の検定(対応なしの2群 のケース) (テキスト第6章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第13回	Rによる統計分析(9) ・2群のデータに対する平均値の検定(対応ありの2群 のケース) (テキスト第6章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第14回	Rによる統計分析(10) ・3群以上のデータに対する平均値の検定(分散分析, 対応なしのケース) (テキスト第7章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
第15回	Rによる統計分析(11) ・3群以上のデータに対する平均値の検定(分散分析, 対応ありのケース) (テキスト第7章)	・授業で扱う予定のテキストの項目を予習 ・授業の復習, 自由利用教室等でRを操作	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内実習課題		70%	Rを適切に操作できているか。データから適切に情報を読み取れているか。	
レポート課題(データサイエンス関連)		30%	考えが適切に述べられているか。資料の引用などは適切か。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Rによるやさしい統計学	山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎	オーム社	978-4-274-06710-5	[価格]定価2970円+税
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎、竹村彰通編	講談社	978-4-06-523809-7	データサイエンス教育プログラムを履修する学生向け [価格]本体1800円+税
参照URL				
表示名	URL		説明	

質疑応答	・実習課題の提出や講義の内容について質問がある場合は、授業中の実習時間、授業の前後、Teams、オフィスアワーなどを活用して質問してください。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を履修する場合、以前に大学教養レベルの数学・統計学の講義を履修済みであるか、履修予定であることが望ましいです。 ・初回のガイダンスではPC教室の利用方法や課題の提出方法などについての重要な説明をしますので、必ず出席してください。 ・授業計画は授業の進行度や受講生の到達度などに応じて、変更されることがあります。 ・受講生としての最低限の常識を守れない学生(例：講義に無関係な私語やソフトウェアの使用、実習室内での飲食、携帯電話の無断使用など)には口頭注意、減点措置をすることがあります。 	
添付ファイル		

開講年度	2024年度	講義コード	800144
科目名	情報科学IV		
担当教員	南 裕明		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	火曜3限
チームコード	pinc72c	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	B131-601-04
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データサイエンス入門
授業の概要	大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスへの入門を解説して、より進んだ学習への橋渡しを行う。この講義ではRと統計の初歩を学ぶ。
授業の到達目標	統計の基本的な知識を身につけ、その知識に基づいてRを操作できるようになること。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義のなかで解説を行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス、データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項1(データサイエンス3-1) 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、プライバシー保護、データのねつ造・改ざん・盗用を事例とともに学ぶ。	【予習】データ・AIを扱う際の問題点について調査し、気を付けるべきことや対策を考える。 【復習】講義の内容を復習し、関連する事項を調べる。	120分	120分
第2回	データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項2(データサイエンス3-2) 情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性）とその対策（匿名加工情報、暗号化、パスワード）や情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介を行う。	【予習】データ・AIを扱う際の問題点について調査し、気を付けるべきことや対策を考える。 【復習】講義の内容を復習し、関連する事項を調べる。	120分	120分
第3回	小テスト（データ・AIを扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項） Rの操作その1（基本の操作、データ）	【予習】可能であれば自分のPCにRのインストールを行う。教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第4回	Rの操作その2（関数の利用）	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第5回	ヒストグラム	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第6回	平均と中央値	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第7回	分散・標準偏差	【予習】教科書を読んで分散・標準偏差とはなにか調べ、Rを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第8回	箱ひげ図	【予習】箱ひげ図とは何かしらべ、教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第9回	散布図	【予習】教科書を読んでRを操作する。(120) 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。(120)	120分	120分
第10回	共分散・相関係数	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分

第11回	回帰分析	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第12回	確率変数と乱数	【予習】教科書を読んでRの操作を行う。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第13回	大数の法則と中心極限定理	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第14回	区間推定	【予習】教科書を読んでRを操作する。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
第15回	統計的仮説検定	【予習】教科書を読む。 【復習】講義の内容を復習してRの操作を行う。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題・小テスト		70%	概念を理解して、正しくRの操作ができているか。	
受講状況		30%	質疑応答や講義への貢献。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Rによるやさしい統計学	山田剛史, 村澤武俊, 村井純一郎	オーム社	978-4274067105	[価格]2700 円 + 税
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンス入門 第2版 (データサイエンス大系)	竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編	学術図書出版社	978-4780607307	[価格]2200円
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	なるべく講義の中で質問を行ってください。講義前後に時間があればそこで質問を受け付けます。			
備考	大学で数学（ただし微分積分・線形代数）・統計学の講義を履修済みであるか、履修予定であることが望ましい。 この講義だけではデータサイエンスを身につけることはできません。さらに数学・統計学・情報（特にプログラミング）を身につけて、より進んだデータサイエンスの知識と技術を身につけましょう。また自身の専門科目との関係や応用を考えましょう。講義に必要なない私語や携帯電話の操作は禁止する。 予習・復習でRを使う場合は自由利用教室を使うか自分のPCにRをインストールしてください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	751021
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	竹治 勲		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜5限
チームコード	vkrb18o	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C111-601-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 <u>Teams 学生用キャビネット（履修要項）</u>		

テーマ	ICT社会で活躍できる“情報処理の基礎”および“文書作成能力”を身に付けよう。
授業の概要	社会における情報処理の現状、コンピュータの基礎、情報処理機器(ハードウェア)の基礎、ソフトウェアの基礎などを学び、インターネット利活用のレベルアップや実践的なレベルでワープロソフト(Microsoft Word)を自由自在に使いこなせるようになることをねらいとする。
授業の到達目標	「情報リテラシーA」では、商学部のすべての学生にとって必修科目となっています。この科目に合格し、単位を修得しないと卒業できません。今や、パソコンやインターネットは、ビジネスだけでなく生活にも必要不可欠なものとなりつつあります。また、商学部における専門科目でもパソコンやインターネットを利用した講義も多く、これらの活用方法をしっかりと身につけておくことが非常に重要となってきます。 本科目では、大学生として今後の学習・研究活動、および就職活動などに必要とされるパソコンやインターネットの活用方法について学びます。これらを通じて、ICT社会やAI社会で活躍するために、情報処理の基礎および文書作成能力を身につけることを目標とします。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義最終日に授業内で講評します。もしくは、成績発表後にWebCampus等で授業講評を送信します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 第1章 情報社会とコンピュータ (1) 情報技術進展の歴史 (2) ビジネスと情報 (3) AI社会やAIサービスについて	【予習】 教科書 1章 ・ シラバスを読み本授業内容を把握(60) ・ ビッグデータやAIについて調査(60) 【復習】 ・ 授業の全体について確認(120)	120	120
第2回	第2章 コンピュータの仕組み 第3章 インターネットと情報倫理 (1) インターネットとは (2) インターネット利用におけるモラルとマナー (3) 情報セキュリティや個人情報保護 等	【予習】 教科書 2～3章 ・ インターネットの利活用について現状を調査(120) ・ 個人情報保護や情報セキュリティについて調査(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	240	120
第3回	第4章 Microsoft Windows10の基本操作 (1) Windows10の画面構成 (2) ファイルとフォルダの操作	【予習】 教科書 4章 ・ Windows10の基本操作について調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第4回	第5章 Windows10による文字入力 (1) 文字入力の基本 (2) タイピング (MIKAタイプ)	【予習】 教科書 5章 ・ 文字入力について調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第5回	第6章 インターネットによる情報検索 (1) ブラウザによるWebページ閲覧 第7章 電子メールの活用 (1) メール文書の作成・送受信	【予習】 教科書 6～7章 ・ インターネットの仕組み・利用方法を調べる(120) ・ 電子メールの仕組み・利用方法を調べる(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	180	120

第6回	第8章 Microsoft Word 文書作成の基礎 (1) ページレイアウトの設定 (2) 文字の配置と装飾 (3) 文書の保存	【予習】 教科書 8章 ・ Microsoft Wordの基礎および基本操作を調べる(60) ・ 文書のレイアウト設定について調べる(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第7回	MOS対策 1 (1) 出題範囲 1：文書の管理	【予習】 MOS対策1 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第8回	MOS対策 2 (1) 出題範囲 2：文字、段落、セクションの挿入と書式設定	【予習】 MOS対策2 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第9回	第9章 Microsoft Word 便利な機能① (1) 表の作成、設定、装飾	【予習】 教科書 9章 ・ 表の作成方法を調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第10回	MOS対策 3 (1) 出題範囲 3：表やリストの管理	【予習】 MOS対策3 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第11回	MOS対策 4 (1) 出題範囲 4：参考資料の作成と管理	【予習】 MOS対策4 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第12回	第9章 Microsoft Word 便利な機能② (1) 画像の挿入、編集 (2) ワードアートの挿入、編集	【予習】 教科書 9章 ・ 画像やワードアートの挿入および編集方法について調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第13回	MOS対策 5 (1) 出題範囲 5：グラフィック要素の挿入と書式設定	【予習】 MOS対策5 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第14回	MOS対策 6 (1) 出題範囲 5：グラフィック要素の挿入と書式設定	【予習】 MOS対策6 ・ MOS（Word）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第15回	MOS対策（まとめ） (1) まとめ：模擬試験の実施	【予習】 ・ これまでの学習内容の確認(150) 【復習】 ・ MOS試験対策としてこれまでの学習内容確認(120)	150	120
試験実施方法		定期試験		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
定期試験や理解度確認、レポート 等		80%	定期試験やレポート課題、授業内に行われる理解度確認（小テスト等）	
コメントペーパー、講義への参加度（貢献度）、受講態度 等		20%	講義に対する評価（講義後の課題提出、講義に対する発言や提案、講義妨害 等）	
評価詳細				
評価詳細は、講義担当の教員に確認ください。				
テキスト				

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス情報リテラシー	吉田、青木、笠置	創成社	978-4794425591	秋学期にも使用します [価格]2000円+税
よくわかるマスターMOS Word365 & 2019 対策テキスト & 問題集	-	FOM出版	978-486510-430-1	[価格]2100円+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名		URL	説明	
MOS Word2019（一般）の試験について		https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/word365and2019.html		
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。それ以外については、オフィスアワーを利用すること。			
備考	教科書による説明以外に、講義内容に沿った資料を別途配布する場合があります。 欠席者の学習相談については、質疑応答と同じくオフィスアワーにて受け付けます。 新型コロナウイルス感染の状況により内容を変更する場合があります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	851018
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	竹治 勲		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜5限
チームコード	mr4rjxx	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C111-601-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	ICT社会で活躍できる"プレゼンテーション技術"や"表計算技術（グラフ作成や分析能力）"を身に付けよう。
授業の概要	データの分析および表現を中心に、社会で活用できる情報処理を学び、実践的なレベルでプレゼンテーション（Power Point）、表計算ソフト(Microsoft Excel)を自由自在に使いこなせるようになることをねらいとする。
授業の到達目標	<p>「情報リテラシー B」は、商学部のすべての学生にとって必修科目となっています。この科目に合格し、単位を修得しないと卒業できません。</p> <p>今や、"相手を説得する"や"納得させる"というプレゼンテーション、分析やグラフ化する表計算ソフトは、ビジネスだけでなく必要不可欠な要素となりつつあります。また、商学部における専門科目や卒業論文などでも利用頻度が高い。したがって、プレゼンテーションや表計算ソフトの活用方法をしっかりと身につけておくことが非常に重要となってきます。</p> <p>本科目では、データ集計やデータ表現、データの可視化等について学び、大学生として研究発表の場におけるスライドの作成、学習・研究活動、および就職活動などに必要とされる表計算ソフトの活用方法について学びます。これらを通じ、ICT社会やAI社会で活躍できるプレゼンテーション能力やデータ分析能力、データ表現能力を身につけることを目標とします。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	講義最終日に授業内で講評します。もしくは、成績発表後にWebCampus等で授業講評を送信します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 第10章 Microsoft PowerPoint ① (1) プレゼンテーションの基本 (2) PowerPointの基本操作 (3) オブジェクトの挿入	【予習】 教科書10章 ・ シラバスを読み本授業内容を把握する(60) ・ PowerPointの利用方法について調べる(90) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第2回	第10章 Microsoft PowerPoint ② (1) アニメーションの設定 (2) プレゼンテーションの実行	【予習】 教科書10章 ・ Microsoft PowerPointの効果的な表現について調査(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第3回	第11章 Microsoft Excelによる表計算の基礎 (1) Excelの画面構成、(2) Excelの基本操作 (3) データ入力と表示、(4) テーブルの作成と設定	【予習】 教科書11章 ・ 表計算ソフトの使い方について概要を調べる(120) 【復習】 ・ 授業の全体について確認(120)	120	120
第4回	MOSテキストの練習問題の説明 MOS対策 1 （出題範囲 1） (1) ワークシートやブックの管理	【予習】 MOS対策 1 ・ MOS（Excel）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第5回	MOS対策 2 （出題範囲 2） (1) セルやセル範囲のデータの管理	【予習】 MOS対策 2 ・ MOS（Excel）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120

第6回	MOS対策 3 （出題範囲 3） (1) テーブルとテーブルのデータの管理	【予習】 MOS対策 3 ・ MOS（Excel）の基礎および基本操作を学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第7回	第12章 Microsoft Excelにおける関数① (1) 関数とは、(2) 関数の入力 (3) 相対参照と絶対参照 (4) データ集計について	【予習】 教科書12章 ・ 当日学ぶ関数について学ぶ(120) ・ 相対参照と絶対参照について調べる(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	180	120
第8回	第12章 Microsoft Excelにおける関数② (1) 関数の入力（ROUND, IF, COUNTIF など） (2) ネスト（入れ子） (3) 論理演算子を利用した複雑な式（AND, OR, NOT など）	【予習】 教科書12章 ・ 当日学ぶ関数について学ぶ(120) ・ 論理演算子について調べる(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	180	120
第9回	第12章 Microsoft Excelにおける関数③ (1) 関数の入力（VLOOKUP, HLOOKUP, ISERROR など） (2) 名前の設定と利用	【予習】 教科書12章 ・ 当日学ぶ関数について学ぶ(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第10回	MOS対策 4 （出題範囲 4） (1) 数式や関数を使用した演算の実行	【予習】 MOS対策 4 ・ MOS（Excel）の関数を学ぶ(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	60	120
第11回	第13章 Microsoft Excelを用いたグラフ作成① (1) データ表現（グラフの種類や表現）について (2) グラフ機能と概要 (3) グラフの挿入と設定	【予習】 教科書13章 ・ グラフの種類や設定方法を調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第12回	第13章 Microsoft Excelを用いたグラフ作成② (3) 複合グラフの作成	【予習】 教科書13章 ・ 複合グラフの作り方を調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第13回	MOS対策 5（出題範囲 5） (1) グラフの管理	【予習】 MOS対策 5 ・ MOS（Excel）のグラフ作成を学ぶ(60) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	60	120
第14回	第14章 Microsoft Excelの便利な機能 (1) WORDとの連携、(2) 図形やアイコンの挿入 (3) 印刷設定と印刷、(4) マクロ	【予習】 教科書14章 ・ 便利な機能について調べる(120) 【復習】 ・ 練習および課題を行う(120)	120	120
第15回	MOS対策（まとめ） (1) Excelまとめ：模擬試験の実施	【予習】 ・ これまでの学習内容の確認(150) 【復習】 ・ 試験対策としてこれまでの学習内容の確認(120)	150	120
試験実施方法		定期試験		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
理解度確認、定期試験		80%	定期試験やレポート課題、授業内に行われる理解度確認（小テスト等）	
コメントペーパー、講義への参加度（貢献度）、受講態度 等		20%	講義に対する評価（講義後の課題提出、講義に対する発言や提案、講義妨害 等）	
評価詳細				
評価詳細は、講義担当の教員に確認ください。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス情報リテラシー	吉田、青木、笠置	創成社	978-4794425591	春学期と同じ書籍 [価格]2000+税
よくわかるマスターMOS Excel365 & 2019 対策テキスト	-	FOM出版	978-486510-429-5	[価格]2100+税

ト & 問題集			
参考書・参考資料			
参照URL			
表示名	URL	説明	
MOS Excel2019（一般）試験について	https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/excel365and2019.html		
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。それ以外については、オフィスアワーを利用すること。		
備考	教科書による説明以外に、講義内容に沿った資料を別途配布する場合があります。 欠席者の学習相談については、質疑応答と同じくオフィスアワーにて受け付けます。 新型コロナ感染の状況により内容を変更する場合があります。		
添付ファイル			

開講年度	2024年度	講義コード	751034
科目名	情報社会論		
担当教員	御幸 英寛		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜4限
チームコード	p4cdu7t	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C231-902-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データ・AIの利活用をはじめとした情報・通信技術の進展に伴う社会変容と、その使用に際しての倫理及びリテラシー
授業の概要	現代社会では、種々のメディアを介して発信された情報から隔絶して生活することは困難であり、また我々が社会における様々な事象について理解や判断を行う場合には、自身の経験から得た知識に加えて、種々のメディアを介して得られた情報を参考にする事が大半である。しかし、こうした情報の受発信に際して、その取扱を誤れば、我々は容易に被害者・加害者となってしまう。これを回避するために、受講生には既存の「ルール」に加えて、これから必要とされる「ルール」について考察出来るようになってもらいたい。そのために本講義では、まず情報技術の進展が社会に及ぼす影響について技術の面から概観する。次に、我々が情報の利用及び発信に際して、必要とされる行為について社会学や倫理学の観点から考え、法律との関連について学ぶ。
授業の到達目標	本講義の到達目標は、第1に情報通信技術の進展と社会変化の関係を理解すること。第2に、様々な情報技術が集約されているインターネットを介した情報通信サービスの在り様を理解すること。第3に、目下の情報社会において多様な情報通信サービスの適切な選択、使用、及び新規の技術やサービスの登場に際して適切な情報倫理の確立に向けて実践できることです。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回、講義終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから選抜された内容に対して、担当教員が次回の講義内で解説、講評、質問対応を行います。受講者は、講評されたリアクションペーパーの作例を自身が提出した答案と比較して、評価を推定してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	担当教員は、講義内容に関連した以下の項目に対する一般企業での実務経験を有します。 ・企業活動に伴い収集蓄積される個人情報の取り扱い（個人情報保護基本方針の策定と実施） ・企業内における情報資産の保全（セキュリティおよびガバナンス）

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション 情報の利活用によって経済成長する社会	リアクションペーパー1の作成	120分	120分
第2回	計算機の進化と情報伝達の多様化 戦後日本社会におけるメディア環境および情報通信技術の変遷	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー2の作成	120分	120分
第3回	情報社会とインターネットの進化と変遷 90年代以降の情報通信技術の変遷と情報社会の到来	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー3の作成	120分	120分
第4回	インターネットを介したコミュニケーション 令和時代のコミュニケーションツール概況	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー4の作成	120分	120分
第5回	情報社会で活用されているデータ データ・AIの活動領域 データ・AIの利用によって生まれる付加価値	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー5の作成	120分	120分
第6回	インターネットを介した犯罪の現状とセキュリティ対策 情報セキュリティにおける驚異の現状	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー6の作成	120分	120分
第7回	マスメディアの歴史と放送倫理	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー7の作成	120分	120分
第8回	個人情報とプライバシー	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー8の作成	120分	120分

第9回	企業と情報倫理 ログデータの利用と個人情報保護	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 9 の作成	120分	120分
第10回	メディアとしての広告 インターネット広告とその問題	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 0 の作成	120分	120分
第11回	情報社会の自由と束縛 情報社会における記録、監視、見守り	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 1 の作成	120分	120分
第12回	モノのインターネット（IoT） IoTデバイスの生み出す価値とモノに監視される社会	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 2 の作成	120分	120分
第13回	ソーシャルメディアを使用したキャンペーン	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 3 の作成	120分	120分
第14回	ニュースの流通 日本におけるニュース流通環境の現状 アグリゲーターとプラットフォームの責任	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 4 の作成	120分	120分
第15回	情報社会のルールは誰が作るのか 法による規制の限界 情報発信者やプラットフォームによる自律的な問題解決の可能性	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する 学期末レポートの作成	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
リアクションペーパー		80%	各回の講義内容を理解できているか。	
学期末レポート		20%	講義内容を踏まえて、論題について論理的に自身の考察を展開できているか。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
講義内で資料を提示する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報とネットワーク社会	駒谷 昇一ほか	オーム社	978-4274211218	
情報社会のデジタルメディアとリテラシー	小島 正美ほか	ムイスリ出版	978-4896412628	
情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子ほか	技術評論社	978-4-297-11081-9	
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義時間中や終了後に教員へ直接たずねるか、Teamsのチャットから問い合わせてください。			
備考	初回講義を受講する前に、各自で「情報社会とは、どのような社会なのか」について調べてきてください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	851031
科目名	情報社会論		
担当教員	御幸 英寛		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜4限
チームコード	set0cnw	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C231-902-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データ・AIの利活用をはじめとした情報・通信技術の進展に伴う社会変容と、その使用に際しての倫理及びリテラシー
授業の概要	現代社会では、種々のメディアを介して発信された情報から隔絶して生活することは困難であり、また我々が社会における様々な事象について理解や判断を行う場合には、自身の経験から得た知識に加えて、種々のメディアを介して得られた情報を参考にする事が大半である。しかし、こうした情報の受発信に際して、その取扱を誤れば、我々は容易に被害者・加害者となってしまう。これを回避するために、受講生には既存の「ルール」に加えて、これから必要とされる「ルール」について考察出来るようになってもらいたい。そのために本講義では、まず情報技術の進展が社会に及ぼす影響について技術の面から概観する。次に、我々が情報の利用及び発信に際して、必要とされる行為について社会学や倫理学の観点から考え、法律との関連について学ぶ。
授業の到達目標	本講義の到達目標は、第1に情報通信技術の進展と社会変化の関係を理解すること。第2に、様々な情報技術が集約されているインターネットを介した情報通信サービスの在り様を理解すること。第3に、目下の情報社会において多様な情報通信サービスの適切な選択、使用、及び新規の技術やサービスの登場に際して適切な情報倫理の確立に向けて実践できることです。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回、講義終了後にリアクションペーパーを提出してもらいます。提出されたリアクションペーパーから選抜された内容に対して、担当教員が次回の講義内で解説、講評、質問対応を行います。受講者は、講評されたリアクションペーパーの作例を自身が提出した答案と比較して、評価を推定してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	担当教員は、講義内容に関連した以下の項目に対する一般企業での実務経験を有します。 ・企業活動に伴い収集蓄積される個人情報の取り扱い（個人情報保護基本方針の策定と実施） ・企業内における情報資産の保全（セキュリティおよびガバナンス）

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション 情報の利活用によって経済成長する社会	リアクションペーパー1の作成	120分	120分
第2回	計算機の進化と情報伝達の多様化 戦後日本社会におけるメディア環境および情報通信技術の変遷	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー2の作成	120分	120分
第3回	情報社会とインターネットの進化と変遷 90年代以降の情報通信技術の変遷と情報社会の到来	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー3の作成	120分	120分
第4回	インターネットを介したコミュニケーション 令和時代のコミュニケーションツール概況	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー4の作成	120分	120分
第5回	情報社会で活用されているデータ データ・AIの活動領域 データ・AIの利用によって生まれる付加価値	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー5の作成	120分	120分
第6回	インターネットを介した犯罪の現状とセキュリティ対策 情報セキュリティにおける驚異の現状	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー6の作成	120分	120分
第7回	マスメディアの歴史と放送倫理	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー7の作成	120分	120分
第8回	個人情報とプライバシー	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー8の作成	120分	120分

第9回	企業と情報倫理 ログデータの利用と個人情報保護	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 9 の作成	120分	120分
第10回	メディアとしての広告 インターネット広告とその問題	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 0 の作成	120分	120分
第11回	情報社会の自由と束縛 情報社会における記録、監視、見守り	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 1 の作成	120分	120分
第12回	モノのインターネット（IoT） IoTデバイスの生み出す価値とモノに監視される社会	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 2 の作成	120分	120分
第13回	ソーシャルメディアを使用したキャンペーン	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 3 の作成	120分	120分
第14回	ニュースの流通 日本におけるニュース流通環境の現状 アグリゲーターとプラットフォームの責任	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する リアクションペーパー 1 4 の作成	120分	120分
第15回	情報社会のルールは誰が作るのか 法による規制の限界 情報発信者やプラットフォームによる自律的な問題解決の可能性	講評されたリアクションペーパーの作例を読んで、自身の回答と比較する 学期末レポートの作成	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
リアクションペーパー		80%	各回の講義内容を理解できているか。	
学期末レポート		20%	講義内容を踏まえて、論題について論理的に自身の考察を展開できているか。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
講義内で資料を提示する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報とネットワーク社会	駒谷 昇一ほか	オーム社	978-4274211218	
情報社会のデジタルメディアとリテラシー	小島 正美ほか	ムイスリ出版	978-4896412628	
情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー	高橋慈子ほか	技術評論社	978-4-297-11081-9	
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義時間中や終了後に教員へ直接たずねるか、Teamsのチャットから問い合わせてください。			
備考	初回講義を受講する前に、各自で「情報社会とは、どのような社会なのか」について調べてきてください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	751037
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	水野 隆文		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜1限
チームコード	rtgxt30	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C231-603-31
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	統計学の基礎を学び、表計算ソフトウェアを利用し実際にデータを分析する。
授業の概要	情報化社会においては、さまざまな情報を適切に整理・集約する技術が必須とされている。 本講義では、統計処理の基礎知識を学び、表計算ソフトウェア Excel を用いたデータ分析技術の習得を目指す。 これらは、研究やビジネスの現場において必要不可欠な知識や技術のうち、特に基礎的なものである。
授業の到達目標	基本統計量の意味と計算方法を理解し、それらを Excel を用いて計算できる。 Excel の基本的な関数の利用、相対参照と絶対参照を組み合わせた数式入力ができる。 データを適切なグラフで表現できる。 ピボットテーブルやフィルター、並び替えなど、データ分析のための Excel の機能を利用できる。 実際のビジネスのデータを分析し、プレゼンテーションに留意した報告書を作成できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回の課題については講義内で解答例を提示する。 確認テストについては、採点結果を Teams にて返却し、特に重要だった点を講義内で解説する。 成績評価の詳細の説明は、第15回目の講義で指定する日時に、希望者に Teams にて個別に対応する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	時系列データ、指数・指標による表現 - Excelの基本をその起動方法から確認する。 - 加重平均の計算式を通じて、相対参照について確認する。	【予習】講義前に、Windows OS の操作方法を復習すること。タッチタイピングの練習をすること。 【復習】講義中に提示する課題を次の講義開始時までに消化すること。	120分	120分
第2回	度数分布表とヒストグラム - Excel で度数分布表とヒストグラムを作成する方法を確認する。	【予習】「階級」「度数」「相対度数」「度数分布」「ヒストグラム」「度数分布多角形」についてまとめること。 【復習】講義中に提示する課題を次の講義開始時までに消化すること。	120分	120分
第3回	分布の位置を表す代表値 - 平均値の計算方法を復習する。 - Excel を用いてこれを計算する方法を確認する。 - 中央値、最頻値の計算方法を学ぶ。	【予習】平均が最小値以上最大値以下であること、算術平均が幾何平均以上であることを証明すること。 【復習】講義中に提示する課題を次の講義開始時までに消化すること。	120分	120分
第4回	分散と標準偏差 - 分散と標準偏差の計算方法を学ぶ。 - 絶対参照の使い方について学ぶ。 - SUM()、AVERAGE()、VARP() など、Excel に標準的に備わっている関数の使い方を学ぶ。	【予習】平均は0だがヒストグラムの形がそれぞれ異なるデータの分布をいくつか考え手描きで描画すること。 【復習】講義中に提示する課題を次の講義開始時までに消化すること。	120分	120分
第5回	観測値の標準化とはずれ値 - データを標準化する方法を学ぶ。 - Excel で複数の関数の組み合わせて計算を行う方法を学ぶ。	【予習】入学試験等で使われる「偏差値」の計算方法を調べ、仮想的なデータを作り偏差値を計算すること。 【復習】講義中に提示する課題を次の講義開始時までに消化すること。	120分	120分
第6回	正規分布	【予習】「ネイピア数」の定義とその具体的な数値を調べること。その近似値の計算方法を複数調べるこ	120分	120分

	<ul style="list-style-type: none"> - 標準正規分布を紹介する。 - 正規分布を計算する Excel の関数を紹介する。 - Excel で任意の関数のグラフ化する方法を学ぶ。 	と。 【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。		
第7回	<p>相関と散布図</p> <ul style="list-style-type: none"> - 相関関係について解説する。 - Excel で散布図を作成する方法と、その図に回帰直線を表示し、その直線の式を利用して予測を行う方法を学ぶ。 	<p>【予習】因果関係と相関関係の違いをまとめること。2次元平面における直線の方程式の表現方法を復習すること。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第8回	<p>相関係数</p> <ul style="list-style-type: none"> - 共分散の計算方法と相関係数の計算方法を学ぶ。 - Excel で回帰直線を作成し、数式を表示する方法を復習し、R2乗値の表示とその解釈を解説する。 	<p>【予習】はずれ値を取り除くと、2種類のデータの間の相関が消えることがある。そのような例を複数作ること。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第9回	<p>クロス集計、層別集計</p> <ul style="list-style-type: none"> - クロス集計の考え方を学ぶ。 - 質的変数と量的変数というデータの種類の種類について学ぶ。 - 層別集計が必要な例を紹介する。交絡因子についても紹介する。 - Excel のピボットテーブル、ピボットグラフの利用方法を学ぶ。 - 次回の確認テストについてその実施方法等を説明する。 	<p>【予習】「質的変数」と「量的変数」の違いについて調べる。数量化1類の目的とその手順の概要を調べる。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第10回	<p>確認テスト (1)、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> - これまでの内容の習得度を確認することを目的としたテストを実施する。 - テスト終了後、解答例を提示するとともに、特に重要な点に絞って解説を行う。 	<p>【予習】これまでの内容を復習すること。タッチタイピングの練習をすること。</p> <p>【復習】テストの問題を2回解くこと。</p>	120分	120分
第11回	<p>応用 (1): データを説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 実際のビジネスを想定したデータを用いて、データを適切に説明する力を養う。 - 広告とその広告効果のデータ分析を通じて、データの比較の際に考慮すべきセレクトバイアスの存在を確認し、条件を揃えることの必要性とその方法 (RCT) を紹介する。A/Bテストについても言及する。 - ABC分析を例に、Excel におけるさまざまなデータ表現について学ぶ。 	<p>【予習】「粗利」「営業利益」「純利益」の定義を調べ、それらを具体的な企業10社のIR情報から計算すること。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第12回	<p>応用 (2): データを扱う</p> <ul style="list-style-type: none"> - 架空の講義の成績集計を題材に、データを扱うための力を養う。 - フィルターや並び替えの機能を学び、Excel における分類やランキングの方法を習得する。 - 和や平均、加重平均等の基礎的な統計量を復習するとともに、Excel のIF関数とCOUNT関数、COUNTIF関数の使い方を学ぶ。 	<p>【予習】3つの数値について、平均と幾何平均、加重平均の値が互いに大きく異なる例を作ること。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第13回	<p>応用 (3): データを読む</p> <ul style="list-style-type: none"> - 実際の行政の統計資料を題材に、データを適切に読み解く力を養う。 - 行政の各種統計資料を取得し、Excel を用いてデータのばらつきを可視化する方法を学ぶ。Excel を用いて地図上にデータを可視化する方法も紹介する。 - 国別の経済統計を分析し、平均値が最頻値とならない例を提示し、代表値の性質の違いを確認する。 	<p>【予習】「国勢調査」と「経済センサス」の概要について調べ、直近に実施されたそれらの結果を確認すること。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分
第14回	<p>応用 (4): AI利活用のための技術、補足</p> <ul style="list-style-type: none"> - データ・AI(人工知能) を活用するために使われている技術の概要を知る。 - 生成AI と Office の連携を題材に、AIが活用されるビジネスソフトウェアやAPIを紹介する。 	<p>【予習】合成関数の微分法を復習しておくこと。</p> <p>【復習】講義中に提示する課題を次回の講義開始時まで消化すること。</p>	120分	120分

第15回	確認テスト (2)、まとめ - これまでの内容の習得度を確保することを目的としたテストを実施する。 - テスト終了後、解答例を提示するとともに、特に重要な点に絞り解説を行う。	【予習】これまでの内容を復習すること。タッチタイピングの練習をすること。 【復習】テストの問題を2回解くこと。	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
毎回の講義で提示する課題		30%		独力での課題解決・提出を評価する。(評価詳細※1参照)
確認テスト (1)		30%		既習事項の理解と独力での問題解決を評価する。(評価詳細※2参照)
確認テスト (2)		40%		既習事項の理解と独力での問題解決を評価する。(評価詳細※3参照)
評価詳細				
出席による加点は無い。 出席率が2/3未満の学生の成績は評価できない（欠格とする）。 ※1 Excelの機能を用いて作成したファイルを提出する課題については、求められた機能を指示した手順で解答できるかを確認する。 (指示した機能を用いずに解いた場合は評価しないことがある。) ※2 基本統計量の計算方法を理解しているか確認する。 基本的なデータ分析について、各自で適切な Excel の機能を選択し解答できるかを確認する。 ※3 Excel を用いた総合的なデータ分析とその結果の表現ができるかを確認する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない。	-	-	-	-
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義時間以外の質疑については Teams のチャット機能等を用いてご連絡ください。			
備考				
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	751038
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	眞鍋 和弘		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜3限
チームコード	ylkqg9q	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C231-603-31
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	初歩からのデータ分析
授業の概要	<p>データ分析を活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」に気づき、日常生活、仕事等の場で使いこなす上での基礎的な素養を身に付ける。</p> <p>本授業では、特にデータの収集・加工・処理、データ分析、分析結果の解釈とその活用について学ぶ。大学生として求められるデータ分析に関する基礎的な知識および技術を身に付ける。</p>
授業の到達目標	<p>【学習目標】</p> <p>適切なグラフ表現、一次代表値、二次代表値からデータの全体像をつかみ、説明できる。</p> <p>標準化等の技術を通じて異なる単位・規模のデータを比較できる。</p> <p>相関分析や回帰分析から2種類以上のデータの関係を理解し、説明できる。</p> <p>標本と母集団の関係を理解し、説明できる。</p> <p>確率、確率分布、また代表的な確率分布の性質などについて理解し、説明できる。</p> <p>標本を用いた母数の推定を理解し、計算することができる。</p> <p>標本を用いた母数の検定を理解し、計算することができる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	<p>データ分析については、解説に加えて、データ分析のソフトウェアを使った演習、などを行うことで、主体的に取り組めるようにする。データ分析のソフトウェアとして、microsoft社の表計算ソフトウェアであるEXCELを使って学んでいく。授業では、補足的あるいは発展的な内容についても演習をしていく。</p>
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 社会を数学で捉える 統計学，母集団，標本	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第2回	ばらばらのデータを図表にまとめる 度数分布表，ヒストグラム	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第3回	分布の特性を数字でつかむ 代表値，ばらつきの尺度	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第4回	ふたつの離散変数を同時に扱う クロス集計表	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第5回	関連性の強さをどう測る？ 属性相関，相関係数，因果関係	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第6回	連続変数同士の関連性を分析する(その1) 散布図，相関係数	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第7回	連続変数同士の関連を分析する(その2) 回帰分析，最小2乗法，決定係数	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第8回	みえない関係を探る 偏相関係数	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第9回	可能性で考える 確率変数，確率分布，期待値，分散	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第10回	全体のなかでの位置を把握する 正規分布，標準正規分布	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分

第11回	一部から全部を推し量る(その1) 大数の法則，中心極限定理，標本平均の分布	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第12回	一部から全部を推し量る(その2) 母平均の区間推定，母比率の区間推定	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第13回	偶然と必然を見分ける 仮説検定の考え方，仮説検定の手順	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第14回	集団間で違いがあるか 母平均の差の検定	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELを使った演習課題(120分)	120分	120分
第15回	関連の真意を判断する カイ2乗分布，相関係数の検定	【予習】 レジメ配布（120分） 【復習】 EXCELをを使った演習課題(120分)	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
理解度確認の講義課題等		70%	課題の提出およびその取り組み状況	
講義への参加度（貢献度）、受講態度 等		30%	講義に対する評価（講義後の課題提出、講義に対する発言や提案、講義妨害 等）	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelで学ぶ統計解析本格入門	日花 弘子	SBクリエイティブ	4815601135	[価格]2948
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	新型コロナウイルス感染の状況により内容を変更する場合があります。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	751039
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	伊藤 聡志		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜1限
チームコード	6otj6zl	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C231-603-31
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データ分析の基礎知識
授業の概要	データ分析の基礎知識を学び、Excelを用いてデータ分析手法を理解する。
授業の到達目標	データ分析の基礎知識について、正しく説明することができる。 データを集計・可視化することによって、その特性を要約することができる。 データを分析することによって、その振る舞いを予測することができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表日以降にTeams等で、レポートの提出状況や点数分布、授業講評等を送信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス （データサイエンス、ビッグデータ、などについて学ぶ）	予習：講義内容とPC等の使い方を把握する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第2回	データの要約1 （様々な基本統計量、分析ツール、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第3回	データの要約2 （度数分布表、クロス集計、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第4回	データの要約3 （散布図、相関係数、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く 第1レポートの作成	120分	420分
第5回	データの可視化1 （アンスコム の例、様々な棒グラフ、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第6回	データの可視化2 （ヒストグラム、箱ひげ図、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第7回	データの可視化3 （ヒートマップ、条件付き書式、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第8回	データの可視化4 （3D Maps機能、円グラフ、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第9回	データの可視化5 （階層グラフ、折れ線グラフ、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する（120） 復習：講義中に出題された演習問題を解く（120） 第2レポートの作成（300）	120分	420分
第10回	データの予測1 （線形回帰分析、決定係数、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第11回	データの予測2 （重回帰分析、ダミー変数、などについて学ぶ）	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分

第12回	データの予測3 (仮説検定、確率分布、などについて学ぶ)	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第13回	データの予測4 (中心極限定理、t検定、などについて学ぶ)	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く	120分	120分
第14回	データの予測4 (片側/両側検定、などについて学ぶ)	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義中に出題された演習問題を解く 第3レポートの作成	120分	420分
第15回	まとめ (講義全体の振り返りを行う)	予習：前回までの講義の内容を理解する 復習：講義全体のおさらいをする	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
第1レポート		30%	Excelを用いて、データを正しく要約できるかを評価する。	
第2レポート		40%	Excelを用いて、データを正しく可視化できるかを評価する。	
第3レポート		30%	Excelを用いて、データを正しく予測できるかを評価する。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない	-	-	-	-
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名		URL	説明	
質疑応答		授業中/授業後に、Teamsやメールで質疑に応じます。		
備考		授業資料等のファイルは全てTeamsから配布します。		
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	851057
科目名	情報セキュリティ		
担当教員	中條 渉		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	15219n8	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	3年		
単位数	2単位	科目ナンバー	C331-607-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	情報セキュリティに関わる脅威とその対策技術について学ぶ。
授業の概要	情報ネットワークの様々な脅威とその対策技術である情報セキュリティ技術を関係づけて説明する。情報技術者試験を念頭におき、暗号技術や認証技術の理論などを完全に理解できなくても、情報ネットワークのセキュリティに必要な基礎技術を理解することを目的とする。
授業の到達目標	情報ネットワークを取り巻く様々な情報セキュリティに関わる脅威と、その対策技術としての情報セキュリティ技術を説明できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	定期試験は成績発表日にTeamsにて解答を提示します。 講義資料は毎週事前にTeamsにアップロードします。 毎週小テスト課題を授業内に実施し、授業後にTeamsにて解答を提示します。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	授業内容が実務にどのように応用されるかについて、実務経験を基に授業を実施する。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	セキュリティの重要性と基本概念： セキュリティの重要性、管理体制、分類、基本概念について説明する。小テストを行う。	【予習】セキュリティの重要性について調べる(60) 【復習】セキュリティの重要性、分類、基本概念、脆弱性の管理体制について、講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第2回	セキュリティに関する脅威の事例： 情報セキュリティ10大脅威2023「組織」向け脅威とその対策について説明する。小テストを行う。	【予習】セキュリティに関する脅威の事例について調べる(60) 【復習】情報セキュリティ10大脅威とその対策について、講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第3回	マルウェアの脅威と対策： マルウェアの脅威と対策技術について学ぶ。小テストを行う。	【予習】マルウェアの分類について調べる(60) 【復習】マルウェアの技術、マルウェア対策ソフトの検知技術について、講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第4回	バッファオーバーフロー攻撃： ソウトウェアの脆弱性として、バッファオーバーフロー攻撃と対策技術について説明する。小テストを行う。	【予習】バッファオーバーフロー攻撃について調べる(60). 【復習】エクスプロイト、スタック、main関数からの関数の呼び出しについて、講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第5回	暗号技術： 共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について説明する。小テストを行う。	【予習】古典的な暗号アルゴリズムについて調べる(30). 【復習】共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式、ハイブリッド暗号方式について、講義ノートに基づき復習する(60) 小テストを行う(60)	60分	180分
第6回	ハッシュ関数とデジタル署名： DH鍵共有アルゴリズム、ハッシュ関数とデジタル署名について説明する。小テストを行う。	【予習】暗号技術について調べる(60) 【復習】DH鍵共有アルゴリズム、ハッシュ関数、デジタル署名、等価安全性について、講義ノートに基	60分	180分

		づき復習する(120) 小テストを行う(60)		
第7回	認証技術： 認証技術について説明する。小テストを行う。	【予習】認証技術について調べる(60) 【復習】主体の知識，所持するもの，身体的特性，2要素認証，リスクベース認証について，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第8回	PKIと認証技術： PKI（公開鍵基盤）の仕組みと役割について説明する。小テストを行う。	【予習】PKIの仕組みについて調べる(60) 【復習】PKI，MITM攻撃，認証局，デジタル証明書について，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第9回	SSL/TLS： SSL/TLSの仕組みと安全性について説明する。小テストを行う。	【予習】SSL/TLSについて調べる(60) 【復習】RecordとHandshakeプロトコル，認証モード，SSL-VPNについて，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第10回	IPsec： IPsecの仕組みと役割について説明する。小テストを行う。	【予習】IPsecについて調べる(60) 【復習】IPsec-VPN，IKEとSA，AHとESP，トンネルモードについて，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第11回	ファイアウォール： ファイアウォールの仕組みと役割について説明する。小テストを行う。	【予習】ファイアウォールについて調べる(60) 【復習】パケットフィルタリング，プロキシシステム，IPSとIDS，WAFについて，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第12回	Webアプリケーションの仕組みと役割： Webアプリケーションの仕組みと役割について説明する。小テストを行う。	【予習】Webアプリケーションの仕組みについて調べる(60) 【復習】HTTPの認証方式，クッキーの役割と漏えい防止技術について，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第13回	Webの脆弱性とセキュリティ： XSS攻撃，SQLインジェクション，CSRF攻撃の仕組みとその対策技術について説明する。小テストを行う。	【予習】Webのセキュリティ脅威について調べる(60) 【復習】XSS攻撃，SQLインジェクション，CSRF攻撃と対策技術について，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第14回	Web以外のアプリケーションのセキュリティ： 電子メール，SSH，シングルサインオンのセキュリティの仕組みについて説明する。小テストを行う。	【予習】Web以外のアプリケーションのセキュリティについて調べる(60) 【復習】電子メール，SSH，シングルサインオンについて，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
第15回	無線LANのセキュリティ： 無線LANのセキュリティの仕組みについて説明する。小テストを行う。	【予習】無線LANのセキュリティ脅威について調べる(60) 【復習】SSIDやMACドレス，WEP，WPA2，WPA3について，講義ノートに基づき復習する(120) 小テストを行う(60)	60分	180分
試験実施方法		定期試験		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
小テスト課題		30%		授業後の毎週の課題に解答できる。
理解力確認テスト		30%		授業内容前半に行った例題と課題に解答できる。
定期試験		40%		授業内容後半に行った例題と課題に解答できる。
評価詳細				
-				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
『使用しない』	-	-	-	-
参考書・参考資料				

書名	著者	出版社	ISBN	備考
マスタリングTCP/IP 情報セキュリティ編	齋藤 孝道	オーム社	978-4274069215	[価格]3080
参照URL				
表示名	URL		説明	
-	-		--	
-	-		-	
-	-		-	
質疑応答	授業前後の空き時間に質疑に応じます。またTeamsではいつでも質疑に応じますので気楽に質問してください。			
備考	-			
添付ファイル	-			

開講年度	2024年度	講義コード	761064
科目名	ビジネス情報リテラシーⅠ		
担当教員	千葉 賢		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	木曜2限
チームコード	wvyy62m	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-05
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぼう
授業の概要	4年間の経営学部の講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講義では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」授業方針の説明 ・ Windowsの基礎知識	【予習】シラバスを読み本授業内容をあらかじめ把握する 【復習】授業全体について確認	60分	60分
第2回	「Wordの基礎」 ・ 文書の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第3回	「Wordの基礎」 ・ 文書の印刷とページ設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第4回	「Wordの基礎」 ・ 表の作成、セルの結合、セルの分割	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第5回	「Wordの基礎」 ・ 表現力のアップ	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第6回	「Wordの基礎」 長文作成のサポート	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第7回	「Excelの基礎」 ・ データの入力・編集	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第8回	「Excelの基礎」 ・ 表の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第9回	「Excelの基礎」 ・ 表の印刷	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第10回	「Excelの基礎」 ・ 関数の入力	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第11回	「Excelの基礎」 ・ フォント書式、条件付き書式の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第12回	「Excelの基礎」 ・ 大きな表の印刷	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分

第13回	「Excelの基礎」 ・相対参照と絶対参照 ・代表値の計算	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「Excelの基礎」 ・棒グラフ、円グラフの作成	【復習】棒グラフ、円グラフの作成のまとめ	60分	60分
第15回	「Excelの基礎」 ・複合グラフの作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		90%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		10%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	各教員によって授業の進め方、評価方法は多少異なっています。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	761065
科目名	ビジネス情報リテラシーⅠ		
担当教員	塗木 京太		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜1限
チームコード	p2k7f36	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-05
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学習します。
授業の概要	4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。講義に際しては、講師の14年間のビジネス経験を活かし、実践的な内容にこだわっています。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のことが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講義では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。また、講師ChatGPTなどの最新のAIを活用した取り組みについても触れていきます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	Word、Excel、PowerPointについて、実際に手を動かして講義を進めていきます。またグループワークも積極的に取り入れており、ビジネスに必要なコミュニケーション能力の向上も図ります。定期試験はなく、第15回目の講義でテストを実施します。評価方法の詳細については、1回目の講義で説明します。
使用言語	講義は日本語で進めます。 英語での説明も可能な範囲で対応しますので、別途ご相談ください。
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	講師は、14年にわたり、米国シリコンバレーで勤務した経験や、日本有数の大手企業で海外戦略立案に携わった経験があります。これらの経験を通して、実践的な観点はもちろん、グローバルの観点もふまえつつ講義を進めていきます。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」授業方針の説明 ・ Windowsの基礎知識	【予習】 シラバスを読み本授業内容をあらかじめ把握する(60分) 【復習】 授業全体について確認(90分)	60分	90分
第2回	「Wordの基礎」 ・ 文書の作成	【復習】 文書の作成のまとめ(120分)	なし	120分
第3回	「Wordの基礎」 ・ 文書の印刷とページ設定	【復習】 文書の印刷とページ設定のまとめ(120分)	なし	120分
第4回	「Wordの基礎」 ・ 表の作成、セルの結合、セルの分割	【復習】 表の作成、セルの結合、セルの分割のまとめ(120分)	なし	120分
第5回	「Wordの基礎」 ・ 表現力のアップ	【復習】 表現力のアップのまとめ(120分)	なし	120分
第6回	「Wordの基礎」 長文作成のサポート	【復習】 長文作成のサポートのまとめ(120分)	なし	120分
第7回	「Excelの基礎」 ・ データの入力・編集	【復習】 データの入力・編集のまとめ(120分)	なし	120分
第8回	「Excelの基礎」 ・ 表の作成	【復習】 表の作成のまとめ(120分)	なし	120分
第9回	「Excelの基礎」 ・ 表の印刷	【復習】 表の印刷のまとめ(120分)	なし	120分
第10回	「Excelの基礎」 ・ 関数の入力	【復習】 関数の入力のまとめ(120分)	なし	120分

第11回	「Excelの基礎」 ・ フォント書式、条件付き書式の設定	【復習】 フォント書式、条件付き書式の設定のまとめ(120分)	なし	120分
第12回	「Excelの基礎」 ・ 大きな表の印刷	【復習】 大きな表の印刷のまとめ(120分)	なし	120分
第13回	「Excelの基礎」 ・ 相対参照と絶対参照 ・ 代表値の計算	【復習】 相対参照と絶対参照のまとめ(120分)	なし	120分
第14回	「Excelの基礎」 ・ 棒グラフ、円グラフの作成	【復習】 棒グラフ、円グラフの作成のまとめ(120分)	なし	120分
第15回	「Excelの基礎」 ・ 複合グラフの作成	【復習】 複合グラフの作成のまとめ(120分)	なし	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題提出（試験を含む）		90%	毎回の課題を評価します	
授業態度		10%	授業中の積極的な発言や参加意欲を評価します	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義中、もしくはオフィスアワーにご質問ください。 英語での質問や回答も可能ですので、留学生の方等もお気軽にご質問ください。			
備考	進行状況等に応じ、講義内容などを変更することがある。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの利用、その他の迷惑行為、不正行為、パソコン室での授業目的以外のパソコン利用等は厳しく減点する。 やむを得ない事情を除き、遅刻・欠席・途中退席については、減点の対象となる。 講義でのパフォーマンスに応じ、加点・減点する場合がある。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861071
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	林 幹人		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜3限
チームコード	5kgxqfm	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぶ
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のことが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分

第12回	プレゼンテーションの企画	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第13回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		80%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		20%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	761067
科目名	ビジネス情報リテラシーⅠ		
担当教員	伴 由紀子		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	510o8v1	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-05
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぼう
授業の概要	4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	<p>リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講義では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。</p> <p>春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	<p>毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。</p> <p>定期試験またはレポート提出をを行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。</p>
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」授業方針の説明 ・ Windowsの基礎知識	<p>【予習】 シラバスを読み本授業内容をあらかじめ把握する</p> <p>【復習】 授業全体について確認</p>	60分	60分
第2回	「Wordの基礎」 ・ 文書の作成	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第3回	「Wordの基礎」 ・ 文書の印刷とページ設定	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第4回	「Wordの基礎」 ・ 表の作成、セルの結合、セルの分割	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第5回	「Wordの基礎」 ・ 表現力のアップ	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第6回	「Wordの基礎」 長文作成のサポート	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第7回	「Excelの基礎」 ・ データの入力・編集	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第8回	「Excelの基礎」 ・ 表の作成	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第9回	「Excelの基礎」 ・ 表の印刷	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第10回	「Excelの基礎」 ・ 関数の入力	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第11回	「Excelの基礎」 ・ フォント書式、条件付き書式の設定	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分
第12回	「Excelの基礎」 ・ 大きな表の印刷	<p>【予習】 授業予定の範囲のテキストを参照する。</p> <p>【復習】 授業内容を確認し課題に取り組む。</p>	60分	60分

第13回	「Excelの基礎」 ・相対参照と絶対参照 ・代表値の計算	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「Excelの基礎」 ・棒グラフ、円グラフの作成	【復習】棒グラフ、円グラフの作成のまとめ	60分	60分
第15回	「Excelの基礎」 ・複合グラフの作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		80%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		20%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	各教員によって授業の進め方、評価方法は多少異なっています。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861074
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	三輪 幸大		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	56u3yqx	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぼう
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【復習】グラフの種類と作成法	0分	120分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【復習】グラフ作成の応用	0分	120分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【復習】データベースの利用法	0分	120分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【復習】エクセルグラフのワードへの貼付け方	0分	120分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【復習】時系列データ、散布図などの見方	0分	120分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【復習】総合問題の見方	0分	120分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【復習】スライド作成の基礎	0分	120分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【復習】画像、ワードアート、図形の挿入	0分	120分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【復習】SmartArt、グラフ、表の挿入	0分	120分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【復習】特殊効果の設定	0分	120分
第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【復習】アニメーション効果の設定	0分	120分
第12回	プレゼンテーションの企画	【復習】プレゼンテーションの企画のまとめ	0分	120分

第13回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】自作プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
提出課題（課題発表、定期試験を含む）		90%		エクセル、パワーポイントの課題を評価します。
授業態度		10%		授業中の発言、発表の意欲などを評価します。
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861069
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	千葉 賢		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	木曜2限
チームコード	hml0x9i	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぶ
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分

第12回	プレゼンテーションの企画	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第13回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		90%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		10%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861070
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	塗木 京太		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜1限
チームコード	1xyoepd	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学習します。
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。 講義に際して、講師の14年間のビジネス経験を活かし、実践的な内容にこだわっています。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のことが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講義では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。 春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。 また、講師ChatGPTなどの最新のAIを活用した取り組みについても触れていきます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	Word、Excel、PowerPointについて、実際に手を動かして講義を進めていきます。またグループワークも積極的に取り入れており、ビジネスに必要なコミュニケーション能力の向上も図ります。定期試験はなく、第15回目の講義でテストを実施します。 評価方法の詳細については、1回目の講義で説明します。
使用言語	講義は日本語で進めます。 英語での説明も可能な範囲で対応しますので、別途ご相談ください。
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	講師は、14年にわたり、米国シリコンバレーで勤務した経験や、日本有数の大手企業で海外戦略立案に携わった経験があります。 これらの経験を通して、実践的な観点はもちろん、グローバルの観点もふまえて講義を進めていきます。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【復習】グラフの種類と作成法(120)	なし	120分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【復習】グラフ作成の応用(120分)	なし	120分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集(DB)と利用	【復習】データベースの利用法(120分)	なし	120分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【復習】エクセルグラフのワードへの貼付け方(120分)	なし	120分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【復習】時系列データ、散布図などの見方(120分)	なし	120分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【復習】総合問題の見方(120)	なし	120分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【復習】スライド作成の基礎(120)	なし	120分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【復習】画像、ワードアート、図形の挿入(120分)	なし	120分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【復習】SmartArt、グラフ、表の挿入(120分)	なし	120分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【復習】特殊効果の設定(120分)	なし	120分

第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【復習】アニメーション効果の設定(120分)	なし	120分
第12回	プレゼンテーションの企画	【復習】プレゼンテーションの企画のまとめ(120分)	なし	120分
第13回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】自作プレゼンテーションの作成と発表(120分)	なし	120分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表(120分)	なし	120分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表(120分)	なし	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
課題提出（試験を含む）		90%	毎回の課題を評価します	
授業態度		10%	授業中の積極的な発言や参加意欲を評価します	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義中、もしくはオフィスアワーにご質問ください。 英語での質問や回答も可能ですので、留学生の方等もお気軽にご質問ください。			
備考	進行状況等に応じ、講義内容などを変更することがある。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの利用、その他の迷惑行為、不正行為、パソコン室での授業目的以外のパソコン利用等は厳しく減点する。 やむを得ない事情を除き、遅刻・欠席・途中退席については、減点の対象となる。 講義でのパフォーマンスに応じ、加点・減点する場合がある。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861071
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	林 幹人		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜3限
チームコード	5kgxqfm	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぶ
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のことが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分

第12回	プレゼンテーションの企画	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第13回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		80%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		20%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861072
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	伴 由紀子		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	l6x7ew5	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぶ
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のことが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的な能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・グラフ作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第2回	「Excelの応用」 ・グラフ作成の応用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第3回	「Excelの応用」 ・都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第4回	「Excelの応用」 ・エクセルグラフをワードに貼付け	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第5回	「Excelの応用」 ・時系列データ、散布図の見方	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第6回	「Excelの応用」 ・総合問題の作成	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・スライド作成の基礎	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・画像、ワードアート、図形の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・SmartArt、グラフ、表の挿入	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第10回	「PowerPointの応用」 ・特殊効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第11回	「PowerPointの応用」 ・アニメーション効果の設定	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分

第12回	プレゼンテーションの企画	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第13回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【予習】授業予定の範囲のテキストを参照する。 【復習】授業内容を確認し課題に取り組む。	60分	60分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
通常課題		80%	毎回の課題、授業での課題取り組み状況进行评估します。	
定期課題		20%	中間、最終の課題进行评估します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861074
科目名	ビジネス情報リテラシーⅡ		
担当教員	三輪 幸大		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	56u3yqx	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	実験・実習		
対象学年	1年		
単位数	1単位	科目ナンバー	M131-601-06
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	Ⅰ T時代のビジネスにおける読み/書きの基本技術を学ぼう
授業の概要	春学期のⅠに引き続いて、4年間の経営学部講義や実習さらにはビジネスにおいて必要な情報処理の基礎的な能力を習得します。
授業の到達目標	リテラシーとは読み書きの能力を意味します。現代のビジネス社会では、情報の読み書き能力、つまり、パソコンやインターネットを活用して目的に応じてさまざまな情報を処理する能力が必要となります。具体的には、情報を収集・検索したり、計算をしたり、グラフを描いたり、文書を書いたり、編集したりする等のが、ビジネスのさまざまな場面で求められます。そこで、本講では、初心者を対象にInternet、Word、Excel、PowerPointに関する知識と技術を習得します。春学期と秋学期の授業を受講することにより、情報処理に対する基礎的能力を習得することができます。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	毎回提出される課題を評価します。課題は翌週、フィードバックします。なお教員によって、課題提出は印刷したものと、ファイルで提出などの違いがあります。定期試験またはレポート提出を行うことがあります。評価方法が教員により異なる時は、最初の授業で説明されるので、確認してください。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「Excelの応用」 ・ グラフ作成	【復習】グラフの種類と作成法	0分	120分
第2回	「Excelの応用」 ・ グラフ作成の応用	【復習】グラフ作成の応用	0分	120分
第3回	「Excelの応用」 ・ 都道府県データ、世界データの収集（DB）と利用	【復習】データベースの利用法	0分	120分
第4回	「Excelの応用」 ・ エクセルグラフをワードに貼付け	【復習】エクセルグラフのワードへの貼付け方	0分	120分
第5回	「Excelの応用」 ・ 時系列データ、散布図の見方	【復習】時系列データ、散布図などの見方	0分	120分
第6回	「Excelの応用」 ・ 総合問題の作成	【復習】総合問題の見方	0分	120分
第7回	「PowerPointの基礎」 ・ スライド作成の基礎	【復習】スライド作成の基礎	0分	120分
第8回	「PowerPointの基礎」 ・ 画像、ワードアート、図形の挿入	【復習】画像、ワードアート、図形の挿入	0分	120分
第9回	「PowerPointの基礎」 ・ SmartArt、グラフ、表の挿入	【復習】SmartArt、グラフ、表の挿入	0分	120分
第10回	「PowerPointの応用」 ・ 特殊効果の設定	【復習】特殊効果の設定	0分	120分
第11回	「PowerPointの応用」 ・ アニメーション効果の設定	【復習】アニメーション効果の設定	0分	120分
第12回	プレゼンテーションの企画	【復習】プレゼンテーションの企画のまとめ	0分	120分

第13回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】自作プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
第14回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
第15回	「プレゼンテーションの実践」	【復習】プレゼンテーションの作成と発表	0分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
提出課題（課題発表、定期試験を含む）		90%	エクセル、パワーポイントの課題を評価します。	
授業態度		10%	授業中の発言、発表の意欲などを評価します。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版	9784407348330	Windows10対応 [価格]1300+税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	担当者ごとにオフィスアワーの時間、場所が異なります。初回の授業において具体的な指示があるので、その指示に従ってください。			
備考	情報リテラシーⅠの担当者が引き続き情報リテラシーⅡを担当します。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	761007
科目名	経営情報論		
担当教員	林 幹人		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	木曜2限
チームコード	65z58cn	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	M131-238-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	経営におけるデジタルICTの活用の基礎を学ぶ
授業の概要	スマートフォンやSNS、AIなどのデジタルICTが普及し、DX（デジタルトランスフォーメーション）の必要性が言われる中、経営を行う上で、これを効果的に活用することは重要な課題である。この講義では、デジタルICTが経営においていかに活用されているかを学ぶ。経営においては、マーケティングなど市場対応部分に適用されるものもあれば、製品開発や生産などモノづくりにおいて活用されるもの、組織メンバー間のコミュニケーションや知識共有に用いられるものもある。こうした様々なデジタルICTを検討し、企業経営における活用方法について理解を深める。
授業の到達目標	本講義の目標は、経営において用いられるデジタルICTの活用について理解し、どのような役割を果たしうるかを説明できるようになることである。より具体的には、「経営における情報と重要性」、「現代の経営とICT」から始まり、「経営戦略とICT」、「マーケティングとICT」、「組織マネジメントとICT」、「モノづくりとICT」といった事柄について説明できることを目標とする。デジタルICTの活用にかかわる考え方やコンセプトを学ぶとともに、具体的な活用事例をとり上げて検討する。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	授業期間中に行う課題については授業内でフィードバックする。その他についてはウェブ上で行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス ：授業概要と履修上の注意点を理解する。	【予習】シラバスを読み授業内容を把握 【復習】授業スケジュールについて確認	120分	120分
第2回	経営における情報と重要性 ：情報という観点から企業という仕組みを捉え、企業経営における情報の重要性を学ぶ。	【予習】経営における情報の意義について検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第3回	現代の経営とデジタルICT ：ICTとその発展、DX（デジタルトランスフォーメーション）について確認し、経営における意義を学ぶ。	【予習】ビジネスにおけるデジタルICTの意義について検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第4回	デジタルICTの発展 ：ICTとは何か、どんな特徴があるのかについて学ぶ。	【予習】過去のICTについて調べる 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第5回	経営戦略と情報 ：デジタルICTの活用、DXを考える上で前提となる経営戦略の考え方について学ぶ。	【予習】経営戦略とは何かについて確認 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第6回	デジタルICTの戦略的意義 ：経営戦略の策定及び実現における情報とICTの意義について学ぶ。	【予習】デジタルICTが経営戦略にどう役立つか考える 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第7回	マーケティングと情報 ：情報の観点から企業のマーケティング活動について考え、デジタルICTの役割を学ぶ。	【予習】マーケティングとは何かについて確認 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第8回	サービスと情報 ：サービス提供における情報およびデジタルICTの意義について学ぶ。	【予習】サービスの特徴と情報の役割を検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分

第9回	市場対応のデジタルICT ：市場の変化に対応するためのICTについて学ぶ。	【予習】市場の変化をいかに捉えるかを検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第10回	組織マネジメントと情報 ：経営組織のマネジメントにおける情報とデジタルICTの意義について学ぶ。	【予習】組織とは何かを考え情報の意義を検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第11回	コミュニケーション技術の効果 ：組織コミュニケーションにおいて用いられるデジタルICTの変遷と意義、課題について学ぶ。	【予習】組織におけるコミュニケーションの重要性を確認 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第12回	モノづくりとデジタルICT ：製品開発や生産工程で利用されるデジタルICTについて学ぶ。	【予習】モノづくりにおいてどのような情報が必要かについて検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第13回	連携と統合のデジタルICT ：複数の業務、異なる部門、企業同士の連携と統合を支援するデジタルICTについて学ぶ。	【予習】関連する業務の連携が悪い状況を検討 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第14回	ICTガバナンス ：デジタルICTを適切に管理するための考え方と、中でも近年重要性が高まる情報セキュリティについて学ぶ。	【予習】情報漏洩やシステム停止の事例を調べる 【復習】授業内容についてレポート提出	120分	120分
第15回	まとめ ：授業を振り返り、重要な概念や考え方について再確認する。	【予習】これまでの授業全体を概観 【復習】授業全体を踏まえレポート提出	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常の取り組み		80%	授業内での取り組み姿勢や毎回のレポートにて評価する。	
最終試験		20%	最終の試験(レポート試験含む)にて評価する。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で指示する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を使用する	-	-	-	-
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業後に受け付ける。アポイントメントを取れば授業後に限らず可能な限り対応する。名城公園キャンパス2806。			
備考	関連するテーマに強い関心を有することが望ましい。遅刻・欠席・途中退席、授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの利用、その他の迷惑行為、不正行為は厳しく減点する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861007
科目名	I C T ビジネス		
担当教員	林 幹人		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	木曜2限
チームコード	ckhfk13	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	M131-238-04
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	ICTを用いたビジネスについて考える			
授業の概要	インターネットやスマートフォン、AIをはじめとするデジタルICTが普及した現在、これを前提としたビジネスが普及している。そこでこの授業では、インターネットビジネスなどICTを用いたビジネスをテーマとし、ビジネスモデルや戦略について検討する。授業においては、教員による講義や資料の検討を踏まえて関連ビジネスについての学びを深める。履修者には、事例や技術を知るだけでなく、自らビジネスモデルや競争環境を分析し、現状ないし将来を評価し、報告することが求められる。			
授業の到達目標	この授業の到達目標は、インターネットビジネスなどICTを用いたビジネスのビジネスモデルや関連する基本コンセプトについて理解し、その特徴を述べられるようになることである。また、そうした理解に基づいて、関連事例について自ら分析し評価したり、課題や改善点について提言できるようになることを目指す。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	授業期間中に行う課題については授業内でフィードバックする。その他についてはウェブ上で行う。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス ：授業概要と履修上の注意点を理解する。	【予習】 シラバスを熟読し授業内容を把握する 【復習】 授業スケジュールについて確認し学習計画を立てる	120分	120分
第2回	関連ビジネスの概観 ：講義にあたりインターネットなどデジタルICTについて概観するとともに、その背景や現状について確認する。	【予習】 インターネットやICTを用いたビジネスの特徴について予習する 【復習】 授業を踏まえ関連ビジネスの特徴について復習レポートを提出する	120分	120分
第3回	ビジネスモデル ：ビジネスを分析するための最も基本的な考え方であるビジネスモデルについて検討する。	【予習】 ビジネスモデルとは何か、なぜそれが必要かについて検討する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第4回	モノを売るビジネス ：インターネットやICTを活用して商品を販売するビジネスの特徴と事例を検討する。	【予習】 ICTを用いてモノを売るビジネスの特徴を検討する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第5回	コンテンツビジネス ：インターネットを通じてコンテンツを売るビジネスの特徴をモノを売る場合との比較を通じて検討する。	【予習】 モノを売る場合とコンテンツを売る場合の違いを検討する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第6回	無料ビジネス ：ネットビジネスをしばしば特徴づける無料ビジネスについて検討する。	【予習】 インターネットではなぜ無料サービスが提供されるか検討する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第7回	取引の場を提供するビジネス ：取引の場を提供するプラットフォームビジネスについて検討する。	【予習】 プラットフォームビジネスの特徴について予習する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第8回	シェアビジネス ：インターネットを介して価値を共有するビジネスについて検討する。	【予習】 価値あるものをシェアするビジネスの特徴を予習する 【復習】 授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分

第9回	消費者知識を生かすビジネス ：一般消費者の知識を価値に変えて提供するビジネスについて検討する。	【予習】消費者の知識を価値に変えて提供するビジネスについて予習する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第10回	ソーシャルメディアビジネス ：SNSやブログなどいわゆるソーシャルメディアのビジネスや、これをビジネスに活用しようとする企業の事例を検討する。	【予習】ソーシャルメディアのビジネスについて検討する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第11回	広告ビジネス ：広告を主たるサービスとするビジネスや、それを活用する企業について検討する。	【予習】ICTを用いた広告ビジネスについて検討する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第12回	メタバースとビジネス ：メタバースに関連するビジネスや、それを活用する企業について検討する。	【予習】メタバースに関するビジネスについて検討する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第13回	フィンテック ：ICTを用いた金融関連のサービスについて検討する。	【予習】フィンテックについて予習する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第14回	テックビジネス ：新たなテクノロジーを用いたサービスについて検討する。	【予習】新たなテクノロジーを用いたサービスについて予習する 【復習】授業を踏まえ復習レポートを提出する	120分	120分
第15回	まとめ ：授業を振り返り、重要な概念や考え方について再確認し、まとめを行う。	【予習】これまでに確認した資料を確認する 【復習】授業全体を踏まえ事例やコンセプトを整理する	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常の取り組み		80%	授業に誠実に取り組み、指定された課題を提出する。	
最終課題		20%	授業を踏まえ、レポートを提出する。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業で指示する	-	-	-	-
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を使用する	-	-	-	-
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業後に受け付ける。アポイントメントを取れば授業後に限らず可能な限り対応する。名城公園キャンパス2806。			
備考	インターネットなどのICTを用いたビジネスについて強い関心を有していることに加え、パソコンの操作に慣れていることが望ましい。遅刻・欠席・途中退席、授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの利用、その他の迷惑行為、不正行為は厳しく減点する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	761026
科目名	経営統計Ⅰ		
担当教員	千葉 賢		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜2限
チームコード	y27rgb7	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	M231-603-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	統計的思考とデータ解析法			
授業の概要	情報化社会の進展により、私たちの暮らしのなかで多種多様なデータが生み出されるようになった。これらのデータを適切な方法で処理し、価値ある情報を見出すためには、統計学の知識が不可欠である。本科目では、データ科学の問題解決に有益となる統計学の基本的な考え方やデータの活用方法について解説するとともに、社会で観測されるさまざまなデータを適切に分析する能力を養う。具体的には、データの視覚的表示・基本統計量の計算・各種統計解析法の習得を通じて、適切なデータの要約方法と解釈の仕方について学習する。特に、社会科学分野で観測されたデータを対象とすることから、データの関連性や因果関係の把握に有効な統計手法に力点をおく。講義は原則として下記スケジュールにしたがって実施されるが、受講者の理解を考慮して進度や講義内容は適宜調整する。			
授業の到達目標	(1) 統計学の基本的な考え方を理解できる (2) データを収集、整理、要約できる (3) データを客観的かつ適切に解釈できる (4) 分析結果をレポートやプレゼンテーション資料の作成に応用できる			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	Microsoft Teamsを用いて小テスト・レポートの回収、返却を行う。また、授業内でも問題の解答、解説を実施する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「統計学への誘い」：講義の概要と方針，統計学の役割と歴史	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第2回	「データ分析の流れ」：データの種類(質的・量的データ，比例・間隔尺度)，データセット例	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第3回	「質的データのまとめ方」：統計グラフ(円・棒・帯グラフ)，度数分布表，ヒストグラムの紹介	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第4回	「クロス集計表」：行％・列％・総％、オッズ比，ファイ係数の意味と算出，因果と関連の違い	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第5回	「多重クロス集計表」：三重クロス集計表，シンプソンのパラドックス，媒介変数と交互作用	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第6回	「量的データのまとめ方」：度数分布表，ヒストグラムと度数折れ線の作成	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第7回	「分布の形状」：単峰型・多峰型の分布，右・左に歪んだ分布の確認	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第8回	「分布の位置を表す代表値」：データの中心に関する代表値(平均値・最頻値・中央値)の意味と算出，はずれ値の影響，箱ひげ図の作成	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分

第9回	「分布のばらつきの大きさを測る」：データの散らばりに関する代表値(範囲・四分位範囲, 分散・標準偏差, 変動係数)の意味と算出	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第10回	「分布に関するその他の測度」：ローレンツ曲線の作成, 不平等度に関する指標(ジニ係数)の意味と算出	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第11回	「相関と散布図」：散布図・層別散布図の作成、データの関係性を表す尺度(共分散・ピアソンの積率相関係数)の意味と算出	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第12回	「見かけの相関」：疑似相関の特徴, 偏相関係数の意味と算出、相関係数の解釈の注意点	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第13回	「さまざまな相関係数」：スピアマン・ケンドールの順位相関係数	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第14回	「時系列データの処理」：時系列グラフの確認, 移動平均・指数・変化率・弾力性の意味と算出	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第15回	「横断面データの処理」：寄与度と寄与率, 構成比・発生比・特化係数の意味と算出	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト(15回)		70%	統計学の基本的な考え方を十分に理解し, データを適切に収集・整理・要約できる。	
平常点		30%	授業内で作成した電子ファイルの入力状況	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない	—	—	—	—
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析	日本統計学会	東京図書	978-4489023323	[価格]2420
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義内容で疑問がある場合は, 講義終了後に遠慮なく質問してください。オフィスアワー(金曜6限, 千葉研究室(2812))も積極的に活用してください。研究室に訪問するのが難しい場合は, E-mail(m-chiba@dpc.agu.ac.jp)やMicrosoft Teamsのチャット機能などを用いて連絡していただいても結構です。			
備考	秋学期に開講される「経営統計Ⅱ」もあわせて履修してください。なお, 授業中の私語, 携帯電話操作は厳禁とします。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	861022
科目名	経営統計Ⅱ		
担当教員	千葉 賢		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜2限
チームコード	f28s0zk	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	M231-603-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	統計的思考とデータ解析法
授業の概要	高度に情報化された現代社会では、確かな統計データと分析にもとづいて持続可能社会の発展に寄与する科学者や技術者，テレビや新聞・雑誌・インターネットなどで発表されている表やグラフを読み取り，論理的な議論ができる社会人(データサイエンティスト)が必要とされている．本科目では，数値データから重要な情報を適切に取り出すための科学的手法である統計学について学ぶ．具体的には，獲得された一部のデータ（標本）から，データ全体（母集団）の特徴を推し量る統計的推測について学習する．講義は原則として下記スケジュールにしたがって実施されるが，受講者の理解を考慮して進度や講義内容は適宜調整する．
授業の到達目標	(1) 統計学の基本的な考え方を理解できる (2) データを収集，整理，要約できる (3) 獲得された一部のデータから全体の特徴を推測できる (4) データを客観的かつ適切に解釈できる
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	Microsoft Teamsを用いて小テスト・レポートの回収，返却を行う．また，授業内でも問題の解答，解説を実施する．
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	「ガイダンス」：実験研究と観察研究，母集団と標本，標本抽出と調査方法	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第2回	「確率の概念」：場合の数，順列と組み合わせ，条件付き確率，ベイズの定理	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第3回	「確率分布(1)」：確率分布と確率変数，確率分布の平均・分散	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第4回	「確率分布(2)」：コイン投げとベルヌーイ試行，一様分布・正規分布の特徴	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第5回	「統計的推測」：推定の考え方，標本平均の標本分布	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第6回	「区間推定(1)」：点推定と区間推定，母平均の区間推定(分散既知)	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第7回	「区間推定(2)」：母平均の区間推定(分散未知)，母比率の区間推定(大標本)	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第8回	「統計的仮説検定(1)」：仮説検定の目的，母平均の検定(分散既知)	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分

第9回	「統計的仮説検定(2)」：母平均の検定(分散未知), 母比率の検定(大標本)	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第10回	「データ同士の関連性(1)」：散布図, 共分散, 相関係数, 疑似相関と偏相関	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第11回	「データ同士の関連性(2)」：母相関係数の区間推定・仮説検定, 順位相関係数	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第12回	「単回帰分析(1)」：回帰係数の点推定(最小二乗法), 決定係数	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第13回	「単回帰分析(2)」：回帰係数の区間推定, 統計量と自由度の概念	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第14回	「単回帰分析(3)」：回帰係数の仮説検定, 予測値の点推定・区間推定	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
第15回	「重回帰分析」：偏回帰係数の点推定・区間推定, 自由度調整済み決定係数	「予習」：Microsoft Teamsで事前に配布された資料を熟読する 「復習」：小テストに取り組む	120分	120分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト(15回)		70%	統計学の基本的な考え方を十分に理解し, データを適切に収集・整理・要約できる。	
平常点		30%	授業内で作成した電子ファイルの入力状況	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用しない	—	—	—	—
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎	日本統計学会	東京図書	978-4489022272	[価格]2420
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	講義内容で疑問がある場合は, 講義終了後に遠慮なく質問してください。オフィスアワーも積極的に活用してください。研究室に訪問するのが難しい場合は, E-mailやMicrosoft Teamsのチャット機能などを用いて連絡していただいても結構です。			
備考	春学期に開講される「経営統計Ⅰ」もあわせて履修してください。なお, 授業中の私語, 携帯電話操作は厳禁とします。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755027
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	葛西 正裕		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	yn9bmvz	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	文書作成、プレゼンテーションソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータ・AI活用における情報倫理の理解
授業の概要	本授業では、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。 また、データやAIを活用する上でのモラルやリスクを理解し、個人のデータを守るために留意すべき事項を学ぶ。 よって実践的な教育を展開すべく、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。
授業の到達目標	①代表的な文書作成ソフトウェアであるWord、大学生活やビジネスにおいて活用が不可欠とされるプレゼンテーションのためのPowerPointにおける各種機能を操作できる。 ②インターネットで利用できる便利なサービスや身近に起きているネットトラブルを知り、その対策と対応を実践できる。 ③データ・AIを活用する上での様々な留意事項や情報漏洩等からデータを守る上での留意点を学び、説明できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表前後1週間を目途に、Teamsにて最終評価に関する総評などを配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション① 講師紹介および情報リテラシーAガイダンス オンライン授業への対応（Teamsの基本操作とFormsによる出席確認）	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	オリエンテーション② 情報処理教育センター（ECIP）の紹介 パソコンの基本操作（OS・ファイル管理） MIKA TYPE(タイピングソフト）	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	インターネットで利用できる様々なサービス 身近なセキュリティトラブル事例（個人情報の取り扱い） 【データを守る上での留意点①（パスワード・著作権）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Word操作(1)：Wordの特長と文字入力 【データ・AIを扱う上での留意点①（プライバシー保護）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Webメールの基本操作とメールのマナーについて 【データ・AIを扱う上での留意点②（オプトイン・オプトアウトメール）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	Word操作(2)：基本的な文書作成 【データ・AIを扱う上での留意点③（忘れられる権利）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第7回	Word操作(3)：図や表の挿入 【データ・AIを扱う上での留意点④（データバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第8回	課題テスト①（Word課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第9回	Word操作(4)：文書の印刷と表現力をアップする機能【データ・AIを扱う上での留意点⑤（アルゴリズムバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	Word操作(5)：長文レポートの編集・校閲機能【データ・AIを扱う上での留意点⑥（データ倫理：盗用）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第11回	プレゼンテーションの概要、PowerPoint操作(1)：基本操作	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	PowerPoint操作(2)：特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定【SNS利用上の注意】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	PowerPoint操作(3)：スライドショー、PowerPointのまとめ、振り返り【データを守る上での留意事項②（暗号化）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	課題テスト②（PowerPoint課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだPowerPoint操作方法の反復練習)	240	0
第15回	最終課題テスト（Word課題 & タイピング）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
課題テスト（3回）とタイピングテスト		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10／Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755023
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	金澤 小夜子		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜3限
チームコード	al3axyn	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	文書作成、プレゼンテーションソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータ・AI活用における情報倫理の理解
授業の概要	本授業では、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。 また、データやAIを活用する上でのモラルやリスクを理解し、個人のデータを守るために留意すべき事項を学ぶ。 よって実践的な教育を展開すべく、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。
授業の到達目標	①代表的な文書作成ソフトウェアであるWord、大学生活やビジネスにおいて活用が不可欠とされるプレゼンテーションのためのPowerPointにおける各種機能を操作できる。 ②インターネットで利用できる便利なサービスや身近に起きているネットトラブルを知り、その対策と対応を実践できる。 ③データ・AIを活用する上での様々な留意事項や情報漏洩等からデータを守る上での留意点を学び、説明できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表前後1週間を目途に、Teamsにて最終評価に関する総評などを配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション① 講師紹介および情報リテラシーAガイダンス オンライン授業への対応（Teamsの基本操作とFormsによる出席確認）	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	オリエンテーション② 情報処理教育センター（ECIP）の紹介 パソコンの基本操作（OS・ファイル管理） MIKA TYPE(タイピングソフト）	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	インターネットで利用できる様々なサービス 身近なセキュリティトラブル事例（個人情報の取り扱い） 【データを守る上での留意点①（パスワード・著作権）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Word操作(1)：Wordの特長と文字入力 【データ・AIを扱う上での留意点①（プライバシー保護）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Webメールの基本操作とメールのマナーについて 【データ・AIを扱う上での留意点②（オプトイン・オプトアウトメール）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	Word操作(2)：基本的な文書作成 【データ・AIを扱う上での留意点③（忘れられる権利）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第7回	Word操作(3)：図や表の挿入 【データ・AIを扱う上での留意点④（データバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第8回	課題テスト①（Word課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第9回	Word操作(4)：文書の印刷と表現力をアップする機能【データ・AIを扱う上での留意点⑤（アルゴリズムバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	Word操作(5)：長文レポートの編集・校閲機能【データ・AIを扱う上での留意点⑥（データ倫理：盗用）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第11回	プレゼンテーションの概要、PowerPoint操作(1)：基本操作	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	PowerPoint操作(2)：特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定【SNS利用上の注意】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	PowerPoint操作(3)：スライドショー、PowerPointのまとめ、振り返り【データを守る上での留意事項②（暗号化）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	課題テスト②（PowerPoint課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだPowerPoint操作方法の反復練習)	240	0
第15回	最終課題テスト（Word課題 & タイピング）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
課題テスト（3回）とタイピングテスト		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10／Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755024
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	末次 新市		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜3限
チームコード	4067pxi	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	文書作成、プレゼンテーションソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータ・AI活用における情報倫理の理解
授業の概要	<p>本授業では、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データやAIを活用する上でのモラルやリスクを理解し、個人のデータを守るために留意すべき事項を学ぶ。よって実践的な教育を展開すべく、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な文書作成ソフトウェアであるWord、大学生活やビジネスにおいて活用が不可欠とされるプレゼンテーションのためのPowerPointにおける各種機能を操作できる。</p> <p>②インターネットで利用できる便利なサービスや身近に起きているネットトラブルを知り、その対策と対応を実践できる。</p> <p>③データ・AIを活用する上での様々な留意事項や情報漏洩等からデータを守る上での留意点を学び、説明できる。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表前後1週間を目途に、Teamsにて最終評価に関する総評などを配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション① 講師紹介および情報リテラシーAガイダンス オンライン授業への対応（Teamsの基本操作とFormsによる出席確認）	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	オリエンテーション② 情報処理教育センター（ECIP）の紹介 パソコンの基本操作（OS・ファイル管理） MIKA TYPE(タイピングソフト）	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	インターネットで利用できる様々なサービス 身近なセキュリティトラブル事例（個人情報の取り扱い） 【データを守る上での留意点①（パスワード・著作権）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Word操作(1)：Wordの特長と文字入力 【データ・AIを扱う上での留意点①（プライバシー保護）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Webメールの基本操作とメールのマナーについて 【データ・AIを扱う上での留意点②（オプトイン・オプトアウトメール）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	Word操作(2)：基本的な文書作成 【データ・AIを扱う上での留意点③（忘れられる権利）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第7回	Word操作(3)：図や表の挿入 【データ・AIを扱う上での留意点④（データバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第8回	課題テスト①（Word課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第9回	Word操作(4)：文書の印刷と表現力をアップする機能【データ・AIを扱う上での留意点⑤（アルゴリズムバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	Word操作(5)：長文レポートの編集・校閲機能【データ・AIを扱う上での留意点⑥（データ倫理：盗用）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第11回	プレゼンテーションの概要、PowerPoint操作(1)：基本操作	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	PowerPoint操作(2)：特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定【SNS利用上の注意】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	PowerPoint操作(3)：スライドショー、PowerPointのまとめ、振り返り【データを守る上での留意事項②（暗号化）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	課題テスト②（PowerPoint課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだPowerPoint操作方法の反復練習)	240	0
第15回	最終課題テスト（Word課題 & タイピング）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
課題テスト（3回）とタイピングテスト		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10／Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755026
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	大島 典子		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	ctrqtmy	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	文書作成、プレゼンテーションソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータ・AI活用における情報倫理の理解
授業の概要	本授業では、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。 また、データやAIを活用する上でのモラルやリスクを理解し、個人のデータを守るために留意すべき事項を学ぶ。 よって実践的な教育を展開すべく、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。
授業の到達目標	①代表的な文書作成ソフトウェアであるWord、大学生活やビジネスにおいて活用が不可欠とされるプレゼンテーションのためのPowerPointにおける各種機能を操作できる。 ②インターネットで利用できる便利なサービスや身近に起きているネットトラブルを知り、その対策と対応を実践できる。 ③データ・AIを活用する上での様々な留意事項や情報漏洩等からデータを守る上での留意点を学び、説明できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表前後1週間を目途に、Teamsにて最終評価に関する総評などを配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション① 講師紹介および情報リテラシーAガイダンス オンライン授業への対応（Teamsの基本操作とFormsによる出席確認）	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	オリエンテーション② 情報処理教育センター（ECIP）の紹介 パソコンの基本操作（OS・ファイル管理） MIKA TYPE(タイピングソフト）	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	インターネットで利用できる様々なサービス 身近なセキュリティトラブル事例（個人情報の取り扱い） 【データを守る上での留意点①（パスワード・著作権）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Word操作(1)：Wordの特長と文字入力 【データ・AIを扱う上での留意点①（プライバシー保護）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Webメールの基本操作とメールのマナーについて 【データ・AIを扱う上での留意点②（オプトイン・オプトアウトメール）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	Word操作(2)：基本的な文書作成 【データ・AIを扱う上での留意点③（忘れられる権利）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第7回	Word操作(3)：図や表の挿入 【データ・AIを扱う上での留意点④（データバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第8回	課題テスト①（Word課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第9回	Word操作(4)：文書の印刷と表現力をアップする機能【データ・AIを扱う上での留意点⑤（アルゴリズムバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	Word操作(5)：長文レポートの編集・校閲機能【データ・AIを扱う上での留意点⑥（データ倫理：盗用）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第11回	プレゼンテーションの概要、PowerPoint操作(1)：基本操作	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	PowerPoint操作(2)：特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定【SNS利用上の注意】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	PowerPoint操作(3)：スライドショー、PowerPointのまとめ、振り返り【データを守る上での留意事項②（暗号化）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	課題テスト②（PowerPoint課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだPowerPoint操作方法の反復練習)	240	0
第15回	最終課題テスト（Word課題 & タイピング）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
課題テスト（3回）とタイピングテスト		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10／Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755021
科目名	情報リテラシー A		
担当教員	内田 美紀子		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	金曜3限
チームコード	1ze52tq	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-01
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	文書作成、プレゼンテーションソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータ・AI活用における情報倫理の理解
授業の概要	本授業では、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。 また、データやAIを活用する上でのモラルやリスクを理解し、個人のデータを守るために留意すべき事項を学ぶ。 よって実践的な教育を展開すべく、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。
授業の到達目標	①代表的な文書作成ソフトウェアであるWord、大学生活やビジネスにおいて活用が不可欠とされるプレゼンテーションのためのPowerPointにおける各種機能を操作できる。 ②インターネットで利用できる便利なサービスや身近に起きているネットトラブルを知り、その対策と対応を実践できる。 ③データ・AIを活用する上での様々な留意事項や情報漏洩等からデータを守る上での留意点を学び、説明できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表前後1週間を目途に、Teamsにて最終評価に関する総評などを配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション① 講師紹介および情報リテラシーAガイダンス オンライン授業への対応（Teamsの基本操作とFormsによる出席確認）	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	オリエンテーション② 情報処理教育センター（ECIP）の紹介 パソコンの基本操作（OS・ファイル管理） MIKA TYPE(タイピングソフト）	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	インターネットで利用できる様々なサービス 身近なセキュリティトラブル事例（個人情報の取り扱い） 【データを守る上での留意点①（パスワード・著作権）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Word操作(1)：Wordの特長と文字入力 【データ・AIを扱う上での留意点①（プライバシー保護）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Webメールの基本操作とメールのマナーについて 【データ・AIを扱う上での留意点②（オプトイン・オプトアウトメール）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	Word操作(2)：基本的な文書作成 【データ・AIを扱う上での留意点③（忘れられる権利）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第7回	Word操作(3)：図や表の挿入 【データ・AIを扱う上での留意点④（データバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第8回	課題テスト①（Word課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第9回	Word操作(4)：文書の印刷と表現力をアップする機能【データ・AIを扱う上での留意点⑤（アルゴリズムバイアス）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	Word操作(5)：長文レポートの編集・校閲機能【データ・AIを扱う上での留意点⑥（データ倫理：盗用）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第11回	プレゼンテーションの概要、PowerPoint操作(1)：基本操作	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	PowerPoint操作(2)：特殊効果の設定、印刷、共通デザインの設定【SNS利用上の注意】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	PowerPoint操作(3)：スライドショー、PowerPointのまとめ、振り返り【データを守る上での留意事項②（暗号化）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	課題テスト②（PowerPoint課題）	予習:テスト勉強(これまでに学んだPowerPoint操作方法の反復練習)	240	0
第15回	最終課題テスト（Word課題 & タイピング）	予習:テスト勉強(これまでに学んだWord操作方法の反復練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
課題テスト（3回）とタイピングテスト		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10／Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	855028
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	渡邊 隆俊		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	j1sqjz	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	表計算ソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータサイエンスの基礎的素養を学ぶ
授業の概要	<p>本授業では、情報リテラシーAに引き続いて、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データ・AI活用の最新動向を解説したり、身の回りのデータを元にデータ処理をするなどして、データサイエンスの基本的素養を身につけさせる。</p> <p>よって実践的な教育を展開すべく、春学期と同様、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを使用して、データの種類や性質を理解し、データを活用するための各種機能を操作することができる。</p> <p>②Excelを使ってデータを視覚的に表現したり、分析したりする手法を実行できる。</p> <p>③身の回りにおけるデータ・AI活用の事例や最新動向を説明することができる。</p> <p>④データを適切に読み解く力、説明する力、扱うための力を養う。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後一週間後を目途に、WebCampusまたはTeamsで行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 【経済・社会活動の様子を把握する様々なデータ】	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	Excel操作(1)：Excelの基本要素と基本動作、データの入力・編集、表作成 【データの集計(合計、平均)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	Excel操作(2)：相対参照と絶対参照	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Excel操作(3)：表の書式設定と印刷	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Excel操作(4)：条件付き書式と総合演習(基本操作)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	小テスト①(Excel基礎)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)(240)	240	0
第7回	Excel操作(5)：関数の活用(基礎) 【データの集計(合計)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第8回	Excel操作(6)：関数の活用(応用) 【データのランキングと分布（ヒストグラム）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第9回	Excel操作(7)：複数シートの操作と総合演習(関数)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	小テスト②(Excel関数)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習)(240)	240	0
第11回	Excel操作(8)：グラフ作成①と編集 【データの図表現（折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	Excel操作(9)：グラフ作成②とデータの表現方法(スパークライン) 【データの可視化（複合グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	Excel活用(1)：データベース機能①(並べ替え・フィルター・集計) 【データの並び替え、抽出、加工、解析】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	Excel活用(2)：データベース機能②(ピボットとテーブルの活用) 【データの加工、解析、クロス集計】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第15回	最終課題テスト(タイピングテストを含む)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の確認や練習&タイピング練習)(360)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
小テスト・課題テスト（計3回）		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10 / Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-421-9	[価格]1,000(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。1年生クラスでは同一时限内で教員が担当するクラスをローテーションすることを予定しており、春学期とは異なる教員が授業を担当する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	855023
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	金澤 小夜子		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜3限
チームコード	6hohqp4	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	表計算ソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータサイエンスの基礎的素養を学ぶ
授業の概要	<p>本授業では、情報リテラシーAに引き続いて、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データ・AI活用の最新動向を解説したり、身の回りのデータを元にデータ処理をするなどして、データサイエンスの基本的素養を身につけさせる。</p> <p>よって実践的な教育を展開すべく、春学期と同様、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを使用して、データの種類や性質を理解し、データを活用するための各種機能を操作することができる。</p> <p>②Excelを使ってデータを視覚的に表現したり、分析したりする手法を実行できる。</p> <p>③身の回りにおけるデータ・AI活用の事例や最新動向を説明することができる。</p> <p>④データを適切に読み解く力、説明する力、扱うための力を養う。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後一週間後を目途に、WebCampusまたはTeamsで行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 【経済・社会活動の様子を把握する様々なデータ】	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	Excel操作(1)：Excelの基本要素と基本動作、データの入力・編集、表作成 【データの集計(合計、平均)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	Excel操作(2)：相対参照と絶対参照	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Excel操作(3)：表の書式設定と印刷	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Excel操作(4)：条件付き書式と総合演習(基本操作)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	小テスト①(Excel基礎)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第7回	Excel操作(5)：関数の活用(基礎) 【データの集計(合計)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第8回	Excel操作(6)：関数の活用(応用) 【データのランキングと分布（ヒストグラム）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第9回	Excel操作(7)：複数シートの操作と総合演習(関数)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	小テスト②(Excel関数)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習)	240	0
第11回	Excel操作(8)：グラフ作成①と編集 【データの図表現（折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	Excel操作(9)：グラフ作成②とデータの表現方法(スパークライン) 【データの可視化（複合グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	Excel活用(1)：データベース機能①(並べ替え・フィルター・集計) 【データの並び替え、抽出、加工、解析】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	Excel活用(2)：データベース機能②(ピボットとテーブルの活用) 【データの加工、解析、クロス集計】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第15回	最終課題テスト(タイピングテストを含む)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の確認や練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
小テスト・課題テスト（計3回）		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10 / Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-421-9	[価格]1,000(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。1年生クラスでは同一时限内で教員が担当するクラスをローテーションすることを予定しており、春学期とは異なる教員が授業を担当する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	855027
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	末次 新市		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	mwtz9hc	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	表計算ソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータサイエンスの基礎的素養を学ぶ
授業の概要	<p>本授業では、情報リテラシーAに引き続いて、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データ・AI活用の最新動向を解説したり、身の回りのデータを元にデータ処理をするなどして、データサイエンスの基本的素養を身につけさせる。</p> <p>よって実践的な教育を展開すべく、春学期と同様、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを使用して、データの種類や性質を理解し、データを活用するための各種機能を操作することができる。</p> <p>②Excelを使ってデータを視覚的に表現したり、分析したりする手法を実行できる。</p> <p>③身の回りにおけるデータ・AI活用の事例や最新動向を説明することができる。</p> <p>④データを適切に読み解く力、説明する力、扱うための力を養う。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後一週間後を目途に、WebCampusまたはTeamsで行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 【経済・社会活動の様子を把握する様々なデータ】	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	Excel操作(1)：Excelの基本要素と基本動作、データの入力・編集、表作成 【データの集計(合計、平均)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	Excel操作(2)：相対参照と絶対参照	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Excel操作(3)：表の書式設定と印刷	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Excel操作(4)：条件付き書式と総合演習(基本操作)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	小テスト①(Excel基礎)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第7回	Excel操作(5)：関数の活用(基礎) 【データの集計(合計)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第8回	Excel操作(6)：関数の活用(応用) 【データのランキングと分布（ヒストグラム）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第9回	Excel操作(7)：複数シートの操作と総合演習(関数)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	小テスト②(Excel関数)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習)	240	0
第11回	Excel操作(8)：グラフ作成①と編集 【データの図表現（折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	Excel操作(9)：グラフ作成②とデータの表現方法(スパークライン) 【データの可視化（複合グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	Excel活用(1)：データベース機能①(並べ替え・フィルター・集計) 【データの並び替え、抽出、加工、解析】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	Excel活用(2)：データベース機能②(ピボットとテーブルの活用) 【データの加工、解析、クロス集計】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第15回	最終課題テスト(タイピングテストを含む)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の確認や練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
小テスト・課題テスト（計3回）		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10 / Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-421-9	[価格]1,000(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。1年生クラスでは同一时限内で教員が担当するクラスをローテーションすることを予定しており、春学期とは異なる教員が授業を担当する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	855026
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	大島 典子		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	jrfhem6	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	表計算ソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータサイエンスの基礎的素養を学ぶ
授業の概要	<p>本授業では、情報リテラシーAに引き続いて、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データ・AI活用の最新動向を解説したり、身の回りのデータを元にデータ処理をするなどして、データサイエンスの基本的素養を身につけさせる。</p> <p>よって実践的な教育を展開すべく、春学期と同様、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを使用して、データの種類や性質を理解し、データを活用するための各種機能を操作することができる。</p> <p>②Excelを使ってデータを視覚的に表現したり、分析したりする手法を実行できる。</p> <p>③身の回りにおけるデータ・AI活用の事例や最新動向を説明することができる。</p> <p>④データを適切に読み解く力、説明する力、扱うための力を養う。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後一週間後を目途に、WebCampusまたはTeamsで行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 【経済・社会活動の様子を把握する様々なデータ】	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	Excel操作(1)：Excelの基本要素と基本動作、データの入力・編集、表作成 【データの集計(合計、平均)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	Excel操作(2)：相対参照と絶対参照	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Excel操作(3)：表の書式設定と印刷	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Excel操作(4)：条件付き書式と総合演習(基本操作)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	小テスト①(Excel基礎)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第7回	Excel操作(5)：関数の活用(基礎) 【データの集計(合計)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第8回	Excel操作(6)：関数の活用(応用) 【データのランキングと分布（ヒストグラム）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第9回	Excel操作(7)：複数シートの操作と総合演習(関数)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	小テスト②(Excel関数)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習)	240	0
第11回	Excel操作(8)：グラフ作成①と編集 【データの図表現（折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	Excel操作(9)：グラフ作成②とデータの表現方法(スパークライン) 【データの可視化（複合グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	Excel活用(1)：データベース機能①(並べ替え・フィルター・集計) 【データの並び替え、抽出、加工、解析】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	Excel活用(2)：データベース機能②(ピボットとテーブルの活用) 【データの加工、解析、クロス集計】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第15回	最終課題テスト(タイピングテストを含む)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の確認や練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
小テスト・課題テスト（計3回）		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10 / Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-421-9	[価格]1,000(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。1年生クラスでは同一时限内で教員が担当するクラスをローテーションすることを予定しており、春学期とは異なる教員が授業を担当する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	855025
科目名	情報リテラシー B		
担当教員	内田 美紀子		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	93v3ial	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E111-277-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	表計算ソフトウェアに関する情報リテラシーの修得とデータサイエンスの基礎的素養を学ぶ
授業の概要	<p>本授業では、情報リテラシーAに引き続いて、大学における学習や研究活動、さらには就職活動や就職後の社会生活まで見越した情報リテラシー、すなわちパーソナルコンピュータにおける情報処理の基礎技能と知識を修得する。</p> <p>また、データ・AI利活用の最新動向を解説したり、身の回りのデータを元にデータ処理をするなどして、データサイエンスの基本的素養を身につけさせる。</p> <p>よって実践的な教育を展開すべく、春学期と同様、株式会社富士通ラーニングメディアと連携し、授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを使用して、データの種類や性質を理解し、データを活用するための各種機能を操作することができる。</p> <p>②Excelを使ってデータを視覚的に表現したり、分析したりする手法を実行できる。</p> <p>③身の回りにおけるデータ・AI利活用の事例や最新動向を説明することができる。</p> <p>④データを適切に読み解く力、説明する力、扱うための力を養う。</p>
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後一週間後を目途に、WebCampusまたはTeamsで行う。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	富士通が有する情報リテラシーに関する知見を活かし、受講生が授業の到達目標に記した内容を修得できるよう実践的な教育を展開する。実務経験のある教員は、末次新市、大島典子、内田美紀子そして金澤小夜子である。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	ガイダンス 【経済・社会活動の様子を把握する様々なデータ】	予習:シラバスを事前に読んでおく 復習:授業内容の理解	30	90
第2回	Excel操作(1)：Excelの基本要素と基本動作、データの入力・編集、表作成 【データの集計(合計、平均)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第3回	Excel操作(2)：相対参照と絶対参照	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第4回	Excel操作(3)：表の書式設定と印刷	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第5回	Excel操作(4)：条件付き書式と総合演習(基本操作)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第6回	小テスト①(Excel基礎)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習&情報に関する知識の復習)	240	0
第7回	Excel操作(5)：関数の活用(基礎) 【データの集計(合計)】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第8回	Excel操作(6)：関数の活用(応用) 【データのランキングと分布（ヒストグラム）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180

第9回	Excel操作(7)：複数シートの操作と総合演習(関数)	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第10回	小テスト②(Excel関数)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の反復練習)	240	0
第11回	Excel操作(8)：グラフ作成①と編集 【データの図表現（折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第12回	Excel操作(9)：グラフ作成②とデータの表現方法(スパークライン) 【データの可視化（複合グラフ）】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第13回	Excel活用(1)：データベース機能①(並べ替え・フィルター・集計) 【データの並び替え、抽出、加工、解析】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第14回	Excel活用(2)：データベース機能②(ピボットとテーブルの活用) 【データの加工、解析、クロス集計】	予習:授業で演習する内容を予習しておく 復習:授業中に終わらなかった演習問題や授業で演習した内容の反復練習	60	180
第15回	最終課題テスト(タイピングテストを含む)	予習:テスト勉強(これまでに学んだExcel操作方法の確認や練習&タイピング練習)	360	0
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
平常点		20%	授業への積極的な参加度、受講態度など	
小テスト・課題テスト（計3回）		80%	設問に対して、正確なソフトウェア操作技術や知識が身についているかなど	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 10 / Office 2019 対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-417-2	[価格]2,500(本体)
よくわかる Microsoft Excel 2019 ドリル	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-421-9	[価格]1,000(本体)
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業前後の空き時間において質疑に応じる。			
備考	座席を指定する。1年生クラスでは同一时限内で教員が担当するクラスをローテーションすることを予定しており、春学期とは異なる教員が授業を担当する。 当該科目のシラバスは、本学科共通のシラバスである。 授業スケジュール内の【】で囲んだトピックは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			
添付ファイル				

開講年度	2024年度	講義コード	755058
科目名	経済情報論 A		
担当教員	葛西 正裕		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	月曜5限
チームコード	oc3xla0	キャンパス	名城公園キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	3年		
単位数	2単位	科目ナンバー	E331-234-26
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	ITが経済活動に与える影響を学び、ITを基盤とする経済の課題や今後についてアクティブラーニングを通じて検討する。
授業の概要	インターネットをはじめとするIT：情報技術(ICT：情報通信技術ともよばれる)は、自動車、金融、観光などありとあらゆる産業に対して、今までの経済活動を根幹から変えるようなインパクトを与えている。経済活動の現場（ミクロレベル）における最新のIT活用事例や日本（マクロレベル）のITによる経済成長のメカニズムを知るのと同時に、社会変化の裏側にあるITの知識を理解する。 経済と情報の両面について学ぶことができ、ITが浸透する現在社会において基礎的な知識を得ることができる。
授業の到達目標	本授業では、ITの基礎知識を学習することで汎用的技能における情報リテラシーの修得や、毎講義の課題に対して図書館やインターネットによる資料収集に努めるなど積極的に取り組むことで問題解決力を培う。また、アクティブラーニングを取り入れた講義を展開する。グループワークによって協調して課題に取り組む姿勢や課題に対するディスカッションによって積極的に発言する姿勢を培う。 ※参考として、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に対し、第2～4講(IT人材の現状、課題、教育)、第9講（ビッグデータの概要)、第11講(IoTの概要)、第13講(金融におけるIT利活用)は「1-1.社会で起きている変化」に、第9講(ビッグデータの要素技術と活用事例)、第10講(自動車におけるデータ活用)、第12講（AI技術の概要とAI利活用）は「1-6.データ・AI利活用の最新動向」に対応している。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	各講義のグループワークや個人ワークの評価については、次週の講義で評価した点を解説しながら公表する。また、ディスカッションや授業における発言回数に応じた得点は開示する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	オリエンテーション 個人ワーク課題	予習:シラバスの把握 復習:講義内容の復習と課題提出	30	30
第2回	【IT人材白書から学ぶIT人材の概要とニーズ】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第3回	【IT人材白書から学ぶIT人材不足の要因と対策】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第4回	【IT人材（AI人材）教育の展開】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第5回	オフショアリング 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第6回	コンピュータの進化 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第7回	コンピュータの原理と半導体産業 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240
第8回	デジタルコンテンツ産業 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題	復習:講義内容の復習と課題提出	0	240

	ークor個人ワーク課題			
第9回	【ビッグデータの要素技術と活用事例】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第10回	【ITと自動車:ITSとCASE】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第11回	【IoT】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第12回	【人工知能（AI）の技術と利活用事例】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第13回	【ITと金融:フィンテック】 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第14回	情報通信白書から学ぶITの経済分析 前回講義課題に対するディスカッションとグループワークor個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 240
第15回	講義の総括 グループワークやディスカッションに対するフィードバック 前回講義課題に対するディスカッション 個人ワーク課題		復習:講義内容の復習と課題提出	0 420
試験実施方法		定期試験		
評価方法				
評価方法		評価割合		評価基準など
定期試験		50%		ITに関する知識の定着度や経済とITの融合分野に対する見識を評価する
その他		50%		グループワーク課題、個人ワーク課題の内容と課題に対するディスカッションや授業における個人の発言回数を評価する
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業内で配布	－	－	－	－
参考書・参考資料				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報通信白書	総務省			過年度版を含む
IT人材白書	独立行政法人情報処理推進機構			過年度版を含む
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	授業中において質疑に応じる。それ以外については、アポイントメントをとった上で質疑すること。なお、オフィスアワーは木曜日昼休み(2703研究室)である。			
備考	本授業はアクティブラーニング形式で展開する予定なので、グループワークor個人ワークやディスカッションに積極的に取り組む姿勢が求められる。課題に取り組んだり授業資料を閲覧するためにも初回講義からノートパソコンやタブレットパソコン等を各自持ち込んで受講すること。パソコンを用意できない場合は、授業前に資料を印刷しておいたり、授業後に課題を提出することが求められる。また、授業スケジュール内の【 】で囲んだ授業テーマは、「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」の学修内容を意味する。			

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度	講義コード	281005
科目名	情報リテラシーⅡ		
担当教員	二神 拓也		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	ay18q2u	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G111-902-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	人工知能（AI）が活用された社会で生きる
授業の概要	この講義では、AI時代に必須となる基礎的なAI・IT（情報技術）知識や、AIの利活用方法を学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基本的な知識を説明できる。 ・ニューラルネットワークの基本的な計算ができる。 ・過去に開発されてきたAI技術と深層学習技術の違いを説明できる。 ・AIの定量評価方法を理解し、状況に応じて最も性能の高いAIを選択できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	・成績発表後に、講義連絡を通じ授業・試験についての講評を送信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	社会インフラ系の企業でAIを研究・開発していた教員が中心となり、開発現場やビジネスで必要となるAI技術やAI知識を身に付けられる講義資料を作成している。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	統計処理（基礎）（1）	【予習】 シラバスにより授業内容をあらかじめ把握する(30分) 【復習】 授業の内容・進め方、当日の授業の内容について理解・確認する(210分)	30分	210分
第2回	統計処理（基礎）（2）	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第3回	人工知能（基礎）	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第4回	人工知能の歴史	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第5回	機械学習（基礎）	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第6回	ニューラルネットワーク（基礎）	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第7回	機械学習（応用） 説明可能なAI	【予習】 担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】 当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分

第8回	中間復習 小テストと解説	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第9回	ニューラルネットワーク（応用）（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第10回	ニューラルネットワーク（応用）（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第11回	人工知能の実用化	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第12回	自動運転用の人工知能	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第13回	人工知能の性能評価（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第14回	人工知能の性能評価（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第15回	総復習 小テストと解説	【予習】これまで学んできた内容を理解する(180) 【復習】これまで学んできた内容を理解・確認する。 (180)	180分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト・総合テスト		80%	理解度を評価する。欠席した場合は、評価対象外とする。	
取り組み姿勢		20%	課題の取り組み姿勢を評価する。取り組み姿勢が著しく悪い学生は単位を認定できない。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員が配布する	—	—	—	—
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・ 授業後に時間がある場合は、各クラスの担当教員が教室で対応する。 ・ 授業後に質疑対応ができないこともあるため、質疑応答を担当する教員の連絡先を初回授業で紹介する。 ・ 授業をサポートするSAも質問に応える。			
備考	・ 諸事情により（新型コロナウイルス感染症対策等）シラバス記載内容に変更が生じる可能性がある。その時は、授業やWebCampusなどを通じて通知する。 ・ 教科書の内容は理解していることを前提として講義を進めるため、予習が必要となる。 ・ 欠席した場合、次回授業までに欠席回の内容を理解すること。 ・ 教員が説明している最中に発言をしたい場合、必ず挙手をしてから行うこと。挙手のない発言は全て私語とみなす。			

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度	講義コード	281002
科目名	情報リテラシーⅡ		
担当教員	永井 昌寛		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	金曜4限
チームコード	ecrce1v	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G111-902-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	人工知能（AI）が活用された社会で生きる
授業の概要	この講義では、AI時代に必須となる基礎的なAI・IT（情報技術）知識や、AIの利活用方法を学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基本的な知識を説明できる。 ・ニューラルネットワークの基本的な計算ができる。 ・過去に開発されてきたAI技術と深層学習技術の違いを説明できる。 ・AIの定量評価方法を理解し、状況に応じて最も性能の高いAIを選択できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	・成績発表後に、講義連絡を通じ授業・試験についての講評を送信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	社会インフラ系の企業でAIを研究・開発していた教員が中心となり、開発現場やビジネスで必要となるAI技術やAI知識を身に付けられる講義資料を作成している。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	統計処理（基礎）（1）	<p>【予習】シラバスにより授業内容をあらかじめ把握する(30分)</p> <p>【復習】授業の内容・進め方、当日の授業の内容について理解・確認する(210分)</p>	30分	210分
第2回	統計処理（基礎）（2）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第3回	人工知能（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第4回	人工知能の歴史	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第5回	機械学習（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第6回	ニューラルネットワーク（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第7回	機械学習（応用） 説明可能なAI	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分

第8回	中間復習 小テストと解説	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第9回	ニューラルネットワーク（応用）（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第10回	ニューラルネットワーク（応用）（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第11回	人工知能の実用化	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第12回	自動運転用の人工知能	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第13回	人工知能の性能評価（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第14回	人工知能の性能評価（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第15回	総復習 小テストと解説	【予習】これまで学んできた内容を理解する(180) 【復習】これまで学んできた内容を理解・確認する。 (180)	180分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト・総合テスト		80%	理解度を評価する。欠席した場合は、評価対象外とする。	
取り組み姿勢		20%	課題の取り組み姿勢を評価する。取り組み姿勢が著しく悪い学生は単位を認定できない。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員が配布する	—	—	—	—
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・ 授業後に時間がある場合は、各クラスの担当教員が教室で対応する。 ・ 授業後に質疑対応ができないこともあるため、質疑応答を担当する教員の連絡先を初回授業で紹介する。 ・ 授業をサポートするSAも質問に応える。			
備考	・ 諸事情により（新型コロナウイルス感染症対策等）シラバス記載内容に変更が生じる可能性がある。その時は、授業やWebCampusなどを通じて通知する。 ・ 教科書の内容は理解していることを前提として講義を進めるため、予習が必要となる。 ・ 欠席した場合、次回授業までに欠席回の内容を理解すること。 ・ 教員が説明している最中に発言をしたい場合、必ず挙手をしてから行うこと。挙手のない発言は全て私語とみなす。			

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度	講義コード	281007
科目名	情報リテラシーⅡ		
担当教員	本村 扇仁		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	ifmf0d7	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G111-902-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	人工知能（AI）が活用された社会で生きる
授業の概要	この講義では、AI時代に必須となる基礎的なAI・IT（情報技術）知識や、AIの利活用方法を学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの基本的な知識を説明できる。 ・ニューラルネットワークの基本的な計算ができる。 ・過去に開発されてきたAI技術と深層学習技術の違いを説明できる。 ・AIの定量評価方法を理解し、状況に応じて最も性能の高いAIを選択できる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	・成績発表後に、講義連絡を通じ授業・試験についての講評を送信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	実務経験あり
実務経験をいかした教育内容	社会インフラ系の企業でAIを研究・開発していた教員が中心となり、開発現場やビジネスで必要となるAI技術やAI知識を身に付けられる講義資料を作成している。

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	統計処理（基礎）（1）	<p>【予習】シラバスにより授業内容をあらかじめ把握する(30分)</p> <p>【復習】授業の内容・進め方、当日の授業の内容について理解・確認する(210分)</p>	30分	210分
第2回	統計処理（基礎）（2）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第3回	人工知能（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第4回	人工知能の歴史	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第5回	機械学習（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第6回	ニューラルネットワーク（基礎）	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分
第7回	機械学習（応用） 説明可能なAI	<p>【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分)</p> <p>【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)</p>	90分	180分

第8回	中間復習 小テストと解説	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第9回	ニューラルネットワーク（応用）（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第10回	ニューラルネットワーク（応用）（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第11回	人工知能の実用化	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第12回	自動運転用の人工知能	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第13回	人工知能の性能評価（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第14回	人工知能の性能評価（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第15回	総復習 小テストと解説	【予習】これまで学んできた内容を理解する(180) 【復習】これまで学んできた内容を理解・確認する。 (180)	180分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト・総合テスト		80%	理解度を評価する。欠席した場合は、評価対象外とする。	
取り組み姿勢		20%	課題の取り組み姿勢を評価する。取り組み姿勢が著しく悪い学生は単位を認定できない。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員が配布する	—	—	—	—
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・ 授業後に時間がある場合は、各クラスの担当教員が教室で対応する。 ・ 授業後に質疑対応ができないこともあるため、質疑応答を担当する教員の連絡先を初回授業で紹介する。 ・ 授業をサポートするSAも質問に応える。			
備考	・ 諸事情により（新型コロナウイルス感染症対策等）シラバス記載内容に変更が生じる可能性がある。その時は、授業やWebCampusなどを通じて通知する。 ・ 教科書の内容は理解していることを前提として講義を進めるため、予習が必要となる。 ・ 欠席した場合、次回授業までに欠席回の内容を理解すること。 ・ 教員が説明している最中に発言をしたい場合、必ず挙手をしてから行うこと。挙手のない発言は全て私語とみなす。			

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度	講義コード	281008
科目名	情報リテラシーⅡ		
担当教員	後藤 時政		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	水曜2限
チームコード	s2ts8j0	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	1年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G111-902-02
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	人工知能（AI）が活用された社会で生きる			
授業の概要	この講義では、AI時代に必須となる基礎的なAI・IT（情報技術）知識や、AIの利活用方法を学習する。			
授業の到達目標	・ AIの基本的な知識を説明できる。 ・ ニューラルネットワークの基本的な計算ができる。 ・ 過去に開発されてきたAI技術と深層学習技術の違いを説明できる。 ・ AIの定量評価方法を理解し、状況に応じて最も性能の高いAIを選択できる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	・ 成績発表後に、講義連絡を通じ授業・試験についての講評を送信する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	実務経験あり			
実務経験をいかした教育内容	社会インフラ系の企業でAIを研究・開発していた教員が中心となり、開発現場やビジネスで必要となるAI技術やAI知識を身に付けられる講義資料を作成している。			
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	統計処理（基礎）（1）	【予習】シラバスにより授業内容をあらかじめ把握する(30分) 【復習】授業の内容・進め方、当日の授業の内容について理解・確認する(210分)	30分	210分
第2回	統計処理（基礎）（2）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第3回	人工知能（基礎）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第4回	人工知能の歴史	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第5回	機械学習（基礎）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第6回	ニューラルネットワーク（基礎）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第7回	機械学習（応用） 説明可能なAI	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分

第8回	中間復習 小テストと解説	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第9回	ニューラルネットワーク（応用）（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第10回	ニューラルネットワーク（応用）（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第11回	人工知能の実用化	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第12回	自動運転用の人工知能	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第13回	人工知能の性能評価（１）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第14回	人工知能の性能評価（２）	【予習】担当教員が指示する内容をあらかじめ把握する(90分) 【復習】当日の授業の内容について理解・確認する。 課題が未完成なものは次週までに完成させる(180分)	90分	180分
第15回	総復習 小テストと解説	【予習】これまで学んできた内容を理解する(180) 【復習】これまで学んできた内容を理解・確認する。 (180)	180分	180分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
小テスト・総合テスト		80%	理解度を評価する。欠席した場合は、評価対象外とする。	
取り組み姿勢		20%	課題の取り組み姿勢を評価する。取り組み姿勢が著しく悪い学生は単位を認定できない。	
評価詳細				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員が配布する	—	—	—	—
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・ 授業後に時間がある場合は、各クラスの担当教員が教室で対応する。 ・ 授業後に質疑対応ができないこともあるため、質疑応答を担当する教員の連絡先を初回授業で紹介する。 ・ 授業をサポートするSAも質問に応える。			
備考	・ 諸事情により（新型コロナウイルス感染症対策等）シラバス記載内容に変更が生じる可能性がある。その時は、授業やWebCampusなどを通じて通知する。 ・ 教科書の内容は理解していることを前提として講義を進めるため、予習が必要となる。 ・ 欠席した場合、次回授業までに欠席回の内容を理解すること。 ・ 教員が説明している最中に発言をしたい場合、必ず挙手をしてから行うこと。挙手のない発言は全て私語とみなす。			

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度	講義コード	181105
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	伊藤 久司		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜1限
チームコード	rxf2ohs	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181106
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	永井 昌寛		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜1限
チームコード	6uqk0wl	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う			
授業の概要	データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。 なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。			
授業の到達目標	・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。			
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。			
使用言語	日本語			
担当教員の実務経験	なし			
実務経験をいかした教育内容				
授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現 1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現 2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181107
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	桑村 幸恵		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜1限
チームコード	c0gkwb1	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181108
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	太幡 直也		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜1限
チームコード	u4ftgi8	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181109
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	伊藤 久司		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜2限
チームコード	3xiufeu	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181110
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	永井 昌寛		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜2限
チームコード	q36eo58	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181111
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	桑村 幸恵		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜2限
チームコード	t5gmx2v	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	181112
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	高松 礼奈		
開講学期	2024年度春学期	曜日時限	火曜2限
チームコード	1qr0ne7	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー	履修要項の「カリキュラムマップ」を確認してください。 Teams 学生用キャビネット（履修要項）		

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度	講義コード	281098
科目名	データ分析Ⅰ		
担当教員	中村 泰之		
開講学期	2024年度秋学期	曜日時限	月曜5限
チームコード	mw1nnh3	キャンパス	日進キャンパス
授業形態	講義		
対象学年	2年		
単位数	2単位	科目ナンバー	G211-603-03
関連性が高いディプロマ・ポリシー			

テーマ	データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養う
授業の概要	<p>データ分析に関する知識や技術は、社会科学の多くの領域での学びに必要なため、総合政策学部での学びにとって重要である。また、近年では、社会のさまざまな場面でデータが利活用されており、社会に出て活躍する人材として、データ分析に関する基本的な知識や技術を身につけることが求められている。この授業では、表計算ソフト（Excel）を使用したデータ分析を行い、各種の調査・測定データを読み、説明し、扱うためのデータリテラシー能力を養うことを目指す。</p> <p>なお、「データ分析Ⅰ」は、リサーチ・リテラシーに関する必修科目と位置づけられている。同じく必修科目である「社会統計学Ⅰ」との関連が深いため、受講生は、両方の科目の内容を関連づけて、データ分析に関する理解を深めることが期待される。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフト（Excel）の表現力を活用し、データを適切に読み解くことができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、データを適切に説明することができる。 ・表計算ソフト（Excel）を用い、目的に合うように、データを扱う（適切な分析手法を選択する）ことができる。
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験など）のフィードバック方法	成績発表後、Teamsにて成績評価の概要を配信する。
使用言語	日本語
担当教員の実務経験	なし
実務経験をいかした教育内容	

授業計画				
授業回	授業計画	授業時間外学習	予習目安時間	復習目安時間
第1回	Excelの基本操作確認	【予習】 ・シラバスを読み、授業内容を把握する 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	60分	120分
第2回	データベースの作成	【予習】 ・テキストの第1章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第3回	データの検索	【予習】 ・テキストの第2章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第4回	1変数のグラフ表現1	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第5回	1変数のグラフ表現2	【予習】 ・テキストの第3章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第6回	1変数の統計量	【予習】 ・テキストの第4章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分

第7回	2変数のグラフ表現と統計量 1	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第8回	2変数のグラフ表現と統計量 2	【予習】 ・テキストの第 5 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第9回	回帰直線とその予測	【予習】 ・テキストの第 6 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第10回	時系列データと明日の予測	【予習】 ・テキストの第 7 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第11回	度数分布表とヒストグラム	【予習】 ・テキストの第 8 章を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第12回	標準正規分布	【予習】 ・テキストの第 9 章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第13回	クロス集計表	【予習】 ・テキストの第13章の指示された箇所を読む 【復習】 ・授業内容を確認し、理解を深める	120分	120分
第14回	総合テスト 1	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
第15回	総合テスト 2	【予習】 ・テキストのこれまでに学習したページを再度読む 【復習】 ・十分に理解できていない箇所を確認する	180分	90分
試験実施方法		その他		
評価方法				
評価方法		評価割合	評価基準など	
授業内で指示した作業、課題		50%	授業内で指示した作業、課題の成果を評価する。	
総合テスト		50%	総合問題の成果を評価する。	
評価詳細				
授業に欠席した場合、あるいは出席していても提出期限に遅れた場合は、評価対象外とする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
Excelでやさしく学ぶ統計解析2019	石村貞夫・劉晨・石村友二郎	東京書籍	978-4-489-02317-0	[価格]2,200円＋税
参考書・参考資料				
参照URL				
表示名	URL		説明	
質疑応答	・各クラスの担当教員が、オフィスアワーで対応する。 ・時間がある場合は、授業後に教室、研究室、ICR等で対応する。			

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を必ず購入すること。 ・クラスごとの担当教員からの指示に従うこと。 ・授業内容同士の関連が強く、先行する授業内容の理解が前提となるため、欠席した場合、欠席した回の授業内容を学習してから次回の授業に出席すること。 ・授業中の私語、スマートフォン操作など、授業と無関係の行為は禁止する。 ・対面授業の場合、教室の出入りなど、他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。原則的に、20分以上の遅刻は入室をお断りする。 ・オンライン授業の場合、Excelが使用できる環境で受講すること。
添付ファイル	

開講年度	2024年度
科目名	情報の科学
科目ナンバー	D119-601-01
開講学科	2021年度歯学部歯学科
(全) 開講学科	2021年度歯学部歯学科
部門	専門
開講種別	春学期
対象学年	1年
実務経験教員	
関連性が高いディプロマ・ポリシー	③ グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。 ⑤ 歯科治療に必要な高頻度治療の基礎的技能訓練を修了している。 ⑥ 地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。
単位数	1.0単位
曜日・時限	金曜1限

コーディネーター	口腔病理学・歯科法医学講座 主任教授 前田初彦		
担当講座	歯科理工学講座、口腔病理学・歯科法医学講座、口腔衛生学講座、歯科放射線学講座		
担当者	教授：前田初彦、准教授：鶴田昌三、林達秀、内藤宗孝、久保勝俊、杉田好彦、講師：朝倉正紀、堀美喜、吉田和加、河合遼子、橋本周子		
授業の概要（目的）	<p>【目的】</p> <p>情報の科学では、実務上必要なタブレット端末およびコンピュータの基本構造を理解し、各種プログラムの使用法を学び、さらに他のタブレット端末およびコンピュータとの接続法、インターネットへのアクセス方法およびプログラムの作成法ならびに外部センサーからの入出力についてを学習し、また、医学における統計情報の必要性を認識し、簡単な集計および分析を学ぶ。さらに、歯科領域におけるCAD/CAM用3次元データの構造を理解し、歯の3次元モデルを構築する技術を学ぶ。これらの知識の修得後に、人工知能の構築法を学び、歯科領域における人工知能の応用について学習する。</p> <p>すなわち、21世紀の高度情報化社会に対応できる学生を育成することを目的とする。</p> <p>この授業は「データサイエンス・AI教育プログラム」に該当しており、歯学部における他の全ての参加プログラムを修了した場合に、修了証を受け取ることができる(2022年度以降入学者対象)。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タブレット端末およびコンピュータを日常的な文房具として使用するための知識、技術を修得し、インターネットを日常的に使用できる知識、技術を習得するとともにこれらの技術を支えるIoT技術の基礎を修得するとともに近未来の高度情報化時代に対応するために、人工知能の構築法を理解する。</p>		
教材（教科書、参考書等）	<p>「教科書」</p> <p>○「歯科医療従事者のための 動く！使える！Pythonプログラミング」 アリッド株式会社</p> <p>○「ゼロから作るDeep Learning」 O'reilly 斉藤康毅著</p> <p>タブレット端末ならびにノートPCおよび周辺機器を使用する。</p> <p>必要に応じて、プリントを配布する。</p>		
講義（実習）の方法・形式	タブレット端末ならびにPCを使用した講義・実習形式。タブレット端末やノートPCをインターネットに各自で学内LANに接続して、講義を受ける。外部センサーの入出力の設定ならびにハンダ付けを行う。		
必要機器	インターネットに接続可能なタブレット端末またはコンピュータおよびマイクロソフトオフィス（パワーポイント、ワード、エクセル）、IoT汎用基板一式。		
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	毎回の授業中に作成した提出課題や製作物について、Eメールを利用した提出時や次回以降の授業の際に確認する。直接、またはEメールを利用して各個人に伝えてフィードバックを行う。		
講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】情報リテラシー1</p> <p>コンピュータ取り扱いの基本</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>コンピュータ取り扱いの基本を理解する。</p> <p>【講義項目】情報の倫理、データ・AI利活用</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>インターネット事件と犯罪をめぐる法律およびネットワーク・エチケットを理解する。また、名誉毀損、プライバシーおよび著作権の概念とその理解をする。</p>	<p>【講義内容】タブレット端末またはコンピュータ取り扱いの基本</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1) タブレット端末またはコンピュータの電子機器としての弱点を知り、日常の取り扱い方法を習得する。</p> <p>2) 電源投入からキーボードの操作を習得する。</p> <p>3) タブレット端末またはコンピュータの基本構成を知り、各部分の操作方法を習得する。</p> <p>【講義内容】情報の倫理、社会で起きているAIについて</p>	前田初彦、久保勝俊、杉田好彦、吉田和加、河合遼子

		<p>て</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1) インターネットに関連する事件および犯罪について、実際の事例および裁判判決等を示し、関連法律（刑法、民法）について説明できる。また、データ・AI活用およびデータを守る上での留意事項が説明できる。</p> <p>2) ネットワーク・エチケットを実践できる。</p> <p>3) 名誉毀損、プライバシー、著作権の概念を理解し、インターネットでの事件、犯罪等に関わらないような知識を習得する。</p> <p>4) 社会で起きているAI等の変化を理解し、データ・AI利活用の最新動向についての知識を習得する。</p> <p>【予習・復習】 予習:シラバスを読んで学習内容を確認し、コンピュータの取扱いやインターネット上でのエチケット・倫理を理解する。(20分) 復習:授業でふれた用語を再確認する。(25分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>IT-01 情報倫理(AI 倫理を含む)及びデータ保護に関する原則を理解している。</p> <p>IT-02 健康・医療・介護に関わる情報倫理を理解している。</p> <p>C-6-3 保健医療リテラシー</p>	
2	<p>【講義項目】情報リテラシー2</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>インターネット接続の設定および電子メールを理解する。Microsoft Officeのインストール、ソフトウェアの使用方法を理解する。</p>	<p>【講義内容】情報リテラシー2</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1) TCP/IP、プロキシサーバー、電子メールなどの仕組みを理解し、インターネットへの接続ができる。</p> <p>2) Microsoft Officeをインストールしその基本操作ができる。</p> <p>【予習・復習】 予習:シラバスを読んで学習内容を確認し、インターネットの仕組みや情報の倫理を理解する。(20分) 復習:授業でふれた用語を再確認する。(25分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>IT-01 情報倫理(AI 倫理を含む)及びデータ保護に関する原則を理解している。</p> <p>IT-02 健康・医療・介護に関わる情報倫理を理解している。</p> <p>C-6-3 保健医療リテラシー</p>	<p>前田初彦、久保勝俊、杉田好彦、吉田和加、河合遼子</p>
3	<p>【講義項目】</p> <p>統計ソフトウェア1</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>医学における統計および論文検索の必要性を認識し、タブレット端末を用いて正しい知識を得るためのスキルを身につける。また、Microsoft Excelを用いて簡単な集計分析ができることを目標とする。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>論文検索およびExcelによる集計、データ・AI活用の現場と技術</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1) 医中誌、PubMedにて論文の検索ができる。</p> <p>2) Microsoft Excelの基本操作、集計ができる。</p> <p>3) データ・AI活用の現場と技術について説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認をする。(10分) ・論文の検索サイトについて確認する。(10分) <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医中誌、PubMedにて論文を検索する。(10分) ・Excelを用いて、課題（データの基本集計）に取り組む。(15分) <p>【コアカリ】</p> <p>C-6-1-1</p> <p>C-6-2-1</p>	<p>橋本周子</p>
4	<p>【講義項目】</p> <p>統計ソフトウェア1</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>医学における統計および論文検索の必要性を認識し、タブレット端末を用いて正しい知識を得るためのスキルを身につける。また、Microsoft Excelを用いて簡単な集計分析ができることを目標とする。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>Excelによる分析</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1) Microsoft Excelを用いて基本的な検定ができる。</p> <p>2) データ・AI活用の実際について説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認をする。(10分) ・前回の課題（データの基本集計）の正誤確認および 	<p>橋本周子</p>

		<p>集計を踏まえての分析方法を学ぶ。(10分)</p> <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Excelを用いて、課題（データの分析）に取り組む。(25分) <p>【コアカリ】</p> <p>C-6-1-1</p> <p>C-6-2-1</p>	
5	<p>【講義項目】 医用画像</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>歯科の医用画像に関する知識を習得し、医用画像を有効に活用するために画像アプリのダウンロードを行う。</p>	<p>【講義内容】 医用画像</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯科における医用画像の種類を列挙できる。 2) 医用画像のデジタル化について説明できる。 3) DICOM画像について説明できる。 4) 画像アプリをダウンロードしてインストールできる。 5) 医用画像でのデータ・AI利活用の現場と技術について説明できる。 <p>【予習・復習】 予習: シラバス・テキストを読んで学習内容を確認する。(20分) 復習: 授業でふれた用語を再確認する。(25分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>E-1-2)⑤</p> <p>D-2-5-5</p>	内藤 宗孝
6	<p>【講義項目】</p> <p>プログラミング開発環境の構築</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Pythonをオフィシャルサイトからdownloadし、プログラミングエディターの使用を学ぶ。また、PCのディレクトリー構造を理解し、ターミナルの使い方を理解する。 	<p>【講義内容】 Python開発環境の構築とサンプルプログラムの記述。</p> <p>歯科医療におけるビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールが不可欠であることを理解する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Pythonをインストールできる。 2) ターミナルコマンドが使用でき、ディレクトリ構造を説明できる。 3) プログラム用エディターにより小規模プログラムを記述できる。 4) import文の記述とメソッドの呼び出しができる。 <p>【予習・復習】 予習: 教科書第1章を熟読する。(20分) 復習: 第2章のturtleモジュールの使用ができるようにする。(25分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>IT-04</p> <p>C-6-3-5</p>	堀美喜
7	<p>【講義項目】</p> <p>繰り返し構文,if文の記述</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) While True: ならびに for文の繰り返しプログラミング構造を理解し、if文による条件分岐を理解する。 	<p>【講義項目】</p> <p>繰り返し構文,if文の記述。</p> <p>ビッグデータのif文によるデータ処理は不可欠であり、3次元以上の構造化データを条件によって分類する。また、if分は探索的データ解析にも使用される。これらのデータの分布ならびに可視化にはmatplolibを用いるがそのデータ表現をif文を用いて処理する基礎を学ぶ。このような処理はあらゆる領域において用いられており、データバイアスの加わらない深層生成モデル構築の基礎作りとなる。ある一定の条件下でパスワードをかける際にもif文の命令が有効であることを理解する。</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>While True: ならびに for文の繰り返しプログラミング構造を理解し、if文による条件分岐を理解する。</p> <p>【講義内容】 無限ループと有限回数のループをプログラム内部に記述し、条件分岐と連携する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Wile True:を記述し無限ループを構築できる。 2) for文を用いて決められた回数だけループを形成す 	堀美喜

		<p>ることができる。</p> <p>3)ループ内でrandomモジュールを使用することができる。</p> <p>4)ループ内においてif文による条件分岐を記述できる。</p> <p>【予習・復習】 予習:教科書第2章の基本プログラムを理解する。(20分) 復習:第2章のturtleモジュールの使用ができるようにする。(25分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>IT-04</p> <p>C-6-3-5</p>	
8	<p>【講義項目】</p> <p>関数の使用方法</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)関数の作り方を学ぶ。</p> <p>2)関数の引数の概念を理解する。</p> <p>3)Tkinterモジュールの使用方法を理解する。</p>	<p>【講義内容】 関数を用いた規模の大きなプログラムの作成</p> <p>関数の中核とした標準的なプログラム作成法を習得する。探索的データ解析などのデータ解析を行う場合に既存のモジュールではなく、自前の関数を作成することは不可欠である。mnistなどの構造化データを処理するにはモジュール内の関数コールも必須であり、その構造も学ぶ。このようにして処理されたデータにもデータバイアス加わらないようにはい力することが重要であり、データの分布を可視化して確認する場合にも既存モジュールの関数コールを熟知する必要がある。機密性を維持するための関数呼び出しについても理解する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)第3章のサンプルプログラムのクラスライブラリの呼び出しを説明できる。</p> <p>2)TkinterのGraphicシステムを用いることができる。</p> <p>3)Tkinterモジュールを用いて作画ができる。</p> <p>4)関数の作成、呼び出しができる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>第3章の狙いを理解する（20分）</p> <p>復習</p> <p>関数の作成と呼び出し方法を完全に（25分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>IT-04</p> <p>C-6-3-5</p>	堀美喜
9	<p>【講義項目】</p> <p>クラスライブラリーの使用法</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)TkinterモジュールのCanvasシステムの使い方を学ぶ</p> <p>2)object 移動の基本概念を学ぶ</p>	<p>【講義内容】 Pythonの標準Graphicモジュールの使い方</p> <p>Canvasシステムを用いてobject 移動の技術を習得する。グラフィックモジュールは構造化データをビッグデータから生成し、探索的データ解析を行う際のデータ分布、データの可視化をmatplotlibなどのモジュールを使わずに処理する場合に必要となる。python標準搭載のtkinterにおけるデータ表現を学び、深層生成モデルの出力する画像データなどについても処理できる基礎を作る。画像を処理する際にはデータバイアスの付加に留意し、医療画像などの機密性を持つ画像についても理解する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)object（インスタンス）の生成ができる。</p> <p>2)ボールの形状をしたobjectを移動することができる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>・Tkinterモジュールの呼び出し方法（20分）</p> <p>復習</p> <p>・Tkinterのcallとobject生成ならびに移動コマンドの熟知（25分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>IT-04</p> <p>IT-05</p> <p>C-6-3-5</p>	堀美喜
10	<p>【講義項目】</p> <p>歯の3次元画像の構築</p>	<p>【講義内容】 Blenderによる歯の立体モデルの作成</p> <p>汎用3次元モデルソフトを用いて歯の3次元データを</p>	堀美喜

	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)Blenderの基本操作</p> <p>2)Blenderによる基本形状のモデリング</p> <p>3)上顎6番のモデリング</p>	<p>作成する。立体構造を持つデータ解析を行う場合にblenderをpythonにより駆動することは有効であり、歯の特異点の探索的データ解析を行う場合に有効である。データの可視化をpythonスクリプトで行うことにより、立体画像データの2次元化などデータ表現がさまざまな領域で行われていることを理解する。立体であることから、データにバイアスがかかる場合などを理解し、blenderにより深層生成モデル構築用のビッグデータ作成が可能であることを理解する。これらのデータに機密性をもたせる手法についても学習する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)Blenderの基本操作ができる。</p> <p>2)球、正6面体などの基本形状をモデリングできる。</p> <p>3)正6面体から上顎6番の外形をモデリングできる。</p> <p>4)湾曲徴など歯の形状の特徴を外形に付与することができる。</p> <p>○http://www-ict.dent.agu.ac.jp/</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上顎6番の立体形状を復習する（20分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Blenderで上顎6番の外形が作成できるようにする（25分） <p>【コアカリ】</p> <p>D-2（CAD/CAM用3次元データの理解）</p> <p>E-3-1）（歯種別の形態と特徴を説明できる）</p> <p>B-3-4</p> <p>IT-06</p>	
11	<p>【講義項目】</p> <p>歯の3次元データ作成とPythonによるコントロール</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)上顎6番の精密なモデリングを行う。</p> <p>2)STLデータとしてエクスポートする。</p> <p>3)Pythonによる歯の3次元データを制御する。</p>	<p>【講義内容】歯の立体モデルの作成とPython制御</p> <p>Blenderにより歯のモデリングを行いその立体モデルをPythonによって制御する。前回と同様、歯の3次元データを構築し、そのデータ解析を行い、スクリプトによる2次元画像のビッグデータを生成する手法を学。それらのデータから特異点を抽出し、探索的データの解析、データの可視化、データ分布について前回と同様学習する。これらの処理はあらゆる領域に展開が可能であることを理解する。さらに、ビッグデータを生成する場合にデータバイアスがくわらないように留意することも、学びさらにデータの一つ一つに必要であれば機密性を持たせることの意味を学習する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)スカルプトモードを用いて上顎6番の精密なモデリングができる。</p> <p>2)完成した歯のモデルをPythonによって移動できる。</p> <p>3)Blenderのスクリプト画面にPythonのソースコードを記述できる。</p> <p>4)Pythonスクリプトにより上顎6番の複製、回転、レンダリング、外部出力ができる。</p> <p>○http://www-ict.dent.agu.ac.jp/</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデリングの方法を復習する（20分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BlenderのPython制御の概要を理解する（25分） <p>【コアカリ】</p> <p>D-2</p> <p>E-3-1)</p> <p>B-3-4</p> <p>IT-06</p>	堀美喜
12	<p>【講義項目】</p> <p>汎用I/O基板の入出力とA/D変換</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)Arduinoの外部接続端子の制御方法</p> <p>2)出力データの生成方法</p> <p>3)外部装置への信号の送り方と配線</p> <p>4)外部信号の入力方法</p> <p>5)アナログ信号のデジタル変換法</p>	<p>【講義内容】汎用I/O基板の入出力回路の制御</p> <p>Arduinoから外部へ5Vの出力信号を送りLEDを点灯制御する。</p> <p>Arduinoへ外部から0~5vのアナログデータをデジタル化して入力する。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータパイ</p>	堀美喜

		<p>アスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)Arduino制御モジュールを呼び出すことができる。</p> <p>2)制御モジュールから出力信号を生成できる。</p> <p>3)外部接続端子からブレッドボードに信号を送りLEDを点灯できる。</p> <p>4)入力系と出力系の違いを説明できる。</p> <p>5)A/D変換の基礎を説明できる。</p> <p>○http://www-ict.dent.agu.ac.jp/</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な電子部品の名称を記憶する（20分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Arduino制御モジュールの使い方（25分） <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>D-2（CAD/CAM用切削器具の理解）</p> <p>B-3-4</p> <p>IT-06</p>	
13	<p>【講義項目】</p> <p>A/D変換と熱電対信号入力</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)A/D変換と熱電対信号の受信</p> <p>2)CDSセンサーからの信号入力</p> <p>3)熱電対回路の作製</p> <p>4)熱電対からの信号入力</p>	<p>【講義内容】A/D変換による入力信号の理解</p> <p>CDS,熱電対からの信号をA/D変換し、Arduinoに格納する。A/D変換による入力データもビックデータとなり、データの構造化、探索的データの解析、データの可視化、データ分布の確認にpythonが有効であることを学ぶ。A/D変換におけるデータバイアスは何かを理解し、これらの信号系のデータがあらゆる分野で処理されていることを理解する。また、単なる信号情報であっても、音声データなどには機密性が必要であることを理解する。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)A/D変換する回路を説明できる。</p> <p>2)CDSからの入力回路を組み立て信号をArduinoに格納できる。</p> <p>3)熱電対の回路をハンダ付けにより製作できる。</p> <p>4)温度変化に対する熱電対の出力の変化をArduinoで測定できる。</p> <p>○http://www-ict.dent.agu.ac.jp/</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナログ信号とデジタル信号の違いを理解する（20分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A/D変換システムの概要を理解する（25分） <p>【コアカリ】</p> <p>A-8-1)</p> <p>A-9-1)</p> <p>D-2</p> <p>IT-06</p>	<p>鶴田昌三、林達秀、朝倉正紀、堀美喜</p>
14	<p>【講義項目】</p> <p>人工知能の構造</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>1)人工知能の構成</p> <p>2)人工知能の学習</p> <p>3)勾配降下法</p> <p>4)neuralnetworkの実装</p>	<p>【講義内容】人工知能の基本知識の習得</p> <p>neuralnetworkを人工知能のモデルとしてその構造を理解する。AI教育訓練用のビックデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>1)人工知能の構造の概略が説明できる。</p> <p>2)人工知能の学習のアルゴリズムが説明できる。</p> <p>3)勾配降下法による特徴点の抽出が説明できる。</p> <p>4)Pythonにより記述されたneuralnetworkの構造を説明できる。</p> <p>○http://www-ict.dent.agu.ac.jp/</p>	<p>堀美喜</p>

開講年度	2024年度
科目名	歯科基礎科学
科目ナンバー	D211-420-01
開講学科	2021年度歯学部歯学科
(全) 開講学科	2021年度歯学部歯学科
部門	専門
開講種別	春学期
対象学年	2年
実務経験教員	
関連性が高いディプロマ・ポリシー	② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。
単位数	1.0単位
曜日・時限	木曜3限

コーディネーター	歯科理工学講座
担当講座	歯科理工学講座
担当者	准教授：鶴田 昌三, 林 達秀、講師: 堀 美喜、非常勤講師：伴 清治
授業の概要（目的）	<p>歯科における物理、化学、生物、情報工学の基礎をまなぶ。</p> <p>加えて、情報工学について、特に人工知能に関する基礎知識、プログラミング構成を習得し、プログラムの実装を行う。</p> <p>この授業は「データサイエンス・AI教育プログラム」に該当しており、歯学部における他の全ての参加プログラムを修了した場合に、修了証を受け取ることができる(2022年度以降入学者対象)。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』</p> <p>○「スタンダード歯科理工学-生体材料と歯科材料-(第7版)」中畠 裕他編 学建書院</p> <p>○「歯科医療従事者のための 動く！使える！Pythonプログラミング」 アリッド株式会社</p> <p>◎必要に応じてプリントを配布</p> <p>『参考書』</p> <p>◎「明解歯科理工学」長谷川 二郎他著 学研書院</p> <p>◎「臨床歯科理工学」宮崎 隆他編 医歯薬出版</p> <p>◎「Essential 細胞生物学」原書 第3版 監訳：中村 桂子、松原 謙一</p> <p>◎物理、化学、生物に関する参考書、新情報が掲載されている雑誌を随時紹介</p> <p>◎必要に応じてプリントを配布</p>
講義（実習）の方法・形式	Macintosh MacBook Air (256Gストレージ, 16GBメモリ、 M1 CPU)、iPad, プロジェクター、筆記
必要機器	Macintosh MacBook Air (256Gストレージ, 16GBメモリ、 M1 CPU)、iPad,
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	<p>習熟不足の項目について、必要があれば掲示やWebCampus,Teames を利用し説明する。</p>

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】</p> <p>物質の構造・有機高分子材料</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>有機高分子材料の一般的基礎を構築するために以下の項目を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機材料とは 2. 有機材料の分類 3. 有機材料の性質 4. レジンの重合機構 	<p>有機材料</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有機材料の概念を説明できる。 ●歯科におけるレジンの殆どがアクリル系であることを理解し、その構造を説明できる。 ●有機材料の一般的な性質を、無機材料、金属材料と比較して説明できる。 ●レジンはどうのように硬化するのか、その反応機構から説明できる。 <p>○「スタンダード歯科理工学」P.12-18</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の基礎を学習する(5分) ・エステル結合について特に学習する(5分) <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機材料の概要を整理する（10分） 	林 達秀

		<p>・有機材料の分類を理解する(10分)</p> <p>・有機材料の性質を理解する(10分)</p> <p>・レジンの重合機構を理解する(5分)</p> <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-①</p> <p>D-1-②</p> <p>D-1-③</p> <p>D-1-④</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>B-1-2</p>	
2	<p>【講義項目】</p> <p>物質の構造・金属材料</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>金属材料の基礎を構築するために以下の項目を理解する。</p> <p>1. 合金の状態図</p> <p>1) 状態図の意義</p> <p>2) 合金の平衡状態図</p> <p>3) 状態図の種類</p>	<p>【講義内容】</p> <p>金属材料</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>●合金は金属元素を混ぜ合わせて作製されたもので、歯科修復材料として重要な位置を占めている。このような合金の性質と種類は合金を構成する各成分の種類、成分割合および温度によって変化する。要求する性質を備えた合金を得るにはどのような金属をどのような割合で調合し、これをどのような温度で熱処理を行えばよいかなどの指示を与えてくれるのが状態図である。その作成法について学ぶ。</p> <p>○「スタンダード歯科理工学」P.18-20,165-169</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>・金属結合について学習する(10分)</p> <p>・融点、凝固点について高校の教科書を学習する(10分)</p> <p>復習</p> <p>・合金の状態図を理解する（25分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-②</p> <p>【新カリ】</p> <p>B-1-1</p> <p>B-1-2</p> <p>B-1-3</p> <p>B-2-1</p> <p>B-2-2</p> <p>B-3-1</p>	鶴田 昌三
3	<p>【講義項目】</p> <p>物質の構造・無機材料・複合材料</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>無機材料の基礎を構築するために以下の項目を理解する。</p> <p>1. 無機材料とは</p> <p>2. 無機材料の分類</p> <p>3. 無機材料の性質</p> <p>4. 複合材料とは</p>	<p>【講義内容】</p> <p>【講義内容】</p> <p>無機材料、複合材料</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>●無機材料の概念を説明できる。</p> <p>●一般的な素材としての無機材料の分類を理解し、歯科材料のどのようなものに無機材料が使用されているかを理解する。</p> <p>●無機材料の一般的な性質を、有機材料、金属材料と比較して説明できる。</p> <p>○「スタンダード歯科理工学」P.20-26</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>・歯科において特に使用されるセラミックスの名称を把握しておく(10分)</p> <p>復習</p> <p>・無機材料の概論を整理する（15分）</p> <p>・無機材料の分類を理解する(10分)</p> <p>・無機材料の性質を理解する（10分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-①</p> <p>D-1-②</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>B-1-1</p> <p>B-1-2</p> <p>B-1-3</p>	伴 清治

4	<p>【講義項目】 材料の性質・機械的性質</p> <p>【一般目標（GIO）】 物質の基本的な考え方を構築するために以下の機械的性質を理解する。 1.応力の種類とひずみ 2.応力－ひずみ曲線と機械的性質 3.弾性係数・降伏値・最大強さ・伸び 4.) 弾性と塑性</p>	<p>【講義内容】 機械的性質</p> <p>【到達目標（SBOs）】 ●材料の機械的性質の基本的な性質にはどのようなものがあるかを学ぶ。それらの性質を理解することによって口腔内の特殊な環境で使う歯科材料の選択に役立つことを理解させる。さらに口腔内では常に修復物に対して咬合力が負荷されていることから外力とそれにとまなうひずみについて学ぶ。 ○「スタンダード歯科理工学」P27-34</p> <p>【予習・復習】 予習 ・教養の物理で学習した応力、荷重について学習する(10分) 復習 ・物理的性質の概要を整理する（10分） ・各種機械的性質を理解する（10分） ・引張試験、圧縮試験、硬さ、衝撃試験、疲労試験について説明できるように復習する（15分）</p> <p>【コアカリ】 D-1-① D-1-② 【新カリ】 B-1-1</p>	鶴田 昌三
5	<p>【講義項目】 材料の性質・レオロジー・物理的性質</p> <p>【一般目標（GIO）】 歯科材料の多くは弾性変形と粘性流動とが同時に現れる粘弾性的な挙動を示す。物質の変形や流動の学問であるレオロジーを理解し、また、各種材料の物理的性質を理解するために以下の項目を学習する。 1. レオロジー 1) 粘弾性 2) クリープとフロー 3) 応力緩和 2. 物理的性質 1) 密度と比重 2) 熱膨張 3) 熱伝導率 4) 比 熱</p>	<p>【講義内容】 レオロジー、物理的性質</p> <p>【到達目標（SBOs）】 ●粘弾性体の基本的な挙動を説明できる。 ●高分子材料、金属材料、無機材料および複合材料の物理的性質の特徴を説明できる。 ○「スタンダード歯科理工学」P34-37</p> <p>【予習・復習】 予習 ・高分子材料、金属材料、無機材料および複合材料の構造を学習しておく(15分) 復習 ・粘弾性体の挙動を説明できるようにする(15分) ・各種材料の物理的性質の特徴を説明できるようにする(15分)</p> <p>【コアカリ】 D-1-② 【新カリ】 B-1-1</p>	鶴田 昌三
6	<p>【講義項目】 材料の性質・生物学的性質・生体安全性・化学的性質</p> <p>【一般目標（GIO）】 歯科材料、歯科医療機器の生体安全性の基本的考え方を理解する。 1. 生体材料の定義 2. 生体材料の種類と用途 3. 生体安全性と生体親和性 4. 生体防御機構 5. 生体への為害作用 6. 生物学的試験法 7. 安全評価基準【一般目標（GIO）】 物質の基本的な考え方を構築するために以下の化学的性質を理解する。 1. 化学反応速度 2. 腐食の定義 3. 腐食の分類 4. 電気化学的腐食理論</p>	<p>【講義内容】 生物学的性質・生体安全性・化学的性質</p> <p>【講義内容】 生体安全性の理解</p> <p>【到達目標（SBOs）】 ●生体安全性の評価基準を元にどのように歯科材料が生物学的安全性を担保しているのかについて理解させる。人間の生体反応と歯科材料の組み合わせを理解し、すべての歯科材料、機器が生体材料であることを理解する。 ○「スタンダード歯科理工学」P53-64</p> <p>【予習・復習】 予習 ・歯科材料の種類を分類しておく。(10分) 復習 ・生体安全性の評価基準を整理する(10分) ・生体材料を分類する(10分) ・生体材料と人間の反応の概略を整理する(15分)</p> <p>【コアカリ】</p>	林 達秀

		<p>D-1-①</p> <p>D-1-②【到達目標（SBOs）】</p> <p>●金属は口腔内のような湿気のある環境では化学反応がおこりやすく、変色やイオンの溶出、腐食が生ずる。この腐食により審美性が劣るのみならず機械的性質が低下し、アレルギーを発症させる抗原を生じることがある。この腐食のメカニズムを学び腐食の抑制法さらに試験法について学ぶ。</p> <p>○「スタンダード歯科理工学」P.40-46</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有結合、イオン結合、水素結合について学習しておく(10分) <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物学的性質を理解する（10分） ・化学的性質を理解する（10分） ・腐食について理解する（15分） <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-②</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>B-1-3</p>	
7	<p>【講義項目】</p> <p>材料の性質・光学的性質</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>光と色の概念を理解するために、以下の項目を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 光と波長 2. 光の性質 3. 光の三原色と色の三原色 4. 表色系と色差 	<p>【講義内容】</p> <p>光学的性質</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>●光とは何か説明できる。</p> <p>●色の概念と表現方法を説明できる。</p> <p>○「スタンダード歯科理工学」P.37-40</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>参考書等を利用して、光と色の基礎に関わる項目を読んで理解する（15分）</p> <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の性質を理解する(15分) ・色の概念と表現方法を理解する（15分） <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-②</p> <p>【新カリ】</p> <p>B-1-1</p>	伴 清治
8	<p>【講義項目】</p> <p>材料の性質・表面の性質</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>物質の表面の性質について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表面張力 2. 表面エネルギー 3. ぬれ性 4. 接着とぬれ性 	<p>【講義内容】</p> <p>表面の性質</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>●歯科材料の表面の性質について説明できる。</p> <p>○「スタンダード歯科理工学」P.46-51</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親水性と疎水性の違いを確認する（15分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科材料のぬれ性の重要性を理解する（10分） ・接着とぬれ性の重要性を理解する（20分） <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-②</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>B-1-2</p>	堀 美喜
9	<p>【講義項目】</p> <p>生体膜構造とリン酸化学</p> <p>【一般目標(GIO)】</p> <p>初めて地球上に生まれた生体膜がどのように生成され、進化の過程でどのように改変を受けたかを進化の歴史と、リン酸化学の面から理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.有機化合物の生成は太古の地球でどのように行われたか理解する。 2.リン脂質が形成された場合どのような変化が生じたのか理解する。 	<p>【講義内容】</p> <p>生体膜構造とリン酸化学</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>●脂質2重膜が生命の進化の歴史でどのように変化していったかを理解し、リン酸の化学と歯科材料との類似性について理解する。</p> <p>○「Essential細胞生物学」P.54,55,363-386</p> <p>【予習・復習】</p>	堀 美喜

	3.脂質2重膜が生物の進化にどのように付随していったかを理解する。	<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化の概略を復習しておく(10分) <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脂質2重膜の形成がどのように行われたかをまとめる(15分) ・疎水性と親水性とはどのようなことか理解する(10分) ・脂質2重膜が細胞構造をどのように構築していったかの進化的過程を理解する(20分) <p>【コアカリ】</p> <p>D-1-②</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>B-1-1 B-1-3</p>	
10	<p>【講義項目】</p> <p>人工知能概論</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>現在稼働中の人工知能フレームワークの概要を理解する。</p> <p>自分のPCに人工知能の開発環境を構築する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>人工知能の構造と生物の神経組織との関連について理解する。</p> <p>人工知能開発環境のThonnyをdownloadし、Pythonにより人工知能プログラムをdownloadする。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>人工知能の構造の概要を説明できる。</p> <p>Thonnyのインストールができ、その環境でプログラムの記述ができる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年で学んだPythonプログラミングを復習する(20分)。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工知能の概要を復習し、Thonny上でPythonのソースコードを記述する。(25分) <p>【コアカリ】</p> <p>コアカリキュラム-p81</p> <p>【新コアカリ】</p> <p>C-6-3-5 IT-04 IT-05</p>	堀 美喜
11	<p>【講義項目】</p> <p>Pythonによる多次元行列式の演算</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>Thonny上において、行列式の演算プログラムを記述し、生物の神経組織における、信号の抑制促進がどのようにプログラムとして実現されているかを理解する。</p>	<p>Pythonプログラムの記述の復習と開発環境の使用法の理解。</p> <p>多次元行列式の演算を通して、生物の神経組織をどのようにシミュレートするかについて説明する。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>Tonny開発環境において、Pythonの記述とデバッグができる。</p> <p>numpyをimportし、そのメソッドにより行列演算を行うことができる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p>	堀 美喜

		<p>・Thonnyの起動とPythonの記述についてimport turtleができるようにする。(20分)。 復習</p> <p>・numpyを用いた行列演算ができるようにする(25分)</p> <p>【コアカリ】 コアカリキュラム-p81</p> <p>【新コアカリ】 C-6-3-5 IT-04 IT-05</p>	
12	<p>【講義項目】 人工知能のレイヤー構造と関数</p> <p>【一般目標（GIO）】 入力データが順伝搬する時に、人工知能の各レイヤーがどのような処理を行なっているか理解する。 全結合、Affin変換、活性化関数、損失関数などの意味を理解する。</p>	<p>【講義内容】 人工知能の各レイヤーの働きを理解するため、入力データがどのように演算されて行くかを説明する。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】 全結合、Affin変換、活性化関数、損失関数をTonny上で呼び出すことができる。 入力データがレイヤを通過するごとにどのような行列に変換されるか説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・行列式の演算をPythonで記述できる(20分)。 復習 ・レイヤを通過(25分)</p> <p>【コアカリ】 コアカリキュラム-p81</p> <p>【新コアカリ】 C-6-3-5 IT-04 IT-05</p>	堀 美喜
13	<p>【講義項目】 偏微分による人工知能の学習</p> <p>【一般目標（GIO）】 各レイヤにおける偏微分係数を最小化することが、人工知能の学習の本質であることを理解する。</p>	<p>【講義内容】 数値微分のプログラミングと勾配法についてプログラミングする。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】 数値微分のプログラムをTohnnnyで動作させることができる。 人工知能がどこをめざして学習していくかを偏微分というキーワードで説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・偏微分の意味をインターネットで理解する(20分)。 復習 ・数値微分のプログラムを動かすことができるようにする(25分)</p> <p>【コアカリ】 コアカリキュラム-p81</p> <p>【新コアカリ】 C-6-3-5</p>	堀 美喜

		IT-04 IT-05	
14	<p>【講義項目】 分類問題を解く人工知能の記述</p> <p>【一般目標（GIO）】 mnistデータを用いて人工知能を訓練し、手書き数字を認識させる手順を理解する。</p>	<p>【講義内容】 mnistデータの構造を理解し、その行列データを人工知能に入力し訓練をする。 訓練済みのデータを用いて手書き文字の認識を人工知能ができるかを理解する。AI教育訓練用のビッグデータの取り扱いのため、多次元行列の構造化データ処理にnumpyモジュールを使用する。探索的データ解析などデータ解析、データ分布、データの可視化にはmatplotlibを用いて、データ表現を学ぶ。また歯学領域のみならずさまざまな領域でAI処理が行われていることを理解する。また、さまざまな領域でデータバイアスを排除した深層生成モデルが使用され機密性が保たれていることをPythonプログラミングを通して理解し基礎作りをする。</p> <p>【到達目標（SBOs）】 mnistデータを用いて人工知能の訓練ができる。 人工知能の認識度がどのように上昇するのか説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・人工知能訓練用プログラムをThonny上に準備する(20分)。 復習 ・自力で分類問題を解く人工知能をThonny上で動かす(25分)。</p> <p>【コアカリ】 コアカリキュラム-p81 【新コアカリ】 C-6-3-5 IT-04 IT-05</p>	堀 美喜
15	<p>【講義項目】 前期まとめ</p> <p>【一般目標(GIO)】 前期講義の項目の総整理を行う。 以下の項目を整理する。 1. 物質の構造 2. 材料の性質</p>	<p>【講義内容】 総論</p> <p>【到達目標（SBOs）】 ●前期講義の項目を整理し理解する。 物質の構造を理解する。 材料の性質を理解する。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・春学期に習った材料の総復習をしておく(10分) 復習 ・物質の項竿(15分) ・材料の性質(20分)</p> <p>【コアカリ】 D-1-① D-1-② D-1-③ 【新カリ】 B-1-1 B-1-2 B-1-3</p>	鶴田 昌三

開講年度	2024年度
科目名	社会と歯学Ⅰ（衛生・公衆衛生学）
科目ナンバー	D211-578-01
開講学科	2020年度歯学部歯学科
（全）開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学 2020年度歯学部歯学科
部門	専門
開講種別	春学期
対象学年	2年
実務経験教員	衛生学、公衆衛生学に関する知見を有する歯科医師が講義を担当する。
関連性が高いディプロマ・ポリシー	③ グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。
単位数	1.0単位
曜日・時限	月曜3限

コーディネーター	
担当講座	口腔衛生学講座 質問用メールアドレス kouei02@dpc.agu.ac.jp
担当者	主任教授：嶋崎義浩、准教授：加藤一夫
授業の概要（目的）	<p>『目的』 人々の健康づくりやヘルスプロモーションをすすめていくために必要な一般衛生学、公衆衛生学、予防医学、および社会医学的な手法を学ぶことにより、歯科医師が健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において人々の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を学ぶ。</p> <p>「到達目標」 本講義の終了時点で、人々の健康づくりを支援できる衛生・公衆衛生学の基本的知識を身につけ、医療関係者としての歯科医師の役割を自覚している。</p> <p>歯学部ディプロマ・ポリシーの中では、主に「③ グローバルな社会で歯科医師が果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。」に関連する授業科目である。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』 スタンダード衛生・公衆衛生学（学建書院）ISBN: 978-4-7624-0705-5</p> <p>『参考書』 口腔保健・予防歯科学（医歯薬出版）ISBN: 978-4-263-45897-6</p>
講義（実習）の方法・形式	講義、示説、演習、VTR
必要機器	
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	定期試験終了後に出題した問題を開示することで、学修内容の復習を促す。試験の各問題の正答率等を周知することで、自身の知識や理解が不足している点を見直す機会を設け、これまでの学習内容の復習と今後の学習に反映させる。

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】 序論、健康の保持増進、疫学概念</p> <p>【一般目標（GIO）】 人々が健康でよりよい人生を過ごすための方法を理解するために、衛生・公衆衛生学の意義と健康の概念について学習する。</p>	<p>【講義内容】 序論、健康の保持増進、疫学概念</p> <p>【到達目標（SBOs）】 人を取りまく環境と健康で過ごすための方法を説明できる。 健康の概念と健康の保持増進の意義について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30</p>	嶋崎義浩

		分) 【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-1) ① B-3-1) ①③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-1-1, 2	
2	【講義項目】 疫学の方法、疫学研究の実際 【一般目標（GIO）】 疫学の方法について理解するために、データ収集に基づいた疫学研究の実際について学習する。	【講義内容】 疫学の方法、疫学研究の実際 【到達目標（SBOs）】 データに基づいた疫学研究と科学的根拠に基づいた医療（EBM: Evidence-based Medicine）の応用を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-4-1) ①② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-6-1-1, 2	嶋崎義浩
3	【講義項目】 疾病予防と健康管理 【一般目標（GIO）】 感染症について理解するために、感染症の成立・伝播および感染症の予防法を学習する。	【講義内容】 疾病予防と感染症予防 【到達目標（SBOs）】 疾病予防の考え方を説明できる。 感染症の成立、伝播形式を説明できる。 感染症の予防、ワクチン、サーベイランスを説明できる。 【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-6-3) ②③ B-1 ① B-2-2) ⑦ B-3-1) ①②③④ C-4-1) ③④ C-4-2) ⑧ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-4-1-4, 8 C-4-2-6 C-4-3-4 C-5-1, 2, 4	加藤一夫
4	【講義項目】 疾病予防と健康管理 【一般目標（GIO）】 生活習慣病について理解するために、保健医療統計データから生活習慣病の現状と予防法を学習する。	【講義内容】 生活習慣病予防と健康管理 【到達目標（SBOs）】 生活習慣病予防と健康管理の重要性を説明できる。 主な保健医療統計の概要を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習	加藤一夫

		<p>・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-1 ② B-3-1) ④ B-4-2) ② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-2-5 C-4-3-1 C-5-4 C-6-2-2</p>	
5	<p>【講義項目】 環境と健康</p> <p>【一般目標（GIO）】 環境と健康との関係を理解するために、日常生活の環境と健康との関係を学習する。</p>	<p>【講義内容】 日常生活の環境</p> <p>【到達目標（SBOs）】 温熱環境と生体との関係を説明できる。 空気の正常成分の変動と異常成分を説明できる。 水、上下水道と生活を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-2-4) ① 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-5-1</p>	加藤一夫
6	<p>【講義項目】 環境と健康</p> <p>【一般目標（GIO）】 環境と健康について理解するために、地球環境問題や公害と健康との関係を学習する。</p>	<p>【講義内容】 地球環境問題と公害、廃棄物処理</p> <p>【到達目標（SBOs）】 地球環境問題や公害が健康に及ぼす影響を説明できる。 廃棄物処理とリサイクルの仕組みを説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-2-4) ①② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-5-2,3,4</p>	加藤一夫
7	<p>【講義項目】 食生活と健康</p> <p>【一般目標（GIO）】 国民の栄養・食品と健康との関係を理解するために、国民栄養の現状と食事摂取基準を学習する。</p>	<p>【講義内容】 国民栄養の現状、食事摂取基準</p> <p>【到達目標（SBOs）】 国民栄養の現状と食生活指針を説明できる。 食事摂取基準を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p>	加藤一夫

		号： B-1 ③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： E-5-2-4, 7	
8	<p>【講義項目】 食生活と健康</p> <p>【一般目標（GIO）】 食生活の安全性について理解するために、食品保健の制度を学習する。</p>	<p>【講義内容】 食品保健と食品の安全</p> <p>【到達目標（SBOs）】 食品保健に関連する主な法律を説明できる。 食中毒や食物アレルギーを説明できる。 食品表示の内容と意義を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-1 ③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-2-5 E-5-2-4</p>	加藤一夫
9	<p>【講義項目】 衛生・公衆衛生学で学んだ内容の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 衛生・公衆衛生学で学んだ内容を実践できる知識が備わっているかの総括を行う。</p>	<p>【講義内容】 衛生・公衆衛生学で学んだ内容の総括</p> <p>【到達目標（SBOs）】 衛生・公衆衛生学で学んだ内容について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-6-3) ②③ B-1) ①②③ B-2-2) ⑦ B-2-4) ①② B-3-1) ①②③④ B-4-1) ①② B-4-2) ② C-4-1) ③④ C-4-2) ⑧ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-4-4-4, 8 C-4-1-1, 2 C-4-2-5, 6 C-4-3-1, 4 C-4-5-1, 2, 3, 4 C-5-1, 2, 4 C-5-2-4, 7 C-5-4 C-6-1-1, 2 C-6-2-2</p>	嶋崎義浩、加藤一夫
10	<p>【講義項目】 人口問題、地域保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 人口統計に関するデータを把握することで、少子高齢化に対する理解を深めて、わが国の人口問題について学習する。</p>	<p>【講義内容】 人口問題、地域保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 わが国の人口統計の現状と将来の人口構造の変化について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習</p>	嶋崎義浩

		<p>・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-2-2) ① B-4-2) ②③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-6-2-2 C-6-2-3</p>	
11	<p>【講義項目】 保健行政、母子保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 母子の健康づくりの重要性を理解するために、母子保健について学習する。</p>	<p>【講義内容】 保健行政、母子保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 母子保健の水準、対策の現状を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-2-2) ① B-4-2) ②③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-3-1 C-4-3-4 C-6-2-2</p>	嶋崎義浩
12	<p>【講義項目】 学校保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 児童、生徒等の健康の保持増進の重要性を理解するために、学校保健について学習する。</p>	<p>【講義内容】 学校保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 学校保健活動における保健教育、保健管理、学校安全について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-2-2) ① B-4-2) ② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-3-1 C-6-2-2</p>	嶋崎義浩
13	<p>【講義項目】 成人・高齢者保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 成人・老人の健康づくりのしくみを理解するために、成人・高齢者保健について学習する。</p>	<p>【講義内容】 成人・高齢者保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 成人・老人保健に関する法令、制度を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p>	嶋崎義浩

開講年度	2024年度
科目名	社会と歯学Ⅱ（口腔衛生学）
科目ナンバー	D311-578-02
開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学
（全）開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学
部門	専門
開講種別	春学期
対象学年	3年
実務経験教員	口腔衛生学に関する知見を有する歯科医師が講義を担当する。
関連性が高いディプロマ・ポリシー	③ グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。 ④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。
単位数	1.0単位
曜日・時限	木曜3限

コーディネーター	
担当講座	口腔衛生学講座 質問用メールアドレス kouei01@dpc.agu.ac.jp
担当者	主任教授：嶋崎義浩、准教授：加藤一夫、武藤昭紀（非）
授業の概要（目的）	<p>『目的』</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりやオーラル・ヘルス・プロモーションをすすめていくために必要な口腔衛生的な手法を学び、それを説明できることにより、歯科医師が歯・口腔の健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において、人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる口腔衛生学の基本的知識と方法を身につけ、歯科医師の社会的役割を果たすことができる態度を習得している。</p> <p>歯学部ディプロマ・ポリシーの中では、主に「③ グローバルな社会で歯科医師が果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。」、「④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。」に関連する授業科目である。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』</p> <p>1. 口腔保健・予防歯科学（医歯薬出版）ISBN: 978-4-263-45897-6</p> <p>『参考書』</p> <p>1. 歯科保健関係統計資料（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-378-4</p> <p>2. 歯科保健指導関係資料（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-392-0</p>
講義（実習）の方法・形式	講義、示説
必要機器	
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	定期試験終了後に出題した問題を開示することで、学修内容の復習を促す。試験の各問題の正答率等を周知することで、自身の知識や理解が不足している点を見直す機会を設け、これまでの学習内容の復習と今後の学習に反映させる。

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】</p> <p>口腔衛生学序論</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>歯と口腔の健康を守ることを理解するために、口腔衛生学の概念を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>口腔衛生学序論</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>口腔衛生学の意味と内容を説明できる。</p> <p>予防の水準、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>・学習内容の確認をする（15分）</p> <p>復習</p> <p>・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30</p>	嶋崎義浩

		分) 【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1①② B-3-1) ①②③ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-1-2 C-5-3, 5	
2	【講義項目】 口腔の組織と発育・機能 【一般目標（GIO）】 歯・口腔の健康を理解するために、歯・口腔の成長発育と口腔の機能を学習する。	【講義内容】 口腔組織の発育と機能 【到達目標（SBOs）】 歯の形成時期と萌出時期を説明できる。 口腔の機能を説明できる。 唾液の成分と役割を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： E-2-2) ④⑤ E-3-1) ① 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-3-3-5, 6 A-3-4-1	加藤一夫
3	【講義項目】 口腔バイオフィルムの形成と病原性 【一般目標（GIO）】 口腔疾患の予防法を理解するために、口腔バイオフィルムの形成と病原性を学習する。	【講義内容】 口腔バイオフィルムの形成と病原性 【到達目標（SBOs）】 歯の付着物の種類を説明できる。 口腔バイオフィルムの成立・代謝・意義を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-3-2) ③ E-3-2) ④ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： D-3-2-4 D-5-1-3	加藤一夫
4	【講義項目】 齲蝕 【一般目標（GIO）】 齲蝕の予防法を理解するために、齲蝕の概念と発生要因を学習する。	【講義内容】 齲蝕の概念と発生要因 【到達目標（SBOs）】 齲蝕の病因論を説明できる。 齲蝕の進行プロセスと発生要因を説明できる。 歯の物理的・化学的損傷を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）	加藤一夫

		<p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-3-2) ①⑤ E-3-3) (1)-①</p> <p>令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： D-3-2-1 D-5-2-1-1</p>	
5	<p>【講義項目】</p> <p>齲蝕</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>フッ化物による齲蝕予防法を理解するために、フッ化物の安全性と作用機序を学習する。</p>	<p>【講義項目】</p> <p>フッ化物の安全性と作用機序</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>フッ化物が齲蝕予防に用いられるようになった由来を説明できる。 フッ化物の作用機序を説明できる。 フッ化物の中毒（慢性、急性）を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-3-2) ② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： D-5-1-2</p>	加藤一夫
6	<p>【講義項目】</p> <p>歯周病</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>歯周病について理解するために、歯周病の発生要因を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>歯周病</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>歯周病の定義と分類を説明できる。 歯周病の発生要因を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-3-1) ① E-3-2) ① 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-5-1-1 D-5-2-3-1, 2</p>	武藤昭紀
7	<p>【講義項目】</p> <p>口臭、予防管理を必要とする歯科疾患</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>口臭、予防管理を必要とする歯科疾患について理解するために、口臭の発生要因と予防管理を必要とする歯科疾患の内容を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>口臭、予防管理を必要とする歯科疾患</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>口臭の定義と分類を説明できる。 予防管理を必要とする歯科疾患について説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1② B-3-2) ①</p>	嶋崎義浩

		令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-5-1	
8	<p>【講義項目】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容を実践できる知識が備わっているかの総括を行う。</p>	<p>【講義内容】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容の総括</p> <p>【到達目標（SBOs）】 社会と歯学で学んだ内容の総括</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1①② B-3-1) ①②③ B-3-2) ①③⑤ E-2-2) ④⑤ E-3-1) ① E-3-2) ①④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム A-3-3-5, 6 A-3-4-1 C-4-1-2 C-5-3, 5 D-3-2-1, 4 D-5-1 D-5-1-1, 2, 3 D-5-2-1-1 D-5-2-3-1, 2</p>	嶋崎義浩、加藤一夫
9	<p>【講義項目】 口腔と全身の健康</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔と全身の健康との関連を理解するために、口腔の健康に影響する生活習慣や口腔の健康と関連のある全身疾患について学習する。</p>	<p>【講義内容】 口腔と全身の健康</p> <p>【到達目標（SBOs）】 生活習慣と口腔保健の関係を説明できる。 全身の疾患・異常と口腔保健の関係について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1② 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-1-2</p>	嶋崎義浩
10	<p>【講義項目】 行動科学と健康教育</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔疾患の予防と健康管理を理解するために、行動科学と健康教育を学習する。</p>	<p>【講義内容】 行動科学と健康教育</p> <p>【到達目標（SBOs）】 健康教育と行動変容を説明できる。 行動科学の理論と発展過程を説明できる。 健康教育、ヘルスプロモーションのねらい、方法・展開法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習</p>	加藤一夫

		<p>・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： B-3-2) ⑦⑧ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-5-6 D-6-2-5</p>	
11	<p>【講義項目】 口腔保健の疫学</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔保健における疫学を理解するために、調査データに基づいた疫学の研究方法と実践について学習する。</p>	<p>【講義内容】 口腔保健の疫学</p> <p>【到達目標（SBOs）】 疫学の方法論、分析法を説明できる。 集団口腔診査の方法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-4-1) ① 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-6-1-1, 3 C-6-2-4</p>	嶋崎義浩
12	<p>【講義項目】 衛生統計</p> <p>【一般目標（GIO）】 疫学調査等から得られた集団データの活用法を理解するために、データの種類に応じた統計解析手法を学習する。</p>	<p>【講義内容】 衛生統計</p> <p>【到達目標（SBOs）】 集団データの種類と性質について説明できる。 データの種類に応じた適切な統計解析手法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-4-1) ② B-4-2) ①④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-6-2-1, 4</p>	嶋崎義浩
13	<p>【講義項目】 口腔保健の指標</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔保健状態を把握するための方法を理解するために、口腔の健康の指数と応用を学習する。</p>	<p>【講義内容】 口腔保健の指標</p> <p>【到達目標（SBOs）】 歯・口腔の健康をあらわす指数の条件、種類について説明できる。 歯・口腔の健康をあらわす指数の応用法、使用上の注意について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュ</p>	嶋崎義浩

開講年度	2024年度
科目名	社会と歯学Ⅳ（社会歯科学）
科目ナンバー	D411-578-04
開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学
（全）開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学
部門	専門
開講種別	春学期
対象学年	4年
実務経験教員	社会歯科学に関する知見を有する歯科医師が講義を担当する。
関連性が高いディプロマ・ポリシー	② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。 ⑥ 地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。
単位数	1.0単位
曜日・時限	月曜1限

コーディネーター	
担当講座	口腔衛生学講座 質問用メールアドレス kouei02@dpc.agu.ac.jp
担当者	主任教授：嶋崎義浩、准教授：加藤一夫
授業の概要（目的）	<p>『目的』</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりやオーラル・ヘルス・プロモーションをすすめていくために必要な社会歯科学的な手法を学び、それを説明できることにより、歯科医師が歯・口腔の健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において、人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる社会歯科学的な基本的知識と方法を身につけ、歯科医師の社会的役割を果たすことができる態度を習得している。</p> <p>歯学部ディプロマ・ポリシーの中では、主に「② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。」、「⑥ 地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。」に関連する授業科目である。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』</p> <p>1. スタンダード社会歯科学（学健書院） ISBN: 978-4-7624-7644-0</p> <p>『参考書』</p> <p>1. 歯科保健関係統計資料（口腔保健協会） ISBN: 978-4-89605-378-4</p> <p>2. 歯科保健指導関係資料（口腔保健協会） ISBN: 978-4-89605-392-0</p>
講義（実習）の方法・形式	講義、示説
必要機器	
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	定期試験終了後に出題した問題を開示することで、学修内容の復習を促す。試験の各問題の正答率等を周知することで、自身の知識や理解が不足している点を見直す機会を設け、これまでの学習内容の復習と今後の学習に反映させる。

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】</p> <p>医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>歯科医師として備えておくべき倫理感と生命倫理について理解するために医の倫理の歴史的背景、医学研究に関連する倫理規定等を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>医の倫理と生命倫理について説明できる。 歯科医師と患者・家族との関係について説明できる。 臨床試験と倫理について説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分）</p>	嶋崎義浩

		<p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム</p> <p>A-1-1) ①②③④</p> <p>A-1-2) ①②④</p> <p>A-1-3) ①</p> <p>令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム</p> <p>C-1-1</p> <p>C-1-2</p>	
2	<p>【講義項目】</p> <p>医療面接</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>患者－歯科医師関係の確立と病歴聴取の方法を理解するために、コミュニケーションの基本的な技術と進め方を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>医療面接</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>医療面接の目的を説明できる。</p> <p>患者－歯科医師関係を概説できる。</p> <p>医療面接の基本技術を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>A-3 ①</p> <p>A-1-3) ②</p> <p>A-4-1) ①②③</p> <p>A-4-2) ①②③</p> <p>E-1-1) ③</p> <p>令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>C-1-2-3</p> <p>D-2-1-1-1,3,4</p> <p>E-2-1-1-1,2,4</p>	加藤一夫
3	<p>【講義項目】</p> <p>医事衛生法規</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>適正な歯科医療の実践を理解するために、医療法の規定と役割を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>医療法</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>医療法の概要を説明できる。</p> <p>医療を選択するための支援の仕組みを説明できる。</p> <p>病院や診療所の開設と管理を説明できる。</p> <p>医療安全を確保するのに必要な事項を説明できる。</p> <p>医療提供体制の確保における国や都道府県の役割を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>A-1-2) ④</p> <p>A-6-1) ⑤</p> <p>A-6-2) ②</p> <p>A-7-1) ②</p> <p>B-2-1) ②</p> <p>令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>C-1-1-4</p> <p>C-3-1-4</p> <p>C-3-2-2</p> <p>C-4-2-1</p> <p>C-4-3-7</p>	加藤一夫

4	<p>【講義項目】 医事衛生法規</p> <p>【一般目標（GIO）】 適正な歯科医療の実践を理解するために、歯科医師など医療関係者の資格や業務を学習する。</p>	<p>【講義内容】 医療関係者の身分法</p> <p>【到達目標（SBOs）】 歯科医師法と医師法の概要を説明できる。 歯科衛生士と歯科技工士の業務を説明できる。 歯科と関係の深い医療従事者の法律の概要を説明できる。 医療機関や地域医療における医療関係者の連携を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-5-1) ①②③ A-7-1) ③ B-2-1) ①③⑤⑥⑦ B-2-3) ② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-1-2-1 C-1-3-5 C-4-2-1, 2, 3, 7</p>	加藤一夫
5	<p>【講義項目】 医療連携とチーム医療</p> <p>【一般目標（GIO）】 地域における歯科医療の実践するうえでの多職種との連携やチーム医療の重要性を学習する。</p>	<p>【講義内容】 医療連携とチーム医療</p> <p>【到達目標（SBOs）】 歯科診療所における多職種連携医療とチーム医療を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-5-1) ①②③ A-7-1) ③④⑤ B-2-2) ④⑧ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-1-3-1, 2, 3, 4 D-6-2-1, 2, 4</p>	加藤一夫
6	<p>【講義項目】 診療記録と診療情報</p> <p>【一般目標（GIO）】 適正な歯科医療の実践を理解するために、診療記録の作成や診療情報の管理を学習する。</p>	<p>【講義内容】 診療記録と診療情報</p> <p>【到達目標（SBOs）】 個人情報の保護と開示を説明できる。 診療録の作成と管理・保存を説明できる。 歯科診療に関わる診断書を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-5-1) ⑤⑥ A-6-1) ③</p>	加藤一夫

		<p>B-4-3) ①② E-1-1) ⑦ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-1-1-3 C-1-3-5 C-6-3-2 D-4-1-1,2,3</p>	
7	<p>【講義項目】 医療の質と安全の確保</p> <p>【一般目標（GIO）】 患者や医療従事者に安全な医療の実践を理解するために、医療の質と安全の確保するための方策を学習する。</p>	<p>【講義内容】 医療の質と安全の確保</p> <p>【到達目標（SBOs）】 医療事故の発生要因と安全管理を説明できる。 院内感染に対する対策を説明できる。 医事紛争を概説できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-1-3) ④ A-6-1) ①②⑤⑥⑦ A-6-2) ① A-6-3) ②③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-1-2-5 C-3-1-1,3 C-3-2-1 C-3-3-3</p>	加藤一夫
8	<p>【講義項目】 社会歯科学で学んだ内容の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 社会歯科学で学んだ内容を実践できる知識が備わっているかの総括を行う。</p>	<p>【講義内容】 社会歯科学で学んだ内容の総括</p> <p>【到達目標（SBOs）】 社会歯科学で学んだ内容について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム A-1-1) ①②③④ A-1-2) ①②④ A-1-3) ①②④ A-3) ① A-4-1) ①②③ A-4-2) ①②③ A-5-1) ①②③⑤⑥ A-6-1) ①②③⑤⑥⑦ A-6-2) ①② A-6-3) ②③ A-7-1) ②③④⑤ B-2-1) ①②③⑤⑥⑦ B-2-2) ④⑧ B-2-3) ② B-4-3) ①② E-1-1) ③⑦ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-1-1 C-1-1-3, 4 C-1-2 C-1-2-1, 5 C-1-2-3</p>	嶋崎義浩、加藤一夫

		C-1-3-1, 2, 3, 4, 5 C-3-1-1, 4, 3 C-3-2-1, 2 C-3-3-3 C-4-2-1, 2, 3, 7 C-4-3-7 C-6-3-2 D-2-1-1, 3, 4 D-4-1-1, 2, 3 D-6-2-1, 2, 4 E-2-1-1, 2, 4	
9	<p>【講義項目】 薬事衛生法規</p> <p>【一般目標（GIO）】 良質で安全な医療の提供を理解するために、医薬品や医療機器を規定する法規を学習する。</p>	<p>【講義内容】 薬事衛生法規</p> <p>【到達目標（SBOs）】 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律を概説できる。 医薬品や医療機器による健康被害を説明できる。 薬剤師法などの薬事衛生法規を概説できる。 臨床試験と倫理を概説できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-1-1) ④ B-2-1) ④ C-6-1) ② 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-6-1-1, 2 C-1-1-5, 6 C-3-2-3, 6 C-3-2-4 C-4-2-4</p>	加藤一夫
10	<p>【講義項目】 衛生行政とその他の衛生法規</p> <p>【一般目標（GIO）】 良質で安全な医療の提供を理解するために医薬品や医療機器を規定する法規を学習する。</p>	<p>【講義内容】 衛生行政とその他の衛生法規</p> <p>【到達目標（SBOs）】 衛生行政を説明できる。 保健衛生法規を説明できる。 予防衛生法規を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム A-6-3) ① B-2-1) ⑤ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-2-4, 5, 6</p>	嶋崎義浩
11	<p>【講義項目】 社会保障制度</p> <p>【一般目標（GIO）】 我が国の社会保障制度について理解するために社会保障制度の概要とそれぞれの制度を学習する。</p>	<p>【講義内容】 社会保障制度の概要</p> <p>【到達目標（SBOs）】 社会保障制度の歴史的背景を説明できる。 社会保障制度の概要を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習</p>	嶋崎義浩

		<p>・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-2) ①②③ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1, 2</p>	
12	<p>【講義項目】 社会保障制度</p> <p>【一般目標（GIO）】 我が国の社会保障制度について理解するために社会保障制度の概要とそれぞれの制度を学習する。</p>	<p>【講義内容】 歯科保険診療</p> <p>【到達目標（SBOs）】 医療保険制度における歯科保険診療の実際について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-2) ①②③ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-2</p>	嶋崎義浩
13	<p>【講義項目】 社会保障制度</p> <p>【一般目標（GIO）】 我が国の社会保障制度について理解するために社会保障制度の概要とそれぞれの制度を学習する。</p>	<p>【講義内容】 社会保険</p> <p>【到達目標（SBOs）】 医療保険を説明できる。 介護保険を説明できる。 労働保険を説明できる。 年金保険を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-2) ①②③ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-2, 6</p>	嶋崎義浩
14	<p>【講義項目】 社会保障制度</p> <p>【一般目標（GIO）】 我が国の社会保障制度について理解するために社会保障制度の概要とそれぞれの制度を学習する。</p>	<p>【講義内容】 社会福祉、公的扶助、公的医療保障</p> <p>【到達目標（SBOs）】 社会福祉を説明できる。 公的扶助を説明できる。 公的医療保障を説明できる。 年金保険について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p>	嶋崎義浩

[illegible]

開講年度	2024年度
科目名	社会と歯学Ⅲ（口腔衛生学）
科目ナンバー	D311-578-03
開講学科	2021年度歯学部歯学科
（全）開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学 2021年度歯学部歯学科
部門	専門
開講種別	秋学期
対象学年	3年
実務経験教員	口腔衛生に関する知見を有する歯科医師が講義を担当する。
関連性が高いディプロマ・ポリシー	③ グローバルな社会で歯科医師が果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。 ④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。
単位数	1.0単位
曜日・時限	月曜2限

コーディネーター	
担当講座	口腔衛生学講座 質問用メールアドレス kouei01@dpc.agu.ac.jp
担当者	主任教授：嶋崎義浩、准教授：加藤一夫、稲垣幸司（兼）、村上多恵子（非）、武藤昭紀（非）、佐々木貴浩（非）、野々山 郁（非）
授業の概要（目的）	<p>『目的』</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりやオーラル・ヘルス・プロモーションをすすめていくために必要な口腔衛生的な手法を学び、それを説明できることにより、歯科医師が歯・口腔の健康づくりに関係する人々と協調して、臨床および社会において、人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる知識と技術・態度を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>人々の歯・口腔の健康づくりを支援できる口腔衛生学の基本的知識と方法を身につけ、歯科医師の社会的役割を果たすことができる態度を習得している。</p> <p>歯学部ディプロマ・ポリシーの中では、主に「③ グローバルな社会で歯科医師が果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。」、「④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。」に関連する授業科目である。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』</p> <p>1. 口腔保健・予防歯科学（医歯薬出版）ISBN: 978-4-263-45897-6</p> <p>『参考書』</p> <p>1. 歯科保健関係統計資料（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-378-4</p> <p>2. 歯科保健指導関係資料（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-392-0</p>
講義（実習）の方法・形式	講義、示説
必要機器	
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	定期試験終了後に出題した問題を開示することで、学修内容の復習を促す。試験の各問題の正答率等を周知することで、自身の知識や理解が不足している点を見直す機会を設け、これまでの学習内容の復習と今後の学習に反映させる。

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【講義項目】</p> <p>齲蝕予防</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>齲蝕リスクの評価を理解するために、齲蝕の検査・診断と予防・管理の方法を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>齲蝕の検査・診断と予防・管理</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>エナメル質表層の性質、萌出後の成熟、再石灰化を説明できる。</p> <p>個人の齲蝕リスクを評価する方法を説明できる。</p> <p>齲蝕活動性試験の保健指導への応用を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <p>・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握する</p>	加藤 一夫

		<p>とともに、関連する書籍等を参照する（15分）</p> <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>B-3-2) ①⑤</p> <p>E-3-3) (1)-①</p> <p>令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>D-3-2-1</p> <p>D-5-2-1-1</p>	
2	<p>【講義項目】</p> <p>齲蝕予防</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>齲蝕の予防と管理を理解するために、フッ化物の局所応用と予防填塞を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>フッ化物の局所応用と予防填塞</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>フッ化物局所応用と集団応用を説明できる。</p> <p>フッ化物の予防効果を説明できる。</p> <p>小裂溝鎮塞法と鍍銀法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握する <p>とともに、関連する書籍等を参照する（15分）</p> <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>B-3-2) ②</p> <p>令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：</p> <p>D-5-1-2</p>	加藤 一夫
3	<p>【講義項目】</p> <p>歯周病予防</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>歯周病の予防方法を理解するために、歯周病の検査・診断方法と予防・管理方法を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>歯周病予防</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>歯周病の検査・診断方法を説明できる。</p> <p>歯周病の予防・管理方法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認をする（15分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分） <p>【コアカリ】</p> <p>平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム</p> <p>B-3-2) ①④</p> <p>令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム</p> <p>D-5-1-1</p> <p>D-5-2-3-2</p>	武藤 昭紀
4	<p>【講義項目】</p> <p>口臭予防、食育と食の支援</p> <p>【一般目標（GIO）】</p> <p>口臭の予防方法を理解するために、口臭の検査・診断方法と予防・管理方法を学習する。</p> <p>食生活と健康との関連を理解するために、食生活と健康課題や食生活・栄養指導を学習する。</p>	<p>【講義内容】</p> <p>口臭予防、食育と食の支援</p> <p>【到達目標（SBOs）】</p> <p>口臭の検査・診断方法を説明できる。</p> <p>口臭の予防・管理方法を説明できる。</p> <p>国民栄養調査、食生活について説明できる。</p> <p>食生活と歯科疾患との関係について説明できる。</p> <p>食生活・栄養指導について説明できる。</p> <p>【予習・復習】</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の確認をする（15分） <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分） 	村上 多恵子

		<p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1) ③ B-3-2) ① 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-6-2-2 D-5-1</p>	
5	<p>【講義項目】 プラークコントロール</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔清掃の意義を理解するために、プラークコントロールの方法と実践について学習する。</p>	<p>【講義内容】 プラークコントロール</p> <p>【到達目標（SBOs）】 歯口清掃の意義、注意事項、歯磨剤について説明できる。 歯口清掃の方法、歯口清掃補助用具の使い方について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-3-2) ①③④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-5-1</p>	村上 多恵子
6	<p>【講義項目】 禁煙支援・指導</p> <p>【一般目標（GIO）】 喫煙の口腔保健への影響への理解を深めるために、禁煙支援・指導の実践について学習する。</p>	<p>【講義内容】 禁煙支援・指導</p> <p>【到達目標（SBOs）】 喫煙の口腔保健への影響を説明できる。 禁煙支援・指導の方法について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-3-2) ①④⑧ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-5-1</p>	稲垣 幸司
7	<p>【講義項目】 高齢者・有病者の口腔ケア</p> <p>【一般目標（GIO）】 高齢者・有病者における口腔ケアの意義を理解するために、口腔ケアや口腔機能向上支援について学習する。</p>	<p>【講義内容】 高齢者・有病者の口腔ケア</p> <p>【到達目標（SBOs）】 口腔ケアの定義を説明できる。 口腔機能向上支援、訪問指導について説明できる。 周術期口腔ケアについて説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム</p>	嶋崎 義浩

		B-1② B-3-2) ①③④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム D-5-1 D-5-7	
8	<p>【講義項目】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容を実践できる知識が備わっているかの総括を行う。</p>	<p>【講義内容】 社会と歯学Ⅱ総括</p> <p>【到達目標（SBOs）】 社会と歯学Ⅱで学んだ内容について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-1) ②③ B-3-2) ①②③④⑤⑧ E-3-3) (1)① 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-6-2-2 D-3-2-1 D-5-1 D-5-1-1, 2 D-5-2-1-1 D-5-2-3-2 D-5-7</p>	嶋崎 義浩
9	<p>【講義項目】 地域口腔保健序論</p> <p>【一般目標（GIO）】 地域における健康づくりを理解するために、地域口腔保健活動の体系や実践について学習する。</p>	<p>【講義内容】 地域口腔保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 地域保健の概要について説明できる。 地域口腔保健活動の進め方について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-2) ①⑧ B-3-2) ⑥ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1 C-5-5</p>	嶋崎 義浩
10	<p>【講義項目】 母子の口腔保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 母子の歯・口腔の健康づくりを理解するために、母子の口腔保健を学習する。</p>	<p>【講義内容】 母子歯科保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 主な母子保健指標の推移を説明できる。 母子保健に関わる法律や制度を説明できる。 都道府県、保健所および市町村における歯科保健業務を説明できる。 母子の口腔保健管理の概要を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習</p>	加藤 一夫

		<p>・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-7-1) ③ B-3-2) ④ B-4-2) ③ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-2-5 C-4-3-1,5 D-5-1-4</p>	
11	<p>【講義項目】 学校での口腔保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 児童・生徒の歯・口腔の健康づくりを理解するために、学校での口腔保健を学習する。</p>	<p>【講義内容】 学校歯科保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 学校保健に関わる法律や制度を説明できる 学校保健活動と保健管理、保健教育を説明できる。 児童・生徒の歯科保健管理と学校歯科医の役割を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・シラバスを読み、授業の要点をあらかじめ把握するとともに、関連する書籍等を参照する（15分） 復習 ・授業の内容を整理して、まとめを作成する（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： A-7-1) ③ B-3-2) ④ 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： C-4-2-5 C-4-3-1 D-5-1-4</p>	加藤 一夫
12	<p>【講義項目】 学校での口腔保健活動</p> <p>【一般目標（GIO）】 児童・生徒・学生の歯・口腔の健康づくりを理解するために、学校における口腔保健管理の活動を学習する。</p>	<p>【講義内容】 学校歯科保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 児童・生徒・学生の歯・口腔の健康づくりに関する学校の口腔保健管理活動を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム A-7-1) ④⑦ B-3-2) ④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1 D-5-1-4</p>	佐々木 貴浩
13	<p>【講義項目】 成人の口腔保健</p> <p>【一般目標（GIO）】 成人の歯・口腔の健康づくりを理解するために、成人の口腔の特徴と口腔保健事業を学習する。</p>	<p>【講義内容】 成人口腔保健</p> <p>【到達目標（SBOs）】 成人の口腔の特徴を説明できる。 成人の口腔保健対策を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分）</p>	嶋崎 義浩

		分) 【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-2) ① B-3-2) ④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1	
14	【講義項目】 職場での口腔保健 【一般目標（GIO）】 職場の歯・口腔の健康づくりを理解するために、産業保健の現状と職場における口腔保健対策、職業性疾患を学習する。	【講義内容】 職場口腔保健 【到達目標（SBOs）】 産業保健について説明できる。 職場での口腔保健対策を説明できる。 職業性歯科疾患を説明できる。 【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム B-2-4) ① B-3-2) ④⑥ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1	嶋崎 義浩
15	【講義項目】 高齢者、障害者・児の口腔保健 【一般目標（GIO）】 高齢者、障害者・児の歯・口腔の健康づくりを理解するために、高齢者、障害者・児の特徴と口腔保健指導について学習する。	【講義内容】 高齢者、障害者・児口腔保健 【到達目標（SBOs）】 高齢者、障害者・児の口腔の特徴を説明できる。 高齢者の口腔保健事業を説明できる。 障害者・児の口腔保健指導について説明できる。 【予習・復習】 予習 ・学習内容の確認をする（15分） 復習 ・学習内容の理解を深めて知識の定着を図る（30分） 【コアカリ】 平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム A-7-1) ③ B-2-2) ④⑤ B-3-2) ④ 令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラム C-4-3-1, 4 D-5-7 D-5-8	野々山 郁

[illegible]

開講年度	2024年度
科目名	実習：社会と歯学
科目ナンバー	D413-578-05
開講学科	2021年度歯学部歯学科
(全) 開講学科	歯学部歯学科 2015年度以降入学 2021年度歯学部歯学科
部門	専門
開講種別	秋学期
対象学年	4年
実務経験教員	歯科医師
関連性が高いディプロマ・ポリシー	② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。 ③ グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。 ④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。
単位数	2.0単位
曜日・時限	木曜1限、木曜2限

コーディネーター	
担当講座	口腔衛生学講座 質問用メールアドレス kouei02@dpc.agu.ac.jp
担当者	主任教授：嶋崎義浩、准教授：加藤一夫、講師：橋本周子、島中瑞季、兼担准教授：犬飼順子、非常勤講師：村上多恵子、武藤昭紀、野々山順也他
授業の概要（目的）	<p>『目的』 社会と歯学（衛生公衆衛生学・口腔衛生学）の方法技術を実習する。</p> <p>『到達目標』 本実習終了時において、社会と歯学の基本的な方法技術を身につけ、歯科医師の社会的役割・責任を果たすことができる実技を習得できている。</p> <p>歯学部ディプロマ・ポリシーの中では、主に「② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。」、「③ グローバルな社会で歯科医師が果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。」、「④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。」に関連する授業科目である。</p>
教材（教科書、参考書等）	<p>『教科書』 1)「口腔衛生学・衛生公衆衛生学実習」（手引き） 2)「衛生学・公衆衛生学実習」（医歯薬出版）ISBN: 978-4-263-45572-2 3)「口腔保健・予防歯科学」（医歯薬出版）ISBN: 978-4-263-45897-6</p> <p>『参考書』 1)「歯科保健関係統計資料」（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-378-4 2)「歯科保健指導関係資料」（口腔保健協会）ISBN: 978-4-89605-392-0</p>
講義（実習）の方法・形式	示説、グループ実習、相互実習
必要機器	
課題（定期試験・レポート試験・授業内試験）のフィードバック方法	報告書を提出する際の口頭試問などを通じて、課題の理解度についてフィードバックを行う。

講義・実習			
講義・実習_回	講義（実習）項目・一般目標（GIO）	講義（実習）内容・到達目標（SBOs）・予習・復習	担当者
1	<p>【実習項目】 口腔衛生学・衛生公衆衛生学実習序論</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔衛生学、衛生公衆衛生学に関する実技、実習を行う意義を理解するために、それぞれの実習内容の項目について学習する。</p>	<p>【実習内容】 口腔衛生学・衛生公衆衛生学実習序論</p> <p>【到達目標（SBOs）】 口腔衛生学、衛生公衆衛生学の実技、実習内容について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季

		<p>・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-2-4、B-3-2 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-4-5、D-5-1</p>	
2	<p>【実習項目】 実習の研究テーマ立案</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔衛生学、衛生公衆衛生学の研究を行う意義を理解するために、研究テーマの立案と実施計画を作成する。</p>	<p>【実習内容】 実習の研究テーマ立案</p> <p>【到達目標（SBOs）】 研究テーマを立案し、実施（実験・測定）計画を作成できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：A-2-1、B-2-4 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-2、C-4-5</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季
3	<p>【実習項目】 衛生統計</p> <p>【一般目標（GIO）】 衛生統計の検定方法を理解するために、PCを用いてデータ集計や統計学的検定の演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 衛生統計</p> <p>【到達目標（SBOs）】 各検定方法（t検定、カイ二乗検定、相関係数の有意性検定）を実施するとともにその内容を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-4-2 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-6-2</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也
4	<p>【実習項目】 衛生統計</p> <p>【一般目標（GIO）】 衛生統計の検定方法を理解するために、PCを用いた演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 衛生統計</p> <p>【到達目標（SBOs）】 各検定方法（t検定、カイ二乗検定、相関係数の有意性検定）を実施するとともにその内容を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-4-2 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-6-2</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也
5	<p>【実習項目】 齲蝕と歯周病の検出</p> <p>【一般目標（GIO）】</p>	<p>【実習内容】 齲蝕と歯周病の検出</p> <p>【到達目標（SBOs）】 齲蝕の検出、CPIの検出とその誤差の原因と対策につ</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也

	<p>齲蝕および歯周病の検出法を理解するために、相互実習により各評価法を実施する。</p>	<p>いて説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-4-1 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-6-1</p>	
6	<p>【実習項目】 齲蝕と歯周病の検出</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕および歯周病の検出法を理解するために、相互実習により各評価法を実施する。</p>	<p>【実習内容】 齲蝕と歯周病の検出</p> <p>【到達目標（SBOs）】 齲蝕の検出、CPIの検出とその誤差の原因と対策について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-4-1 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-6-1</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>
7	<p>【実習項目】 齲蝕活動性試験とフッ化物洗口</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防法、齲蝕活動性試験法を理解するために、相互実習により各方法を実施する。</p>	<p>【実習内容】 齲蝕活動性試験とフッ化物洗口</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物洗口、RDテスト、グルコースクリアランスについて説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：E-5-2</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>
8	<p>【実習項目】 齲蝕活動性試験とフッ化物洗口</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防法、齲蝕活動性試験法を理解するために、相互実習により各方法を実施する。</p>	<p>【実習内容】 齲蝕活動性試験とフッ化物洗口</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物洗口、RDテスト、グルコースクリアランスについて説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：E-5-2</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>

9	<p>【実習項目】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防処置法を理解するために、相互実習により演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物歯面塗布法と安全性について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：E-5-5</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>
10	<p>【実習項目】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防処置法を理解するために、相互実習により演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物歯面塗布法と安全性について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：E-5-5</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>
11	<p>【実習項目】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防処置法を理解するために、相互実習により演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物歯面塗布法と安全性について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：E-5-5</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>
12	<p>【実習項目】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【一般目標（GIO）】 齲蝕予防処置法を理解するために、相互実習により演習を実施する。</p>	<p>【実習内容】 フッ化物歯面塗布法</p> <p>【到達目標（SBOs）】 フッ化物歯面塗布法と安全性について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：G-3</p>	<p>嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季 犬飼順子 村上多恵子 武藤昭紀 野々山順也</p>

		令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号： E-5-5	
13	<p>【実習項目】 テーマ論文発表準備</p> <p>【一般目標（GIO）】 研究内容の効果的なプレゼンテーション方法を学ぶために、テーマ論文内容をまとめて発表の準備を行う。</p>	<p>【実習内容】 テーマ論文発表準備</p> <p>【到達目標（SBOs）】 効果的なプレゼンテーション資料の作成方法を説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：A-2-2 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：RE</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季
14	<p>【実習項目】 テーマ論文発表</p> <p>【一般目標（GIO）】 社会と歯学（衛生学、口腔衛生学、社会歯科学）に関する実技、実習を通して、理解した実習内容の項目についてまとめ確認する。</p>	<p>【実習項目】 テーマ論文発表</p> <p>【一般目標（GIO）】 研究結果の発表を行い、質問に対して的確な対応ができる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：A-2-2 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：RE</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季
15	<p>【実習項目】 口腔衛生学・衛生公衆衛生学実習の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔衛生学、衛生公衆衛生学実習で学んだ内容を実践できるようにするために、学習内容の総括を行う。</p>	<p>【実習項目】 口腔衛生学・衛生公衆衛生学実習の総括</p> <p>【一般目標（GIO）】 口腔衛生学・衛生公衆衛生学の各実習項目の内容について説明できる。</p> <p>【予習・復習】 予習 ・実習内容の確認をする（30分） 復習 ・実習内容の理解を深めて知識の定着を図る（60分）</p> <p>【コアカリ】 平成28年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：B-2-4、B-4-1、B-4-2、G-3 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラム番号：C-4-5、C-6-1、C-6-2、E-5-2、E-5-5</p>	嶋崎義浩 加藤一夫 橋本周子 島中瑞季

開講年度	2024年度		
科目名	統計学		
科目ナンバー	A111-602-51		
開講学科	2024年度薬学部医療薬学科6年		
(全)開講学科	2024年度薬学部医療薬学科6年		
部門	専門		
対象学年	1年		
開講種別	春学期		
曜日時限	金曜2限	教室	楠元4201講義室
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	講義		
担当者(所属講座)	上井 優一(薬剤学)		
使用言語	日本語		
最も関連あるディプロマ・ポリシー項目	科学的観察力、情報分析力、論理的思考力を用いて多面的に問題を発見し、解決策を立案できる。		
担当教員の実務経験			

授業の概要	ヒトには個性がある。疾患の程度や医薬品による反応も患者により多様である。統計はバラツキの対処法であり、「調べたデータの特徴を表現する」及び「標本から母集団を推測する」という2つの役割を担う。また、薬学や医療を含むあらゆる面で活用されている。統計学では、記述統計の手法、標本調査に基づく母集団推定、群間の比較検定及び相関分析についての知識を習得する。	
授業の到達目標	平均値、分散、標準偏差、中央値、四分位数を求め、調査した集団の特徴を示すことができる（記述統計ができる）。 標本調査から母集団の推定や群間の比較検定ができる（推測統計ができる）。	
準備学習（予習・復習など）	シラバスに記載されている内容について予習すること。 受講後はプリントを見返し、理解できなかった点を明確にし、克服すること。 各回の講義前後に、およそ90分を目安として予習・復習すること。	
授業計画		
授業回	授業の内容	コアカリ番号
第1回	確率や期待値を算出できる。ベイズ推定ができる。	B-5-1-2
第2回	平均値、分散、標準偏差、中央値、四分位数を求めることができる。	B-5-1-2, DS-2-1,3
第3回	正規分布の特徴を説明でき、標準正規分布表を活用できる。	B-5-1-2, DS-2-1
第4回	中心極限定理、正規分布の再生性を説明できる。	B-5-1-2
第5回	標本から母平均を推定できる。	B-5-1-2, DS-2-1
第6回	関連2群のt検定を実施できる。	B-5-1-2, DS-2-2
第7回	独立2群のt検定を実施できる。	B-5-1-2, DS-2-2
第8回	Mann-Whitney U検定を実施できる。	B-5-1-2, DS-2-2
第9回	一元配置分散分析を実施でき、多重比較を説明できる。	B-5-1-2, DS-2-2
第10回	相関分析と回帰直線を説明できる。	B-5-1-2, DS-2-1
授業の方法・方略	スライドとプリントを用いた口述講義を行う。	
成績評価及びフィードバック方法	成績評価：中間試験40％、定期試験60％　講義内容を十分に理解し、その到達目標を踏まえた上で、設問に対して論述できる。 フィードバック：両試験については、解答状況を含めコメント・解説を伝える。	
教科書	教科書：指定しません。	
参考書		
オフィスアワー	WebCampusを参照してください。	

参照URL		
表示名	URL	説明
添付ファイル		

開講年度	2024年度		
科目名	基礎薬学演習Ⅰ		
科目ナンバー	A112-478-10		
専門・教養・その他	専門		
対象学年	1年		
開講種別	2024年度春学期		
曜日時限	金曜3限、金曜4限	教室	楠元4201講義室、202 中講義室、4202、4203
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	演習		
担当者（所属講座）	築地 仁美（薬学総合教育）		
使用言語	日本語		
最も関連するディプロマ・ポリシー項目	幅広い教養と薬学的基礎知識を修得し、医療・福祉介護公衆衛生の分野においてどのように応用されるかを理解している。		
担当教員の実務経験			

授業の概要	グループディスカッションと演習により、愛知学院大学薬学部で学んでいくための意欲と学習スキル、薬学専門科目の学修に必要な基礎学力を身につける。多職種連携教育では、薬学人としての専門性を発揮しつつ他の医療関連職と協力して医療にあたるために必要な知識・技能・態度を取得する。ブレPBLでは、薬害及び重篤な副作用について討議・発表することにより、将来医療人として活躍するための意欲を醸成する。		
授業の到達目標	愛知学院大学薬学部で学んでいくための意欲と学習スキル、薬学専門科目の学修に必要な基礎学力を身につける。多職種連携医療について理解し、必要な知識・技能・態度を取得する。薬害及び副作用について理解し、薬学人として必要な資質を身につける。		
準備学習（予習・復習など）	演習前にシラバスに記載されている内容及び到達目標を理解し、関連事項を予習すること。演習後は間違えた箇所を復習し、演習内容を自分なりにまとめ直すなどを行い復習すること。各回の演習前後に、おそよ90分を目安として予習・復習をすること。		
授業計画			
授業回	授業の内容		コアカリ番号
第1回	PBL：新入生研修会でのsmall group discussionを通じて、コミュニケーション能力など薬学人に必要な基礎力を身につける。愛知学院大学で学ぶ意欲を醸成する。		－
第2回	生物演習1：高校生物の範囲で、専門科目生物で重要な以下の項目を題材として、基礎的な事項を理解する。 ①血液、血漿と細胞成分 ②心臓の動き（茂木、尾関（正））		－
第3回	生物演習2：高校生物の範囲で、専門科目生物で重要な以下の項目を題材として、基礎的な事項を理解する。 ③細胞膜の機能 ④神経（1）（茂木、尾関（正））		－
第4回	生物演習3：高校生物の範囲で、専門科目生物で重要な以下の項目を題材として、基礎的な事項を理解する。 ⑤神経（2） ⑥筋肉収縮（茂木、尾関（正））		－
第5回	生物演習4：高校生物の範囲で、専門科目生物で重要な以下の項目を題材として、基礎的な事項を理解する。 ⑦腎臓の動き ⑧肺の動き（茂木、尾関（正））		－
第6回	化学・物理演習：高校化学・物理の範囲で、専門科目において重要な項目と、プレイスメントテストで把握した苦手項目の問題演習を通して、高校化学・物理の基礎学力をつける。（武田、尾関（正））		－
第7回	生物・数学演習：高校生物・数学の範囲で、専門科目において重要な項目と、プレイスメントテストで把握した苦手項目の問題演習を通して、高校生物・数学の基礎学力をつける。（築地、森田）		－
第8回	多職種連携教育（IPE）：多職種連携医療において、薬学人としての専門性を発揮しつつ他の医療関連職と協力して医療にあたるために必要な知識・技能・態度を取得する。		B-2-2-1,2,3
第9回	ブレPBL1：薬害被害者の話を聴いて、その薬学の問題点を見出し、回避する手段を考え、討論する。（薬物治療学、生化学、薬剤学）		B-1-3-1,3
第10回	ブレPBL2：代表的な薬害および重篤な副作用について、問題点を見出し、回避する手段を考え、討論する。（薬物治療学、生化学、薬剤学）		B-1-3-1,3
授業の方法・方略		生物演習では、講義ののちESSを用いた演習を行う。化学・物理演習と生物・数学演習では、化学と生物の習得度に基づき2グループに分けて実施する。IPEは愛知学院大学歯学部学生と合同で実施する。ブレPBLでは、6-7名の小グループでディスカッションを行う。	

成績評価及びフィードバック方法	課題、態度、小テストによる評価10%ずつ x 10回で評価する。フィードバックは学期末に最終評価に関する総評を伝える。		
教科書	教科書：配付プリント		
参考書			
オフィスアワー	各担当教員のWebCampusを参照して下さい。		
参照URL			
表示名	URL	説明	
添付ファイル			

開講年度	2024年度		
科目名	基礎薬学演習Ⅱ		
科目ナンバー	A112-478-20		
開講学科	2024年度薬学部医療薬学科6年		
(全)開講学科	2024年度薬学部医療薬学科6年 2021年度薬学部医療薬学科6年		
部門	専門		
対象学年	1年		
開講種別	秋学期		
曜日時限	金曜1限、金曜2限	教室	楠元4201講義室、202 中講義室、4202、4203
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	演習		
担当者(所属講座)	築地仁美(薬学総合教育), 武田良文, 茂木眞希雄(薬学部教育支援室), 各講座教員		
使用言語	日本語		
最も関連あるディプロマ・ポリシー項目	薬学的エビデンスならびに患者・生活の情報に基づいた薬物治療法と服薬指導および患者本位の薬学的管理を提案できる。		
担当教員の実務経験			

授業の概要	統計に関する課題に取り組み、表計算ソフトを活用した記述統計と推測統計の実践方法を習得する。また、政府統計e-Statに存在する保健医療に関するデータを取り扱い、統計的解析を行う。さらに、スモールグループディスカッションを通じて、将来の医療人としての使命感及び感性を養う。また、PROGテストで見出した自身の弱点に関する自己改善計画について、これまでの経過と今後の方針についてまとめることで、自己研鑽する。		
授業の到達目標	記述統計と推測統計を行う際、表計算ソフトを活用できる。政府統計e-Statを利用して、日本の保健医療における課題を抽出し、対策を立案できる。スモールグループディスカッションを通じて、将来の医療人としての使命感及び感性を養う。自身の弱点克服の方法を自ら考え自己研鑽することができる。		
準備学習（予習・復習など）	演習前にシラバスに記載されている授業内容及び到達目標を理解し、各自で関連事項を予習すること。事前に統計学の講義内容を復習して臨むことが望ましい。演習後は、今後の学習に活かせるよう、テキストや演習内容（配布プリント、ノート）を見返して、内容を理解する。春学期に立てたPROGテストで見出した自身の弱点に関する自己改善計画を実施しておく。各回の演習前後に、およそ90分を目安として予習・復習すること。		
授業計画			
授業回	授業の内容	コアカリ番号	
第1回	表計算ソフトを用いて記述統計ができる。日本における薬剤師数と医師数を知る。（上井、尾関、波多野、安永）	B-5-1-1,2,3, DS-2-1	
第2回	表計算ソフトを用いて棒グラフと折れ線グラフを作成できる。日本における死因を知り、対策を考察する。（上井、尾関、波多野、安永）	B-5-1-1,2,3, DS-2-2	
第3回	表計算ソフトを用いてヒストグラムの作成を作成できる。大数の法則と中心極限定理を示すことができる。（上井、尾関、波多野、安永）	B-5-1-2	
第4回	表計算ソフトを用いて相関分析ができる。日本における死亡数を知る。（上井、尾関、波多野、安永）	B-5-1-1,2, DS-2-1	
第5回	表計算ソフトを用いてt検定ができる。日本の患者数と医療費を知る。医療費を抑制する方策を考察する。（上井、尾関、波多野、安永）	B-5-1-1,2,3, DS-2-3	
第6回	ブレPBL1：薬剤師に関するシナリオから問題点を見出すことができる。（微生物学、薬化学、生体有機化学）	B-1-1-1,2,3, B-1-3-1, B-2-1-1,2,3, B-3-2-1	
第7回	ブレPBL2：薬剤師に関するシナリオから情報を収集し、問題解決のための方法を考え、共有することができる。（微生物学、薬化学、生体有機化学）	B-1-1-1,2,3, B-1-3-1, B-2-1-1,2,3, B-3-2-1	
第8回	ブレPBL3：薬剤師に求められる生命・医療倫理観や患者・生活者の尊厳と権利に関するシナリオから問題点を見出し、自らの意見をまとめることができる。（衛生薬学、製剤学、薬品分析学）	B-1-1-1,2,3, B-1-3-1, B-2-1-1,2,3, B-3-2-1	
第9回	ブレPBL4：薬剤師に求められる生命・医療倫理観や患者・生活者の尊厳と権利に関するシナリオに関する自らの意見をまとめ、発表することができる。（衛生薬学、製剤学、薬品分析学）	B-1-1-1,2,3, B-1-3-1, B-2-1-1,2,3, B-3-2-1	
第10回	PBLに関する総評を行う。また、PROGテストで見出した自身の弱点に関する自己研鑽計画について、これまでの経過を振り返り、今後の方針についてまとめる。（築地、尾関（正）、森田）		B-1-1-1,2,3, B-1-3-1, B-2-1-1,2,3, B-3-2-1

授業の方法・方略	コンピューターを用いた実技演習を行う。プレPBLでは、6～7人のグループで、同一あるいは異なった課題のPBL学習に取り組む。	
成績評価及びフィードバック方法	演題課題100％ フィードバック：学期末に、最終評価に関する総評を伝えます。	
教科書	教科書：配付プリント	
参考書		
オフィスアワー	各担当教員のWebCampusを参照して下さい。	
参照URL		
表示名	URL	説明
添付ファイル		

開講年度	2024年度		
科目名	情報処理演習		
科目ナンバー	A212-474-20		
開講学科	2021年度薬学部医療薬学科6年		
(全)開講学科	2021年度薬学部医療薬学科6年 2020年度薬学部医療薬学科6年 2019年度薬学部医療薬学科6年		
部門	専門		
対象学年	2年		
開講種別	秋学期前半		
曜日時限	木曜3限、木曜4限、木曜5限、金曜3限、金曜4限、金曜5限	教室	4301 パソコン室
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	演習		
担当者(所属講座)	村木 克彦.波多野 紀行..鈴木 裕可(薬効解析学),築地 仁美(薬学総合教育).大井 義明.兒玉 大介(応用薬理学)		
使用言語	日本語		
最も関連あるディプロマ・ポリシー項目	人々の健康維持と医療の発展に携わるものとして求められる教養と倫理観とコミュニケーション能力を身につける。		
担当教員の実務経験			

授業の概要	現代社会では、発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能やビッグデータ等の情報・科学技術を活用しながら、医療・薬学を実践することが求められている。そのため情報・科学技術を活かす能力の涵養は、これからの医療薬学専門人に必須である。情報処理演習では、こうした能力を多面的に養う講義や演習を実施する。なお本演習は、データサイエンス科目であり、社会におけるデータ・AI利活用の一部、データリテラシーの一部を担当する授業である。		
授業の到達目標	社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する。 AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る。どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る。さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る。データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る。データを適切に説明する技能を養う。データを扱うための技能を養う。これらの知識・技能を有機的に結びつけ、医療分野において人工知能やビッグデータ等を活用できる力を養う。		
準備学習（予習・復習など）	演習前にシラバスに記載されている到達目標について、演習書の関連する該当箇所に目を通して予習すること。演習後は、学んだ内容をよく理解・整理し、今後の学習に活かせるようにする。 各回の演習前後に、およそ90分を目安として予習・復習すること。		
授業計画			
授業回	授業の内容		SBOコード
第1回	オリエンテーション：発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能やビッグデータ等の情報・科学技術を活用しながら、医療・薬学を実践する。 表計算ソフトの利用方法①：データを扱う力を養う。Excel関数で成績評価表を作成しデータの取り扱い方を学ぶ。 DS2-3（データの集計、データの並び替え・ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ） （薬効解析学・応用薬理学）		A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-1, DS2-3
第2回	表計算ソフトの利用方法②：データを適切に説明する力を養う。実験データからグラフを作成する。 DS2-2（データ表現、データの図表表現） （薬効解析学・応用薬理学）		A-(5)-①-2,3,4,5, DS2-2
第3回	表計算ソフトの利用方法③：データを適切に説明する力を養う。実験データからグラフを作成する。 DS2-2（データ表現、データの図表表現） （薬効解析学・応用薬理学）		A-(5)-①-2,3,4,5, DS2-2
第4回	表計算ソフトの利用方法④：データを適切に説明する力を養う。不適切なグラフ表現を例示する。作成したグラフを比較し適切な表現方法を学ぶ。 DS2-2（データの比較、不適切なグラフ表現） （薬効解析学・応用薬理学）		A-(5)-①-2,3,4,5, DS2-2
第5回	プレゼンテーションソフトの利用方法：データを適切に説明する力を養う。グラフを貼り付けグラフ挿入のレポートを作成する。その過程で、適切なグラフ表現法について学ぶ。 DS2-2（データの比較、不適切なグラフ表現） （薬効解析学・応用薬理学）		A-(5)-①-2,3,4,5, DS2-2

第6回	ワープロソフトの利用方法：データを適切に説明する力を養う。グラフを貼り付けグラフ挿入のレポートを作成する。その過程で、適切なグラフ表現法について学ぶ。 DS2-2（データの比較、不適切なグラフ表現） （薬効解析学・応用薬理学）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS2-2
第7回	社会の変化を捉え、データサイエンスを学ぶ意義と活用を知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-1：ビッグデータ, AI, Society 5.0, データ駆動型社会, データ爆発, AIの非連続進化, 人とAIの関係性 （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-1
第8回	データの収集と活用を知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-2：・1次データ、2次データ、・データのオープン化（オープンデータ）、構造化データ・非構造化データ （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-2
第9回	多領域でのデータ・AIの活用を知る。ビッグデータの蓄積が医療における問題解決に有効であることを知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-3：・仮説検証、知識発券、原因究明、計画策定、判断支援 （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-3
第10回	データの収集と活用を知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-2：データのメタ化、データ作成（ビッグデータとアノテーション）、データのオープン化 （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-2
第11回	データ・AIの活用で生まれる価値を知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-5：データサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工） （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-5
第12回	データ・AIの活用で生まれる価値を知る。データ解析演習によりデータ活用の有用性を理解する。 DS1-5：データサイクル（探索的データ解析、解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決提案） （薬学総合教育）	A-(5)-①-2,3,4,5, DS1-5
第13回		
第14回		
第15回		

授業の方法・方略	講義と演習で授業を実施する。またコンピューターを用いた実技演習も行う。 パソコン室の利用状況と演習時の時間超過を考慮し、演習スケジュールを調整する。
成績評価及びフィードバック方法	個人レポート課題（50％）、個人演習課題および態度点（25％）、グループ課題発表（25％） 個人レポート課題：PCを用いて、正確でわかりやすいレポートを作成することができる。また、課題について、講義内容を踏まえて適切にまとめ、正しい日本語で記述できる。 （フィードバック）学期末に、最終評価に関する総評を伝えます。
教科書	教科書：プリント資料を配付する。
参考書	
オフィスアワー	WebCampus を参照して下さい。

参照URL		
表示名	URL	説明

添付ファイル	
--------	--

開講年度	2024年度		
科目名	製剤工学		
科目ナンバー	A311-472-20		
開講学科	2021年度薬学部医療薬学科6年		
(全)開講学科	医療薬学科6年コース 2015年度以降入学 2021年度薬学部医療薬学科6年 2020年度薬学部医療薬学科6年 2019年度薬学部医療薬学科6年		
部門	専門		
対象学年	3年		
開講種別	秋学期		
曜日時限	木曜3限	教室	204 大講義室
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	講義		
担当者(所属講座)	山本 浩充(製剤学)		
使用言語	日本語		
最も関連あるディプロマ・ポリシー項目	薬学分野における基礎的・専門的知識ならびに技能と態度を修得する。		
担当教員の実務経験			

授業の概要	医薬品の有効性、安全性、信頼性の高い高品質な医薬品製剤を安定に、効率よく製造するためには、どのような環境で、どのような製法によってなされるかを解説する。製剤の機能を高めるためのDDS設計法についても取り上げる。具体的には、医薬品の製剤化のための単位操作及び製剤機械の原理と実際を説明する。更に、工業的規模での製造プロセス、高品質な医薬品を提供するために実施されるバリデーションや品質管理、GMPなどの法令を取り上げる。製剤工学で講義する医薬品の創製、適正品質の医薬品の供給などを通じ、疾病に苦しむ人々の治療に貢献する倫理観・意識も身につける。製剤工学では、コアカリキュラムの内容に加え、製剤分野に関連したAI・数理・データサイエンスの活用に関連する事項、独自の内容（アドバンスト）を含む。	
授業の到達目標	製剤化の意義を理解するために、製剤設計および薬物送達システムに関する基本的事項を修得し、説明できる。 各種製剤の製造、品質などに関する基本的事項を修得し、説明できる。 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した薬物送達システム（DDS）に関する基本的事項を修得し、説明できる。 製剤プロセスや医療に活用され始めているDx・AI技術について知る。	
準備学習（予習・復習など）	各回の講義前後に、およそ90分を目安として、授業内容に関連する教科書の該当箇所の予習並びに講義内容、教科書、配布プリントをまとめ、復習すること。	
授業計画		
授業回	授業の内容	SBOコード
第1回	製剤工学概論：製剤工学で何を学ぶのかを講義する。また、製剤学で学んだ剤形について復習する。医薬品開発の流れと製剤学の寄与について説明できる。医薬品開発に用いられ始めているAI技術（研究開発への応用など）について学ぶ。	A-(1)-②-5, B-(2)-②-2, E3-(1)-①-3,4, E5-(2)-②-2, E5-(2)-③-1, DS-1-3
第2回	固形製剤の製法1：粉砕プロセスの目的と用いられる機器およびそれらの粉砕機構、分級プロセスの目的と分級効率、混合プロセスと混合に用いられる機器の特徴について説明できる。	E5-(1)-①-1,2,3,5, E5-(2)-①-1, E5-(2)-②-2, アドバンスト
第3回	固形製剤の製法2：造粒の目的と乾式・湿式造粒に用いられる機器について、その造粒原理と得られる粒子の特徴について説明できる。	E5-(2)-①-1, E5-(2)-②-2, アドバンスト
第4回	固形製剤の製法3：乾燥機構と乾燥方法について説明できる。	E5-(2)-①-1, E5-(2)-②-1,2, アドバンスト
第5回	固形製剤の製法4：錠剤の製法、機器、粉体の圧縮プロセスの機構について説明できる。	E5-(1)-④-1, E5-(2)-①-1, E5-(2)-②-1,2, アドバンスト
第6回	固形製剤の製法5：コーティングの目的、錠剤や顆粒剤へのコーティングに用いられる機器と特徴について説明できる。 カプセル剤の製法について説明できる。	E5-(1)-④-1,2, E5-(2)-①-1, E5-(2)-②-1,2, アドバンスト

第7回	DDS製剤1：製剤からの薬物溶出過程について、制御法、解析法を説明できる。 製剤設計・粒子設計機能性材料を用いた製剤設計法（腸溶性、徐放性、放出制御製剤、速崩壊性錠剤など）について説明できる。	E5-(2)-①-1,2,5, E5-(2)-②-1, E5-(2)-③-1, E5-(3)-①-1,2, E5-(3)-②-1,2,3, E5-(3)-③-1,2,3
第8回	無菌製剤の製造法、無菌製剤の製造プロセスについて説明できる。	E5-(1)-④-1, E5-(2)-①-1,4, E5-(2)-②-1,2
第9回	DDS製剤2：リポソーム製剤、マイクロスフェア製剤などの機能性DDS製剤について説明できる。 製剤と高分子 製剤と高分子、医用高分子について説明できる。	C4-(3)-②-2, C7-(1)-⑥-1, E2-(2)-④-1, E4-(1)-④-4, E5-(1)-②-2, E5-(1)-④-1, E5-(2)-①-3,4, E5-(2)-③-1, E5-(3)-①-1,2, E5-(3)-②-1,2,3, E5-(3)-③-1,2,3
第10回	難水溶性化合物の溶解性改善手法について説明できる。	E5-(1)-①-5, E5-(2)-①-1,2, E5-(2)-②-1, E5-(2)-③-1, E5-(3)-②-3, E5-(3)-④-1,2,3, アドバンスト
第11回	品質保証GMP、バリデーション、品質管理法の基本とその意義について説明できる。	A-(1)-②-5, A-1-③-4,6, A-(1)-④-1, B-(2)-②-1,3,4,5,7,11, B-(3)-②-3, E3-(1)-①-5, アドバンスト
第12回	製剤の品質管理、統計処理法（データの集計、データ解析、データ表現、可視化による異常検知など）について説明できる。	A-(1)-②-5, A-(1)-③-3, E3-(1)-⑤-1, E3-(1)-⑥-7, アドバンスト, DS-2-2, DS-2-3, DS-3-2
第13回	製剤加工装置のIoT化（情報セキュリティ（機密性、完全性、可用性））と製剤プロセス（デジタルツイン、データの可視化、認識技術、自動化技術、挙動、軌跡の可視化）・医薬品供給のDx化（AIを活用したビジネスモデル、AI最新技術の活用例、非構造化データ処理技術など）、スマートファクトリーについて知る。また、AI社会原則、AIサービスの責任論、負の事例について知る。	アドバンスト, DS-1-3,4,5,6, DS-3-1
第14回		
第15回		
授業の方法・方略		講義（製剤工学では、教科書、配付資料を基に講義形式で行う。製剤機械などは、実際に装置を運転しているビデオなどを利用しながら機械の特徴、得られる製品の特徴などを紹介し、学生の理解度を高めるようにする。）
成績評価及びフィードバック方法		定期試験 70% 講義内容を十分に理解し、製剤工学で設定した授業の到達目標ならびに各講義に設定したSBOsをふまえた上で設問に対して論述できる。 課題 30% 講義内容を判りやすく適切にまとめる。 （フィードバック） 定期試験結果を掲示する際に、試験の解答状況に関してコメントを掲示する。
教科書		教科書：最新製剤学（廣川書店）
参考書		参考書：すぐに役立つ粒子設計・粒子加工技術（じほう）
オフィスアワー		WebCampusを参照してください。
参照URL		
表示名	URL	説明
添付ファイル		

開講年度	2024年度		
科目名	医薬品情報学		
科目ナンバー	A311-476-12		
専門・教養・その他	専門		
対象学年	3年		
開講種別	2024年度春学期		
曜日時限	水曜1限	教室	204 大講義室
単位数	1単位		
必修・選択	必修		
授業形態	講義		
担当者（所属講座）	河原 昌美, 安藤 基純（臨床薬学） 浦野 公彦（医療薬学） 尾関 佳代子（実践薬学）		
使用言語	日本語		
最も関連あるディプロマ・ポリシー項目	薬学分野における基礎的・専門的知識ならびに技能と態度を修得する。		
担当教員の実務経験	実務経験あり		

授業の概要	医薬品開発時の物理化学的情報、薬理学的情報を正しく把握し、薬物治療に必要な情報を収集・評価・加工し、提供するための手法を身につける。 【実務経験を活かした教育内容】臨床現場での医療者や患者からの質問を想定し、授業で学んだ手法を用いて情報提供できるような授業内容を想定する。	
授業の到達目標	医療チームおよび患者に必要な情報を提供するために、情報を収集・評価し、個別化医療に対応するように加工・提供することができる。	
準備学習（予習・復習など）	講義前には、教科書の該当部分を読み、必要な知識と到達目標について予習する。受講後は、重要な単語の意味を復習し、必要に応じて使えるようにする。日常的に出会う医薬品情報を批判的に吟味する習慣をつける。 各回の講義前後に、およそ90分を目安として予習・復習すること。	
授業計画		
授業回	授業の内容	SBOコード
第1回	医薬品情報の概要。医薬品情報に関わる職種と役割。医薬品の開発過程、市販後に行われる試験と得られる医薬品情報の理解。（河原）	E3-(1)-①-1,2,3,4, A-(1)-②-4
第2回	医薬品情報に関係する代表的な法律や制度とレギュラトリーサイエンス。一次資料、二次資料、三次資料。添付文書とインタビューフォームの位置づけと利用方法を理解する。（河原）	E3-(1)-①-5, E3-(1)-②-1,2,3,4,5,6
第3回	医薬品のリスク管理計画。文献データベースを用いた医薬品情報の検索と収集および評価。可視化された図表を用いた医薬品情報の理解。（河原）	E3-(1)-③-1,2,3,4,5, DS-1-4
第4回	EBMの基本概念と代表的な臨床研究法のエビデンスレベルについて概説。臨床研究論文の批判的吟味。EBMにおけるメタアナリシスの概念の理解と診療ガイドラインの位置づけを理解する。（尾関）	E3-(1)-④-1,2,3,4, DS-2-1
第5回	臨床研究における統計解析の基本と検定方法の理解。仮説検定と過誤、確立分布の理解。国勢調査やアンケート結果を用いた因果関係説明。（尾関）	E3-(1)-⑤-1,2,3, DS-2-1
第6回	パラメトリックとノンパラメトリックの違いや、群間の差の検定方法の違いの理解。主な回帰分析と相関係数、生存時間解析の理解。クロス集計や行列の紹介。（尾関）	E3-(1)-⑤-4,5,6,7, DS-2-1
第7回	臨床研究の主な統計解析方法とバイアス・交絡の理解。観察研究の主な疫学研究デザインの理解。副作用の因果関係を評価するアルゴリズムを概説。データの可視化表現と優れた事例紹介。（安藤）	E3-(1)-⑥-1,2,3,4, DS-2-2
第8回	優越性試験と非劣性試験。介入研究の計画上の技法、ランダム化、盲検化。さまざまなパラメータの算出。データの集計と解析ツールの紹介。（安藤）	E3-(1)-⑥-5,6,7,8,9, DS-2-3
第9回	医薬品の選択・採用における同種同効薬の有効性、安全の比較・評価。先発医薬品とバイオシミラーの比較・評価。（河原）	E3-(1)-⑦-1,2,3
第10回	神経系に作用する薬物の基本構造と薬効、有害事象の関連性。薬物乱用による健康被害とスポーツファーマシストの役割。（外部講師）	E1-(4)-1,2,4, E2-(1)-④-1, F-(5)-②-1
第11回	薬物治療に必要な患者の情報源と収集方法。処方監査、服薬指導・情報提供に必要な医薬品情報。医薬品の効果・副作用の評価。POSシステムによる患者情報の収集・評価とSOAPの考え方。ビッグデータを用いた情報。（尾関）	E3-(2)-①-1,2, E3-(2)-②-1,2,3,4, DS-1-4
第12回	個別化医療に必要な患者情報。体内動態、遺伝的要因を考慮した投与設計。（安藤）	E3-(3)-①-1,2,3, E3-(3)-③-1,2,3

第13回	小児、高齢者、妊婦・授乳婦、栄養状態を考慮した薬物治療と医薬品情報。コンパニオン診断に基づく薬物治療を理解する。(河原)		E3-(3)-②-1,2, E3-(3)-④-1,2,3, E3-(3)-⑤-1,2
第14回			
第15回			
授業の方法・方略		教科書に沿った内容で授業を行う。プリント資料を配布し、パワーポイントを使用した口述講義を行う。単元毎に確認テストで理解を深める。	
成績評価及びフィードバック方法		定期試験： 60%、小テスト：40% 授業の内容を十分に理解し、授業の到達目標をふまえた上で、設問に対して回答できる。 (フィードバック) 定期試験終了後に、解答状況に関するコメントを伝えます。	
教科書		教科書：図解医薬品情報学 改訂5版 (南山堂)	
参考書		参考書：薬局から研究を発信しよう！ (薬事日報社)	
オフィスアワー		WebCampusを参照してください。	
参照URL			
表示名		URL	説明
PMDAホームページ		https://www.pmda.go.jp/	(添付文書、インタビューフォーム、RMP、医薬品申請時の資料等を閲覧することができる。)
添付ファイル			

カリキュラム概要

宗教文化学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
36 単位		76 単位		16 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
	分野合計	内 訳				
教養基幹科目			教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系	4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系	4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系	4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②		
	主題系	4単位		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②		
外国語科目	第1外国語	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
	第2外国語	2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
	文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
	健康総合科学科目	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、24単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.38を参照。				

グレーゾーン（16 単位）

グレーゾーン	要件単位	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
		英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①	英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①		
グレーゾーン	16単位	ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 ** スペイン語	I（基礎）・Ⅱ（基礎）各①	Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、会話Ⅰ・Ⅱ 各①	
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
			海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①		
		* キャリア・デザイン②			
			* インターンシップ②		
		* 地域連携学 A・B・C・D 各②			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件 24 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 76 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（24 単位まで修得可） ※ グレーゾーンの要件 16 単位を超えた場合は、8 単位まで④「専門教育科目」に算入される。			

* いずれか2単位のみグレーゾーンに算入
 ** スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76 単位）

分野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
	合計	内訳				
専門 基礎科目	8単位	宗教学入門Ⅰ・Ⅱ、仏教学入門Ⅰ・Ⅱ、禅学入門Ⅰ・Ⅱ 各②				
		地域宗教文化Ⅰ・Ⅰ・Ⅰ・Ⅱ、地域宗教文化Ⅱ・Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ、地域宗教文化Ⅲ・Ⅰ・Ⅲ・Ⅱ 各②（注）				
	4単位	宗教文化史Ⅰ・Ⅱ、仏教の歴史Ⅰ・Ⅱ、禅宗史Ⅰ・Ⅱ 各②				
専門 基礎語学	4単位	宗教学英書入門Ⅰ・Ⅱ、仏教漢文入門Ⅰ・Ⅱ、パーリ語入門Ⅰ・Ⅱ、サンスクリット語入門Ⅰ・Ⅱ 各②				
専門 一般科目 ①	64単位	現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ、現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ 各②				
		基礎セミナーⅠ ②	比較宗教思想Ⅰ・Ⅱ、宗教社会学Ⅰ・Ⅱ、宗教心理学Ⅰ・Ⅱ、仏教の中国的展開Ⅰ・Ⅱ、中国仏教の思想Ⅰ・Ⅱ、仏教の日本的展開Ⅰ・Ⅱ、禅の思想Ⅰ・Ⅰ・Ⅰ・Ⅱ、禅の思想Ⅱ・Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ、教化布教特講、行持の基礎、坐禅Ⅰ・Ⅱ、西洋古典の文化Ⅰ・Ⅱ、西洋の思想Ⅰ・Ⅱ、インドの思想Ⅰ・Ⅱ、中国の思想Ⅰ・Ⅱ、日本の思想Ⅰ・Ⅱ、日本の仏教Ⅰ・Ⅱ 各②			
		基礎セミナーⅡ ②	宗教と民俗文化Ⅰ・Ⅱ、比較宗教史Ⅰ・Ⅱ、宗教人類学Ⅰ・Ⅱ、宗教教理学Ⅰ・Ⅱ、仏典講読Ⅰ・Ⅱ、インド仏教の思想Ⅰ・Ⅱ、日本仏教の思想Ⅰ・Ⅱ、仏教美術Ⅰ・Ⅱ、禅語録講読Ⅰ・Ⅱ、禅と芸術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	4単位	宗教文化セミナーⅠ・Ⅱ 仏教文化セミナーⅠ・Ⅱ 禅文化セミナーⅠ・Ⅱ 各②				
総合セミナー	4単位	総合セミナーⅠ・Ⅱ 各②				
卒業論文	4単位	卒業論文 ④				
合計	76単位					

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

※「教化布教特講」と「行持の基礎」は原則宗内生のみ履修可能。

（注）春学期に基礎セミナーⅠを履修する者は、秋学期開講の地域宗教文化Ⅰ・Ⅱをあわせて履修することが望ましい。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択 科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
			長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.52・53を参照

カリキュラム概要

歴史学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 40 単位	+	専門教育科目 80 単位	+	グレーゾーン 8 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（40 単位）

分 野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次		
	分野合計	内訳						
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②					
教養基幹科目			教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①				
			4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②				
			4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ 各②				
			4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
			4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②				
外国語科目	36単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①				
			2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）				
			2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）				
			エレクトィブ	【英語】英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語・スペイン語】Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎）各①				
				【英語】英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各① 【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、会話Ⅰ・Ⅱ 各①				
健康総合科学科目		2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①					
合計	40単位	※「教養教育科目」において、40単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.38を参照。						

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
		長期インターンシップ④			

※詳細についてはP.52・53を参照

カリキュラム概要

専門教育科目（80 単位）

分 野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎 科目	18単位	日本史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史概説Ⅰ・Ⅱ、西洋史概説Ⅰ・Ⅱ、イスラム圏史概説、考古学概説Ⅰ・Ⅱ 各②			
	10単位		史学概論Ⅰ・Ⅱ、考古学概論 各②		
				東西交渉史Ⅰ・Ⅱ、国際関係史Ⅰ・Ⅱ 各②	
専門 一般科目 (注1)	4単位		基礎講読Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、イスラム圏史、考古学A・Bの各基礎講読から2科目(4単位) を選択		
	8単位		特殊講義Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、イスラム圏史、考古学A・B、地域史C、世界史C、 文化財科学Cの特殊講義から4科目(8単位)を選択		
	4単位			専門講読Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、イスラム圏史、 考古学A・Bの各専門講読から2科目(4単位)を選択	
	4単位			基礎演習Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、イスラム圏史、 考古学A・Bの各基礎演習から2科目(4単位)を選択	
	8単位			特殊研究Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、イスラム圏史、考古学A・B、 地域史C、世界史C、文化財科学Cの特殊研究から4科目(8単位)を選択	
	4単位				専門演習Ⅰ・Ⅱ 各② 日本史A・B、東洋史A・B、西洋史A・B、 イスラム圏史、考古学A・Bの各専門演習から 2科目(4単位)を選択
卒業論文	8単位				卒業論文⑧
選択科目 (注2)	12単位 ①	地理学A・B、地誌、組織社会学Ⅰ・Ⅱ、文化人類学Ⅰ・Ⅱ、 中国文化史入門、韓国・朝鮮文化史入門 各②			
		自然地理学Ⅰ・Ⅱ、★古文書学Ⅰ・Ⅱ(注3)、日本民俗学Ⅰ・Ⅱ、日本の思想Ⅰ・Ⅱ、中国の思想Ⅰ・Ⅱ、 東アジア史Ⅰ・Ⅱ、西洋の思想Ⅰ・Ⅱ、美術の歴史Ⅰ・Ⅱ、西洋古典の文化(ラテン語)Ⅰ・Ⅱ、 地域考古学Ⅰ・Ⅱ、☆考古学基礎野外演習A・B(注3) 各②			
				アジア諸国史、西欧文明史Ⅰ・Ⅱ、欧米諸国史Ⅰ・Ⅱ、 ☆考古学専門野外演習A・B(注3)、海外の考古学Ⅰ・Ⅱ 各②	
合計	80単位	※80単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。			

(注1)基礎講読・専門講読・特殊講義・特殊研究は「Ⅰ・Ⅱ」をセットで履修してください。
(注2)専門教育科目(選択科目)のうち4単位は専門一般科目の必要最低単位数を超えた単位で振替ができます。
(注3)★「古文書学Ⅰ・Ⅱ」は日本史コース専攻者の必修科目ですので、同コース専攻者は必ず4単位修得してください。
☆「考古学基礎野外演習」「考古学専門野外演習」は考古学コース専攻者の選択必修科目ですので、同コース専攻者は必ず2単位ずつ修得してください。

グレーゾーン（8 単位）

	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	8単位		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		*キャリア・デザイン②			
				*インターンシップ②	
		*地域連携学 A・B・C・D 各②			
		・「教養教育科目」の要件 40 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 80 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（20 単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件 8 単位を超えた場合は、12 単位まで④「専門教育科目」に算入される。			

*いずれか2単位のみグレーゾーンに算入

カリキュラム概要

英語英米文化学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	グレーゾーン 16 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目			教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系	4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系	4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系	4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②		
	主題系	4単位		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②		
外国語科目	第1外国語	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
	第2外国語	2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
	文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.38を参照。				

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
			長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.52・53を参照

カリキュラム概要

専門教育科目（76 単位）

分 野		要件単位 内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
英語科目	英語基礎科目	26単位	Culture through EnglishⅠa・Ⅰb 各② Oral CommunicationⅠa・Ⅰb、English for TOEICⅠa・Ⅰb 各①			
	英語発展科目	4単位	Culture through EnglishⅡa・Ⅱb 各② Oral CommunicationⅡa・Ⅱb、English for TOEICⅡa・Ⅱb、ReadingⅠa・Ⅰb、WritingⅠa・Ⅰb 各① Japanese Culture through English a・b ReadingⅡa・Ⅱb、WritingⅡa・Ⅱb 各①			
専門専攻科目	20単位	10単位	English Camp ② Introduction to Living Overseas、TOEFLⅠ、Power-Up EnglishⅠ 各①			
			TOEFLⅡ、TOEFLⅢ、Power-Up EnglishⅡ、Online Communication in English Business English、English through Movies、Reading Fiction in English 各① English for TOEICⅢa・Ⅲb Current Affairs、Historical Affairs、Power-Up EnglishⅢ 各①			
	12単位	Study TourⅠ～Ⅲ 各②				
		キャリアデザイン a・b 各② 英語学概論a・b、日英語比較a・b、英語の歴史a・b アメリカ文化研究Ⅰa・Ⅰb、アメリカ文化研究Ⅱa・Ⅱb、アメリカ文学研究a・b イギリス文化研究Ⅰa・Ⅰb、イギリス文化研究Ⅱa・Ⅱb、イギリス文学研究a・b アジア・オセアニア文化研究Ⅰa・Ⅰb、アジア・オセアニア文化研究Ⅱa・Ⅱb 国際研究Ⅰa・Ⅰb、国際研究Ⅱa・Ⅱb、比較文化論、大衆文化論 各②				
専門演習科目	4単位	英語研究特講Ⅰa・Ⅰb、英語研究特講Ⅱa・Ⅱb アメリカ文化特講Ⅰa・Ⅰb、アメリカ文化特講Ⅱa・Ⅱb イギリス文化特講Ⅰa・Ⅰb、イギリス文化特講Ⅱa・Ⅱb アジア・オセアニア文化特講Ⅰa・Ⅰb 国際研究特講Ⅰa・Ⅰb、国際研究特講Ⅱa・Ⅱb 各②				
		基礎演習Ⅰ ②				
卒業論文	4単位	基礎演習Ⅱ ②				
		英米文化演習a・b 各②				
卒業論文	4単位	総合演習 a・b 各②				
		卒業論文 ④				
合計		76単位	※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。			

グレーゾーン（16 単位）

要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	16単位	英会話 I・II、メディア英語 I・II、英語表現法 I・II、英語読解法 I・II、実践英語 I・II 各①			
		英会話 III・IV、メディア英語 III・IV、英語表現法 III・IV、英語読解法 III・IV、実践英語 III・IV 各①			
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 ** スペイン語			
		I（基礎）・II（基礎）各①			
		III（読解）・IV（読解）、III（表現）・IV（表現）、III（総合）・IV（総合）、 会話 I・II 各①			
		スポーツ科学 III・IV 各①			
		海外事情 I・II 各②、海外事情 III・IV 各①			
		* キャリア・デザイン②			
		* インターンシップ②			
		* 地域連携学 A・B・C・D 各②			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件 20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 76 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（16 単位まで修得可）			

* いずれか2単位のみグレーゾーンに算入

** スペイン語は I（基礎）、II（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

日本文化学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
36 単位		76 単位		16 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②		
		4単位		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②		
外国語科目	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.38を参照。				

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		※サービslラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
			長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.52・53を参照

カリキュラム概要

専門教育科目（76 単位）

分野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次		
		合計	内訳						
1群	A	24 単位 A	4単位	言語学Ⅰ・Ⅱ、日本語学Ⅰ・Ⅱ 各②					
				言語と文化Ⅰ・Ⅱ 各②					
	B		4単位	日本文学の歴史Ⅰ・Ⅱ 各②					
				日本の古典文学Ⅰ・Ⅱ、日本の近代文学Ⅰ・Ⅱ 各②					
	C		4単位	仏教と文化Ⅰ・Ⅱ、美術の歴史Ⅰ・Ⅱ 各②					
				日本の思想Ⅰ・Ⅱ、書道の歴史、書論 各②					
	D		4単位	現代社会学Ⅰ・Ⅱ、文化人類学Ⅰ・Ⅱ 各②					
				日本民俗学Ⅰ・Ⅱ 各②					
2群		30単位 B	フレッシュマン英会話Ⅰ・Ⅱ 各①						
			上級英会話Ⅰ・Ⅱ 各①						
			日本文化史Ⅰ・Ⅱ 各②、書道文化ⅠⅡ 各①						
			日本語の音声Ⅰ・Ⅱ、日本語の文法Ⅰ・Ⅱ、日本語の表現Ⅰ・Ⅱ、中国の古典Ⅰ・Ⅱ、 仏教と芸術Ⅰ・Ⅱ、日本文化特講1～5 各② 書道文化2Ⅰ・Ⅱ 各①						
			日本語の教育Ⅰ・Ⅱ、古典文学研究Ⅰ・Ⅱ、近代文学研究Ⅰ・Ⅱ、 禅と日本文化Ⅰ・Ⅱ、社会調査法Ⅰ・Ⅱ、家族と社会Ⅰ・Ⅱ、 日本文化特講6～10 各② 書道文化3～5Ⅰ・Ⅱ 各①						
			3群	22 単位	4単位			講読Ⅰ・Ⅱ 各②	
					4単位			演習Ⅰ・Ⅱ 各②	
					2単位			世界のなかの日本文化Ⅰ・Ⅱ、アジアのなかの日本文化Ⅰ・Ⅱ 各②	
4単位						総合演習Ⅰ・Ⅱ 各②			
8単位						卒業論文⑧			
合計		76単位		※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。					

グレーゾーン（16 単位）

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次	
グレーゾーン	16単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 ** スペイン語			
		Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各①			
		Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		* キャリア・デザイン②			
		* インターンシップ②			
		* 地域連携学 A・B・C・D 各②			
・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件 20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 76 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位					
「他学部・他学科科目」で修得した単位（24 単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件 16 単位を超えた場合、残りの 8 単位までは、④ →⑧の順でそれぞれ 4 単位を上限に「専門教育科目」に算入される。					

* いずれか2単位のみグレーゾーンに算入
** スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

グローバル英語学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
30 単位		82 単位		16 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（30 単位）

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目				教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系	4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②				
	社会系	4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②				
	自然系	4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②				
	主題系	4単位	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②				
外国語科目	第2外国語	2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）				
	文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）				
	エレクトィブ		【英語】 英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語・スペイン語】 Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各①				
				【英語】 英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各① 【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】 Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
健康総合科学科目		2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①				
合計		30単位	※「教養教育科目」において、30単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。				

グレーゾーン（16 単位）

グレーゾーン	要件単位	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
グレーゾーン	16単位		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
			海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①		
		* キャリア・デザイン②			
			* インターンシップ②		
		* 地域連携学 A・B・C・D 各②			
		「教養教育科目」のうち、30 単位を超えて修得した科目の単位 「専門教育科目」について、82 単位を超えて修得した科目の単位 「単位互換」で修得した単位			
			「他学部・他学科科目」で修得した単位（16 単位まで修得可）		

(注) * いずれか2単位のみグレーゾーンに算入

カリキュラム概要

専門教育科目（82単位）

分野	卒業要件 (82単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
英語技能	36単位	Oral Communication I a・I b、Listening I a・I b、Writing I a・I b、 Intensive Reading I a・I b、Extensive Reading I a・I b、TOEIC I a・I b 各①			
		Oral Communication II a・II b、Listening II a・II b、Writing II a・II b、 Intensive Reading II a・II b、Extensive Reading II a・II b、TOEIC II a・II b 各① 英文法 a・b 各②			
英語技能	グレーに算入	Oral Communication III a・III b、Writing III a・III b、 Intensive Reading III a・III b、Comprehensive Reading a・b 各①			
		TOEFL I a・I b 各①			
専門	2単位	TOEFL II a・II b 各①			
		Discussion & Debate a・b 各①			
専門	6単位	Reading & Writing a・b 各①			
		異文化理解入門②			
専門	26単位	国際ビジネス入門、観光入門、英語学入門、言語・文化と教育入門、 経済・金融基礎、観光地理、英語学基礎 各②			
		通訳・翻訳入門、通訳・翻訳基礎 各②			
専門	2単位	北米事情、イギリス事情、オセアニア事情、英語で学ぶ日本事情 各②			
		産官学連携講座 I・II 各②			
専門	各コース最低16単位	産官学連携講座 III・IV、観光法規 a・b、英語発音法 a・b 各②			
		観光実務論 a・b、観光ビジネス論 a・b、English for Tourism、 ホスピタリティ論、観光政策論 a・b、エアライン特別講座 I・II、 ホテル・旅館論、コンテンツ・ツーリズム、Interpreter Guide 各②			
専門	各コース最低16単位	通訳法 a・b、翻訳法 a・b、Interpreter Guide、Media English a・b、 Business English a・b、貿易・実務英語 a・b、国際関係論、社会言語学、 日英語比較論、第2言語習得論、英語文学 a・b、児童英語教育論 a・b 各②			
		英語教育実践法 ②			
語学研修	4単位	語学研修事前講座②			
		Study Abroad②			
ゼミ・卒業研究・論文	14単位	海外事情② ※海外事情は感染症の流行などの特別な事情がある場合にのみ開講する			
		基礎ゼミ②			
ゼミ・卒業研究・論文	14単位	専門ゼミ I a・I b 各②			
		専門ゼミ II a・II b 各②、卒業研究・論文④			
合計	82単位	※82単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。			

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
自由選択科目	卒業要件に算入しない	※サービスマーケティング実習 I・II・III・IV 各①、課題解決型演習 I・II・III・IV 各②			
		長期インターンシップ④			

※詳細についてはP.52・53を参照

カリキュラム概要

商学科の卒業要件単位について

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
			心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
英語Ⅰc・Ⅱc 各①						
第2外国語			2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）		
文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.13を参照。				

グレーゾーン（14 単位）

要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次	
グレーゾーン	14単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①				
		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①				
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語（注2）	Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①				
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①				
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件20単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件76単位を超えて修得した科目の単位 ・「キャリア教育科目」の要件2単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位				
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（24単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件14単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」に算入される。				

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位） 流通・マーケティングコース

分野	要件単位 総計	内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目			商学入門②			
		20単位	経済学Ⅰ・Ⅱ、経営学Ⅰ・Ⅱ、流通論Ⅰ・Ⅱ、情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各②	会計学Ⅰ・Ⅱ 各②		
基幹科目		20単位	初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②	金融論Ⅰ・Ⅱ 各②	財務会計論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論 各②	
		☆から8単位		☆マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、☆流通チャネル論Ⅰ・Ⅱ、☆グローバルビジネス論Ⅰ・Ⅱ、☆ビジネス統計学、☆リサーチ方法入門 各②		
		4単位		☆ビジネス情報論Ⅰ・Ⅱ、☆データサイエンス入門、情報社会論、情報倫理、情報産業論、AIとビジネス 各②		
応用科目		76単位		ブランド論、消費者行動とマーケティング戦略、経営組織論 各②	流通政策Ⅰ・Ⅱ、製品戦略論、サービス・マーケティング論、マーケティング・コミュニケーション論、国際商務論Ⅰ・Ⅱ、グローバル・マーケティング論、貿易政策Ⅰ・Ⅱ、経営管理論 各②	
I類		12単位		中級簿記(商業簿記)Ⅰ・Ⅱ、中級簿記(工業簿記)Ⅰ・Ⅱ 各②	上級簿記Ⅰ・Ⅱ 各④	
II類				原価計算論②	国際会計論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論、会計監査論、財務諸表分析、銀行論、証券論、保険論、リスクマネジメント論、国際金融論、コーポレートファイナンス論 各②	
III類				コンピュータシステム論、データ構造とアルゴリズム、Webデザイン、マルチメディア論、プログラミング入門、アプリ開発演習Ⅰ 各②	情報ネットワーク論、情報セキュリティ、ソフトウェア開発論、CGデザイン、コンピュータグラフィックス、先端情報システム論、データベース、データサイエンス演習Ⅰ・Ⅱ、アプリ開発演習Ⅱ 各②	
IV類				ビジネス実務a・b・c・d・e・f・g・h、SDGsとビジネス、ビジネス法務 各②	経営者講座②	
V類				ビジネススキル特論a・b・c・d・e・f、資格取得講座a・b・c・d 各②		
VI類					日本経済論A・B、財政学A・B、サプライチェーン・マネジメント、ベンチャー・ビジネス論、中小企業経営論Ⅰ 各②	
VII類				中部経済論、地域ビジネス論、エリアリサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲ、企業と法、総合民法、租税法A(基礎) 各②		
発展科目		10単位 (☆から4単位)	ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ④	☆ゼミナールⅢ④ ☆卒業研究④	
				ビジネス英語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、ビジネス英会話Ⅰ・Ⅱ 各②	☆英書講読Ⅰ②	
					☆英書講読Ⅱ②	
ビジネス・ヒューマン 養成PBL				ビジネス・ヒューマン養成プログラムⅠ・Ⅱ 各②		

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

キャリア教育科目（2単位）

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目	キャリア・デザインⅠ②	キャリア・デザインⅡ②	キャリア・デザインⅢ②	
2単位以上 修得		産官学提携講座a・b・c・d・e・f 各②		
		インターンシップ②		

※2単位を超えて修得した単位は14単位まで「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア・デザイン②			
サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各②			※
	長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.62、63を参照

カリキュラム概要

商学科の卒業要件単位について

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
			心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			主題系	4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②	
外国語科目	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
			英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.13を参照。				

グレーゾーン（14 単位）

要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次	
グレーゾーン	14単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ各①				
		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①				
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語（注2）	Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各①			
			Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①				
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件20単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件76単位を超えて修得した科目の単位 ・「キャリア教育科目」の要件2単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位				
			「他学部・他学科科目」で修得した単位（24単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件14単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」に算入される。			

(注2) スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位） 会計・金融コース

分野	要件単位 総計	内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目			商学入門②			
		20単位	経済学Ⅰ・Ⅱ、経営学Ⅰ・Ⅱ、流通論Ⅰ・Ⅱ、情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各②	会計学Ⅰ・Ⅱ 各②		
基幹科目		20単位		マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、流通チャネル論Ⅰ・Ⅱ、グローバル・ビジネス論Ⅰ・Ⅱ、各②		
		☆から8単位	☆初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②	☆金融論Ⅰ・Ⅱ、☆ビジネス統計学、☆リサーチ方法入門 各②	☆財務会計論Ⅰ・Ⅱ、☆管理会計論 各②	
		4単位		☆データサイエンス入門、情報社会論、情報倫理、情報産業論、AIとビジネス、ビジネス情報論Ⅰ・Ⅱ 各②		
応用科目	76単位			ブランド論、消費者行動とマーケティング戦略、経営組織論 各②	流通政策Ⅰ・Ⅱ、製品戦略論、サービス・マーケティング論、マーケティング・コミュニケーション論、国際商務論Ⅰ・Ⅱ、グローバル・マーケティング論、貿易政策Ⅰ・Ⅱ、経営管理論 各②	
I類				中級簿記(商業簿記)Ⅰ・Ⅱ、中級簿記(工業簿記)Ⅰ・Ⅱ 各②	上級簿記Ⅰ・Ⅱ 各④	
II類		12単位		原価計算論②	国際会計論Ⅰ・Ⅱ、税務会計論、会計監査論、財務諸表分析、銀行論、証券論、保険論、リスクマネジメント論、国際金融論、コーポレートファイナンス論 各②	
III類				コンピュータシステム論、データ構造とアルゴリズム、Webデザイン、マルチメディア論、プログラミング入門、アプリ開発演習Ⅰ 各②	情報ネットワーク論、情報セキュリティ、ソフトウェア開発論、CGデザイン、コンピュータグラフィックス、先端情報システム論、データベース、データサイエンス演習Ⅰ・Ⅱ、アプリ開発演習Ⅱ 各②	
IV類				ビジネス実務a・b・c・d・e・f・g・h、SDGsとビジネス、ビジネス法務 各②	経営者講座②	
V類				ビジネススキル特論a・b・c・d・e・f、資格取得講座a・b・c・d 各②		
VI類					日本経済論A・B、財政学A・B、サプライチェーン・マネジメント、ベンチャー・ビジネス論、中小企業経営論Ⅰ 各②	
VII類				中部経済論、地域ビジネス論、エリアリサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲ、企業と法、総合民法、租税法A(基礎) 各②		
発展科目		10単位 (☆から4単位)	ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ④	☆ゼミナールⅢ④ ☆卒業研究④	
				ビジネス英語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、ビジネス英会話Ⅰ・Ⅱ 各②	☆英書講読Ⅰ②	
					☆英書講読Ⅱ②	
ビジネス・ヒューマン 養成PBL				ビジネス・ヒューマン養成プログラムⅠ・Ⅱ 各②		

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

キャリア教育科目（2単位）

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目	キャリア・デザインⅠ②	キャリア・デザインⅡ②	キャリア・デザインⅢ②	
2単位以上 修得		産官学提携講座a・b・c・d・e・f 各②		
		インターンシップ②		

※2単位を超えて修得した単位は14単位まで「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各② ※			
			長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.62、63を参照

カリキュラム概要

商学科の卒業要件単位について

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目		20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	主題系		4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目	第1外国語	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
				英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
	第2外国語		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
	文化事情		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.13を参照。				

グレーゾーン（14 単位）

要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	14単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ各①			
		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
		ドイツ語Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎）各①			
		中国語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 フランス語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 韓国語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 スペイン語（注2）Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）各①			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件20単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件76単位を超えて修得した科目の単位 ・「キャリア教育科目」の要件2単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
「他学部・他学科科目」で修得した単位（24単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件14単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」に算入される。					

(注2) スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位） ビジネス情報コース

分野	要件単位 総計	内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目			商学入門②			
		20単位	経済学Ⅰ・Ⅱ、経営学Ⅰ・Ⅱ、流通論Ⅰ・Ⅱ、情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各②	会計学Ⅰ・Ⅱ 各②		
基幹科目		20単位		流通チャンネル論Ⅰ・Ⅱ、グローバル・ビジネス論Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ 各②	財務会計論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論 各②	
		☆から8単位	☆初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②	☆マーケティング論Ⅰ・Ⅱ、☆ビジネス統計学、☆リサーチ方法入門 各②		
		4単位		☆情報社会論、☆情報倫理、☆情報産業論、☆AIとビジネス、☆ビジネス情報論Ⅰ・Ⅱ、☆データサイエンス入門 各②		
応用科目	I類			ブランド論、消費者行動とマーケティング戦略、経営組織論 各②	流通政策Ⅰ・Ⅱ、製品戦略論、サービス・マーケティング論、マーケティング・コミュニケーション論、国際商務論Ⅰ・Ⅱ、グローバル・マーケティング論、貿易政策Ⅰ・Ⅱ、経営管理論 各②	
	II類		中級簿記(商業簿記)Ⅰ・Ⅱ、中級簿記(工業簿記)Ⅰ・Ⅱ 各②	上級簿記Ⅰ・Ⅱ 各④		
	III類	12単位		コンピュータシステム論、データ構造とアルゴリズム、Webデザイン、マルチメディア論、プログラミング入門、アプリ開発演習Ⅰ 各②	情報ネットワーク論、情報セキュリティ、ソフトウェア開発論、CGデザイン、コンピュータグラフィックス、先端情報システム論、データベース、データサイエンス演習Ⅰ・Ⅱ、アプリ開発演習Ⅱ 各②	
	IV類			ビジネス実務a・b・c・d・e・f・g・h、SDGsとビジネス、ビジネス法務 各②	経営者講座②	
	V類		ビジネススキル特論a・b・c・d・e・f、資格取得講座a・b・c・d 各②			
	VI類			日本経済論A・B、財政学A・B、サプライチェーン・マネジメント、ベンチャー・ビジネス論、中小企業経営論Ⅰ 各②		
	VII類			中部経済論、地域ビジネス論、エリアリサーチⅠ・Ⅱ・Ⅲ、企業と法、総合民法、租税法A(基礎)各②		
発展科目		10単位 (☆から4単位)	ゼミナールⅠ②	ゼミナールⅡ④	☆ゼミナールⅢ④ ☆卒業研究④	ビジネス英語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb、ビジネス英会話Ⅰ・Ⅱ 各② ☆英書講読Ⅰ② ☆英書講読Ⅱ②
ビジネス・ヒューマン 養成PBL					ビジネス・ヒューマン養成プログラムⅠ・Ⅱ 各②	

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

キャリア教育科目（2単位）

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目	キャリア・デザインⅠ②	キャリア・デザインⅡ②	キャリア・デザインⅢ②	
2単位以上 修得		産官学提携講座a・b・c・d・e・f 各②		
		インターンシップ②		

※2単位を超えて修得した単位は14単位まで「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択 科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各② ※			
			長期インターンシップ④		

※詳細についてはP.62、63を参照

カリキュラム概要

組織マネジメントコース

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	グレーゾーン 16 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②		
外国語科目	第1外国語	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
	第2外国語	2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
	文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.17を参照。				

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		キャリア・デザイン②			
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学 B・C・D 各②			
		※長期インターンシップ④			

※2015年度以降入学生のみ履修可能
(詳細についてはP.62・63を参照)

カリキュラム概要

専門教育科目 (76 単位)

分野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		総計	内訳				
基礎科目	I 群	48 単位	20 単位	経営入門Ⅰ・Ⅱ 各②			
				経営情報論、ICTビジネス、初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②			
会計学入門Ⅰ・Ⅱ、マーケティング管理論Ⅰ・Ⅱ、人事管理論Ⅰ・Ⅱ 各②							
バーチャルカンパニーⅠA・ⅠB 各②							
経営科学、マーケティング・リサーチ、環境ビジネス論、経営環境論、起業論、製品開発論、企業倫理、コーポレート・ガバナンス、経営戦略Ⅰ・Ⅱ、経営統計Ⅰ・Ⅱ、ウェブデザイン、プログラミング、組織論Ⅰ・Ⅱ、ベンチャービジネス論、経営と法務、経営と税務 各②							
グローバル戦略論、リーダーシップ論、モチベーション論、中小企業経営論Ⅰ・Ⅱ、ベンチャービジネス実践研究、バーチャルカンパニーⅡA・ⅡB 各②							
応用科目				76 単位 ④	12 単位	アントレプレナーシップ入門 ②	
	中級簿記Ⅰ・Ⅱ、上級簿記Ⅰ・Ⅱ、キャリア構想講座A・B・C、簿記特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②						
	生産管理論Ⅰ・Ⅱ、金融論、原価計算Ⅰ・Ⅱ、現代経済学A・B、サービス・マーケティング論、消費者行動論、財務会計Ⅰ・Ⅱ、財務管理論Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ、先端経営講座A・B・C・D、財政学A・B、アプリケーション開発Ⅰ・Ⅱ 各②						
	会計監査、ファイナンス分析、管理会計Ⅰ・Ⅱ、経営工学、サプライチェーン・マネジメント、国際会計Ⅰ・Ⅱ、国際マーケティング論、財務諸表分析、マーケティング戦略論Ⅰ・Ⅱ、ブランド・マネジメント論 各②						
II 群			総合民法、中部経済論、地域ビジネス論、エリア・リサーチA・B・C 各②				
演習・外国語科目		2 単位		基礎演習②			
				ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、海外体験演習 各②			
				ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ 各②		専門演習Ⅳ・Ⅴ 各②	
				専門演習Ⅰ②		専門演習Ⅱ・Ⅲ 各②	
実習科目		4 単位		ビジネス情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各①			
				ビジネス・ゲーム実習 ①			
				経営管理実習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD 各①			
				経営管理実習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 各①			

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

グレーゾーン (16 単位)

分野		要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目		16単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各① ドイツ語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各① 中国語Ⅲ(読解)・Ⅳ(読解)、Ⅲ(表現)・Ⅳ(表現)、Ⅲ(総合)・Ⅳ(総合)、会話Ⅰ・Ⅱ 各① フランス語 韓国語 スペイン語(注1) スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各① 海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
			キャリア・デザインⅠ・Ⅱ 各②、基礎経営実務⑥ キャリア・デザインⅢ・Ⅳ、産官民提携講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、インターンシップ 各② キャリア・デザインⅤ・Ⅵ 各②			
			「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件20単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件76単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位 「他学部・他学科科目」で修得した単位(24単位まで算入可) ※グレーゾーンの要件16単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」④に算入される			
専門教育科目	キャリア・デザイン科目					

(注1) スペイン語はⅠ(基礎)、Ⅱ(基礎)のみ開講

カリキュラム概要

生産マーケティングコース

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	グレーゾーン 16 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②		
外国語科目	第1外国語	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
	第2外国語	2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
	文化事情	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.17を参照。				

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		キャリア・デザイン②			
		※サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各②			
		※長期インターンシップ④			

※2015年度以降入学生のみ履修可能
(詳細についてはP.62・63を参照)

専門教育科目（76 単位）

分野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		総計	内訳				
基礎科目		76 単位 ④	48 単位	20 単位	経営入門Ⅰ・Ⅱ 各②		
	経営情報論、ICTビジネス、初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②						
会計学入門Ⅰ・Ⅱ、マーケティング管理論Ⅰ・Ⅱ、人事管理論Ⅰ・Ⅱ 各②							
応用科目	Ⅰ 群			コース 指定科目 12 単位	パーチャルカンパニーⅠA・ⅠB 各②		
					生産管理論Ⅰ・Ⅱ、経営科学、マーケティング・リサーチ、環境ビジネス論、起業論、製品開発論、経営戦略Ⅰ・Ⅱ、ウェブデザイン、プログラミング、ベンチャービジネス論、サービス・マーケティング論、消費者行動論、アプリケーション開発Ⅰ・Ⅱ 各②		
					経営工学、サプライチェーン・マネジメント、国際マーケティング論、中小企業経営論Ⅰ・Ⅱ、ベンチャービジネス実践研究、マーケティング戦略論Ⅰ・Ⅱ、パーチャルカンパニーⅡA・ⅡB、ブランド・マネジメント論 各②		
					アントレプレナーシップ入門 ②		
					中級簿記Ⅰ・Ⅱ、上級簿記Ⅰ・Ⅱ、キャリア構想講座A・B・C、簿記特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②		
	Ⅱ 群		経営環境論、企業倫理、コーポレート・ガバナンス、金融論、経営統計Ⅰ・Ⅱ、原価計算Ⅰ・Ⅱ、現代経済学A・B、財務会計Ⅰ・Ⅱ、財務管理論Ⅰ・Ⅱ、組織論Ⅰ・Ⅱ、国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ、先端経営講座A・B・C・D、財政学A・B、経営と法務、経営と税務 各②				
			会計監査、ファイナンス分析、管理会計Ⅰ・Ⅱ、グローバル戦略論、リーダーシップ論、モチベーション論、国際会計Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析 各②				
演習・外国語科目			2 単位	総合民法、中部経済論、地域ビジネス論、エリア・リサーチA・B・C 各②			
実習科目		4 単位		基礎演習②			
				ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、海外体験演習 各②			
			ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ 各②				
			専門演習Ⅰ②	専門演習Ⅱ・Ⅲ 各②	専門演習Ⅳ・Ⅴ 各② 卒業論文④		
			ビジネス情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各①				
			ビジネス・ゲーム実習 ①				
			経営管理実習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD 各①				
			経営管理実習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 各①				

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

グレーゾーン（16 単位）

分野		要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目		16単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各① ドイツ語Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各① 中国語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① スペイン語（注1） スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各① 海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
	キャリア・デザイン科目		キャリア・デザインⅠ・Ⅱ 各②、基礎経営実務⑥ キャリア・デザインⅢ・Ⅳ、産官民提携講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、インターンシップ 各② キャリア・デザインⅤ・Ⅵ 各②			
			「他学部・他学科科目」で修得した単位（24 単位まで算入可） ※グレーゾーンの要件16単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」④に算入される			

カリキュラム概要

会計コース

卒業するためにはⅦ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	グレーゾーン 16 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野	要件単位		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
	分野合計	内訳				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
		4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
		4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①	英語Ⅰc・Ⅱc 各①		
		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①（1言語を選択）			
		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各②（1科目を選択）			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計	36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.17を参照。				

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		キャリア・デザイン②			
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学 B・C・D 各②			
		※長期インターンシップ④			

※2015年度以降入学生のみ履修可能
(詳細についてはP.62・63を参照)

専門教育科目 (76 単位)

分野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		総計	内訳				
基礎科目		76 単位 ①	20 単位	経営入門Ⅰ・Ⅱ 各②			
	経営情報論、ICTビジネス、初級簿記Ⅰ・Ⅱ 各②						
会計学入門Ⅰ・Ⅱ、マーケティング管理論Ⅰ・Ⅱ、人事管理論Ⅰ・Ⅱ 各②							
応用科目	Ⅰ群		コース指定科目12 単位	中級簿記Ⅰ・Ⅱ、上級簿記Ⅰ・Ⅱ、簿記特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
				経営科学、金融論、経営統計Ⅰ・Ⅱ、原価計算Ⅰ・Ⅱ、財務会計Ⅰ・Ⅱ、財務管理論Ⅰ・Ⅱ、プログラミング、アプリケーション開発Ⅰ・Ⅱ、経営と税務 各②			
			会計監査、ファイナンス分析、管理会計Ⅰ・Ⅱ、国際会計Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析 各②				
			48 単位	アントレプレナーシップ入門 ②			
				キャリア構想講座A・B・C 各②			
	バーチャルカンパニーⅠA・ⅠB 各②						
	Ⅱ群		生産管理論Ⅰ・Ⅱ、マーケティング・リサーチ、環境ビジネス論、経営環境論、起業論、製品開発論、企業倫理、コーポレート・ガバナンス、経営戦略Ⅰ・Ⅱ、現代経済学A・B、ウェブデザイン、組織論Ⅰ・Ⅱ、ベンチャービジネス論、国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ、先端経営講座A・B・C・D、財政学A・B、サービス・マーケティング論、消費者行動論、経営と法務 各②				
			グローバル戦略論、経営工学、サプライチェーン・マネジメント、リーダーシップ論、モチベーション論、国際マーケティング論、中小企業経営論Ⅰ・Ⅱ、ベンチャービジネス実践研究、マーケティング戦略論Ⅰ・Ⅱ、バーチャルカンパニーⅡA・ⅡB、ブランド・マネジメント論 各②				
			総合民法、中部経済論、地域ビジネス論、エリア・リサーチA・B・C 各②				
			演習・外国語科目	2 単位	基礎演習②		
ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ、海外体験演習 各②							
				ビジネス英語Ⅲ・Ⅳ 各②			
				専門演習Ⅰ②			
				専門演習Ⅱ・Ⅲ 各②			
				専門演習Ⅳ・Ⅴ 各② 卒業論文④			
実習科目		4 単位	ビジネス情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各①				
			ビジネス・ゲーム実習 ①				
			経営管理実習ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD 各①				
経営管理実習ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD 各①							

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

グレーゾーン (16 単位)

分野		要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次		
教養教育科目		16単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①					
			英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①					
			ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語（注1）	Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各①				
			Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①					
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①					
海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①								
専門教育科目	キャリア・ デザイン 科目		キャリア・デザインⅠ・Ⅱ 各②、基礎経営実務⑥					
			キャリア・デザインⅢ・Ⅳ、産官民提携講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、 インターンシップ 各②					
			キャリア・デザインⅤ・Ⅵ 各②					
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（24単位まで算入可） ※グレーゾーンの要件16単位を超えた場合は、8単位まで「専門教育科目」④に算入される						

カリキュラム概要

経済学科(2024年度以降学生)の卒業要件単位について

卒業するためにはⅧ.諸規則「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	キャリア教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
36 単位		76 単位		2 単位		14 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目		22単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
				心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
				法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
				数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
				仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
第1外国語		8単位	4単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
第2外国語			2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
文化事情			2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1)「教養基幹科目」において、22単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.15を参照。				

グレーゾーン（14 単位）

グレーゾーン	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
		英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
14単位		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
		ドイツ語Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎） 各①			
		中国語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各①			
		スペイン語（注2）			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件22単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件76単位を超えて修得した科目の単位 ・「キャリア教育科目」のうち、「キャリア教育科目」の要件2単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（24単位まで修得可） ※グレーゾーンの要件14単位を超えた場合は、8単位まで④「専門教育科目」に算入される。			

(注2) スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位）

分野		要件単位 総計 内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目		20単位	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 経済数学Ⅰ・Ⅱ キャリア英語Ⅰ・Ⅱ 情報リテラシーA・B 各②			
基幹科目		16単位		経済統計学A・B 経済学史A・B 一般経済学A・B	経済政策論A・B 社会政策論A・B 日本経済論A・B	国際経済学A・B 金融論A・B 財政学A・B 各②
発展科目	第一類	76 単位 ①		ミクロ経済学Ⅲ マクロ経済学Ⅲ 公共経済学A・B 農業経済学A・B 現代産業論A・B	国際貿易論A・B 国際金融論A・B 開発経済学A・B 会計学A・B 租税制度論A・B	金融システム論 地域経済論 経済情報処理A・B 国際法A・B 各②
	第二類				計量経済学A・B 日本経済史A・B 西洋経済史A・B 労働経済学A・B 環境経済学A・B 都市経済学A・B 地方財政論A・B 経済情報論A・B 社会思想史	環境政策論 農業政策論 企業経済学 社会保障論 産業組織論 中小企業論 金融政策論 ファイナンス論 アジア経済論
	第三類			総合民法	租税法A（基礎） 企業と法	行政法Ⅰ（総論）A 各②
	第四類	必修を含め 14単位		中間経済論 地域ビジネス論	エリア・リサーチⅠ エリア・リサーチⅡ	エリア・リサーチⅢ 各②
			専門演習Ⅰ②	専門演習Ⅱ④	専門演習Ⅲ④	卒業論文④ 注2016年度以降入学者のみ
			専門講読Ⅰ（英語）・Ⅱ（英語） 各②			
			専門講読Ⅲ（英語）②			
			キャリア英語Ⅲ・Ⅳ、経済学特講Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 各②			
			ビジネス英語A・B 経済学特講Ⅰ 経済学特講Ⅱ 経済学特講Ⅲ 各②			

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

キャリア教育科目（2単位）

分野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目	2単位	キャリア・デザインⅠ②	キャリア・デザインⅡ・Ⅲ② 産官民提携講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 各② インターンシップ②		

※2単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各②			
		※長期インターンシップ④			

※2015年度以降入学生のみ履修可能
（詳細についてはP.54・55を参照）

カリキュラム概要

法律学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目 (36 単位)

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	人文系 社会系 自然系 主題系	20単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
			4単位	心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
			4単位	経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			4単位	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
			4単位	仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目	第1外国語	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
	第2外国語		2単位	英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
	文化事情		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.15を参照。				

グレーゾーン (14 単位)

グレーゾーン	要件単位 14単位	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①	英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①		
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語 (注2)	Ⅲ (読解)・Ⅳ (読解)、Ⅲ (表現)・Ⅳ (表現)、Ⅲ (総合)・Ⅳ (総合)、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①		
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件 20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 76 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「キャリア教育科目」で修得した単位 (14 単位まで修得可) ※ グレーゾーンの要件 14 単位を超えた場合は、8 単位まで④「専門教育科目」に算入される。			
			「他学部・他学科科目」で修得した単位 (14 単位まで修得可)		

カリキュラム概要

専門教育科目 (76 単位)

分 野		要件単位 合計	内訳	1年次	2年次	3年次	4年次	
基本科目	入門科目	22 単位		法学、刑法Ⅰ(総論) A、民事法入門、憲法入門 各②				
	公法		憲法Ⅰ(統治)②					
			行政法Ⅰ(総論) A②					
	刑事法		刑法Ⅰ(総論) B②					
			刑法Ⅱ(各論) A・B 各②					
	民法		民法Ⅰ(総則)、民法Ⅱ(物権) 各②					
			民法Ⅲ(債権総論)、民法Ⅳ(契約)、民法Ⅵ(不法行為等)、民法Ⅶ(親族) 各②					
	商法		会社法Ⅰ(機関 A)・会社法Ⅱ(機関 B) 各②					
	民事訴訟法		民事訴訟法入門②					
	国際関係法		国際法Ⅰ(総論) A・B 各②					
政治学	政治学原論、政治過程論 各②							
発展科目	基礎法	76 単位 A	※科目一覧(P.56)参照 コース特定科目から10単位			宗教法、法哲学 A・B、法制史 A・B、外国法 A・B 各②		
	公法			憲法Ⅱ(人権) A・B 各②				
				行政法Ⅰ(総論) B、行政法Ⅱ(各論)、地方自治法、自治体法務 各②				
	刑事法			刑事訴訟法 A・B、少年法 各②				
	民法			民法Ⅴ(担保物権)、民法Ⅷ(相続) 各②				
	商法			会社法Ⅲ(設立・株式)、会社法Ⅳ(資金調達・組織再編)、商取引法 A・B、保険法 A・B 各②				
	民事訴訟法			民事訴訟法 A・B、民事執行・保全法、倒産処理法 各②				
	社会経済法			労働法 A・B、経済法 A・B、知的財産法 A・B 各②				
	国際関係法			国際法Ⅱ(紛争処理法) A・B、国際私法 A・B 各②				
	政治経済			行政学 A・B、財政学 A・B、経済原論 A・B 各②				
	資格支援	総合民法②						
		法律実務Ⅰ・Ⅱ 各④						
	特殊講義	(注3)			特殊講義Ⅰ～ⅩⅤ 各② (Ⅰ租税法A(基礎)、Ⅱ租税法B(応用)、Ⅲ金融商品取引法、Ⅳ証券市場論と法、Ⅴ企業法特講、Ⅵ国際経済法、Ⅶドイツ法A、Ⅷドイツ法B、ⅩⅢ家族法)			
	他学部連携				保険論 A・B(商)、企業倫理(経営)、金融論 A・B(経済) 各②			
	外部機関連携				法実務概論Ⅰ(司法)、法実務概論Ⅱ(地域行政)、法実務概論Ⅲ(現代の社会課題)、法実務概論Ⅳ・Ⅴ 各②			
	演習	6単位		基礎演習Ⅰ②	基礎演習Ⅱ②	専門演習Ⅰ④		専門演習Ⅱ④
		(注3)			法職演習Ⅰ②(注4)	法職演習Ⅱ②(注4)		法職演習Ⅲ②(注4)
						外国書演習Ⅰ④		外国書演習Ⅱ④

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

(注3) 分野ごとの要件単位は定められていないが、④「専門教育科目」(76単位)に算入される。

(注4) 各科目 2 科目 4 単位まで卒業要件単位④「専門教育科目」(76単位)に算入される。

キャリア教育科目 (2 単位)

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目 2単位以上 修得 (注5)	キャリア・デザインⅠ②			
		キャリア・デザインⅡ A・Ⅱ B 各②		
		インターンシップ②		
		キャリア・デザインⅢ、産官民提携講座Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 各②		
	産官民提携講座Ⅱ ②			

(注5) 2単位を超えて修得した単位は14単位までグレーゾーンに算入され、8単位まで④「専門教育科目」(76単位)に算入される。

自由選択科目 (卒業要件に算入せず)

自由選択科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学 B・C・D 各②			
		※長期インターンシップ④			

(詳細については P.62、63 を参照)

カリキュラム概要

現代社会法学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目 36 単位	+	専門教育科目 76 単位	+	キャリア教育科目 2 単位	+	グレーゾーン 14 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	------------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目 (36 単位)

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	人文系 社会系 自然系 主題系	20単位 (注1)	4単位	教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
				心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
				経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
				数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
				情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②							
外国語科目	第1外国語	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
	英語Ⅰc・Ⅱc 各①						
	第2外国語			2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)		
文化事情		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)				
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1)「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 ※ 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.15を参照。				

グレーゾーン (14 単位)

グレーゾーン	要件単位 14単位	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
		英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①	英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①		
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語 (注2)	Ⅰ (基礎)・Ⅱ (基礎) 各①	Ⅲ (読解)・Ⅳ (読解)、Ⅲ (表現)・Ⅳ (表現)、Ⅲ (総合)・Ⅳ (総合)、 会話Ⅰ・Ⅱ 各①	
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①		
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」のうち、「教養基幹科目」の要件 20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 76 単位を超えて修得した科目の単位 ・「単位互換科目」で修得した単位			
		「キャリア教育科目」で修得した単位 (14 単位まで修得可) ※ グレーゾーンの要件 14 単位を超えた場合は、8 単位まで④「専門教育科目」に算入される。			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位 (14 単位まで修得可)			

(注2) スペイン語はⅠ (基礎)、Ⅱ (基礎) のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76単位）

分野	要件単位 合計	内訳	1年次	2年次	3年次	4年次
導入科目		10単位	法学、憲法入門、人権論、刑事法入門、民法入門、民法Ⅰ（総則）、司法制度入門、政治学入門 各②			
基礎科目		(注3)		行政法A②		
					行政法B②	
				刑法（総論）・（各論） 各②		
				民法Ⅱ（物の利用と法）、民法Ⅲ（財産取引と法）、損害賠償と法 各②		
				政治学原論②		
				国際法の構造と機能②		
発展科目	76単位 A	(注3)		法と社会、情報と法、現代社会と犯罪 各②		
					法と倫理、紛争解決と法、環境と法、NPOと法、メディアと法、ジャーナリズム論、民事裁判と法、刑事裁判と法、行政紛争と法 各②	
				福祉社会と法、現代社会と家族 各②		
					社会保障と法、家族と福祉、ジェンダーと法（総論）・（各論）、少年法（手続）・（処遇） 各②	
				企業と法、企業の運営と法 各②		
					金融担保と法、消費者と法、現代社会と保険、交通災害と補償、企業の資金調達・再編と法、企業取引と法、労働と法、 各②	
				地方政治、日本政治史 各②		
					地方自治と法、国家と宗教、日本の行政、西洋政治史、政党史、政治思想史、比較政治 各②	
				国際法と平和、国際政治史 各②		
					国際機構と法、国際紛争と法、国際人権と法、国際関係論 各②	
			総合民法②			
			法律実務Ⅰ・Ⅱ 各④			
					特殊講義Ⅰ～ⅩⅤ 各② （Ⅰ租税法A（基礎）、Ⅱ租税法B（応用）、Ⅲ金融商品取引法、Ⅳ証券市場論と法、Ⅴ企業法特講、Ⅵ国際経済と法）	
					金融論A・B（商）、コーポレートガバナンス（経営）、社会政策論A・B（経済）、社会思想史（経済） 各②	
					法実務概論Ⅰ（司法）、法実務概論Ⅱ（地域行政）、法実務概論Ⅲ（現代の社会課題）、法実務概論Ⅳ・Ⅴ 各②	
演習	(注3)	6単位	基礎演習Ⅰ②	基礎演習Ⅱ②	専門演習Ⅰ④	専門演習Ⅱ④
				法職演習Ⅰ②（注4）	法職演習Ⅱ②（注4）	法職演習Ⅲ②（注4）
					外国書演習Ⅰ④	外国書演習Ⅱ④

※76単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。

(注3) 分野ごとの要件単位は定められていないが、A「専門教育科目」（76単位）に算入される。

(注4) 各科目2科目4単位まで卒業要件単位A「専門教育科目」（76単位）に算入される。

キャリア教育科目（2単位）

要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
キャリア教育科目 2単位以上 修得 (注5)	キャリア・デザインⅠ②			
		キャリア・デザインⅡA・ⅡB 各②		
		インターンシップ②		
			キャリア・デザインⅢ、産官民提携講座Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ 各②	
		産官民提携講座Ⅱ ②		

(注5) 2単位を超えて修得した単位は14単位までグレーゾーンに算入され、8単位までA「専門教育科目」（76単位）に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		※サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学B・C・D 各②			
			※長期インターンシップ④		

（詳細についてはP.62、63を参照）

カリキュラム概要

総合政策学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
20 単位		96 単位		12 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（20 単位）

分野	卒業要件		1年次	2年次	3年次	4年次
	分野合計	内訳				
宗教学	20単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目		16単位	人文系:心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ 各② 社会系:法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、 歴史学A-Ⅰ・A-Ⅱ・B-Ⅰ・B-Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各② 自然系:数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ 各②			
			教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①			
			主題系:仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、 生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、 人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、 アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、 英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、 健康の科学 各②			
外国語科目		16単位	ドイツ語Ⅰ（基礎）・Ⅱ（基礎）各① 中国語Ⅲ（読解）・Ⅳ（読解）、Ⅲ（表現）・Ⅳ（表現）、Ⅲ（総合）・Ⅳ（総合）、会話Ⅰ・Ⅱ 各① フランス語Ⅰa・Ⅱa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅰc・Ⅱc 各① 韓国語Ⅰd・Ⅱd・Ⅰe・Ⅱe 各① スペイン語（注1）			
	日本語（注2）					
健康総合 科学科目	20単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①				
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①				
海外事情科目	20単位	海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、 海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①				

※教養教育科目において20単位を超えた場合、「グレーゾーン」に算入される。
(注1) スペイン語はⅠ（基礎）、Ⅱ（基礎）のみ開講
(注2) 外国人留学生のみ履修可能

グレーゾーン（12 単位）

分野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	キャリア・デザイン科目	キャリア・デザインⅠ、キャリア対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各② キャリア・デザインⅡ、インターンシップ、社会と倫理 各②、 心理学実験Ⅰ・Ⅱ 各①			
	その他	・「教養教育科目」のうち、20 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の「リテラシー科目」、「基盤科目」、「展開科目」で必要最低単位を超えた単位 ・「単位互換科目」で修得した単位 「他学部・他学科科目」で修得した単位（12 単位まで修得可）			

カリキュラム概要

専門教育科目（96 単位）

分野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次	
リテラシー科目	情報 リテラシー	34 単位	4単位	情報リテラシーⅠ・Ⅱ 各②				
	* (注3)		プログラミングⅠ・Ⅱ、データベース 各②					
	言語 リテラシー		14単位	コミュニケーション英語Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb 各①、日本語表現法Ⅰ②				
				プラクティカル英語Ⅰ・Ⅱ 各②				
	リサーチ リテラシー		* (注3)	日本語表現法Ⅱ②				
				イングリッシュ・プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
	プランニング リテラシー		6単位	社会調査論Ⅰ②				
			* (注3)	社会統計学Ⅰ、データ分析Ⅰ 各②				
展開科目	基盤 科目	96 単位	8単位	総合政策概論②				
				政策規範論、政策過程論、政策評価論 各②				
	14 単位		6単位	政治学基礎、経済学基礎、国際関係学基礎、社会学基礎、情報科学基礎、人間科学基礎 各②				
			(注4)	法学入門、環境学入門、グローバルイノベーション論、生命論 各②				
	政治・行政 クラスター 経済・環境 クラスター 国際 クラスター 社会・文化 クラスター 情報・メディア クラスター 人間科学 クラスター 総合領域		24単位		政治理論、政治過程論、日本政治論、比較政治論、現代行政論、 日本行政論、地方自治論、地域政策、合意形成論、NPO・NGO論 各②			
					経済政策、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱ、環境政策、 環境評価論、環境マネジメント論、環境共生論、国際環境論 各②			
					国際関係史、国際関係論、国際安全保障論、外交政策、国際機構論、 人間の安全保障論、国際開発論、国際協力論、国際政治経済論、国際社会論 各②			
					表象文化論、多文化共生社会論、コミュニティ論、社会政策、機会均等論、 格差社会論、男女共生社会論、生涯学習社会論、現代教育論、教育政策 各②			
		情報法、情報倫理、情報社会論、マスメディア論、コミュニケーション論、 情報システム論、情報ネットワーク論、情報インタフェース論 マルチメディア論、情報産業論 各②						
		生涯発達心理学、青年心理学、人格心理学、メンタルヘルス論、社会心理学、 対人認知論、心理診断法、行動科学、生命健康科学、生態学 各②						
		総合政策a・b・c・d・e・f 各②						
リサーチ・ プロジェクト	16単位	リサーチ・プロジェクトⅠa・Ⅰb 各②						
		リサーチ・プロジェクトⅡa・Ⅱb 各②						
		リサーチ・プロジェクトⅢa・Ⅲb 各②						
		リサーチ・プロジェクト Ⅳa・Ⅳb 各②						

(注3)「*」の中より8単位選択して修得する必要がある。
(注4) 8単位まで「基盤科目」に算入される。「基盤科目」が22単位を超えた場合、「グレーゾーン」に算入される。

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択科目	卒業要件に算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		※サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域連携学A・B・C・D 各②			
				長期インターンシップ④	

(※詳細についてはP.52・53を参照)

カリキュラム概要

健康科学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目	+	専門教育科目 (専門選択科目を除く)	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
24 単位		92 単位		12 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目 (24 単位)

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	人文系	20単位		心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系			数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
				情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
	主題系			仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ 各②			
外国語科目	英語(注1)	20単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb、英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
	エレクトティブ			英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
				英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
				ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語(注2)	Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①		
健康総合 科学科目		20単位		スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
				スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
海外事情科目		20単位		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
合計		24単位	※ 「教養教育科目」において、24単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.40参照 (注2) スペイン語はⅠ(基礎)、Ⅱ(基礎)のみ開講				

グレーゾーン (12 単位)

	分 野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	専門 選択科目	12単位	プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ 各②、手話②			
			健康キャリア論、インターンシップ、人格心理学、心理学研究法、手話演習 各②			
	海外健康・スポーツ論、心身科学特論 各②					
	その他		【グレーゾーンに算入される単位】 ・「教養教育科目」の要件 24 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 92 単位を超えて修得した科目の単位			
「他学部・他学科科目」で修得した単位（18 単位まで修得可） ※ グレーゾーンの要件 12 単位を超えた場合、6 単位まで④「専門展開科目」に算入される。						

カリキュラム概要

専門教育科目（92 単位）							
分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目		12単位	健康医学入門(医学総論を含む)、健康心理学入門、健康スポーツ科学入門、健康脳科学入門、プレセミナーⅠ・Ⅱ 各②				
専門基幹科目		24単位以上	解剖学、学校保健(学校安全等を含む)、生理学 各② 衛生学・公衆衛生学、学習・認知心理学、救急・応急処置、健康医学(内科学を含む)、健康統計学、言語学、生涯発達心理学、健康スポーツ栄養学、健康スポーツ心理学、精神医学・精神保健、病理学、分子遺伝学、リハビリテーション医学 各② 社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び医療福祉教育・関係法規を含む)、小児科学、ストレス科学論、生活習慣病論、救急・応急処置演習 各②				
専門展開科目	健康開発科学科目	92単位 A	36単位以上 B	薬理概論、養護概説Ⅰ・Ⅱ、体力測定・評価 各② 運動生理学、小児保健学、微生物・免疫学、予防医学、栄養生化学、学校保健演習、健康情報と医学、生涯健康論、介護概論 各② 健康運動指導実技(アクアビクス)・(エアロビクス)、健康運動指導実技(ジョギング・ウォーキング)、レクリエーションスポーツ実習Ⅰ 各① 運動生理学演習、体力測定・評価演習、海外の生涯教育、学習情報の収集と提供、企業内教育論、生涯学習社会論 各② 運動療法学、レクリエーションスポーツ論、健康相談(カウンセリング)、食物化学(食品学を含む)、臨床栄養学、看護学 各② 看護演習②、看護実習④ 環境健康医学、喫煙と健康、先端医療概論、長寿科学、学校看護学、メンタルヘルス 各② レクリエーションスポーツ実習Ⅱ ① 運動療法学演習、レクリエーションスポーツ演習、社会心理学 各②			
	健康スポーツ科学科目			体育原理② 運動学(運動方法学を含む)、障がい者スポーツ論、スポーツ経営学、健康スポーツ情報論、スポーツ政策論、トレーニング科学論、バイオメカニクス 各② 体育実技(器械運動)・(水泳)・(ダンス)・(陸上競技) 各① 健康スポーツ心理学演習、トレーニング演習 各② スポーツイベント論、スポーツ指導方法論、スポーツ社会学、スポーツ文化論、スポーツマーケティング 各② 体育実技(剣道)・(サッカー)・(柔道)・(ソフトボール)・(テニス) 体育実技(バスケットボール)・(バドミントン)・(バレーボール)・(ラグビー) 身体表現実技(エアロビクス)・(ダンス) 各① 健康運動指導演習、コーチング演習、障がい者スポーツ演習、健康スポーツ栄養学演習、メディカルコンディショニング演習、トレーニングプログラミング演習、リハビリテーション演習(スポーツ含む)、バイオメカニクス演習、保健体育指導演習 各② 保健体育実践演習 ②			
	言語聴覚科学科目			言語聴覚障害総論、口腔機能論(臨床歯科医学を含む) 各② 遺伝・画像診断学、臨床神経学、形成外科学、口腔外科学、音声・言語・聴覚医学Ⅰ(呼吸・発声・聴覚系の構造及び機能)、音声・言語・聴覚医学Ⅱ(神経系の構造、機能及び病態)、臨床心理学、音声学、言語発達学、音響学・聴覚心理学、言語聴覚障害診断学、失語症Ⅰ、言語発達障害学Ⅰ(評価)、構音障害Ⅰ(機能性構音障害)、聴力検査、基礎演習Ⅰa、基礎演習Ⅰb 各② 耳鼻咽喉学、心理測定法、失語症Ⅱ、高次脳機能障害学、言語発達障害学Ⅱ(訓練)、言語発達障害学Ⅲ(脳性麻痺・学習障害)、音声障害、構音障害Ⅱ(器質性構音障害)、発声発語障害学Ⅳ(運動障害性構音障害総論・各論)、嚥下障害学、吃音、聴覚障害(小児聴覚障害・成人聴覚障害)、視覚聴覚二重障害、補聴器・人工内耳、臨床評価学演習、嚥下障害学演習、総合臨床学、応用演習Ⅰa・Ⅰb、応用演習Ⅱa・Ⅱb、基礎演習Ⅱ、高次脳機能障害学演習 各②			
専門総合科目		16単位以上	健康科学総合演習Ⅰ・Ⅱ 各② 専門セミナーⅠ・Ⅱ 各② 卒業論文⑧、臨床実習⑫(注3)				

※92単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。
※言語聴覚士受験資格取得のためには38単位以上が必要です。
(注3) 言語聴覚士受験資格取得のためには必修です。

卒業要件に算入されない科目

分 野	単位	1年次	2年次	3年次	4年次
自由選択 科目	卒業要件に 算入しない	キャリア・デザイン②			
		サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各②	長期インターンシップ④		
認定心理士 資格取得 関連科目		基礎実験演習Ⅰ・Ⅱ(心理学実験Ⅰ・Ⅱ) 各②			
		認知心理学b、発達心理学b 各②			

カリキュラム概要

健康栄養学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
24 単位		80 単位		24 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・ は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（24 単位）

分野		卒業要件(24単位)		1年次	2年次	3年次	4年次		
		分野合計	内訳						
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②					
教養基幹科目	人文系	12単位		心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②					
	社会系			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②					
	自然系		6単位	化学Ⅰ、生物学Ⅰ、情報科学Ⅰ 各②					
				数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅱ、生物学Ⅱ、情報科学Ⅱ 各②					
	主題系		18単位		情報科学Ⅲ・Ⅳ 各② 仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ 各②				
外国語科目 (注1)	英語	6単位	4単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①					
	ドイツ語			英語Ⅰc・Ⅱc 各①					
			中国語		ドイツ語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①				
				フランス語	2単位	中国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
						フランス語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
					韓国語		韓国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①		
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①					
合計		24単位	※ 「教養教育科目」において、24単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.80参照						

グレーゾーン（24 単位）

グレーゾーン	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
	24単位	英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
		英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
		ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 Ⅲ(読解)・Ⅳ(読解)、Ⅲ(表現)・Ⅳ(表現)、Ⅲ(総合)・Ⅳ(総合)、会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
		スペイン語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」の要件 24 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 80 単位を超えて修得した科目の単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位（24 単位まで修得可）			

自由選択科目（卒業要件に算入せず）

自由選択 科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各②			
		長期インターンシップ④			

カリキュラム概要

専門教育科目（80単位）

分野		卒業要件 (80単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	社会・環境 と健康	4 単位	健康管理概論②	健康心理学②	公衆衛生学② 医療福祉概論②	公衆衛生学実習①
	人体の構造と機能、 疾病の成り立ち	10 単位 27 単位以上	人体構造学② 生体機能学② 生化学総論② 健康スポーツ医学②	人体構造機能学実験① 生化学各論② 生化学基礎実験① 生化学応用実験① 病理学② 生活習慣病論② 病原微生物学② 医科学Ⅰ（代謝・栄養系等）②	医科学Ⅱ（消化器系等）② 薬理概論②	医科学Ⅲ（その他の疾患）②
	食べ物と健康	13 単位	食品成分学② 食品機能評価法② 調理学② 調理科学実験① 基礎調理実習① 応用調理実習①	食品機能化学② 食品安全管理学② 食品安全学実験① 食品基礎分析実験法①	食品健康科学論② 食品応用分析実験法①	
専門基幹科目	基礎 栄養学	3 単位	基礎栄養学②	栄養学実験① 栄養生理学②		
	応用 栄養学	5 単位		応用栄養学② 母子栄養学② 加齢栄養学②	スポーツ栄養学② 応用栄養学実習①	
	栄養 教育論	5 単位	栄養教育論②	栄養教育実習① 栄養カウンセリング論② 健康・栄養情報演習① 健康行動科学②	栄養教育各論②	
	臨床 栄養学	5 単位 24 単位以上		臨床栄養学総論② 臨床栄養学各論②	分子栄養学② 栄養アセスメント論② 口腔機能論演習② 臨床栄養学実習① 運動療法論② 栄養ケアマネジメント論② 臨床栄養管理実験①	介護概論演習②
	公衆 栄養学	2 単位		食事調査演習① 公衆栄養学②	公衆栄養活動論② 環境健康医学②	公衆栄養学実習①
	給食経営 管理論	4 単位		給食経営管理論② フードサービス論②	給食経営管理基礎実習① 給食経営管理応用実習① フードマーケティング論②	
専門発展科目	総合 演習	1 単位	健康栄養科学入門①			健康管理総合演習① 管理栄養士総合基礎演習① 管理栄養士総合応用・臨床演習① 臨地実習事前事後演習①
	臨地 実習	1 単位 8 単位以上			臨地実習Ⅰ（校外実習を含む）① 臨地実習Ⅱ②（注2） 臨地実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ①（注2）	
	総合 科目	6 単位		管理栄養士海外研修②	心身科学特論② 健康栄養総合演習② 卒業研究③	健康栄養学特論① 健康栄養専門セミナー④
	管理栄養士 関連科目		有機化学② 分析化学②			管理栄養士セミナー②
	合計	80単位	※80単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。 （注2）管理栄養士は必修科目です。（Ⅲ・Ⅳ・Ⅴのいずれか1科目を選択）			

カリキュラム概要

心理学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たす必要があります。

教養教育科目	+	専門教育科目	+	グレイゾーン	=	卒業要件単位
36 単位		76 単位		16 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目（36 単位）

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ各②			
教養基幹科目		20単位 (注1)		教養セミナーⅠ・Ⅱ 各①	教養セミナーⅢ・Ⅳ 各①		
	人文系		4単位	哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	主題系		4単位	情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
				仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ、健康の科学 各②			
外国語科目 (注2)	第1外国語	10単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
			英語Ⅰc・Ⅱc 各①				
	第2外国語		2単位	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱ 各① (1言語を選択)			
	文化事情		2単位	ドイツ文化事情、中国文化事情、フランス文化事情、韓国文化事情 各② (1科目を選択)			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		36単位	(注1) 「教養基幹科目」において、20単位を超えた単位は「グレイゾーン」に算入される。 (注2) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.39参照				

グレイゾーン（16 単位）

	分野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレイゾーン	特別支援教育に関する科目 (注3)	16単位 その他		障害者教育史、知的障害者の心理・生理・病理、知的障害者教育論、病弱者の心理・生理・病理、肢体不自由者教育論、病弱者教育論、視覚障害教育総論、聴覚障害教育総論、重複障害・軽度発達障害教育総論 各②		
			英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現法Ⅰ・Ⅱ、英語読解法Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
			英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現法Ⅲ・Ⅳ、英語読解法Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
			ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語 (注4)			
			Ⅰ (基礎)・Ⅱ (基礎) 各①			
			Ⅲ (読解)・Ⅳ (読解)、Ⅲ (表現)・Ⅳ (表現)、Ⅲ (総合)・Ⅳ (総合)、会話Ⅰ・Ⅱ 各①			
			スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
			海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
			「教養教育科目」の「教養基幹科目」うち20単位を超えて修得した科目の単位 「専門教育科目」について、76単位を超えて修得した科目の単位、「単位互換」で修得した単位			
			「他学部・他学科科目」で修得した単位 (24単位まで修得可) ※グレイゾーンの要件16単位を超えた場合は、8単位まで㊤「基幹・展開・卒業研究」に算入される。			

(注3) 教職課程受講登録者のみ履修可能。18単位のうち、16単位まで卒業要件に入れることができる。(注4) スペイン語はⅠ(基礎)・Ⅱ(基礎)のみ開講

カリキュラム概要

専門教育科目（76 単位）

分野	要件単位 内訳		1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	20単位	講義科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学） 各②	発達心理学Ⅰ、人格心理学Ⅰ（感情・人格心理学）、社会心理学Ⅰ（社会・集団・家族心理学）、ストレスマネジメント入門 各②	心理学研究法 ②	
専門基幹科目	44単位 ① 演習科目②の中から4単位以上を含むこと	講義科目	学習・言語心理学 ②	認知心理学Ⅱ、発達心理学Ⅱ、人格心理学Ⅱ、社会心理学Ⅱ、生理学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）、生理学Ⅱ 各②	神経・生理心理学、生理心理学、心理学史、スポーツ心理学、ポジティブ心理学、カレントトピックスa・b・c・d・e・f 各②	
		演習科目③		調査法Ⅰ・Ⅱ 各②	ストレスマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ 各②	
		その他		インターンシップ ②		
心理学実践	28単位 ① 自専攻分野20単位以上を含むこと	4単位 講義科目		臨床心理学Ⅰ（臨床心理学概論）、多職種連携論、健康・医療心理学 各②	臨床心理学Ⅱ（心理学的支援法）、司法・犯罪心理学、精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ、発展講義a・b 各②	
		科目③ 演習			心理検査演習Ⅰ・Ⅱ、面接法・介入法（心理的アセスメント）、人格・臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ 各②	
専門展開科目		4単位 講義科目		文化心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学Ⅰ（教育・学校心理学）、教育心理学Ⅱ、障害者教育総論、肢体不自由者の自立活動の理論と実際、肢体不自由者の心理・生理・病理、知的障害児指導法 各②	異文化理解、ケアマネジメント、発展講義c・d・e・f・g・h 各②	
		科目③ 演習			発達・教育心理学演習Ⅰ・Ⅱ、社会・産業心理学演習Ⅰ・Ⅱ 各②	
		4単位 講義科目		産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ、データサイエンス入門、感性工学、消費者行動論 各②	製品評価の心理学、多変量解析Ⅰ・Ⅱ、行動経済学、発展講義i・j 各②	
		科目③ 演習			実験心理学演習Ⅰ・Ⅱ、情報ビジネス心理学演習Ⅰ・Ⅱ、デジタルデザイン演習 各②	
専門総合科目		科目③ 演習				卒業研究 ⑥
	12単位	演習科目		心理学実験Ⅰ・Ⅱ 各②	プレセミナー、総合研究演習Ⅰ 各②	総合研究演習Ⅱ・Ⅲ 各②
合計	76単位		※76単位を超えて修得した単位は「グレーゾーン」に算入される。			

卒業要件に算入されない科目

分野	単位	1年次	2年次	3年次	4年次
公認心理師 専攻科目	卒業要件に 算入しない		公認心理師の職責 ②	福祉心理学、関係行政論、心理演習 各② 心理実習Ⅰ ①	心理実習Ⅱ・Ⅲ 各①
自由選択 科目		キャリア・デザイン ②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域連携学A・B・C・D 各②			
			長期インターンシップ ④		

部門	分野	授業科目名	学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年	必修 単位	選択 単位	卒業要件
					春	秋	春	秋	春	秋			
教養教育科目	教養基礎科目	宗 教 学 I				2					2		4 単位修得すること。
		宗 教 学 II				2					2		
		心 理 学 I				2					2		4 単位修得すること。
		心 理 学 II				2					2		
		哲 学 I	2									2	6 単位以上修得すること。
		哲 学 II		2								2	
		論 理 学 I	2									2	
		論 理 学 II		2								2	
		文 学 I	2									2	
		文 学 II		2								2	
		美 術 学 I	2									2	
		美 術 学 II		2								2	
		法 学 I	2									2	
		法 学 II		2								2	
		政 治 学 I	2									2	
		政 治 学 II		2								2	
		経 済 学 I	2									2	
		経 済 学 II		2								2	
		社 会 学 I	2									2	
		社 会 学 II		2								2	
	歯科基礎科学科目	教 育 学 I	2									2	8 単位修得すること。
		教 育 学 II		2								2	
		地 理 学 I	2									2	
		地 理 学 II		2								2	
		歴 史 学 I	2									2	
		歴 史 学 II		2								2	
		化 学 の 基 礎	2									2	
		ドイツ語 I (基礎)	1									1	
		ドイツ語 II (基礎)		1								1	
		中国語 I (基礎)	1									1	
		中国語 II (基礎)		1								1	
		フランス語 I (基礎)	1									1	
		フランス語 II (基礎)		1								1	
		物 理 学 I	2								2		6 単位修得すること。
		物 理 学 II	2								2		
		物 理 学 III		2							2		
		化 学 I	2								2		6 単位修得すること。
		化 学 II		2							2		
		化 学 実 習	1								1		
		化 学 演 習		1							1		
		生 物 学 I		2							2		8 単位修得すること。
		生 物 学 II		2							2		
		生 物 学 実 習	2								2		
		生 物 学 の 基 礎	2								2		
		情 報 統 計 学 I	2								2		4 単位修得すること。
		情 報 統 計 学 II		2							2		
	外国語科目	英 語 I a	1								1		6 単位修得すること。
		英 語 I b	1								1		
		英 語 II a		1							1		
		英 語 II b		1							1		
		英 会 話 I	1								1		
	健康総合科目	英 会 話 II		1							1		
		ス ポ ー ツ 科 学 I	1								1		2 単位修得すること。
		ス ポ ー ツ 科 学 II		1							1		
		卒業要件									40	6	46 単位

部門	授業科目名	開講学年	自由 単位
自由選択科目	海 外 事 情 I・II	1～6	各 2
	海 外 事 情 III・IV	1～6	各 1
	サービスマーケティング実習I～IV	1～6	各 1
	課題解決型演習I～IV	1～6	各 2
	長期インターンシップ	2～6	4
	地 域 連 携 学 A～D	1～6	各 2
	自由選択科目の単位は卒業に必要な単位数に算入されない。		

部門	授業科目名	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		必修 単位	卒業要件
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門 教育 科目	医療コミュニケーションと多職種連携I	1												1	165 単位修得すること
	歯科医師の役割	1												1	
	歯科医師としてのプロフェッショナリズム	1												1	
	人体の構造I		1											1	
	歯科診療と研究の基本		1											1	
	情報の科学	1												1	
	歯の構造		1											1	
	実習：歯の構造		1											1	
	細胞と組織の構造			1										1	
	口腔組織の構造と機能			1										1	
	実習：細胞と組織の構造			1	1									2	
	実習：人体・口腔組織の発生				1									1	
	人体の構造II			2										2	
	実習：人体の構造				4									4	
	人体の機能I			1.5										1.5	
	人体の機能II				2									2	
	実習：人体の機能			1	0.5									1.5	
	生命の分子基盤I			2.5										2.5	
	生命の分子基盤II				1									1	
	実習：生命の分子基盤			1	0.5									1.5	
	歯科基礎科学			1										1	
	生体材料・歯科材料I			1										1	
	生体材料・歯科材料II				2									2	
	実習：生体材料・歯科材料				2									2	
	社会と歯学I（衛生・公衆衛生学）			1										1	
	実習：歯冠形成			1										1	
	臨床医学（外科I）				1									1	
	病因・病態・診断（総論）					2								2	
	病因・病態・診断（各論）						2							2	
	実習：病因・病態・診断（総論）					2								2	
	実習：病因・病態・診断（各論）						2							2	
	感染と免疫I					2								2	
	感染と免疫II						1							1	
	実習：感染と免疫						2							2	
	生体と薬物I					2								2	
	生体と薬物II						1							1	
	実習：生体と薬物						2							2	
	社会と歯学II（口腔衛生学）					1								1	
	社会と歯学III（口腔衛生学）						1							1	
	硬組織疾患の病態と治療I					1								1	
	硬組織疾患の病態と治療II						1							1	
	実習：硬組織疾患の病態と治療						2							2	
	医療コミュニケーションと多職種連携II					1								1	
	臨床歯科補綴学				1									1	
	冠・橋義歯補綴							1						1	
	実習：冠・橋義歯補綴								2					2	
	放射線・画像診断学（画像検査）I					1								1	
	臨床医学（内科I）					1								1	
	臨床医学（内科II）						1							1	
	臨床医学（外科II）					1								1	
	口腔・顎顔面領域の疾患 1-I						1							1	
	口腔・顎顔面領域の疾患 2-I						1							1	
	成長発育と不正咬合						1							1	
	小児の口腔疾患と成長発育						1							1	
	基礎臨床統合歯学I					1								1	
	社会と歯学IV（社会歯科学）							1						1	
	実習：社会と歯学								2					2	
	歯髓組織の常態と疾患I						1							1	
	歯髓組織の常態と疾患II							1						1	
	実習：歯髓組織の常態と疾患							2						2	
	歯周組織疾患の病態と治療I							1						1	
	歯周組織疾患の病態と治療II								1					1	
	実習：歯周組織疾患の診断と治療								2					2	
	部分欠損補綴							1						1	
	実習：部分欠損補綴								2					2	
	顎顔面補綴								1					1	
	全部欠損補綴					1								1	
	実習：全部欠損補綴						2							2	
	高齢者・在宅歯科治療I							1						1	
	高齢者・在宅歯科治療II								1					1	
	インプラント歯科学								1					1	
	実習：インプラント歯科学								1					1	
	口腔・顎顔面領域の疾患 1-II							1						1	
	口腔・顎顔面領域の疾患 2-II							1						1	
	実習：口腔・顎顔面領域の疾患								1					1	
	不正咬合の診断と治療								1					1	
	実習：不正咬合の診断と治療							2						2	
	小児の歯科治療							1						1	
	実習：小児の歯科治療							1						1	
	障害者の歯科治療								1					1	

部門	学年	授業科目名	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		必修 単位	卒業要件
			春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門 教育科目		放射線・画像診断学（画像検査）Ⅱ							1						1	165 単位修得すること
		歯科麻酔							1						1	
		臨床予備実習							3						3	
		基礎臨床統合歯学Ⅱ							1						1	
		臨床実習・総合歯学・総合研修									13	13	7	11	44	
		隣接臨床医学									1				1	
		臨床歯学									1				1	
		臨床実習に役立つ臨床歯科治療学									1				1	
		臨床実習に役立つ歯科基礎医学									1				1	
		総合示説											4		4	
	卒業要件	小計	4	4	15	16	18	20	17	19	17	13	11	11	165	165 単位

2. 科目担当者表

部門	分野	必修等	授業科目名	単位数	担当者名		
教 養 教 育 科 目	教 養 基 礎 科 目	○	宗教学	I・II	2・2	山端 信祐	
		○	心理学	I・II	2・2	西田 憲一郎	
		△	哲学	I	2	松野 充貴	
		△	哲学	II	2	本年度開講せず	
		△	論理学	I	2	松野 充貴	
		△	論理学	II	2	本年度開講せず	
		△	文学	I・II	2・2	佐々木 亜紀子	
		△	美術	I・II	2・2	本年度開講せず	
		△	法学	I・II	2・2	本年度開講せず	
		△	政治学	I	2	小林 正嗣	
		△	政治学	II	2	本年度開講せず	
		△	経済学	I・II	2・2	本年度開講せず	
		△	社会学	I	2	今井 隆太	
		△	社会学	II	2	本年度開講せず	
		△	教育学	I・II	2・2	内田 康弘	
		△	地理学	I・II	2・2	林 泰正	
		△	歴史学	I・II	2・2	本年度開講せず	
		△	化学の基礎		2	松永 諭	
	△	ドイツ語（基礎）	I・II	1・1	来住 準一		
	△	中国語（基礎）	I・II	1・1	本年度開講せず		
	△	フランス語（基礎）	I・II	1・1	本年度開講せず		
	育 科 目	歯 科 基 礎 科 学 科 目	○	物理学	I・II・III	2・2・2	有馬 義康
			○	化学	I・II	2・2	松永 諭
			○	化学実習		1	松永 諭
			○	化学演習		1	来住 準一
			○	生物学	I	2	来住 準一
			○	生物学	II	2	池田 健
			○	生物学実習		2	池田 健
			○	生物学の基礎		2	浅原 正和
		国 語 科 目	○	情報統計学	I・II	2・2	未定
○			英語	I a・II a	1・1	池田 健	
○			英語	I b・II b	1・1	浅原 正和	
○			英会話	I・II	1・1	未定	
科 学 科 目	健 康 総 合	○	スポーツ科学	I・II	1・1	池田 健	
						浅原 正和	

必修等の記号…○印＝必修科目 △印＝選択科目

部門	授業科目名	単位数	担 当 者 名	開講学年
自 由 選 択 科 目	海外事情Ⅰ・Ⅱ	各 2		1～6
	海外事情Ⅲ・Ⅳ	各 1		1～6
	サービスマーケティング実習Ⅰ～Ⅳ	各 1		1～6
	課題解決型演習Ⅰ～Ⅳ	各 2		1～6
	長期インターンシップ	4		2～6
	地域連携学 A～D	各 2		1～6

部 門	授業科目名	必修 単位数	担当講座 (コーディネーター)	担当者名	開講学期 ※1					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
専 門 教 育 科 目	医療コミュニケーションと多職種連携Ⅰ	1	基礎系教務主任	濱村和紀 他	春					
	歯科医師の役割	1	学部長	本田雅規 他	春					
	歯科医師としてのプロフェッショナリズム	1	臨床系教務主任	木本 統 他	春					
	人体の構造Ⅰ	1	解剖学	池田やよい 他	秋					
	歯科診療と研究の基本	1	病院長	三谷章雄 他	秋					
	歯の構造	1	口腔解剖学	本田雅規 他	秋					
	実習：歯の構造	1	口腔解剖学	本田雅規 他	秋					
	情報の科学	1	口腔病理学・歯科法医学	前田初彦 他	春					
	細胞と組織の構造	1	口腔解剖学	本田雅規 他		春				
	口腔組織の構造と機能	1	口腔解剖学	本田雅規 他		春				
	実習：細胞と組織の構造	2	口腔解剖学	本田雅規 他		通				
	実習：人体・口腔組織の発生	1	口腔解剖学	本田雅規 他		秋				
	人体の構造Ⅰ（※2）	1	解剖学	池田やよい 他	春					
	人体の構造Ⅱ	2	解剖学	池田やよい 他	春					
	実習：人体の構造	4	解剖学	池田やよい 他	秋					
	人体の機能Ⅰ	1.5	生理学	平場勝成 他	春					
	人体の機能Ⅱ	2	生理学	平場勝成 他	秋					
	実習：人体の機能	1.5	生理学	平場勝成 他	通					
	生命の分子基盤Ⅰ	2.5	生化学	鈴木崇弘 他	春					
	生命の分子基盤Ⅱ	1	生化学	鈴木崇弘 他	秋					
	実習：生命の分子基盤	1.5	生化学	鈴木崇弘 他	通					
	歯科基礎科学	1	歯科理工学	歯科理工学講座	春					
	生体材料・歯科材料Ⅰ	1	歯科理工学	歯科理工学講座	春					
	生体材料・歯科材料Ⅱ	2	歯科理工学	歯科理工学講座	秋					
	実習：生体材料・歯科材料	2	歯科理工学	歯科理工学講座	秋					
	実習：歯冠形成	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	近藤尚知 他	春					
	社会と歯学Ⅰ（衛生・公衆衛生学）	1	口腔衛生学	嶋崎義浩 他	春					
	臨床医学(外科Ⅰ)	1	外科学	野本周嗣 他	秋					
	臨床歯科補綴学	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	近藤尚知 他	秋					
	病因・病態・診断（総論）	2	口腔病理学・歯科法医学	前田初彦 他			春			
	病因・病態・診断（各論）	2	口腔病理学・歯科法医学	前田初彦 他			秋			
	実習：病因・病態・診断（総論）	2	口腔病理学・歯科法医学	前田初彦 他			春			
	実習：病因・病態・診断（各論）	2	口腔病理学・歯科法医学	前田初彦 他			秋			
	感染と免疫Ⅰ	2	微生物学	長谷川義明 他			春			
	感染と免疫Ⅱ	1	微生物学	長谷川義明 他			秋			
	実習：感染と免疫	2	微生物学	長谷川義明 他			秋			
	生体と薬物Ⅰ	2	薬理学	濱村和紀 他			春			
	生体と薬物Ⅱ	1	薬理学	濱村和紀 他			秋			
	実習：生体と薬物	2	薬理学	濱村和紀 他			秋			
	社会と歯学Ⅱ（口腔衛生学）	1	口腔衛生学	嶋崎義浩 他			春			
	社会と歯学Ⅲ（口腔衛生学）	1	口腔衛生学	嶋崎義浩 他			秋			
	臨床医学（内科Ⅰ）	1	内科学	成瀬桂子 他			春			
	臨床医学（内科Ⅱ）	1	内科学	成瀬桂子 他			秋			
	臨床医学（外科Ⅱ）	1	外科学	野本周嗣 他			春			
	硬組織疾患の病態と治療Ⅰ	1	保存修復学	辻本暁正 他			春			
	硬組織疾患の病態と治療Ⅱ	1	保存修復学	辻本暁正 他			秋			
	実習：硬組織疾患の病態と治療	2	保存修復学	辻本暁正 他			春			
	歯髓組織の常態と疾患Ⅰ	1	歯内治療学	諸富孝彦 他			秋			
	全部欠損補綴	1	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他			春			
	実習：全部欠損補綴	2	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他			秋			
	臨床歯科補綴学（※2）	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	近藤尚知 他			春			
	口腔・顎顔面領域の疾患1-Ⅰ	1	口腔内科・口腔病態制御学	阿部 厚 他			秋			
	口腔・顎顔面領域の疾患2-Ⅰ	1	口腔顎顔面外科学	後藤満雄 他			秋			
	成長発育と不正咬合	1	歯科矯正学	宮澤 健 他			秋			
	小児の口腔疾患と成長発育	1	小児歯科学	小児歯科学講座			秋			
	放射線・画像診断学（画像検査）Ⅰ	1	歯科放射線学	有地榮一郎 他			春			
	基礎臨床統合歯学Ⅰ	1	総合歯科医学教育	本田雅規 他			春			
	医療コミュニケーションと多職種連携Ⅱ	1	基礎系教務主任	濱村和紀 他			春			

部 門	授業科目名	必修 単位数	担当講座 (コーディネーター)	担当者名	開講学期 ※1					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
専 門 教 育 科 目	社会と歯学Ⅳ（社会歯科学）	1	口腔衛生学	嶋崎義浩 他				春		
	実習：社会と歯学	2	口腔衛生学	嶋崎義浩 他				秋		
	歯髄組織の常態と疾患Ⅰ（※2）	1	歯内治療学	諸富孝彦 他				春		
	歯髄組織の常態と疾患Ⅱ	1	歯内治療学	諸富孝彦 他				春		
	実習：歯髄組織の常態と疾患	2	歯内治療学	諸富孝彦 他				春		
	歯周組織疾患の病態と治療Ⅰ	1	歯周病学	三谷章雄 他				春		
	歯周組織疾患の病態と治療Ⅱ	1	歯周病学	三谷章雄 他				秋		
	実習：歯周組織疾患の診断と治療	2	歯周病学	三谷章雄 他				秋		
	全部欠損補綴（※2）	1	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他				春		
	冠・橋義歯補綴	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	本年度開講せず [※]				春		
	小児の歯科治療	1	小児歯科学	小児歯科学講座				春		
	実習：小児の歯科治療	1	小児歯科学	小児歯科学講座				春		
	顎顔面補綴	1	有床義歯学	武部 純 他				秋		
	部分欠損補綴	1	有床義歯学	武部 純 他				春		
	実習：部分欠損補綴	2	有床義歯学	武部 純 他				秋		
	高齢者・在宅歯科治療Ⅰ	1	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他				春		
	高齢者・在宅歯科治療Ⅱ	1	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他				秋		
	実習：全部欠損補綴（※2）	2	高齢者・在宅歯科医療学	木本 統 他				秋		
	インプラント歯科学	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	近藤尚知 他				秋		
	実習：インプラント歯科学	1	冠橋義歯・口腔インプラント学	近藤尚知 他				秋		
	実習：冠・橋義歯補綴	2	冠橋義歯・口腔インプラント学	本年度開講せず [※]				秋		
	口腔・顎顔面領域の疾患1-Ⅱ	1	口腔内科・口腔病態制御学	阿部 厚 他				春		
	口腔・顎顔面領域の疾患2-Ⅱ	1	口腔顎顔面外科学	後藤満雄 他				春		
	実習：口腔・顎顔面領域の疾患	1	口腔内科・口腔病態制御学 口腔顎顔面外科学	阿部 厚 他 後藤満雄 他				秋		
	不正咬合の診断と治療	1	歯科矯正学	宮澤 健 他				春		
	実習：不正咬合の診断と治療	2	歯科矯正学	宮澤 健 他				春		
	障害者の歯科治療	1	小児歯科学	小児歯科学講座				秋		
	放射線・画像診断学（画像検査）Ⅱ	1	歯科放射線学	有地榮一郎 他				春		
	歯科麻酔	1	麻酔学	奥田真弘 他				秋		
	基礎臨床統合歯学Ⅱ	1	総合歯科医学教育	本田雅規 他				春		
	臨床予備実習	3	4年生臨床実習指導者総主任	近藤尚知 他				秋		
	隣接臨床医学	1	学部長	本田雅規 他					春	
	臨床歯学	1	学部長	本田雅規 他					春	
	臨床実習に役立つ臨床歯科治療学	1	臨床系教務主任	木本 統 他					春	
	臨床実習に役立つ歯科基礎医学	1	基礎系教務主任	濱村和紀 他					春	
	臨床実習・総合歯学・総合研修（5年）	26	5年生臨床実習指導者総主任	宮澤 健 他					通	
	臨床実習・総合歯学・総合研修（6年）	18	6年生臨床実習指導者総主任	三谷章雄 他						通
	隣接臨床医学（※2）	3	学部長	本田雅規 他						春
	臨床歯学（※2）	1	学部長	本田雅規 他						春
	総合示説	4	学部長	本田雅規 他						春

※1 春・・・春学期、秋・・・秋学期、通・・・通年を表す。

※2 教育課程の変更に伴い、令和6年度のみ特別開講

教養教育科目・自由選択科目および単位数(2024年度以降入学生対象)

薬学部授業科目配当表

部門	分野	春学期	単位数	秋学期	単位数	合計単位数	
教養教育科目	必修科目	人文自然社会系	宗教学Ⅰ	宗教学Ⅱ	2	4単位	
		主題系		薬と社会	2	2単位	
		語学系	英語Ⅰa	英語Ⅱa	1	2単位	
			英語Ⅰb	英語Ⅱb	1	2単位	
		体育系	スポーツ科学Ⅰ	スポーツ科学Ⅱ	1	2単位	
		薬学基礎系	物理学基礎Ⅰ			1単位	
			物理学基礎Ⅱ			1単位	
			化学基礎Ⅰ			1単位	
			化学基礎Ⅱ			1単位	
			生物学基礎Ⅰ			1単位	
			生物学基礎Ⅱ			1単位	
			数学基礎Ⅰ	数学基礎Ⅱ	1	2単位	
		実習		化学実習	2	2単位	
				生物学実習	2	2単位	
	必修科目計					24単位	
	選択科目	実習			物理学実習	2	1 単位以上
		薬学入門系	薬学物理学入門Ⅰ	1	薬学物理学入門Ⅱ	1	1 単位以上
			薬学化学入門Ⅰ	1	薬学化学入門Ⅱ	1	
		人文自然社会系	心理学Ⅰ	2	心理学Ⅱ	2	6 単位以上
			哲学Ⅰ	2	哲学Ⅱ	2	
			論理学Ⅰ	2	論理学Ⅱ	2	
			情報統計学	2	情報統計学	2	
			文学Ⅰ	2	文学Ⅱ	2	
			美術Ⅰ	2	美術Ⅱ	2	
			地理学Ⅰ	2	地理学Ⅱ	2	
			歴史学Ⅰ	2	歴史学Ⅱ	2	
			法学Ⅰ	2	法学Ⅱ	2	
			政治学Ⅰ	2	政治学Ⅱ	2	
			経済学Ⅰ	2	経済学Ⅱ	2	
			社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2	
			教育学Ⅰ	2	教育学Ⅱ	2	
		語学系	ドイツ語Ⅰ（基礎）	1	ドイツ語Ⅱ（基礎）	1	
			中国語Ⅰ（基礎）	1	中国語Ⅱ（基礎）	1	
			フランス語Ⅰ（基礎）	1	フランス語Ⅱ（基礎）	1	
			韓国語Ⅰ（基礎）	1	韓国語Ⅱ（基礎）	1	
			スペイン語Ⅰ（基礎）	1	スペイン語Ⅱ（基礎）	1	
	選択科目計					8単位以上	
卒業要件単位（教養教育科目）				32単位（必修科目24単位+選択科目8単位）			
自由選択科目		数学入門	1	自由選択科目は、卒業要件単位に算入されない △印の科目は1～6年次に履修できる ▲印の科目は専門教育科目であり、2年次以降に履修できる			
		生物学入門	1				
		海外事情Ⅰ・Ⅱ	各2				
	△	海外事情Ⅲ・Ⅳ	各1				
	△	サービスマーケティング実習Ⅰ～Ⅳ	各1				
	△	PBL演習Ⅰ～Ⅳ	各2				
	△	長期インターンシップ	4				
	△	地域連携学A～D	各2				
	▲	薬学アドバンスト海外研修	1				

教養教育科目・自由選択科目および単位数(2016～2023年度入学生対象)

薬学部授業科目配当表

部門	分 野	春学期	単位数	秋学期	単位数	合計単位数			
						1年次	2年次以降	計	
教養教育科目	必修科目	人文社会系	宗教学Ⅰ（2年次）	2	宗教学Ⅱ（2年次）	2		4単位	
			心理学Ⅰ（2年次）	2	心理学Ⅱ（2年次）	2		4単位	
		語学系	英語Ⅰa	1	英語Ⅱa	1	2単位		
			英語Ⅰb	1	英語Ⅱb	1	2単位		
			英語Ⅰc（4年次）	1			1単位		
		体育系	スポーツ科学Ⅰ	1	スポーツ科学Ⅱ	1	2単位		
		薬学基礎系	物理学Ⅰ	2		2単位			
					物理学Ⅱ（3年次）	2		2単位	
			化学Ⅰ	2		2単位			
			化学Ⅱ	2		2単位			
			生物学Ⅰ	2		2単位			
			生物学Ⅱ	2		2単位			
		数学Ⅰ	2	数学Ⅱ	2	4単位			
			化学実習	2	2単位				
	実習		生物学実習	2	2単位				
	必修科目計						24単位	11単位	35単位
	選択科目	実習			物理学実習	2	2単位以上		2単位以上
		薬学基礎系	物理学入門Ⅰ	2	物理学入門Ⅱ	2			2単位以上
			情報統計学Ⅰ	2	情報統計学Ⅱ	2	2単位以上		2単位以上
			化学の基礎	2					
		人文社会系	哲学Ⅰ	2	哲学Ⅱ	2	7 (5) *単位 以上	(2単位以上) *	7単位以上
			論理学Ⅰ	2	論理学Ⅱ	2			
			文学Ⅰ	2	文学Ⅱ	2			
			美術Ⅰ	2	美術Ⅱ	2			
			地理学Ⅰ	2	地理学Ⅱ	2			
			歴史学Ⅰ	2	歴史学Ⅱ	2			
			法学Ⅰ	2	法学Ⅱ	2			
			政治学Ⅰ	2	政治学Ⅱ	2			
			経済学Ⅰ	2	経済学Ⅱ	2			
			社会学Ⅰ	2	社会学Ⅱ	2			
			教育学Ⅰ	2	教育学Ⅱ	2			
			語学系	ドイツ語Ⅰ（基礎）	1	ドイツ語Ⅱ（基礎）			
		中国語Ⅰ（基礎）		1	中国語Ⅱ（基礎）	1			
フランス語Ⅰ（基礎）		1		フランス語Ⅱ（基礎）	1				
韓国語Ⅰ（基礎）		1		韓国語Ⅱ（基礎）	1				
スペイン語Ⅰ（基礎）		1		スペイン語Ⅱ（基礎）	1				
主題系				薬と社会（2・3年次）**	2				
選択科目計						11 (9) *単位以上	(2単位以上) *	11単位以上	
卒業要件単位（教養教育科目）						46単位（必修科目35単位+選択科目11単位）			
自由選択科目		数学の基礎	2	自由選択科目は、卒業要件単位に算入されない △印の科目は1～6年次に履修できる ▲印の科目は専門教育科目であり、2年次以降に履修できる					
		生物学の基礎	2						
		海外事情Ⅰ・Ⅱ	各2						
	△	海外事情Ⅲ・Ⅳ	各1						
	△	サービスマーケティング実習Ⅰ～Ⅳ	各1						
	△	PBL演習Ⅰ～Ⅳ	各2						
	△	長期インターンシップ	4						
	△	地域連携学A～D	各2						
	▲	薬学アドバンスト海外研修	1						

*()内は2単位分を2または3年次に修得する場合。

**選択必修科目ではないので、「薬と社会」を履修しなくても卒業可能。

1-6年次専門教育科目の必修・選択・自由選択科目および単位数(2024年度以降入学生対象)

薬学部授業科目配当表

部門	分野	1年次			2年次					3年次				
		春学期	秋学期	単位	春学期		秋学期		単位	春学期		秋学期		単位
					1部	2部	3部	4部		1部	2部	3部	4部	
専門教育科目	物理系		薬品物理化学	秋1	薬品分析学I	薬品分析学II		機器分析学	春(1)1 春(2)1 秋(4)1					
	化学系		有機化学I	秋1	有機化学II 構造解析学生薬学I	有機化学III 生薬学II	医薬品化学I	医薬品化学II	春(1)1 春(1)1 春(1)1 春(2)1 春(2)1 秋(3)1 秋(4)1					
	生物系		生化学I	秋1	遺伝情報学	生化学II 生理学I	微生物学 生理学II		春(1)1 春(2)1 春(2)1 秋(3)1 秋(3)1					
	統計学 薬学入門			春1 春1										
	衛生系										環境毒性学	環境衛生学 公衆衛生学I	公衆衛生学II 食品衛生学・栄養学 放射化学	春(2)1 秋(3)1 秋(3)1 秋(4)1 秋(4)1 秋(4)0.5
	医療系	薬学概論 生命と医の倫理		春1 春1	介護概論		薬理学I 製剤学	薬理学II 薬理学III 薬物治療学I 薬物動態学I	春1 秋(3)1 秋(4)1 秋(4)1 秋(4)1 秋(3)1 秋(4)1	薬理学IV 薬物治療学II 薬物治療学III 基礎感染症学 薬物治療学IV 微生物薬品学 抗腫瘍薬品学 薬物動態学II 薬物動態学III		製剤工学・薬物送達学 医薬品開発学		春(1)1 春(1)1 春(1)1 春(1)1 春(2)1 春(2)1 春(1)1 春(2)1 秋(3)1 秋(3)0.5
	臨床系									臨床心理学 臨床コミュニケーション論 医療統計学		がん薬物療法学(臨床実習事前学習) 社会保障制度・レギュラトリーサイエンス 医薬品情報学II 調剤学(臨床実習事前学習)		春1 春1 秋(3)1 春(1)1 春(2)1 秋1 秋(3)1 秋(4)1
	複合系 発展系													
	実習・演習	基礎薬学演習I	基礎薬学演習II	春1 秋1	早期体験学習I 基礎薬学実習I		早期体験学習II 基礎薬学実習II 基礎薬学実習III		春1 秋1 春1 秋1 秋1 春1	医療薬学実習I 医療薬学実習II		衛生薬学実習 衛生薬学演習		春1 春1 秋2 秋2
	卒業研究													
	小計		9単位				29単位					30単位		
	語学系					薬学英語		薬学英語	春1 秋1	実用薬学英語		実用薬学英語		春1 秋1
	小計						2単位 1単位					2単位 1単位		
	選択科目	医学概論I	医学概論II	春1 秋1						リサーチ・ファーマシストコースI グローバル・ファーマシストコースI データ・ファーマシストコースI		リサーチ・ファーマシストコースII グローバル・ファーマシストコースII データ・ファーマシストコースII		春1 春1 春1 秋1 秋1 秋1
	小計		2単位									2単位		
	要求単位													
合計			9単位				30単位					33単位		
総計							154単位							
							卒業要件単位数 186単位(専門科目154単位)							

自由選択科目 薬学アドバンスト海外研修

()の単位数は卒業に必要な最小修得単位数を表す。

※:2つの*科目とリサーチ・ファーマシストコース・グローバル・ファーマシストコース・データ・ファーマシストコース構成科目を単位選択

※※:医学概論I・II、特論3科目から4単位修得

〔「医学概論I」「医学概論II」について〕

単位互換科目として履修します。単位修得時は「認定」となります。修得した単位は卒業要件に算入されますが、進級要件には算入されません。

シラバスは別途配布されます。

※※※:卒業研究は4年秋学期から6年春学期まで実施する。

年次		4年次				5年次				6年次				
部門	分野	春学期		秋学期		単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位		
		1部	2部	3部	4部									
専門教育科目	必須科目	物理系												
		化学系												
		生物系												
		基礎複合系												
		衛生系												
		医療系	薬事法規				春1							
			臨床薬物治療学(臨床実習事前学習) 漢方薬学		疾病予防学	春1 春1 秋1 春(1)0.5 春(2)0.5								
		臨床系	口腔ケア学	医療経済学										
		複合系 発展系	薬学総合学習Ⅰ				通4				薬学総合学習Ⅱ		通8	
											未来を創造できる薬剤師養成プログラムⅡ*※		春1	
		実習・演習	社会薬学演習		薬物治療の個別最適化Ⅰ 薬物治療の個別最適化Ⅱ 薬物治療の個別最適化Ⅲ		春1 秋1 秋1 春(1)2 春(2)2 秋(3)2 秋(4)2	臨床実務実習Ⅰ 臨床実務実習Ⅱ		10 10	薬物治療の個別最適化Ⅳ 薬物治療の個別最適化Ⅴ		春1 春1	
			臨床実習事前演習Ⅰ (臨床実習事前学習)	臨床実習事前演習Ⅱ (臨床実習事前学習)	臨床実習事前演習Ⅲ (臨床実習事前学習)	臨床実習事前演習Ⅳ (臨床実習事前学習)								
		卒業研究	卒業研究※※※											通23
		小計	21単位					20単位			34単位			
		語学系	医療薬学英語		医療薬学英語		春1 秋1	外書講読Ⅰ	外書講読Ⅱ	春1 秋1				
		小計	2単位					2単位						
		要求単位	1単位					1単位						
選択科目	発展系	リサーチ・ファーマシストコースⅢ グローバル・ファーマシストコースⅢ データ・ファーマシストコースⅢ			春1 春1 春1					基礎薬学特論 医療薬学特論 臨床薬学特論		春1 春1 春1		
		1単位								3単位				
										4単位※※				
合計		23単位					21単位			38単位				
総計		154単位												
卒業要件単位数 186単位(専門科目154単位)														

1-6年次専門教育科目の必修・選択・自由選択科目および単位数(2021~2023年度入学生対象)

薬学部授業科目配当表

年次			1 年次			2 年次			3 年次		
部門	分野		春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系		薬品物理化学Ⅰ	春1 秋1	薬品物理化学Ⅱ 薬品分析化学	機器分析学	春1 春1 秋1	製剤学	製剤工学	春1 秋1
		化学系	薬用植物学	基礎有機化学	春1 秋1	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	春1 秋1	生体有機化学 生薬学 薬品合成化学	天然物化学	春1 春1 春1 秋1
		生物系	解剖学 生理学	細胞生物学	春1 春1 秋1	酵素学 分子生物学 機能形態学 医療統計学	生体成分代謝学 微生物学 免疫学	春1 春1 春1 秋1 秋1 秋1	基礎感染症学	微生物薬品学	春1 秋1
		衛生系							公衆衛生学	環境衛生学	春1 秋1
		医療系	薬学概論	生命と医の倫理	春1 秋1	介護概論	薬物作用学Ⅰ 薬物作用学Ⅱ 病理学	春1 秋1 秋1 秋1	薬物作用学Ⅲ 薬物作用学Ⅳ 基礎薬物動態学	薬物治療学Ⅰ 疾患病態学Ⅰ 医薬品代謝学	春1 春1 秋1 春1 秋1
		臨床系							医薬品情報学	★日本薬局方概論 ★調剤学 臨床心理学	春1 秋1 秋1 秋1
		発展系									
		実習・演習	基礎薬学演習Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ	春1 秋1	基礎薬学実習Ⅰ 基礎薬学実習Ⅱ 早期体験学習Ⅰ	基礎薬学実習Ⅲ 情報処理演習 早期体験学習Ⅱ	春2 春2 秋2 秋1 春1 秋1	基礎薬学実習Ⅳ 医療薬学実習Ⅰ	★医療薬学実習Ⅱ ★実務実習事前演習Ⅰ	春2 春2 秋2 秋1
		卒業									
		小計	10単位			25単位			27単位		
		語系				薬学英語(前半)	薬学英語(後半)	春1 秋1	実用薬学英語(前半)	実用薬学英語(後半)	春1 秋1
		小計				2単位			2単位		
		要求単位				1単位			1単位		
		合計	10単位			26単位			28単位		
選 択 科 目	医療系	医学概論Ⅰ		医学概論Ⅱ	春1 秋1						
	発展系										
	小計	2単位*1									
	要求単位										
総計		140単位									
		卒業要件単位数 186単位 (専門科目140単位)									

自由選択科目 薬学アドバンスト海外研修

()の単位数は卒業に必要な最小修得単位数を表す。

*1:医学概論Ⅰ・Ⅱおよび特論科目の中から4単位以上を修得する。

[[医学概論Ⅰ][医学概論Ⅱ]について]

単位互換科目として履修します。単位修得時は「認定」となります。修得した単位は卒業要件に算入されますが、進級要件には算入されません。

シラバスは別途配布されます。

*2:この実習は、受け入れ施設の都合等を考慮して、指定期間中の合計22週で実施する。

*3:卒業研究は4年秋学期から6年春学期まで実施する。

★:実務実習事前学習科目

年次		4 年次				5 年次			6 年次		
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	物理系									
		化学系									
		生物系									
		衛生系	環境毒性学・放射化学 食品衛生・栄養学		春 1 春 1						
		医療系	薬事・法制 薬物治療学Ⅱ 医薬品毒性学		春 1 春 1 春 1						
			薬物動態学		春 1						
		臨床系	★処方解析学 ★がん化学療法学	臨床コミュニケーション論 ★救急集中治療学	秋 1 春 1 春 1 秋 1				アドバンスト医療薬学Ⅰ アドバンスト医療薬学Ⅱ	春 1 春 1	
		発展系	疾患病態学Ⅱ 統合型学習	疾患病態学Ⅲ 先端疾病治療学 医薬品開発学 漢方薬学	春 1 秋 1 春 2 秋 1 秋 1 秋 1				医療経済学	春 1	
			実習・演習	薬学総合演習Ⅰ ★実務実習事前演習Ⅱ	★実務実習事前演習Ⅲ	通 2 春 2 秋 2	臨床実務実習＊2		通20	薬学総合演習Ⅱ	
		卒業小計		卒業研究＊3							通20
		23単位			20単位			27単位			
	語学系				外書講読Ⅰ	外書講読Ⅱ	春 1 秋 1				
	小計				2単位						
	要求単位				1単位			1単位			
	合計	23単位			21単位			27単位			
	選 択 科 目	医療系									
		発展系		皮膚科学・香粧品学 薬局経営学 地域医療薬局学	秋 1 秋 1 秋 1					創薬化学特論 細胞情報学特論 生体予防薬学特論 薬品動態制御学特論 臨床薬学特論 医療薬学特論	秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1
			小計	3単位						6単位＊1	
要求単位			1単位								
総計		4単位(医学概論Ⅰ・Ⅱおよび特論科目の中から4単位以上)									
卒業要件単位数 140単位											
卒業要件単位数 186単位 (専門科目140単位)											

1-6年次専門教育科目の必修・選択・自由選択科目および単位数(2020年度入学生対象)

薬学部授業科目配当表

年次		1 年次			2 年次			3 年次			
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系	薬品物理化学Ⅰ	秋1	薬品物理化学Ⅱ 薬品分析化学	機器分析学	春1 春1 秋1	製剤学	製剤工学	春1 秋1	
		化学系	薬用植物学	春1 秋1	基礎有機化学 有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	春1 秋1	生体有機化学 生薬学 薬品合成化学	天然物化学	春1 春1 春1 秋1	
		生物系	解剖学 生理学	春1 春1 秋1	酵素学 分子生物学 機能形態学 医療統計学	生体成分代謝学 微生物学 免疫学	春1 春1 春1 春1 秋1 秋1	基礎感染症学	微生物薬品学	春1 秋1	
		衛生系						公衆衛生学	環境衛生学	春1 秋1	
		医療系	薬学概論	春1 秋1	介護概論	薬物作用学Ⅰ 薬物作用学Ⅱ 病理学	春1 秋1 秋1	薬物作用学Ⅲ 薬物作用学Ⅳ 基礎薬物動態学	薬物治療学Ⅰ 疾患病態学Ⅰ 医薬品代謝学	春1 春1 秋1 秋1 春1 秋1	
		臨床系						医薬品情報学	★日本薬局方概論 ★調剤学 臨床心理学	春1 秋1 秋1 秋1	
		発展系									
		実習・演習	基礎薬学演習Ⅰ	春1 秋1	基礎薬学実習Ⅰ 基礎薬学実習Ⅱ 早期体験学習Ⅰ	基礎薬学実習Ⅲ 情報処理演習 早期体験学習Ⅱ	春2 春2 秋2 秋1 春1 秋1	基礎薬学実習Ⅳ 医療薬学実習Ⅰ	★医療薬学実習Ⅱ ★実務実習事前演習Ⅰ	春2 春2 秋2 秋1	
		卒業研究									
		小計	10単位(10単位)			25単位(25単位)			27単位(27単位)		
		語学系				薬学英語(前半)	薬学英語(後半)	春1 秋1	実用薬学英語(前半)	実用薬学英語(後半)	春1 秋1
		小計				2単位(1単位)			2単位(1単位)		
	選択科目	発展系									
		小計									
合計		10単位			26単位			28単位			
総計					140単位						
卒業要件単位数 186単位 (教養教育科目46単位＋専門教育科目140単位)											

自由選択科目 薬学アドバンスト海外研修

()の単位数は卒業に必要な最小修得単位数を表す。

*1:この実習は、受け入れ施設の都合等を考慮して、指定期間中の合計22週で実施する。

*2:卒業研究は4年秋学期から6年春学期まで実施する。

★:実務実習事前学習科目

年次			4 年次			5 年次			6 年次			
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位		
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系										
		化学系										
		生物系										
		衛生系	環境毒性学・放射化学 食品衛生・栄養学		春 1 春 1							
		医療系	薬事・法制 薬物治療学Ⅱ 医薬品毒性学		春 1 春 1 春 1							
			薬物動態学		春 1							
		臨床系	★処方解析学 ★がん化学療法学	臨床コミュニケーション論 ★救急集中治療学	秋 1 春 1 春 1 秋 1				アドバンスト医療薬学Ⅰ アドバンスト医療薬学Ⅱ		春 1 春 1	
		発展系	疾患病態学Ⅱ 統合型学習	疾患病態学Ⅲ 先端疾病治療学 医薬品開発学 漢方薬学	春 1 秋 1 春 2 秋 1 秋 1 秋 1				医療経済学		春 1	
			実習・演習	薬学総合演習Ⅰ ★実務実習事前演習Ⅱ	★実務実習事前演習Ⅲ	通 2 春 2 秋 2	臨床実務実習＊1		通20	薬学総合演習Ⅱ		通 4
		卒業研究			卒業研究＊2							通20
		小計	23単位 (23単位)			20単位 (20単位)			27単位 (27単位)			
		語学系				外書講読Ⅰ		外書講読Ⅱ	春 1 秋 1			
	小計				2単位 (1単位)							
	選択科目	発展系		皮膚科学・香粧品学 薬局経営学 地域医療薬局学	秋 1 秋 1 秋 1					創薬化学特論 細胞情報学特論 生体予防薬学特論 薬品動態制御学特論 臨床薬学特論 医療薬学特論	秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1	
小計		3単位 (1単位)						6単位 (4単位)				
合計		24単位			21単位			31単位				
総計		140単位										
卒業要件単位数 186単位（教養教育科目46単位＋専門教育科目140単位）												

1-6年次専門教育科目の必修・選択・自由選択科目および単位数(2019年度入学生対象)

薬学部授業科目配当表

年次		1 年次			2 年次			3 年次			
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系			薬品物理化学Ⅰ 薬品分析化学	薬品物理化学Ⅱ 機器分析学	春1 秋1 春1 秋1	製剤学	製剤工学	春1 秋1	
		化学系		基礎有機化学	秋1	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	春1 秋1	生体有機化学 生薬学 薬品合成化学	天然物化学	春1 春1 春1 秋1
		生物系				解剖学 生理学 酵素学 細胞生物学 分子生物学 機能形態学Ⅰ	生体成分代謝学 機能形態学Ⅱ 免疫学 微生物学 医療統計学	春1 春1 春1 春1 春1 秋1 春1 秋1 秋1	基礎感染症学	微生物薬品学	春1 秋1
		衛生系							公衆衛生学	環境衛生学	春1 秋1
		医療系	薬学概論 薬の歴史	生命と医の倫理	春1 春1 秋1	介護概論	薬物作用学Ⅰ 病理学	春1 秋1	薬物作用学Ⅱ 薬物作用学Ⅲ 基礎薬物動態学	薬物治療学Ⅰ 医薬品代謝学 疾患病態学Ⅰ	春1 春1 春1 秋1 秋1
		臨床系							医薬品情報学	★調剤学 ★日本薬局方概論 臨床心理学	春1 秋1 秋1 秋1
		発展系									
		実習・演習	基礎薬学演習Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ	春1 秋1	基礎薬学実習Ⅰ 基礎薬学実習Ⅱ 早期体験学習Ⅰ	基礎薬学実習Ⅲ 情報処理演習 早期体験学習Ⅱ	春2 春2 秋2 秋1 春1 秋1	基礎薬学実習Ⅳ 医療薬学実習Ⅰ	★医療薬学実習Ⅱ ★実務実習事前演習Ⅰ	春2 春2 秋2 秋1
		卒業研究									
		小計	6 単位（ 6 単位）			29 単位（29 単位）			27 単位（27 単位）		
		語学系				薬学英語（前半）	薬学英語（後半）	春1 秋1	実用薬学英語（前半）	実用薬学英語（後半）	春1 秋1
		小計				2 単位（1 単位）			2 単位（1 単位）		
	選択科目	発展系									
小計											
合計		6 単位			30 単位			28 単位			
総計					140 単位						
卒業要件単位数 186 単位（教養教育科目46 単位＋専門教育科目140 単位）											

自由選択科目 薬学アドバンスト海外研修

（ ）の単位数は卒業に必要な最少修得単位数を表す。

*1:この実習は、受け入れ施設の都合等を考慮して、指定期間中の合計22週で実施する。

*2:卒業研究は4年秋学期から6年春学期まで実施する。

★:実務実習事前学習科目

年次		4 年次			5 年次			6 年次			
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系									
		化学系	★がん化学療法学		春 1						
		生物系									
		衛生系	環境毒性学・放射化学 食品衛生・栄養学		春 1 春 1						
		医療系	薬事・法制 薬物治療学Ⅱ 医薬品毒性学 薬物動態学		春 1 春 1 春 1						
		臨床系	★処方解析学	臨床コミュニケーション論 ★救急集中治療学	秋 1 春 1 秋 1				アドバンスト医療薬学Ⅰ アドバンスト医療薬学Ⅱ		春 1 春 1
		発展系	疾患病態学Ⅱ 統合型学習	疾患病態学Ⅲ 先端疾病治療学 医薬品開発学 漢方薬学	春 1 秋 1 春 2 秋 1 秋 1 秋 1				医療経済学		春 1
		実習・演習	薬学総合演習Ⅰ ★実務実習事前演習Ⅱ	 ★実務実習事前演習Ⅲ	通 2 春 2 秋 2	臨床実務実習＊1		通20	薬学総合演習Ⅱ		通 4
		卒業研究			卒業研究＊2						通20
		小計	23単位（23単位）			20単位（20単位）			27単位（27単位）		
		語学系				外書講読Ⅰ	外書講読Ⅱ	春 1 秋 1			
		小計				2 単位（1 単位）					
	選択科目	発展系		皮膚科学・香粧品学 薬局経営学 地域医療薬局学	秋 1 秋 1 秋 1					創薬化学特論 細胞情報学特論 生体予防薬学特論 薬品動態制御学特論 臨床薬学特論 医療薬学特論	秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1
		小計	3 単位（1 単位）						6 単位（4 単位）		
合計		24単位			21単位			31単位			
総計					140単位						
卒業要件単位数 186単位（教養教育科目46単位＋専門教育科目140単位）											

1-6年次専門教育科目の必修・選択・自由選択科目および単位数(2015~2018年度入学生対象)

薬学部授業科目配当表

年次		1 年次				2 年次				3 年次				
部門	分野	春学期		秋学期	単位	春学期		秋学期	単位	春学期		秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系				薬品物理化学Ⅰ 薬品分析化学	薬品物理化学Ⅱ 機器分析学	春1 秋1 春1 秋1	製剤学		製剤工学	春1 秋1		
			化学系		基礎有機化学	秋1	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	春1 秋1	生体有機化学 生薬学 薬品合成化学	天然物化学	春1 春1 春1 秋1		
		生物系					解剖学 生理学 酵素学 細胞生物学 機能形態学Ⅰ 分子生物学	医療統計学 生体成分代謝学 微生物学 免疫学	春1 春1 春1 秋1 春1 秋1 春1 秋1 春1	基礎感染症学	微生物薬品学	秋1 春1		
			衛生系							公衆衛生学	環境衛生学	春1 秋1		
			医療系	薬学概論 薬の歴史	生命と医の倫理	春1 秋1 春1	介護概論	薬物作用学Ⅰ	春1 秋1	薬物作用学Ⅱ 薬物作用学Ⅲ 基礎薬物動態学 日本薬局方概論 (レギュラトリーサイエンス)	臨床心理学 薬物治療学Ⅰ 医薬品代謝学 ★調剤学 ★医薬品情報学	秋1 春1 春1 秋1 春1 秋1 秋1		
		複合系						病理学 機能形態学Ⅱ	秋1 秋1		疾患病態学Ⅰ	秋1		
				実習・演習	基礎薬学演習Ⅰ	基礎薬学演習Ⅱ	春1 秋1	基礎薬学実習Ⅰ 基礎薬学実習Ⅱ 基礎薬学実習Ⅲ 情報処理演習 早期体験学習＊3	春2 春2 秋2 秋1 通2	基礎薬学実習Ⅳ 医療薬学実習Ⅰ	★医療薬学実習Ⅱ ★医薬品情報演習	春2 春2 秋2 秋1		
		卒業研究												
		小計	6 単位（6 単位）				29 単位（29 単位）				27 単位（27 単位）			
		語学系					薬学英語（前半）	薬学英語（後半）	春1 秋1	実用薬学英語（前半）		実用薬学英語（後半）	春1 秋1	
	小計					2 単位（1 単位）				2 単位（1 単位）				
	選択科目	複合系												
			小計											
合計		6 単位（6 単位）				31 単位（30 単位）				29 単位（28 単位）				
総計	140 単位													
卒業要件単位数 186 単位（教養教育科目46 単位＋専門教育科目140 単位）														

()の単位数は卒業に必要な最少修得単位数を表す。

*1:この実習は、受け入れ施設の都合等を考慮して、指定期間中の合計22週で実施する。

*2:卒業研究は4年秋学期から6年春学期まで実施する。

*3:2019年度から「早期体験学習Ⅰ・Ⅱ」に変更する(P.40参照)。

★:実務実習事前学習科目

年次		4 年次			5 年次			6 年次			
部門	分野	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	春学期	秋学期	単位	
専 門 教 育 科 目	必修科目	物理系									
		化学系	★がん化学療法学		春 1						
		生物系									
		衛生系	環境毒性学・放射化学 食品衛生・栄養学		春 1 春 1						
		医療系	薬事・法制 ★処方解析学 薬物治療学Ⅱ 医薬品毒性学 薬物動態学	臨床コミュニケーション論 ★救急集中治療学	春 1 秋 1 春 1 春 1 春 1 秋 1			医療経済学 アドバンスト医療薬学Ⅰ アドバンスト医療薬学Ⅱ	春 1 春 1 春 1		
		複合系	疾患病態学Ⅱ 統合型学習	疾患病態学Ⅲ 先端疾病治療学 医薬品開発学 漢方薬学	春 1 秋 1 春 2 秋 1 秋 1 秋 1						
		実習・演習	★医療薬学実習Ⅲ 総合演習Ⅰ	★総合演習Ⅱ	春 2 通 2 秋 2	医療薬学実習Ⅳ＊1		通20	総合演習Ⅲ 総合演習Ⅳ		通 2 秋 2
		卒業研究		卒業研究＊2							通20
		小計	23単位（23単位）			20単位（20単位）			27単位（27単位）		
		語学系				外書講読Ⅰ	外書講読Ⅱ	春 1 秋 1			
	小計				2 単位（1 単位）						
	選択科目	複合系		皮膚科学・香粧品学 薬局経営学 地域医療薬局学	秋 1 秋 1 秋 1				創薬化学特論 細胞情報学特論 生体予防薬学特論 薬品動態制御学特論 臨床薬学特論 医療薬学特論	秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1 秋 1	
		小計	3 単位（1 単位）						6 単位（4 単位）		
合計		26 単位（24 単位）			22 単位（21 単位）			33 単位（31 単位）			
総計		140 単位									
卒業要件単位数 186 単位（教養教育科目46単位＋専門教育科目140単位）											

データサイエンス教育プログラムについて

愛知学院大学データサイエンス教育プログラム (2022 年度以降入学者対象)

※2023 (令和5) 年度 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル)」

2022年度より、全学部学生を対象に、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それらを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する教育プログラムを実施しています。

数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につけるとともに、それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につけることができます。

◎プログラム対応科目

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」におけるリテラシーレベル相当の科目が開講されています。薬学部で開講されているプログラム構成科目の単位を修得する必要があります。

【対応科目一覧】

【2022・2023年度入学者】

対象学年	科目名	単位数
1年次	基礎薬学演習Ⅰ	1
2年次	情報処理演習	1
3年次	医薬品情報学	1
	製剤工学	1
	計4科目	4

【2024年度以降入学者】

対象学年	科目名	単位数
1年次	統計学	1
	基礎薬学演習Ⅱ	1
2年次	情報処理演習	1
3年次	製剤工学・薬物送達学	1
4年次	社会薬学演習	1
	計5科目	5

科目内で取り扱う内容については、各科目のシラバスに記載されているコード番号 (例:DS-1-1) と本ページに記載されている数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラムを確認してください。

数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム

		【導入】 1.社会におけるデータ・AI利活用<学修内容・スキルセット>					
コアカリ番号		DS-1-1	DS-1-2	DS-1-3	DS-1-4	DS-1-5	DS-1-6
学修内容		社会で起きている変化	社会で活用されているデータ	データ・AIの活用領域	データ・AI利活用のための技術	データ・AI利活用の現場	データ・AI利活用の最新動向
		・社会で起きている変化を知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する ・AIを活用した新しいビジネス/サービスを知る	どんなデータが集められ、どう活用されているかを知る	さまざまな領域でデータ・AIが活用されていることを知る	データ・AIを活用するために使われている技術の概要を知る	データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているかを知る	データ・AI利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を知る
2022・2023年度入学者	3年生			製剤工学	製剤工学 医薬品情報学	製剤工学	製剤工学
	2年生	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	
	1年生						
2024年度以降入学者	4年生			社会薬学演習	社会薬学演習		社会薬学演習
	3年生			製剤工学 薬物送達学	製剤工学 薬物送達学	製剤工学 薬物送達学	製剤工学 薬物送達学
	2年生	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	情報処理演習	
	1年生						

		【基礎】 2.データリテラシー ＜学修内容・スキルセット＞			【心得】 3.データ・AI利活用における留意事項 ＜学修内容・スキルセット＞	
コアカリ番号		DS-2-1	DS-2-2	DS-2-3	DS-3-1	DS-3-2
学修内容		データを読む	データを説明する	データを扱う	データ・AIを扱う上での留意事項	データを守る上での留意事項
		データを適切に読み解く力を養う	データを適切に説明する力を養う	データを扱うための力を養う	データ・AIを利活用する上で知っておくべきこと	データを守る上で知っておくべきこと
2022・ 2023年度 入学者	3年生	医薬品情報学	製剤工学 医薬品情報学	製剤工学 医薬品情報学	製剤工学	製剤工学
	2年生		情報処理演習	情報処理演習		
	1年生		基礎薬学演習I	基礎薬学演習I	基礎薬学演習I	基礎薬学演習I
2024年度 以降入学者	4年生	社会薬学演習			社会薬学演習	社会薬学演習
	3年生					
	2年生		情報処理演習	情報処理演習		
	1年生	統計学 基礎薬学演習II	統計学 基礎薬学演習II	統計学 基礎薬学演習II		

◎手続き

全て必修科目の中で実施されるため、本プログラムを履修するための特別な手続きは不要です。

◎修了要件

プログラム構成科目の単位をすべて修得することが、修了要件となります。

◎修了証

1. 申請方法

① 成績発表後、各自で所属学部で開講されているプログラムの修了要件を満たしているか確認してください。

※修了要件は「データサイエンス教育プログラム対応科目」一覧で確認

② 「修了証発行申請書」を所属キャンパス事務室へ提出してください。

③ 事務室で、修了要件を満たしていることを確認し「修了証」を発行します。

2. 申請期間

原則、各学期終了時に申請することができます。

- ・ 申請期間：成績発表日～2週間
- ・ 配付期間：申請締切後 約2週間

3. 注意事項

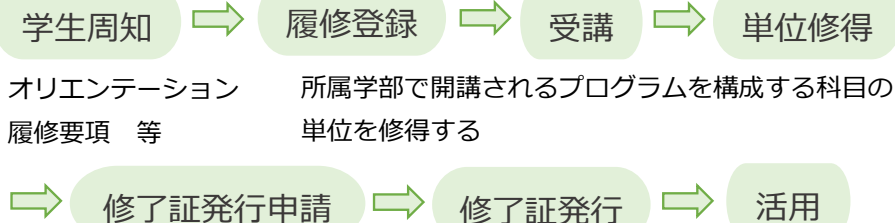
- ・ 発行は在学期間中に限ります（料金は無料）。

「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム」 取組概要

プログラムの目的

全学部全学生を対象に数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それらを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する。

概要



サポート体制

- ・ 必修科目等との重複開講を防ぐなど、時間割編成の工夫により、多くの学生が受講できるように対応
- ・ 授業内での質疑応答のほか、オフィスアワーやメール等授業時間外での相談・指導等の体制を整備
- ・ プログラム修了者へのアンケートをもとに改善点等を検討し、プログラムの充実を図る
(担当部署：教務課・名城公園キャンパス事務室・歯学部事務室・薬学部事務室)

身につけることができる能力

- ① 数理・データサイエンス・AIを実社会で使いこなすことができる基礎的な素養を身につける。
- ② それらの知識・技能をもとに、自らの適切な判断・意思によりAI等の恩恵を享受し、これらを説明・活用できる思考力・判断力を身につける。

プログラムを構成する科目

学部	科目名	学部	科目名	学部	科目名
文学部	情報科学Ⅰ	経済学部	情報リテラシーA	歯学部	情報の科学
法学部	情報科学Ⅱ		情報リテラシーB		歯科基礎科学
健康科学部	情報科学Ⅲ		経済情報論A		社会と歯学Ⅰ
心理学部	情報科学Ⅳ	総合政策学部	情報リテラシーⅡ		社会と歯学Ⅱ
商学部	ビジネス統計学	薬学部	統計学		社会と歯学Ⅲ
	AIとビジネス		基礎薬学演習Ⅱ		社会と歯学Ⅳ
経営学部	ビジネス情報リテラシーⅠ		情報処理演習		実習：社会と歯学
	ビジネス情報リテラシーⅡ		製剤工学・薬物送達学		
	経営情報論		社会薬学演習		
	ICTビジネス				
	経営統計Ⅰ				
	経営統計Ⅱ				

運営組織

「愛知学院大学データサイエンス教育プログラム委員会」において、プログラムの運営を行う。また、学生の履修状況やアンケートより、プログラムの改善や自己点検・評価等を行う。